

2019年度

履修要項

全学共通カリキュラム

立教大学

全学共通科目/
全角共通カリキュラム
訂正表



https://ry.rikkyo.ac.jp/yoko/file/pdf/2015-2019/teisei/2015-2019_zen_teisei.pdf

教務事項の伝達について

I 掲示

大学から学生への連絡は、原則として掲示によって行う。掲示を確認しなかったために生じる不利益は、本人の責任となるので、登校時には必ず掲示を確認する習慣をつけること。掲示した事項については学生に伝達したものとみなす。掲示内容に疑問がある場合は、教務窓口で直接問い合わせる。電話や電子メールによる問い合わせには、一切応じない。

種類	設置場所	掲載内容
各学部・研究科掲示板	池袋キャンパス	■各学部生・各研究科学生への伝達事項
全学共通科目掲示板	教務事務センター前	■各学部科目・各研究科科目にかかわる伝達事項
		■全学共通科目にかかわる伝達事項
教務全学用掲示板	新座キャンパス	■公示・学年暦等全学にかかわる伝達事項
f-Campus掲示板	7号館と4号館の間	■f-Campusにかかわる伝達事項
インフォメーションボード	池袋キャンパス	■全学の休講 ■全学の教室変更（2週間分）・学生呼出
	5／8／14号館1階	
	新座キャンパス 1号館1階／4号館2階	

II 教務関連ホームページ

●SPIRIT 教務部ページ

⇒ https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/

教務からのお知らせ、履修要項、シラバス・時間割、履修・成績参照、休講情報などが確認できる。

●シラバス・時間割検索

⇒ <https://sy.rikkyo.ac.jp/timetable/>

開講科目のシラバス・時間割・科目コード・科目名・担当者・教室が確認できる。

●履修登録／成績参照／履修登録状況

⇒ <https://r.rikkyo.ac.jp/>（ログイン時のID・パスワードはV-Campusと同じ）

履修登録（抽選登録・科目コード登録）、成績参照および当年度の履修登録状況について確認することができる。

※開講科目の変更内容・各登録システムマニュアルについても閲覧が可能。

III 緊急時連絡

台風の接近等により、授業を平常通り行うことができないと判断した場合は、休講などの特別措置をとることがある。特別措置の内容については、掲示、ホームページ等または電話で確認すること。

立教大学ホームページ

<http://www.rikkyo.ac.jp/>

立教大学 Twitter

<https://www.twitter.com/rikkyouniv>

立教大学公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/RikkyoUniversity>

※試験期間についても前記の措置をとることがある。

※大学の窓口業務、諸施設の利用については、ホームページおよび掲示によって周知する。



履修要項は卒業まで大切に保管すること



この『2019年度 履修要項』は卒業まで使用します。大切に保管して活用してください。
また、学年暦や年度ごとに発生する変更、『2019年度 履修要項』配付後に発生した変更等については、履修ガイダンスや本学ホームページの教務部ページ等を通じてお伝えします。
https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/

2019年度 教務窓口について

学部・研究科等	窓 口	場 所	窓口時間 ^{※1} (授業期間中)
文・経済・理・社会・法・経営の各学部・研究科学生 異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科 (2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者を除く)の学生 グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生 キリスト教学研究科学生	池袋キャンパス 教務事務センター	池袋キャンパス タッカーホール1階	月～金 8:50～17:30 土 8:50～12:30
観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部・研究科学生	新座キャンパス 教務事務センター	新座キャンパス 7号館1階	
ビジネスデザイン・21世紀社会デザインの各研究科学生 異文化コミュニケーション研究科 (2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者)の学生	独立研究科事務室	池袋キャンパス 11号館4階	月～金 12:30～20:30 土 10:00～17:00
法務研究科学生	法務研究科事務室 ^{※2}	池袋キャンパス 11号館4階	月～金 8:50～17:00 土 8:50～12:30
教職・学芸員・司書・社会教育主事課程登録者	池袋キャンパス 学校・社会教育講座 事務室	池袋キャンパス 2号館1階	月～金 8:50～17:00 土 8:50～12:30
	新座キャンパス 学校・社会教育講座 事務室	新座キャンパス 7号館1階	月～金 9:00～17:00 土 閉室

※1 授業期間中の通常窓口時間は上記のとおりである。授業期間とは、春学期・秋学期の授業開始日から最終授業日までをいう（オリエンテーション期間および定期試験期間は除く）。授業期間以外の窓口時間は、原則 月～金9:00～17:00、土9:00～12:30となる。また、特別な場合の窓口時間については、ホームページおよび掲示によって周知する。

※2 学生証・学籍に関する事項は、池袋キャンパス教務事務センターにて取り扱う。

2016年度以降の科目変更・廃止等について

2016年度以降の入学者を対象に、各学科および全学共通カリキュラムにおいて、新カリキュラムが導入されました。
2015年度以前の入学者に適用されるカリキュラムは変わりませんが、2016年度以降、科目の変更・廃止等が生じる場合があります。この点に留意し、計画的な履修を心がけてください。

全学共通カリキュラム（全カリ）の履修登録方法について

◆総合教育科目は一部の科目を除き「抽選登録」だが、抽選登録の結果、定員を満たさなかった場合は、「科目コード登録」により届出を行うことができる。対象科目については履修登録システムで確認すること。

注意事項

1. 全学共通カリキュラム総合教育科目 選択科目の抽選登録における1次申込の申請上限単位は6単位。2次申込時においては、1次申込で履修を許可された科目の単位数を含め6単位（全学年共通）。なお、科目コード登録で登録できるのは、抽選登録で履修を許可された科目の単位数を含め6単位（2005年度以前1年次入学者は8単位）まで。
※全学共通カリキュラム総合教育科目 自由科目については、申請上限単位はない（ただし、各学部の定める履修登録上限単位数の範囲内）。
※全学共通カリキュラム言語教育科目については、以下の科目を除き申請上限単位はない（全学年共通）。
言語自由科目（英語）＝インディペンデント・コース科目の「TOEIC 1」、「TOEIC 2」、「TOEFL 2」、「IELTS」（資格系科目）、「資格系科目」以外のインディペンデント・コース科目（資格系以外科目）の申請上限単位数は全学年において春・秋学期それぞれ6単位である。なお、「英語海外文化研修」と「国際交流制度短期英語研修プログラム」は6単位の上限には含まない。
2. 抽選登録科目は申請者が定員を超えた場合は抽選となる。
定員に達しない科目に限り、「2次申込」および科目コード登録対象科目への移行（一部科目を除く）を行う。履修希望者は期間内に申込みを行うこと。
3. 抽選登録で履修を許可された科目は大学が履修登録を行う。
4. 抽選登録で履修を許可された科目の取消・変更は出来ないため、申込にあたっては、履修計画を立て、他の履修希望科目と時限等が重複していないか、よく確認した上で登録をすること（申込期限を過ぎたの取消・変更は出来ない）。※ただし、「2次申込」の結果定員を満たさず、科目コード登録対象科目へ移行した科目については取消・変更が可能である。（詳細は「Ⅴ履修登録 4. 科目コード登録」参照）
5. 抽選登録申込期間最終日の締切直前は、回線の混雑が予想されるため、早めの登録を心がけること。

I 申込資格と日程

Ⅴ. 履修登録を確認すること。

Ⅱ 対象科目について

対象科目については、以下を参照すること。

「総合教育科目 開講科目一覧」

2012年度以降1年次入学者

101～109頁

2006～2011年度1年次入学者

126～131頁

「言語教育科目 自由科目／自由選択科目科目一覧表」

2010年度以降1年次入学者

156～169頁

2008・2009年度1年次入学者

199～208頁

★「オンデマンド授業」科目、総合自由科目については、「総合教育科目について 4 履修上の注意」を必ず参照のこと。

Ⅲ 申込および確認について

登録については、申込および結果発表とともに履修登録システム（URL：<https://r.rikkyo.ac.jp/>）で行う。

※言語自由科目（英語）のインテンシブ・コース科目、アドバンスト・コース科目、オナーズ・コース科目は英語副専攻専用Web（URL：<https://emp.rikkyo.ac.jp>）で申込および結果発表を行う。

このシステムは大学内のパソコン教室および、自宅等からもアクセス可能だが、ブラウザの種類・バージョン等により、一部使用できない場合がある。

2019年度
履修要項
全学共通カリキュラム

2006～2015年度1年次入学者に適用

全学共通カリキュラムについて

総合教育科目
(2012～2015年度1年次入学者に適用)

総合教育科目
(2006～2011年度1年次入学者に適用)

言語教育科目
(2010年度以降1年次入学者に適用)

言語教育科目
(2008・2009年度1年次入学者に適用)

全学共通カリキュラムの
履修・試験にかかわる事項

個人情報保護

各種案内

案内図

2019年度 全学共通カリキュラム 行事予定（春学期）

カレンダー		日程		行事予定																																																		
■ 休日・祝日 □ 休日・祝日授業日 ▲ 全日休講日																																																						
2019 3 March		28日(木)		成績発表 (Web)																																																		
		27日(水)～29日(金)		履修要項配付																																																		
<table><tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr><tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr><tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr><tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr><tr><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31										
日	月	火	水	木	金	土																																																
					1	2																																																
3	4	5	6	7	8	9																																																
10	11	12	13	14	15	16																																																
17	18	19	20	21	22	23																																																
24	25	26	27	28	29	30																																																
31																																																						
4 April		3日(水)	英語単位認定試験 試験時間・試験場発表 (予定)																																																			
		2日(火)～11日(木)	4月期 履修登録 期間	科目コード登録期間																																																		
		2日(火)～5日(金)		抽選登録1次申込期間																																																		
		7日(日)		抽選登録1次結果発表																																																		
		7日(日)・8日(月)		抽選登録2次申込期間																																																		
		9日(火)		抽選登録2次結果発表																																																		
		12日(金)18:00～		履修登録科目の確認 ★1																																																		
		4日(木)～6日(土)	入学式 ※学部により異なる																																																			
		10日(水)	春学期・春学期1 授業開始																																																			
		16日(火)・17日(水)	4月期 履修登録 修正期間	履修登録修正期間																																																		
		18日(木)18:00～		履修登録科目の確認 ★1																																																		
		25日(木)		申し出期限																																																		
		29日(月)	授業日 ★2																																																			
		30日(火)	授業日 ★2																																																			
5 May		4日(土)	授業日 ★2																																																			
		6日(月)	授業日 ★2																																																			
		11日(土)3時限以降	補講日 *実施科目発表は5月4日(土)																																																			
		7日(火)～9日(木)	春学期1開講科目履修中止申請期間																																																			
		18日(土)	春学期1末試験	実施方法発表 (予定)																																																		
		31日(金)	春学期1 授業終了																																																			
<table><tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr><tr><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td></tr><tr><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr><tr><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td></tr></table>		日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31												
日	月	火	水	木	金	土																																																
			1	2	3	4																																																
5	6	7	8	9	10	11																																																
12	13	14	15	16	17	18																																																
19	20	21	22	23	24	25																																																
26	27	28	29	30	31																																																	

- ★1 履修登録状況画面 (Web) にて確認すること。
 ★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

- ・次年度の学年始め行事予定の詳細は1月中旬に各学部等掲示板にて発表する。
 ・各種申込の受付時間については、必ず別途確認すること。

★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

2019年度 全学共通カリキュラム 行事予定 (秋学期)

カレンダー

■ 休日・祝日

□ 休日・祝日 授業日

▲ 全日休講日

9

September

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

日程

5 日(木)

5 日(木)～12 日(木)

12 日(木)

12 日(木)～21 日(土)

12 日(木)～15 日(日)

17 日(火)

17 日(火)・18 日(水)

19 日(木)

23 日(月) 18:00～

19 日(木)

20 日(金)

23 日(月)

26 日(木)・27 日(金)

28 日(土) 18:00～

10 月 5 日(土)

春学期成績発表 (Web)

春学期末追試験 試験期間

英語単位認定試験試験時間・試験場発表 (予定)

科目コード登録期間

抽選登録 1 次申込期間

抽選登録 1 次結果発表

抽選登録 2 次申込期間

抽選登録 2 次結果発表

履修登録科目の確認 ★ 1

特別卒業式

秋学期・秋学期 1 授業開始

授業日 ★ 2

9 月期 履修登録 修正期間

履修登録修正期間

履修登録科目の確認 ★ 1

申し出期限

10

October

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

4 日(金)

8 日(火)～10 日(木)

14 日(月)

16 日(水)

19 日(土) 3 時限以降

22 日(火)

30 日(水)

31 日(木)～11 月 5 日(火)

全日休講

秋学期 1 開講科目履修中止申請期間

授業日 ★ 2

全日休講 (スポーツフェア)

補講日 *実施科目発表は10月11日 (金)

授業日 ★ 2

秋学期 1 末試験 実施方法発表 (予定)

秋季臨時休業期間 (学園祭)

11

November

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

9 日(土)

15 日(金)

18 日(月)～23 日(土)

16 日(土)

16 日(土)

23 日(土)

23 日(土) 3 時限以降

26 日(火)

英語単位認定試験実施

秋学期 1 授業終了

秋学期 1 レポート提出期間

秋学期 2 授業開始

秋季入学試験 ※池袋キャンパス開講科目のみ全日休講

授業日 ★ 2

補講日 *実施科目発表は11月15日 (金)

全日休講

※池袋キャンパス開講科目のみ全日休講

- ★1 履修登録状況画面（Web）にて必ず確認すること。
- ★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

- ・次年度の学年始め行事予定の詳細は1月中旬に各学部等掲示板にて発表する。
- ・各種申込の受付時間については、必ず別途確認すること。

カレンダー		日程		行事予定																																											
■ ● ▲ 休日・祝日 休日・祝日授業日 全日休講日																																															
12 December <table><tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr><tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr><tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr><tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr><tr><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					2日(月) 英語単位認定試験合格者発表 3日(火)～5日(木) 秋学期科目（秋学期1開講科目を除く）・通年科目履修中止申請期間 4日(水) 全日休講 12日(木) 秋学期末・ 学年末試験 日程・実施方法・試験場発表（予定） 14日(土)3時限以降 補講日　＊実施科目発表は12月6日（金） 23日(月) 全日休講 24日(火)～1月4日(土) 冬季休業期間			
日	月	火	水	木	金	土																																									
1	2	3	4	5	6	7																																									
8	9	10	11	12	13	14																																									
15	16	17	18	19	20	21																																									
22	23	24	25	26	27	28																																									
29	30	31																																													
2020 1 January <table><tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr><tr><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td></tr><tr><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr><tr><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td></tr></table> ※新座キャンパス開講科目のみ全日休講		日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		18日(土) 大学入試センター試験　※新座キャンパス開講科目のみ全日休講 22日(水) 秋学期・秋学期2　授業終了 (池袋) 16日(木)～22日(水) (新座) 11日(土), 16日(木), 17日(金) 20日(月)～22日(水) 秋学期末・ 学 年 末 試 験 最終授業時試験期間 23日(木)～29日(水) レポート提出期間（秋学期1開講科目を除く） 23日(木)～2月3日(月) 定期試験期間（総合）／中国語統一テスト			
日	月	火	水	木	金	土																																									
			1	2	3	4																																									
5	6	7	8	9	10	11																																									
12	13	14	15	16	17	18																																									
19	20	21	22	23	24	25																																									
26	27	28	29	30	31																																										
2 February <table><tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr><tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr><tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr></table>		日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	18日(火) 秋学期末・ 学年末追試験 対象者・試験方法・時間割発表 28日(金) 卒業合格者（在学8学期以上の者）発表（Web）			
日	月	火	水	木	金	土																																									
						1																																									
2	3	4	5	6	7	8																																									
9	10	11	12	13	14	15																																									
16	17	18	19	20	21	22																																									
23	24	25	26	27	28	29																																									
3 March <table><tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr><tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr><tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr><tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr><tr><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					2日(月)～7日(土) 秋学期末・ 学年末追試験 試験期間 13日(金) 成績発表（Web） 23日(月) 卒業礼拝（新座） 24日(火) 卒業礼拝（池袋） 24日(火)・25日(水) 卒業式　※学部により異なる			
日	月	火	水	木	金	土																																									
1	2	3	4	5	6	7																																									
8	9	10	11	12	13	14																																									
15	16	17	18	19	20	21																																									
22	23	24	25	26	27	28																																									
29	30	31																																													

行事予定表

2006～2015年度1年次入学者に適用
2008年度以降3年次編入学者に適用

全学共通カリキュラムの履修・試験にかかわる事項			
I-1	カリキュラムのしくみ (2012～2015年度1年次入学者)		13
I-2	カリキュラムのしくみ (2010・2011年度1年次入学者)		14
I-3	カリキュラムのしくみ (2006～2009年度1年次入学者)		15
II	授業 (学習生活)		16
III-1-1	履修規定 (単位) (2012～2015年度1年次入学者)		19
III-1-2	履修規定 (単位) (2010・2011年度1年次入学者)		21
III-1-3	履修規定 (単位) (2006～2009年度1年次入学者)		23
III-2	履修規定 (履修についての注意事項)		26
III-3	履修規定 (カリキュラムの変更点)		29
III-4	履修規定 (単位認定)		30
IV	学習計画の立て方・アドバイザー	1 学習計画の立て方 2 アカデミックアドバイザー、オフィスアワー	34
V	履修登録	1 履修登録とは 2 履修登録の流れ 3 履修届出方法 4 登録科目の確認について 5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認 6 履修中止制度 (社会学部・経営学部・異文化コミュニケーション学部の学生について)	35 36 37 39 40 44
VI	試験・成績	1 試験に関する規定 2 試験方法 3 筆記試験 4 口頭試問 5 レポート 6 追試験 7 試験時間重複特別試験 8 不正行為 9-1 成績 (文・経済・理・法・観光・コミュニティ福祉・現代心理学部の学生について) 9-2 成績 (社会・経営・異文化コミュニケーション学部の学生について)	46 47 48 49 49 53 55 55 56 57
VII	卒業に関する事項		60
VIII	学生証・学籍・学費		62

全学共通カリキュラムについて	
全学共通カリキュラムとは	71

総合教育科目			
2012～2015年度1年次入学者に適用			
2014年度以降3年次編入学者に適用			
総合教育科目について	1	総合教育科目とは	79
	2	科目群・科目名	80
	3	卒業要件単位	86
	4	履修上の注意	86
	5	過年度に開講されていた総合教育科目	97
2018年度総合教育科目選択科目開講科目一覧	立教科目群		101
	領域別科目群		102
	主題別科目群		102
	スポーツ実習科目群		107
2018年度総合教育科目自由科目開講科目一覧	グローバル・リーダーシップ・プログラム		108
	「国際協力人材」育成プログラム		108
	国連ユースボランティアプログラム		109
	陸前高田プロジェクト		109
	海外インターンシッププログラム		109
	立教サービスラーニング		109

総合教育科目		
2006～2011年度1年次入学者に適用		
2008～2013年度3年次編入入学者に適用		
総合教育科目について	1 総合教育科目とは	113
	2 科目群・科目名	113
	3 卒業要件単位	119
	4 履修上の注意	120
	5 過年度に開講されていた総合教育科目	121
2018年度総合教育科目開講科目一覧	総合 A	126
	総合 B	130
	領域別科目群	130
	立教生の学び方	130
	スポーツ実習科目群	131

言語教育科目		
2010年度以降1年次入学者に適用		
2012年度以降3年次編入入学者に適用		
言語教育科目について	1 言語教育科目とは	135
	2 学部・学科別卒業要件単位数	137
	3 必修科目に関する特別措置	138
	4 履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置	139
必修科目	1 英語	140
	2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部のみ）	142
	3 日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修・異文化コミュニケーション学部以外の外国人留学生のみ）	143
	4 指定年次・学期以後の単位修得方法（英語単位認定試験、英語R、英語ディスカッション再履修）	144
自由科目	1 自由科目 履修上の注意	149
	2 言語副専攻	149
	3 自由科目 科目一覧表	156
	4 言語副専攻 学部展開科目 科目一覧	170
	5 2010～2018年度に開講されていた自由科目	170

言語教育科目		
2008・2009年度1年次入学者に適用〈文・経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部〉		
2010・2011年度3年次編入入学者に適用		
言語教育科目について	1 言語教育科目とは	173
	2 学部・学科別卒業要件単位数	174
	3 必修科目に関する特別措置	175
	4 履修免除（単位認定）者の自由選択科目に関する特別措置	175
必修科目	1 英語	176
	2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語	179
	3 日本語（外国人留学生のみ）	184
	4 指定年次・学期以後の単位修得方法（英語単位認定試験）	187
自由選択科目	1 自由選択科目 履修上の注意	198
	2 インテンシブコース（副専攻）について	199
	3 自由選択科目 科目一覧表	199
	4 2008～2018年度に開講されていた自由選択科目	209

巻末資料		
個人情報保護	プライバシーポリシー 立教大学における個人情報の取扱いについて	213
各種案内	教務部案内	217
	パソコン教室利用案内	218
	V-Campus案内	219
	大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置	220
	地震発生時の心得	220
	台風の接近が予想される場合の措置	220
	授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応	220
	緊急連絡システムについて	221
案内図	池袋キャンパス	225
	新座キャンパス	230

こんなときは

全学共通 カリキュラムの 履修・試験に かかる事項

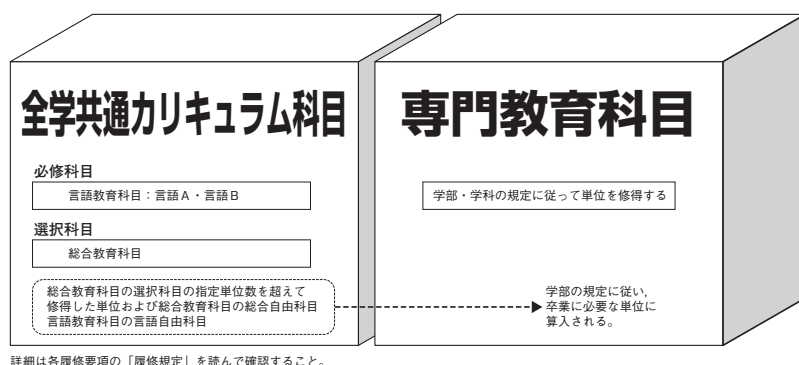
2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008年度以降3年次編入学者に適用)

- I－1 カリキュラムのしくみ (2012～2015年度1年次入学者)
- I－2 カリキュラムのしくみ (2010・2011年度1年次入学者)
- I－3 カリキュラムのしくみ (2006～2009年度1年次入学者)
- II 授業 (学習生活)
- III－1－1 履修規定 － 単位 (2012～2015年度1年次入学者)
- III－1－2 履修規定 － 単位 (2010・2011年度1年次入学者)
- III－1－3 履修規定 － 単位 (2006～2009年度1年次入学者)
- III－2 履修規定 － 履修についての注意事項
- III－3 履修規定 － カリキュラムの変更点
- III－4 履修規定 － 単位認定
- IV 学習計画の立て方・アドバイザー
- V 履修登録
- VI 試験・成績
- VII 卒業に関する事項
- VIII 学生証・学籍・学費

カリキュラムのしくみ

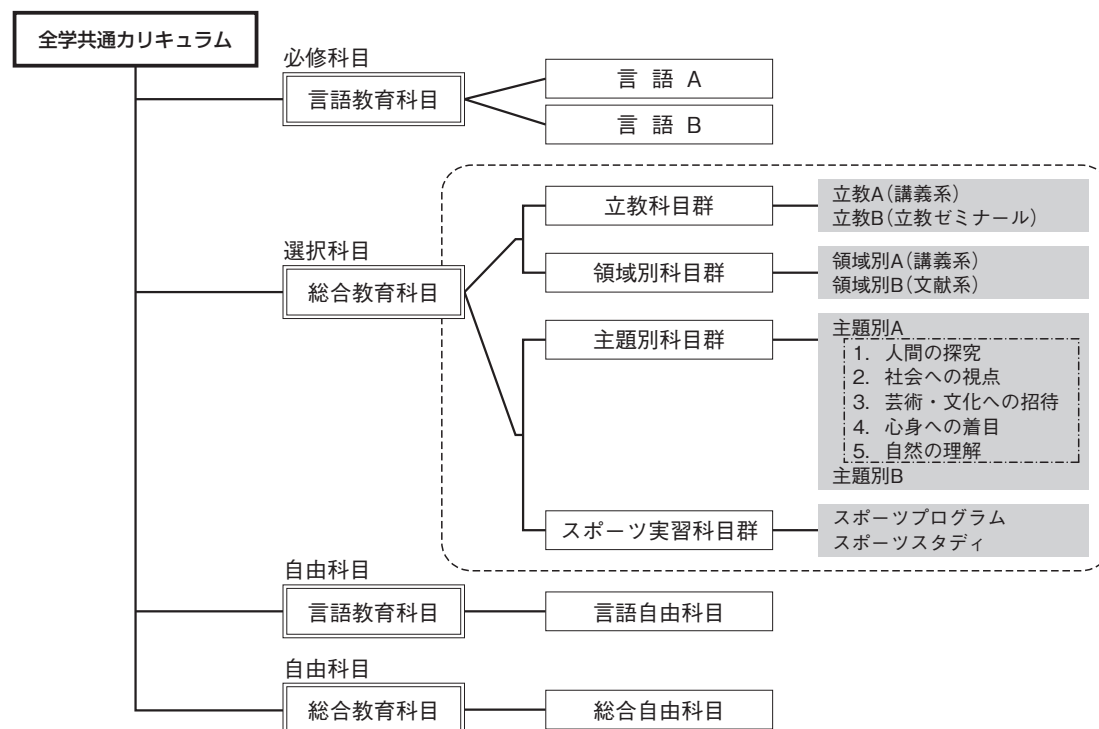
1 カリキュラム体系

本学を卒業するためには、本学の学部で4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。本学の教育課程（カリキュラム）は、全ての学部において、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目により構成されている。よって卒業要件単位は、学部（学科）ごとに定められている教育課程に従い、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目の双方から修得しなければならない。



2 全学共通カリキュラム科目の構成

全学共通カリキュラム科目（以下全カリ科目）は次のように必修科目・選択科目・自由科目に分かれており、それぞれ履修の仕方が定められている。なお、総合教育科目として選択科目以外に総合自由科目が開講されており、言語教育科目として必修科目以外に言語自由科目が10言語について開講されている。



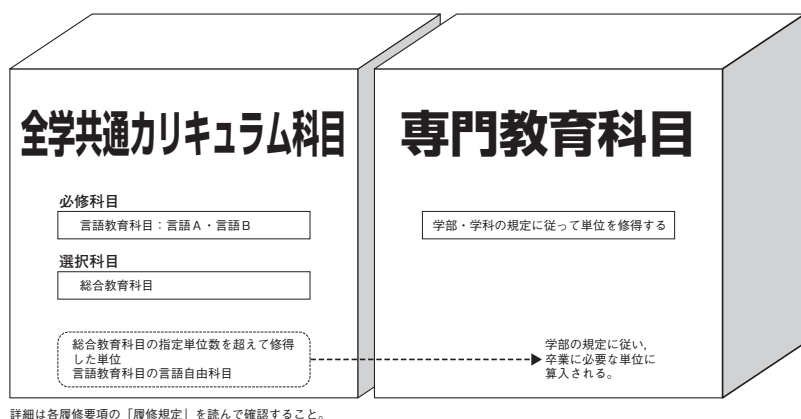
3 専門教育科目の構成

所属学部・学科の専門教育科目については、所属学部の履修要項の該当入学年度の「学科ごとの履修規定・カリキュラム」を参照すること。

カリキュラムのしくみ

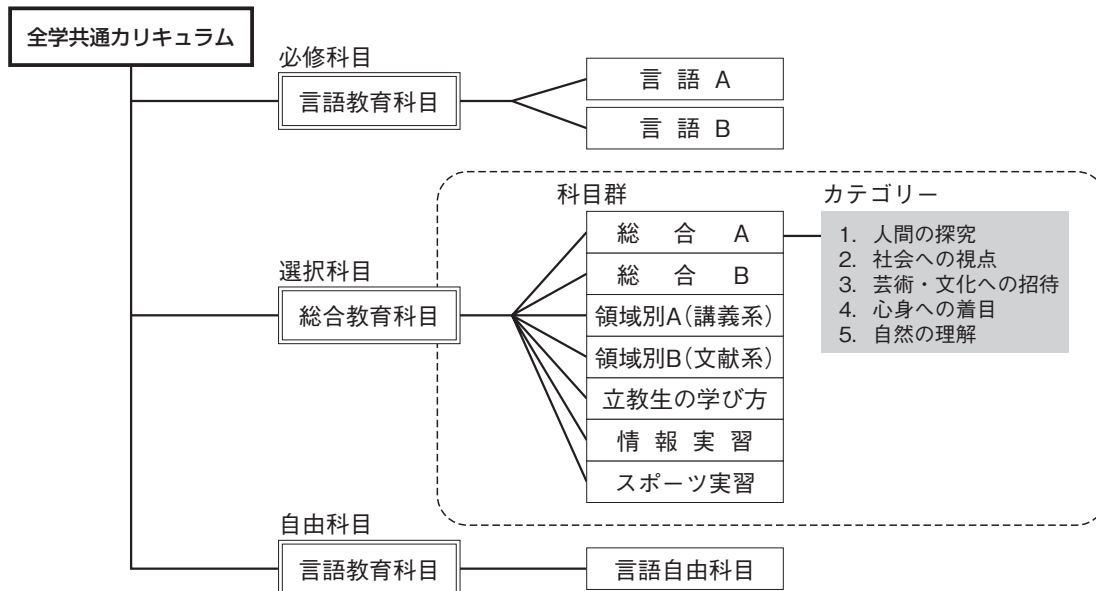
1 カリキュラム体系

本学を卒業するためには、本学の学部にて4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。本学の教育課程（カリキュラム）は、全ての学部において、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目により構成されている。よって卒業要件単位は、学部（学科）ごとに定められている教育課程に従い、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目の双方から修得しなければならない。



2 全学共通カリキュラム科目の構成

全学共通カリキュラム科目（以下全カリ科目）は次のように必修科目・選択科目・自由科目に分かれており、それぞれ履修の仕方が定められている。なお、言語教育科目として必修科目以外に言語自由科目が10言語について開講されている。



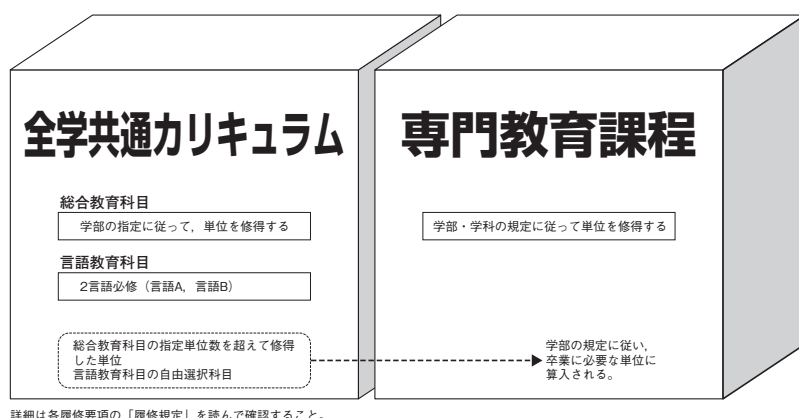
3 専門教育科目の構成

所属学部・学科の専門教育科目については、所属学部の履修要項の該当入学年度の「学科ごとの履修規定・カリキュラム」を参照すること。

カリキュラムのしくみ

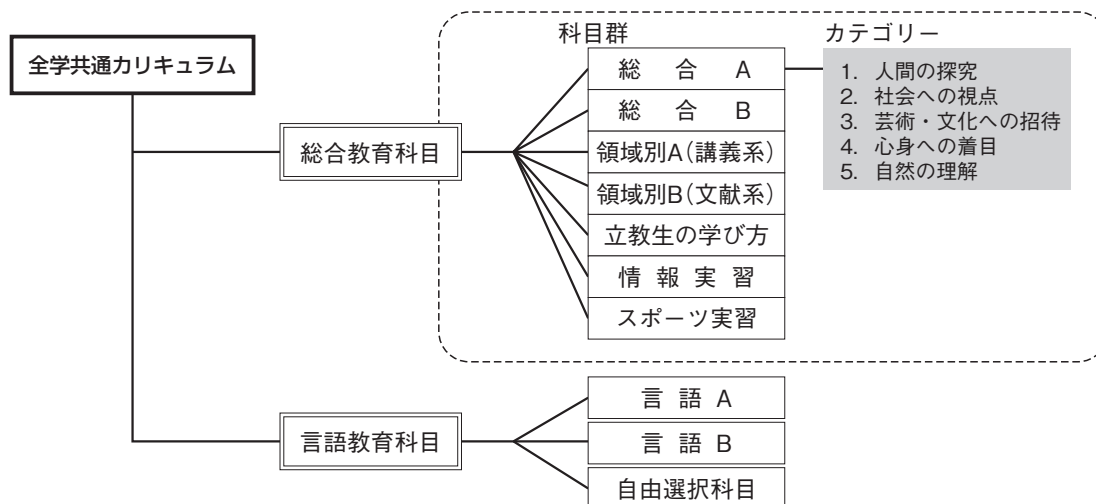
1 カリキュラム体系

本学を卒業するためには、本学の学部・学科に4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。本学の教育課程（カリキュラム）は全学共通カリキュラムと専門教育課程により構成されている。よって卒業要件単位は、学部（学科）ごとに定められている教育課程に従い、全学共通カリキュラムと専門教育課程の双方から修得しなければならない。



2 全学共通カリキュラムの構成

全学共通カリキュラム（以下全カリ）は次のように総合教育科目と言語教育科目に分かれており、それぞれ履修の仕方が定められている。



3 専門教育課程の構成

所属学部・学科の専門教育課程については、所属学部の履修要項の該当入学年度の「学科ごとの履修規定・カリキュラム」を参照すること。

1 学期・授業

- 学期** (1) 本学の授業は1年を2学期に分けて行われ、それぞれを春学期、秋学期と呼ぶ。
 (2) 本年度の春学期の授業開始日は2019年4月10日（水）、秋学期の授業開始日は2019年9月20日（金）である。
- 授業** 授業には以下の種類がある。

通年科目	
通年開講科目	春学期・秋学期通して行われるもの
通年他科目	学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期科目	
春学期開講科目	春学期で完結するもの
春学期1開講科目	春学期前半で完結するもの
春学期2開講科目	春学期後半で完結するもの
春学期他科目	春学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期期間外科目	春学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの （履修登録時期が通常より遅れる科目）
秋学期科目	
秋学期開講科目	秋学期で完結するもの
秋学期1開講科目	秋学期前半で完結するもの
秋学期2開講科目	秋学期後半で完結するもの
秋学期他科目	秋学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
秋学期期間外科目	秋学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの （履修登録時期が通常より遅れる科目）

2 授業時間

本学における授業時間は次のとおりである。

〈時限・授業時間〉

時限	1	2	3	4	5	6
授業時間	8:50	10:45	13:25	15:20	17:10	18:55
	}	}	}	}	}	}
	10:30	12:25	15:05	17:00	18:50	20:35

経済学研究科、ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科のG5、G6時限の授業時間は次のとおりである。

G5時限	18:30~20:10	G6時限	20:15~21:55
------	-------------	------	-------------

3 休講

大学または各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講することがある。

休講掲示 休講は、大学としての決定または科目担当者からの届出があり次第、掲示板（インフォメーションボード）に表示する。

〈掲示板（インフォメーションボード）設置場所〉

池袋キャンパス：5号館1階、8号館1階、14号館1階
 新座キャンパス：1号館1階、4号館2階

休講情報 休講情報は、SPIRIT Mobileからも確認することが可能である。

- * 休講の掲示がないにもかかわらず、始業時刻後30分以上経過しても担当教員が入室しない場合は、教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）に連絡し、その指示に従うこと。
- * 大規模地震の警戒宣言が発令された場合、および台風の接近が予想される場合等、緊急時の休講の措置については、表紙裏および巻末の各種案内を参照すること。

4 補 講

休講等により講義の進行が予定より遅れた際に、臨時の授業を行うことがあり、これを補講という。下記の日程を補講日として設定している。

学期	補 講 日 (*1)	発表時期 (*2)	発表場所
春学期	2019年 5月11日 (土) 2019年 6月 1日 (土) 2019年 6月29日 (土) } 3時限以降	2019年 5月 4日 (土) 2019年 5月17日 (金) 2019年 6月22日 (金)	池袋キャンパス開講科目： 8号館インフォメーション ボード下(池袋キャンパス)
秋学期	2019年10月19日 (土) 2019年11月23日 (土) 2019年12月14日 (土) } 3時限以降	2019年10月11日 (金) 2019年11月15日 (金) 2019年12月 6日 (金)	新座キャンパス開講科目： 各学部掲示板(新座キャン パス) SPIRIT 教務部ページ

*1) この期間以外に補講を行う場合もあるので教員の指示に従うこと。あわせて、上記発表場所も随時確認すること。

*2) 発表後に変更・追加がある場合、随時更新されるので注意すること。

5 授業の欠席について

本学では、学校感染症により出校停止となった場合、裁判員選任手続き期または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭する場合以外の事由による欠席は認めていない(いわゆる公欠制度は設けていない)。

6 学校感染症に罹患した場合の措置について

学校感染症第1種・2種に罹患した場合は、出校を停止する。速やかに各教務窓口に連絡し、指示を受けること。

1. 対象となる 学校感染症 第1種・2種

	疾患名
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルス)、中東呼吸器症候群(MERSコロナウイルス)、特定鳥インフルエンザ
第2種	インフルエンザ(特定鳥インフルエンザを除く)、百日咳、麻疹(はしか)、流行性耳下腺炎(おたふく)、風しん、水痘(水ぼうそう)、咽頭結膜熱(プール熱)、結核、髄膜炎菌性髄膜炎

2. 授業欠席の 扱い

学校保健安全法によって定められた学校感染症のうち第1種および2種に該当するものに罹患した場合の授業欠席については、以下のとおりとする。

- (1) 学校感染症第1種・2種に罹患したことにより、授業を欠席した学生が、所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。
- (2) 申請手続きは以下のとおりである。

- ① 登校可能となった日を含む7日以内(締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで)に、「学校感染症第1種・2種に罹患した学生の欠席について」(各教務窓口で交付)に必要な事項を記入し、医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」*1、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」*2とともに、各教務窓口に提出する。

申請手續科目を確認するため、履修登録状況画面のコピーも提出すること。

*1 罹患開始時と治癒時の診療医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合がある。その場合は、罹患開始時の医療機関が発行する『罹患日記載がある「診断書」』と、治癒時の医療機関が発行する『治癒日と登校可能日の記載がある「診断書」』の2種類をもって「罹患期間事項についての証明」とすることができる。

*2 「治癒証明書」の書式はSPIRIT 教務部ページからダウンロードできる。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

- ② 申請者は、各教務窓口にて受付印を押印された申請書および診断書もしくは治癒証明書（コピー）を受取り、各授業時間に担当教員に提出する。

3. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「Ⅵ 試験・成績」を確認すること。

7 裁判員制度に伴う場合の措置について

1. 授業欠席の扱い

裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生の扱いについては、以下のとおりとする。

- (1) 裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生が所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。
- (2) 申請手続きは以下のとおりである。

① 裁判員に選任された場合

公判終了日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判員の職務従事期間についての「証明書*」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口提出する。

*「証明書」は出頭先の裁判所に申し込み、発行を受けること。

② 裁判員に選任されなかった場合

選任手続期日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判所出頭日の証明*を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口提出する。

*裁判所出頭日の証明は出頭先の裁判所で受けることができる。

- ③ 申請者は、各教務窓口にて受付印を押印された申請書類を受取り、各授業時間に担当教員に提出する。

2. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「Ⅵ 試験・成績」を確認すること。

履修規定（単位）

1 単位制度

1. 単位制度

大学での学修は、すべて単位制になっている。すべての科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録をし、授業を受け、かつ、試験に合格した場合、当該科目の単位が与えられる。その単位の合計が卒業に必要な単位（卒業要件単位）を満たした者に対して卒業の資格が与えられる。

2. 単位の数え方

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 前述の(1)(2)にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

〈言語教育科目〉

：週1回、1学期の授業で1単位とする。

（週2回の授業をセットで履修する科目は、1学期の授業で2単位とする）

※ただし、英語自由科目、言語Bの自由科目「上級～語」（日本語を除く）は、週1回、1学期の授業で2単位とする（英語自由科目で週2回の授業をセットで履修する科目は、1学期の授業で4単位とする）。

〈総合教育科目〉

：原則、総合教育科目は週1回半期の授業もしくは週2回4半期の授業で2単位とする。

※ただし、以下の科目を除く。

：「スポーツプログラム～」は週1回、1学期の授業で1単位とする。

：「World History」「Culture and Fine Arts」「Political Sociology」「Nature of the Earth」「Literature and Society」「Economic Thought」「Health and Wellness」は週2回の授業をセットで履修する科目のため、1学期の授業で4単位とする。

：総合自由科目の一部科目。詳細については、「総合教育科目 総合教育科目について 4 履修上の注意」の項を参照のこと。

2 卒業要件単位

1. 全学共通カリキュラムの卒業要件単位数

全学共通カリキュラムの卒業に必要な単位数（卒業要件単位）は、学部ごとに定められている。下表および適用カリキュラムの総合教育科目について **3 卒業要件単位**，言語教育科目について **2 学部・学科別卒業要件単位数** を参照すること。また、専門教育科目とあわせて卒業要件単位を確認する場合は、必ず、所属学部（学科・専修）の履修要項の履修規定を参照のこと。

区分名	卒業要件 単位数計	卒業要件 単位数
全学共通カリキュラム	必修科目	言語教育科目 言語 A
		言語教育科目 言語 B
	選択科目	総合教育科目 立教科目群 立教 A（講義系） 立教 B（立教ゼミナール）
		総合教育科目 領域別科目群 領域別 A（講義系） 領域別 B（文献系）
		総合教育科目 主題別科目群 主題別 A（1，2，3，4，5） 主題別 B
		総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ

[注意] 法学部の学生は、主題別 A「2 社会への視点」の「政治と社会」、「現代社会と法」（2015年度まで開講）、「日本国憲法」、「司法の現在」（2015年度まで開講）を履修しても卒業要件単位とはならない。

「領域別 A」「領域別 B」のうち、開講科目・担当者一覧の備考欄に「**学部所属学生履修不可」とある科目については、「**学部」に所属する学生は履修できない。

2. 全学共通カリキュラムの卒業要件単位数を超えて修得した単位の扱い

履修上の注意に従い、全学共通カリキュラムの卒業要件単位数を超えて修得した単位（全カリ自由科目*で修得した単位および全カリの総合教育科目の選択科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位）については、各学部（学科・専修）の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。詳細については、所属学部の履修要項で必ず確認すること。また、卒業要件単位数を超えて修得した単位が、卒業要件単位として認められるかは、その単位を修得した年度の全学共通カリキュラム履修要項の「履修上の注意」を参照すること。

※ 全学共通カリキュラムの履修を免除された学外からの3年次編入学者が、入学後に修得した全学共通カリキュラムの単位についても、上記の内容に従うものとする。

*全カリの自由科目は、以下のように構成される。

全学共通カリキュラム	自由科目	言語自由科目	
		総合自由科目	プロジェクト型 グローバル・リーダーシップ・プログラム 「国際協力人材」育成プログラム 国連ユースボランティア 陸前高田プロジェクト 海外インターンシップ 立教サービスマーケティング

3. 随意科目

「随意科目」として指定される科目は、卒業要件単位に含めることはできない。

随意科目とは、①随意科目として設定している科目と、②科目自体が随意科目というわけではなく、重複履修や教職のために設置している科目等を履修した結果、履修規定により卒業に必要な単位に算入されない科目の2種類がある。

履修規定（単位）

1 単位制度

1. 単位制度

大学での学修は、すべて単位制になっている。すべての科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録をし、授業を受け、かつ、試験に合格した場合、当該科目の単位が与えられる。その単位の合計が卒業に必要な単位（卒業要件単位）を満たした者に対して卒業の資格が与えられる。

2. 単位の数え方

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 前述の(1)(2)にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

〈言語教育科目〉

：週1回、1学期の授業で1単位とする。

（週2回の授業をセットで履修する科目は、1学期の授業で2単位とする）

※ただし、英語自由科目、言語Bの自由科目「上級～語」（日本語を除く）は、週1回、1学期の授業で2単位とする（英語自由科目で週2回の授業をセットで履修する科目は、1学期の授業で4単位とする）。

〈総合教育科目〉

：「スポーツプログラム～」を除く全ての総合教育科目は週1回半期の授業もしくは週2回4半期の授業で2単位とする。

：「スポーツプログラム～」は週1回、1学期の授業で1単位とする。

2 卒業要件単位

1. 全学共通カリキュラムの卒業要件単位数

全学共通カリキュラムの卒業に必要な単位数（卒業要件単位）は、学部ごとに定められている。下表および適用カリキュラムの総合教育科目について **3 卒業要件単位**，言語教育科目について **2 学部・学科別卒業要件単位数** を参照すること。また、専門教育科目とあわせて卒業要件単位を確認する場合は、必ず、所属学部（学科・専修）の履修要項の履修規定を参照のこと。

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数
全学共通カリキュラム	必修科目	言語教育科目 言語 A	6
		言語教育科目 言語 B	4
	選択科目	総合教育科目 総合 A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6
		総合教育科目 総合 A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4
		総合教育科目全体 【総合 A (1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合 A (4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合 B 領域別 A（講義系） 領域別 B（文献系） 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10

[注意] 法学部の学生は、総合 A 「2 社会への視点」の「政治と社会」、「法学の世界」(2011年度まで開講)、「現代社会と法」(2015年度まで開講)、「日本国憲法」、「司法の現在」(2015年度まで開講)を履修しても卒業要件単位とはならない。

「領域別 A」「領域別 B」のうち、開講科目・担当者一覧の備考欄に「**学部所属学生履修不可」とある科目については、「**学部」に所属する学生は履修できない。

2. 全学共通カリキュラムの卒業要件単位数を超えて修得した単位の扱い

履修上の注意に従い、全学共通カリキュラムの卒業要件単位数を超えて修得した単位（全カリの総合教育科目の選択科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位および言語自由科目で修得した単位）については、各学部（学科・専修）の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。詳細については、所属学部の履修要項で必ず確認すること。また、卒業要件単位数を超えて修得した単位が、卒業要件単位として認められるかは、その単位を修得した年度の全学共通カリキュラム履修要項の「履修上の注意」を参照すること。

※ 全学共通カリキュラムの履修を免除された学外からの3年次編入学者が、入学後に修得した全学共通カリキュラムの単位についても、上記の内容に従うものとする。

3. 随意科目

「随意科目」として指定される科目は、卒業要件単位に含めることはできない。

👉 随意科目とは、①随意科目として設定している科目と、②科目自体が随意科目というわけではなく、重複履修や教職のために設置している科目等を履修した結果、履修規定により卒業に必要な単位に算入されない科目の2種類がある。

履修規定（単位）

1 単位制度

1. 単位制度

大学での学修は、すべて単位制になっている。すべての科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録をし、授業を受け、かつ、試験に合格した場合、当該科目の単位が与えられる。その単位の合計が卒業に必要な単位（卒業要件単位）を満たした者に対して卒業の資格が与えられる。

2. 単位の数え方

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 前述の(1)(2)にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

〈言語教育科目〉

：週1回、1学期の授業で1単位とする。

（週2回の授業をセットで履修する科目は、1学期の授業で2単位とする）

※ただし、言語Bの自由選択科目「上級～語」（日本語を除く）は、週1回、1学期の授業で2単位とする（英語自由選択科目で週2回の授業をセットで履修する科目は、1学期の授業で4単位とする）。

〈総合教育科目〉

：「スポーツプログラム～」を除く全ての総合教育科目は週1回半期の授業もしくは週2回4半期の授業で2単位とする。

：「スポーツプログラム～」は週1回、1学期の授業で1単位とする。

2 卒業要件単位

1. 全学共通カリキュラムの卒業要件単位数

全学共通カリキュラムの卒業に必要な単位数（卒業要件単位）は、学部ごとに定められている。下表および適用カリキュラムの総合教育科目について **3 卒業要件単位**，言語教育科目について **2 学部・学科別卒業要件単位数** を参照すること。また、専門教育科目とあわせて卒業要件単位を確認する場合は、必ず、所属学部（学科・専修）の履修要項の履修規定を参照のこと。

【文学部】

教育科目	履 修 区 分		卒業要件単位	合計
全学共通カリキュラム	総合A	1 人間の探究 2 社会への視点 3 芸術・文化への招待	6	20
		4 心身への着目 5 自然の理解	4	
	総合	総合教育科目全体 【総合A(1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合A(4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A（講義系） 領域別B（文献系） 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10	
言語	言語A		8	16
	言語B		8	

「領域別A」「領域別B」のうち、開講科目・担当者一覧の備考欄に「**学部所属学生履修不可」とある科目については、「**学部」に所属する学生は履修できない。

【経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部】

教育科目	履 修 区 分		卒業要件単位	合計
全学共通カリキュラム	総合A	1 人間の探究 2 社会への視点 3 芸術・文化への招待	6	20
		4 心身への着目 5 自然の理解	4	
	総合	総合教育科目全体 【総合A(1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合A(4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A（講義系） 領域別B（文献系） 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10	
言語	言語A		8	14
	言語B		6	

[注意] 法学部の学生は、総合A『2 社会への視点』の「政治と社会」、「法学の世界」（2011年度まで開講）、「現代社会と法」（2015年度まで開講）、「日本国憲法」、「司法の現在」（2015年度まで開講）を履修しても卒業要件単位とはならない。

「領域別A」「領域別B」のうち、開講科目・担当者一覧の備考欄に「**学部所属学生履修不可」とある科目については、「**学部」に所属する学生は履修できない。

2006～2009年度1年次入学者に適用
(2008～2011年度3年次編入学者に適用)

【異文化コミュニケーション・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科）学部】

教育科目	履 修 区 分		卒業要件単位	合計
全学共通カリキュラム	総合A	1 人間の探究 2 社会への視点 3 芸術・文化への招待	6	20
		4 心身への着目 5 自然の理解	4	
	総合	総合教育科目全体 【総合A(1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合A(4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A（講義系） 領域別B（文献系） 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10	
	言語	言語A	6	10
		言語B	4	

「領域別A」「領域別B」のうち、開講科目・担当者一覧の備考欄に「**学部所属学生履修不可」とある科目については、「**学部」に所属する学生は履修できない。

2. 全学共通カリキュラムの卒業要件単位数を超えて修得した単位の扱い

履修上の注意に従い、全学共通カリキュラムの卒業要件単位数を超えて修得した単位（全カリの総合教育科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位および言語自由選択科目で修得した単位）については、各学部（学科・専修）の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。詳細については、所属学部の履修要項で必ず確認すること。また、卒業要件単位数を超えて修得した単位が、卒業要件単位として認められるかは、その単位を修得した年度の全学共通カリキュラム履修要項の「履修上の注意」を参照すること。

- ※ 全学共通カリキュラムの履修を免除された学外からの3年次編入学者が、入学後に修得した全学共通カリキュラムの単位についても、上記の内容に従うものとする。
- ※ 言語教育科目の言語Bに関して、言語Bの卒業要件単位数の異なる学部・学科へ転部・転科した場合、卒業要件単位となるのは、転部・転科先の卒業要件単位数までである。したがって、卒業要件単位を超えて修得した言語Bの単位は随意単位となり、卒業要件単位とはならない。

3. 随意科目

「随意科目」として指定される科目は、卒業要件単位に含めることはできない。

② 随意科目とは、①随意科目として設定している科目と、②科目自体が随意科目というわけではなく、重複履修や教職のために設置している科目等を履修した結果、履修規定により卒業に必要な単位に算入されない科目の2種類がある。

1 全体についての注意事項

ここでは、全学共通カリキュラムを履修するにあたっての全体的な注意事項が記されている。総合教育科目と言語教育科目についての具体的な履修上の注意は、それぞれのところにも記載されている。

1. 履修指定

(1) 履修すべき科目やクラスの指定

科目を履修するにあたり、学部・学科により特定の科目が、また言語教育科目必修科目においてはクラス番号などにより履修する科目あるいはクラスが指定されることがある。

科目・クラス指定

履修することを指示された科目、クラスについては、その指示に従うこと。指示された以外の科目またはクラスの授業に出席しても、また試験を受けても当該科目の単位を修得することはできない。

言語教育科目必修科目は同一の名称で複数のクラスが開講されているので、特に注意すること。

言語教育科目必修科目の再履修においては、所属学部とは違うクラス番号での履修や、言語によっては異なる科目での振り替え履修を指定される場合があるので、言語別の履修指示あるいは掲示に注意すること。

(2) 学年指定

学年指定

履修は、原則として、当該科目の配当されている年次において行うものとする。

〈2010年度以降休学した学生の履修の原則について〉

2010年度以降休学した学生は、在学した学期や年数にかかわらず、4月になると上位の学年に進む（ただし、4年次生以降の休学者は4年次生のままとする）。この場合、特に定める場合を除き、進んだ年次の配当科目について履修登録が認められる。

例) 1年次秋学期を休学し、翌年度4月に復学 ⇒ 2年次となる

配当年次に達していない者は、当該の科目を履修できない。

- ① 総合教育科目 選択科目は1～4年次の学生が履修できる。ただし、一部の科目では例外があるので開講科目一覧の配当年次欄で確認すること。
- ② 総合教育科目 自由科目（2012年度以降1年次入学対象）は、その授業内容により、年次や履修の前提となる条件が定められている場合がある。
- ③ 言語教育科目必修科目は、配当年次や学期が科目ごとに定められている。年次、学期のほかに当該科目の履修の前提となる条件が定められている場合もある。各言語の履修チャートおよび単位未修得者への指示に従うこと。
- ④ 言語教育科目自由科目（2010年度以降入学）もしくは自由選択科目（2006～2009年度入学）は、その授業内容により、配当年次および前提となる履修資格が定められている。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

2. 履修登録上限
単位数

総合 選択科目は6単位

総合 自由科目は一部を除き上限なし

言語は一部を除き上限なし

(1) 総合教育科目 選択科目

総合教育科目 選択科目における履修登録上限単位数は全学年において、春・秋学期それぞれ6単位以内とする。なお、履修登録上限単位数には、履修登録した科目で、単位を修得できなかった科目も含まれる。

(2) 総合教育科目 自由科目の履修登録上限単位数は定められていない（ただし、各学部の定める履修登録上限単位数の範囲内）。

(3) 言語教育科目

言語自由科目／言語自由選択科目の申請上限単位数・履修登録上限単位数は以下のとおりとする。

言語自由科目（英語）：インディペンデント・コース科目の「TOEIC 1」, 「TOEIC 2」, 「TOEFL 2」, 「IELTS」（資格系科目）の申請上限単位数は、全学年において春・秋学期それぞれ6単位とする。「資格系科目」以外のインディペンデント・コース科目（資格系以外科目）の申請上限単位数は、全学年において春・秋学期それぞれ6単位とする。なお、「英語海外文化研修」と「国際交流制度短期英語研修プログラム」は6単位の上限には含まない。

言語自由選択科目（英語）の履修登録上限単位数は定められていない（ただし、各学部が定める履修登録上限単位数の範囲内）。

言語自由科目／言語自由選択科目（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・ポルトガル語・日本語・日本手話）の履修登録上限単位数は定められていない（ただし、各学部が定める履修登録上限単位数の範囲内）。

3. 同時履修

同時履修不可

(1) 同一科目の同時履修について

科目の名称（番号までを含む）および単位数が同一の科目が同一学期内に複数開講される場合がある。このような科目を同じ学期に複数履修することを同一科目の同時履修といい、全学共通カリキュラムでは認められていない。

総合教育科目、言語教育科目において、名称および単位数が同一の科目が同一学期内に複数開講されていても、1つしか履修できない。

(2) 名称の異なる科目の同時履修について

科目の名称が異なる場合でも、履修資格を満たしていない場合や、科目の内容により同時履修が認められない科目がある。

4. 重複履修

重複履修可

重複履修不可

科目の名称（番号までを含む）および単位数が同一の科目について、既に単位を修得している場合に学期あるいは年度を変えて再度重複して履修することを重複履修という。全学共通カリキュラムの重複履修に関するルールは次の通りである。

(1) 総合教育科目および言語教育科目自由科目（2010年度以降入学者）もしくは自由選択科目（2006～2009年度入学者）は、1度単位を修得した科目について、学期を変えれば2度以上履修することができる。その場合には、最初に修得した1科目分だけが卒業要件単位として認められる。

(2) 言語教育科目必修科目および「英語R」は重複履修をすることができない。

5. 同一時限の履修

同一時限履修不可

各科目は、同一学期の同一曜日・同一時限に2科目以上にわたり履修をすることはできない。

授業が集中形式で行われる科目については、実施日時が他の履修科目と一部でも重なる場合、履修することができない。

6. キャンパス間の移動にかかわる措置

同一日の池袋キャンパスと新座キャンパスの授業、池袋キャンパスと明治大学の授業および新座キャンパスと明治大学の授業については、移動の必要上連続した時限の履修は不可能であるから、その場合の履修登録は認めない。昼休みをはさむ場合は履修可能であるが、新座キャンパスと明治大学の授業などにおいて、実際の移動時間が不足する場合でも自己責任となるので、履修登録の前に移動に要する時

間をよく確認すること。

2 派遣留学生・認定校留学生の履修について

派遣留学・認定校留学が決定した者は、ただちに教務の窓口で、出発年度・帰国年度の履修について説明を受けること。申し出る窓口は所属学部のカンパスにより異なる。

池袋キャンパスの学生⇒教務事務センター（タッカーホール1階）

新座キャンパスの学生⇒教務事務センター（7号館1階）

1 全体についての注意事項

1. カリキュラム

(1) 科目の改廃について

今年度より新規開講となった科目、逆に今年度より開かれなくなった科目がある。今年度より開講しない科目については適用カリキュラムの以下の頁を確認のこと。

㊦ 総合教育科目 総合教育科目について 5 過年度に開講されていた総合教育科目

㊦ 言語教育科目 言語教育科目 自由科目 5 過年度に開講されていた自由科目

言語教育科目 自由選択科目 4 過年度に開講されていた自由選択科目

総合教育科目 自由科目については履修上の条件があるため、適用カリキュラムの総合教育科目について 4 履修上の注意 を参照すること。また、単位の集計先については、所属する学部の履修要項で必ず確認すること。

2. 履修規定の変更

2017年度より総合自由科目「海外インターンシップ1・2」は履修登録上限単位数に含まれる。

2016年度以降の立教科目群・領域別科目群の履修方法について

2016年度から総合教育科目の大幅にカリキュラムが変更した。立教科目群・領域別科目群の開講科目が縮減されたため、このことに十分留意しながら今年度の履修計画をたてること。

2016年度以降の言語A・言語Bの再履修方法について

2016年度から言語教育科目の大幅なカリキュラム変更を行い、言語A・言語Bの再履修方法が以下の通りに変更となった。

〈言語A〉

2010年度以降カリキュラム適用者：英語D1、英語D2に関しては従来通りの方法で単位修得することになる。英語P1、英語P2、英語e、英語Wに関しては従来通りの英語単位認定試験での単位修得のほかに、2016年度より「英語R」（英語再履修クラス）を開講している。なお、2020年度以降、英語D1、D2の再履修クラスは廃止する。必修科目の不足単位は全て英語単位認定試験、もしくは「英語R」で修得すること。

2009年度以前カリキュラム適用者：従来通りの方法で単位を修得することになる。なお、2017年度より英語単位認定試験を池袋キャンパスのみでの実施とするため、十分留意して受験すること。

〈言語B〉

2010年度以降カリキュラム適用者：従来通りの方法で単位を修得することとなる。

2009年度以前カリキュラム適用者：「～語3A1」、「～語3A2」、「～語4A1」、「～語4A2」の再履修に関しては個別指導となる。

通常の履修による単位修得以外に、下記のとおり、単位が認定される場合がある。詳細は以下の各制度の内容を確認のこと。なお、単位認定の上限は学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」参照）により合計60単位までと定められている（ただし3年次編入学または転部・転科等による単位認定、入学前に本学で修得した単位の認定などについてはこの上限に含まない）。

1 派遣留学制度による単位認定

学部学生が、国際交流制度による派遣留学生（在学留学生）として海外の大学で修得した単位は以下のとおり扱う。

㊦ 認定の上限については、「立教大学学則第2章第10条の2第1項から第10条の4第3項」を参照すること。

(1) 在学留学の学生が外国の大学で修得した科目の単位の認定を申し出る場合、下記①～⑥の書類を、派遣留学期間終了後1ヵ月以内に所属キャンパスの教務窓口に提出すること。派遣留学期間終了後1ヵ月を過ぎると一切受け付けないので注意すること。

- ①立教大学派遣留学生単位認定願
- ②留学先大学・機関等が発行した成績証明書（原本）
- ③留学先大学の学年暦（授業開始日・終了日・試験期間・休祝日を示す書類）
- ④学業成績評価の基準を示す書類（可否の基準が明記されているもの）
- ⑤シラバス等、授業内容がわかる書類

※言語教育科目についてはシラバスの提出がない限り単位認定できないため、シラバスがない場合は科目担当教員に事情を説明して必ず作成してもらうこと（科目名・目的・内容・成績評価基準・テキスト・使用言語が記載されたものであり、担当者のサインがあることが望ましい）。

※言語Bの単位認定を希望する場合は、シラバスに加え、授業で使用したテキスト及びノート等授業内容詳細が分かるものを提出すること。

⑥各科目の総授業時間数を示す書類

※シラバス等に記載がない場合は、最終試験を除く授業回数・1回あたりの授業時間・授業実施曜日を示す書類（コーススケジュール、時間割など）

提出された書類に基づき、全学共通カリキュラム運営センターが審査を行う。その結果単位認定を受けられないこともある。なお、5月末日までの申請受付分が当該年度の特別卒業判定の対象となり、10月末日までの申請受付分が当該年度の卒業判定の対象となる。

※派遣留学期間後の学籍が休学であっても申請は有効となる。

※申請した単位が認定される以前に退学した場合は、派遣留学単位認定の申請が無効になる。

郵送（書留相当）による派遣留学単位認定申請について

以下の条件すべてに該当する場合は、派遣留学単位認定の申請について郵送（書留相当）で行うことができる。

- ①派遣留学期間終了後、引き続き現地に研究・勉学等を継続して行う者で、1ヵ月以内に帰国できない者
- ②派遣留学期間終了日以前に、①の内容について所属キャンパスの教務事務センターに申し出た者
- ③大学側からの連絡に回答可能な方法を構築できる者
- ④以下の条件を了解できる者
 - ・手続書類の不備がないよう申請すること
 - ・手続書類不備については、派遣留学単位認定の申請が無効になる場合があること

(2) 原則、以下の基準により単位数を計算する。

講義：11.25時間＝1単位

語学・実習・体育実技：22.5時間＝1単位

ECTS^{※1}を採用している欧州の大学：ECTS単位数の1/2単位数を算出。但しスペインの大学のみの時間数により換算する。

※1 ECTS：European Credit Transfer System（欧州単位互換制度）

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

- (3) 全学共通カリキュラム科目として認定する場合は、科目名では表示せず、その内容から特定の履修区分に振り替えて認定する。
- (4) 認定を受けた科目の単位は、留学先大学の授業時間数を考慮して決定する。
- (5) 認定を受けた科目の履修区分は、留学先大学の授業内容をもとに決定する。
- (6) 留学単位認定科目の成績評価は「認定」とする。

2 認定校留学制度による単位認定

各学部の学生が認定校留学制度により在学留学中に海外の大学で修得した科目の単位は、国際交流制度による派遣留学生の単位認定に準じて扱う。

3 学外からの3年次編入学生の履修免除・単位認定

学外からの3年次編入学者については、全学共通カリキュラム総合教育科目および言語教育科目必修科目の履修を免除する。

なお、編入学後に全学共通カリキュラムの科目を履修（言語教育科目必修科目については、先に述べた履修免除制度の適用を受けた学外からの3年次編入学者は、履修することができない）して修得した単位は、所属学部・学科の履修規定に従って卒業に必要な単位に算入されることがある。履修にあたっては履修規定および総合教育科目・言語教育科目の「履修上の注意」に従うこと。

4 学内転部・転科者の全学共通カリキュラム履修

転部・転科後の
適用カリキュラム
について

学内転部・転科者については、新しい所属学部・学科のカリキュラムが適用される。

転部・転科前に在籍していた学部・学科において修得した全学共通カリキュラムの単位で新しい所属学部・学科の卒業要件単位を満たすことができない場合、全学共通カリキュラムの科目をさらに履修して新しい所属学部・学科の卒業要件単位を満たさなければならない。

詳細は個別に指示するので、4月の授業開始前に所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせのこと。

なお、文学部（ドイツ文学専修・フランス文学専修）へ転部・転科等した者は、言語教育科目必修科目の履修に関する特別措置を確認すること。

5 入学前に修得した単位の認定

1. 入学前に
本学または本
学以外で
修得した単位
の認定

入学前に本学または本学以外の大学・短期大学等で修得した単位および短期大学・高等専門学校の専攻科での学修について、認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。

(1) 申請時期・方法

入学前に修得した単位の認定を申し出る場合、下記①～④の書類を、定められた期日までに所属キャンパスの教務窓口へ提出すること（ただし、本学で修得した科目については、①単位認定申請書のみ、提出すればよい）。入学前の修得単位認定申請は入学時にしか受け付けない。

- ① 単位認定申請書（所属キャンパスの教務窓口で配付、SPIRIT 教務部ページからダウンロード可能）
- ② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書
- ③ シラバス等、授業内容がわかる書類
- ④ 学業成績評価の基準および授業時間数を示す書類（修得先が、短期大学および高等専門学校の専攻科もしくは海外の機関の場合）

提出された書類に基づき、各所属学部からの依頼により、全学共通カリキュラム運営センターが審査を行う。その結果単位認定を受けられないこともある。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

(2) 認定対象の範囲

一定の基準に基づき、全学共通カリキュラム科目に相当する科目を修得したと認められた場合には、全学共通カリキュラムの規定によりその単位を認定する。

なお、認定対象としては、総合教育科目相当のもののみを扱い、言語教育科目相当のものはこの制度での認定対象としない。

ただし、言語必修科目（言語B）については、一定の実力・学習歴がある場合には、別途履修免除制度による単位認定の可能性がある。

(3) 認定科目名・履修区分

全学共通カリキュラム科目として認定する場合は、科目名では表示せず、その内容から特定の履修区分に振り替えて認定する。

(4) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

(5) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定された履修区分に従って卒業要件単位に算入する。

(6) 認定の上限単位数

入学前に本学以外で修得した単位の認定は、学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」）で定められている単位認定の上限60単位に含まれる。

なお、認定は全カリ総合教育科目の卒業要件単位数を上限とする。認定上限単位数を超えた単位、履修区分の超過分の単位の扱いについては、各所属学部部の履修要項で確認すること。

(7) 認定科目の成績表示

入学前に修得した単位の認定の成績は「認定」とする。

6 入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後に他大学（本学以外の大学・短期大学）等で修得した単位について、認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。認定対象者は学部1～3年次生で、4年次生は対象外とする。

他大学等の範囲は立教大学学則第2章第10条の2、および第10条の3において規定されているものとする。ただし、海外の大学等での修得単位の単位認定については、派遣留学、認定校留学の認定制度を適用し、本単位認定制度の対象外とする。

(1) 申込時期・方法

入学後に他大学等での修得単位の認定を申し出る場合、事前申請は特に設けず、他大学等での成績確定後に認定の申請を行う。また単位認定の申請は、単位を修得した年度のみ行うことができるものとし、過年度に修得した単位は単位認定の対象外とする。ただし、成績評価が年度を越えて（次年度4月）発表になる科目の場合は、次年度春学期授業開始日までに申請しなければならない。

申請にあたって、下記①～③の書類を、所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

① 単位認定申請書（所属キャンパスの教務窓口で配付）

② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書

③ シラバス等、授業内容がわかる書類

提出された書類に基づき、各所属学部からの依頼により、全学共通カリキュラム運営センターが審査を行う。その結果単位認定を受けられないこともある。結果は認定作業が完了次第通知するが、成績評価が年度を越えて発表になる科目は履修登録修正期間の初日までに通知する。

(2) 認定対象の範囲

全学共通カリキュラム科目に相当する科目を修得したと認められた場合には、全学共通カリキュラムの規定によりその単位を認定する。

なお、認定対象としては、総合教育科目相当のもののみを扱い、言語教育科目相当のものはこの制度での認定対象としない。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

(3) 認定科目名・履修区分

全学共通カリキュラム科目として認定する場合は、科目名では表示せず、その内容から特定の履修区分に振り替えて認定する。

(4) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

(5) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定された履修区分に従って卒業要件単位に算入する。また、認定を受けた科目は、単位を修得した年度における本学の履修登録上限単位数の計算に含まれるので、履修計画を立てる際に十分注意すること。

(6) 認定の上限単位数

学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」）で定められている単位認定の上限60単位に含まれるが、「入学後に他大学等で修得した単位の認定」としての上限はない。

なお、認定は全カリ総合教育科目の卒業要件単位数を上限とする。認定上限単位数を超えた単位、履修区分の超過分の単位の扱いについては、各所属学部の履修要項で確認すること。

(7) 認定科目の成績表示

成績評価は「認定」とする。

1 学習計画の立て方

大学における学習の特徴は、自分で履修計画を立て、受講する科目を選択し、卒業に必要な単位を満たしていく点にある。そのため、時間割は各自異なったものとなる。なお、定期試験は原則として全学共通カリキュラム科目、専門教育科目、学校・社会教育講座科目ともに同一期間内に、1時限目から5時限目までに行われる。履修計画は、よく考えたうえで無理のないように立て、間違いのないよう履修登録をしてほしい。

履修計画を立てるにあたっては、所属学部ガイダンスに出席し、また、必要に応じてアカデミックアドバイザーに相談すること。

1. 教員による
履修相談
(新1年生対象)

「教員による履修相談」では、全学共通カリキュラム・専門教育科目の履修要項記載内容についての疑問点などに関して、教員が相談・質問に応じる。

2. 先輩による
「履修要項」
読み方指南^{ナビ}
(新1年生対象)

時間割計画シートについての疑問や、全学共通カリキュラム・専門教育科目の履修要項の読み方などについて、各学科の先輩学生が質問に応じ、履修計画を立てる際のサポートを行う。

2 アカデミックアドバイザー、オフィスアワー

1. アカデミック
アドバイザー

アカデミックアドバイザー制度は、学生一人ひとりに対して担当者（専任教員）を定め、本学における学習全般に関する助言・指導や情報提供を行う制度である。アカデミックアドバイザーは学生にとって身近な相談相手となるので、学習に関する悩みや相談がある場合には、気軽に連絡を取ること。

アカデミックアドバイザーの詳細は、4月はじめに所属学部掲示板にて発表する。

2. オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれの専任教員^{*}が、主として担当する授業に関する質問や勉学の相談等に応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に研究室で待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室を訪ね質問することができる。

オフィスアワーの一覧は、4月はじめに各学部掲示板にて発表する（観光、コミュニティ福祉、現代心理学部については、各学部の履修要項を参照のこと）。

また、教育講師のオフィスアワーの一覧は全学共通カリキュラム掲示板にて各学期はじめに発表する。

※ 兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間等を利用し質問すること。

1 履修登録とは

履修登録は、学生がその年度に自分が履修しようとする科目を届け出る手続きであり、学習計画の出発点となるものである。定期試験期間の試験は、全学共通カリキュラム科目、専門教育科目、学校・社会教育講座科目いずれも同一期間内に、1時限目から5時限目まで行われる。そのことも考慮して、無理のない履修計画を立て、登録してほしい。

学生は自己の責任において履修する科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを完了しなければならない。履修登録をしていない科目は、授業に出席し、また試験を受けても、当該科目の単位を修得することはできない。履修登録は、年2回、4月に春学期科目と通年科目、9月に秋学期科目を届け出る。登録のあとは、履修登録状況画面が更新されるので、必ず内容を確認すること。登録科目に変更の必要がなければ履修登録は完了する。

履修登録届出時期

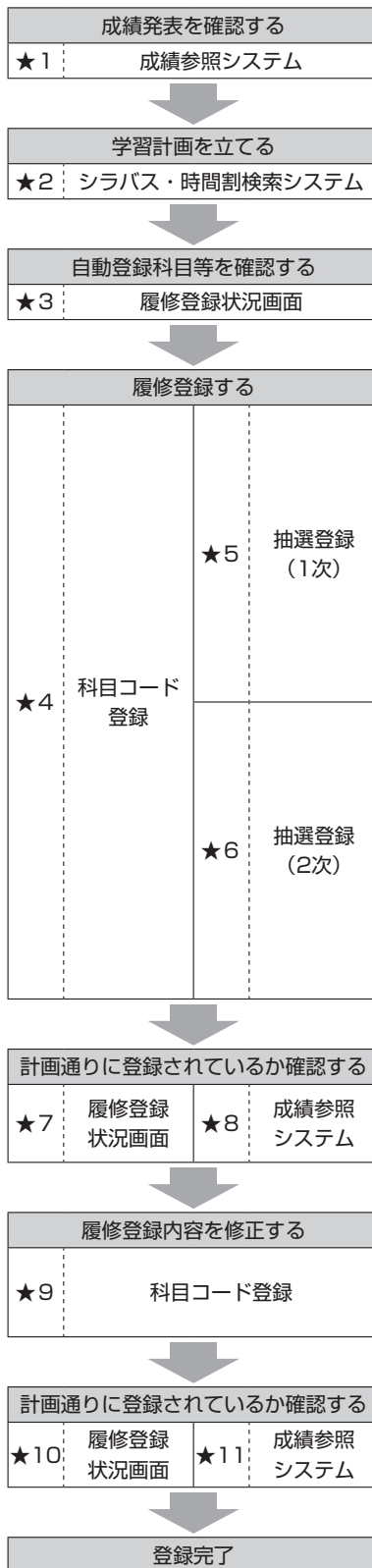
履修登録届出時期と対象科目は以下の通り。

- 4月期 ⇒ 春学期科目、通年科目
- 9月期 ⇒ 秋学期科目

※春学期期間外科目、秋学期期間外科目については履修登録届出時期が異なるので、別途確認すること。

2 履修登録の流れ

2019年度 履修登録スケジュール



	春学期	秋学期
★1 成績発表	3月13日(水) 10:00	9月5日(木) 10:00
★2 シラバス・時間割検索システムHP公開	3月19日(火)	
★3 履修登録状況画面の更新	3月30日(土) 18:00	9月5日(木) 10:00
★4 科目コード登録期間①	4月2日(火)、3日(水) 各日11:00～26:00	9月12日(木)、13日(金) 各日11:00～26:00
★5 抽選登録期間(1次)	4月4日(木)～5日(金) 4日11:00～17:00、 4日20:00～5日17:00 ※4日17:00～20:00は休止	9月14日(土)～15日(日) 14日11:00～15日17:00
抽選1次履修許可者発表 履修登録状況画面の更新	4月7日(日) 11:00	9月17日(火) 11:00
★4 科目コード登録期間②	4月7日(日)～8日(月) 7日11:00～8日15:00	9月17日(火)、18日(水) 17日11:00～18日15:00
★6 抽選登録期間(2次)		
抽選2次履修許可者発表 履修登録状況画面の更新	4月9日(火) 18:00	9月19日(木) 18:00
★4 科目コード登録期間③	4月9日(火) 18:00～26:00	9月19日(木) 18:00～26:00
	4月10日(水) 11:00～26:00	9月20日(金) 11:00～26:00
	4月11日(木) 11:00～18:00	9月21日(土) 11:00～18:00
★7 履修登録状況画面の更新	4月12日(金) 18:00	9月23日(月) 18:00
★8 成績参照システムの更新	4月13日(土) 10:00	9月24日(火) 10:00
★9 履修登録修正期間	4月16日(火) 11:00～26:00	9月26日(木) 11:00～26:00
	4月17日(水) 11:00～18:00	9月27日(金) 11:00～18:00
★10 履修登録状況画面の更新	4月18日(木) 18:00	9月28日(土) 18:00
★11 成績参照システムの更新	4月20日(土) 10:00	10月1日(火) 10:00

各履修届出方法の詳細については、次頁以降を必ず確認すること。

3 履修届出方法

履修登録には科目の性格によって、自動登録、「その他」登録、抽選登録、科目コード登録の方法がある。届出方法がそれぞれ異なるので、指示に従うこと。抽選登録、科目コード登録の届出は履修登録システム (<https://r.rikkyo.ac.jp/>) により行うこと。このシステムは大学内のコンピュータ教室の他、自宅等からもアクセス可能だが、ブラウザの種類、バージョン等により一部使用できない場合もある。

1. 自動登録

(1) 対象科目

言語教育科目の必修科目（言語教育科目の必修科目の項を確認すること）。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 大学であらかじめ登録しているため、履修登録に関する手続きは一切不要である。
- ② 配当年次に自動登録される必修科目を修得できずに再履修する場合は、次の年度も自動登録される。
※全学共通科目言語A（英語）の必修科目については全学共通カリキュラム言語教育科目必修科目「4. 指定年次・学期以後の単位修得方法 英語単位認定試験、英語R、英語ディスカッション再履修」の項を確認すること。
- ③ 自動登録科目の取り消しは原則として認めない。
- ④ 同一科目が複数の担当教員に分かれる場合、授業開始日前に履修登録状況画面で担当教員を確認すること。

2. 「その他」登録

(1) 対象科目

開講科目一覧の登録方法欄に「その他」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修の取消はできない。
- ③ 選考・選抜のための提出書類の届出方法、届出期間、選考の有無、結果の発表は科目により異なるので、履修要項の該当頁を参照すること。
- ④ 「海外インターンシップ1・2」科目の登録上限の扱いについては、「総合教育科目について」
4 履修上の注意 9. 海外インターンシッププログラムについて」を参照すること。

3. 抽選登録

(1) 対象科目

総合教育科目：以下を除く全ての科目

「GL101」, 「GL102」, 「GL111」, 「GL201」, 「GL202」, 「GL301」, 「GL302」, 「国際協力リテラシー」, 「アクティブ・リサーチ1」, 「アクティブ・リサーチ2」, 「国連ユースボランティア」, 「海外インターンシップ1, 2」, 「陸前高田プロジェクト」

言語教育科目：「自由科目 科目一覧表」／「自由選択科目 科目一覧表」を参照すること。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 履修可否は、履修登録システムで発表する。履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修登録の取消はできない。（ただし総合教育科目は2次申込終了後に科目コード登録対象となった科目については科目コード登録期間および履修登録修正期間に取消・変更が出来る。）
- ③ 1次申込において抽選定員に達しなかった科目のみ、2次申込受付を行う。
- ④ 必修科目などすでに登録されている科目や、抽選登録申込期間後に登録を予定している科目と重複する曜日・時限には、抽選登録科目の申込を行わないこと。
- ⑤ 総合教育科目の抽選登録における1次申込の申請上限単位数は、各学期6単位である。2次申込時においては、1次申込で履修を許可された科目の単位数を含め6単位である。総合自由科目については申請上限単位数は特に定められていない（ただし、各学部が定める履修登録上限単位数の範囲

内)。

- ⑥言語自由科目(英語): インディペンデント・コース科目の「TOEIC1」, 「TOEIC2」, 「TOEFL2」, 「IELTS」の資格系科目と資格系以外科目の申請上限単位数は, 各学期6単位とする。なお, 「英語海外文化研修」と「国際交流制度短期英語研修プログラム」は6単位の上限には含まない。

抽選登録期間内は, 何度でも申請科目の確認, 修正ができる。

4. 科目コード登録

(1) 対象科目

履修登録方法が, 自動登録, 「その他」登録, 抽選登録以外の科目。ただし, 抽選登録の結果, 定員を満たさなかった総合教育科目は一部科目を除いて対象科目となる。科目コード登録対象科目は履修登録システムで発表する。言語教育科目には科目コード登録で登録する科目はない。なお, 5大学間単位互換制度による他大学科目は, 科目コード登録では登録できない。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 病気等やむを得ない理由により, 期日に手続きできない場合は, 必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口連絡し, 指示を受けること。また, 疑問がある場合は, 事前に所属キャンパスの教務窓口で相談してから手続きすること。
- ② 届出科目が確定したら, 「登録内容送信」ボタンを必ずクリックし, 届出内容およびエラー状況を確認すること。
- ③ 科目コード登録期間内に, 「エラー」の無い状態で完了すること。エラーが出た際は【エラーメッセージ対処法】を参照すること。
- ④ 科目コード登録期間中に, 登録が正常に行われたことを確認するために, 「履修登録」画面に再度ログインし, 登録内容を確認すること。
- ⑤ 「履修登録」画面は, 科目コード登録期間あるいは履修登録修正期間以外は使用できない。
- ⑥ 履修登録修正期間後, 「履修照会」画面に申請内容が反映されるので, 申請内容を必ず確認すること。
- ⑦ 科目コード登録で届け出る科目が1科目もない場合も, 科目コード登録期間内にアクセスして, 大学に届け出ている連絡先が正しいかを確認すること。

科目コード登録期間内は, 何度でも科目コード登録科目の確認, 修正ができる。

4 登録科目の確認について

1. 登録科目の確認方法について

履修登録の内容は、履修登録状況画面により確認できる。これらが正規の登録科目となるため記載事項の誤りの有無を確認すること。更新日程は、履修登録システムで確認すること。

また、履修登録の内容と併せて、成績参照画面の更新結果（履修登録後に単位計算した結果）も確認すること。更新日程等詳細は、成績参照システムで確認すること。

Blackboard及びSPIRIT Mobile (mobile V-Campus) の時間割は正式な登録科目の確認には使用できないので注意すること。

〈履修登録状況画面の表示内容と更新日〉

履修登録状況画面は、教務の窓口に提示する際の資料として使用できる。

履修登録状況画面の確認

履修登録状況画面は、履修登録された科目が曜日・時限順に表示されている。下部に「エラー科目」として記載されているものは無効となり、登録されていない（ただし「～上限オーバー」エラーを除く）。

記載事項に誤りがある場合、「～上限オーバー」などのエラー表示がある場合は、5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認を参照し、所定の期間内に手続きをとること。

【表示方法】

- 履修登録システムにアクセスする。
- メニューから『履修登録状況画面』をクリックする (Aの①)。
- 『⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン』をクリックする (Aの②)。
- ログイン画面が表示されるので、V-CampusID (学生番号) とパスワード (V-Campusと同じ。新入生については、学生証等交付の際に配付される) でログインする。
- 履修登録状況画面が表示される。(B)

A

メニュー
履修登録
(抽選登録・科目コード登録)
履修登録状況画面
履修中止
成績参照

① ↑ここをクリック

B

⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン
② ↑ここをクリック

必ず一番下までスクロールして、エラー表示が出ていないかチェック

予定している科目がすべて正しく登録されているかをチェック

! **重要** 履修登録状況画面・成績参照画面の記載事項について誤りの有無を必ず確認すること。

注意 履修登録の誤りや、エラー表示への対処は、履修登録修正期間に履修登録システムで行うこと。

2. 登録の完了
- 履修登録状況画面を確認した結果、修正する必要がない（自分が履修する予定の科目がすべて間違いなく記載されている）場合、登録は完了となる。
3. 登録の無効について
- 履修登録状況画面でエラーに表示された科目に対して所定の期間内に履修登録修正の手続きをしなかった場合、その届出科目は無効となり、本年度の履修はできない。したがって授業に出て試験を受けても無効となる。
- なお、「～上限オーバー」エラーに対して所定の期間内に手続きを行わなかった場合には大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除する。
- 履修登録修正期間以外の修正は原則として認めない。

5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認

1. 履修登録の修正
- 修正対象となる科目は「科目コード登録」で登録した科目に限られる。また、科目コード登録の科目であれば、新たな科目の追加も可能である。
- 履修登録状況画面の表示内容を確認し、登録内容の修正が必要な場合は、履修登録修正期間に履修登録システムで手続きを行うこと。
- なお、エラー表示された科目は、登録無効となっている（ただし、「～上限オーバー」エラーを除く）。
2. 修正についての注意点
- (1) 履修登録状況画面上に記載され、登録無効となった科目については、エラーになった理由を調べ、エラーへの対処を行うこと。【エラーメッセージと対処法】を参照すること。
- (2) 履修登録修正期間内に、エラーの無い状態で完了すること。
- 履修登録修正期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。
- (3) 履修登録修正期間後の修正は原則として認めない。期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示を受けること。
3. 履修登録修正結果の確認
- (1) 履修登録修正期間に届出科目の修正を行った者は、履修登録状況画面で履修登録内容の修正手続きが正しく行われたかを確認すること。履修登録状況画面に記載されている科目が履修登録修正者の正規登録科目となる。したがって、必ず記載事項の誤りの有無を確認すること。
- (2) 履修登録システムや履修登録状況画面上で、エラー表示のまま修正しなかった科目は登録無効となり、削除されている。また、「～上限オーバーエラー」が発生したまま修正しなかった場合は、大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除している。各自が行った修正手続き終了時点の申請状況は申し出期限までに履修登録システムの履修照会画面で確認すること。
4. 申し出期限
- 履修登録の内容に関する疑問がある場合は、下記の申し出期限までに申し出ること。ただし、新たに科目を追加ならびに取消すことはできない。

時 期	申し出期限	申し出場所
4月期	2019年4月25日（木）17：30	所属キャンパスの 教務窓口
9月期	2019年10月5日（土）12：30	

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

申し出の際には以下2点を持参すること。

- ① 履修登録状況画面のコピー
- ② 履修登録システムの履修照会画面のコピー

「履修照会画面」には、履修登録システムで、各自が行った手続き終了時点の申請状況が、各学期の申し出期限まで表示される。

5. 登録の無効について

履修登録状況画面の確認を怠り、届け出たつもりの科目が正しく履修登録されていなかった場合、その科目は無効であり、本学期または本年度の履修はできない。したがって授業に出ても試験を受けても無効となる。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

【エラーメッセージと対処法】

履修登録状況画面 「エラー科目」欄の表示	エラーメッセージへの対応について
【A】校地移動時間不足	池袋キャンパス開講科目と新座キャンパス開講科目、池袋キャンパス開講科目と明治大学開講科目、新座キャンパス開講科目と明治大学開講科目の授業は1時限分（または昼休み分）の移動時間が必要です。なお、新座キャンパス開講科目と明治大学開講科目などにおいて、実際の移動時間が不足する場合でも自己責任となるので、登録の前に移動に要する時間を必ず確認してください。※明治大学開講科目は全学共通カリキュラム総合教育科目です。 ⇒連続した時限では履修登録できませんので、一方を削除し、どちらか科目のみ登録してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
【B】人数制限科目	この科目は科目コード登録では登録できません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【C】履修対象者以外	履修できる学生は学部・学科・年次・クラス・入学年度などによって決まっており、該当しない学生は履修できません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【D】同時履修不可	同一年度または同一学期に複数登録できない科目です。 ⇒履修要項を確認して、一科目のみ登録してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
【E】履修要件単位の不足	この科目を履修するためには、履修要項に示されている要件を満たすことが必要です。 ⇒要件（別の特定の科目を履修中または修得済でなければ登録できない等）を満たすことができるか確認して、対処（追加・変更・削除）してください。
【F】履修登録単位数不足	この科目を履修するためには、履修要項に示されている要件を満たすことが必要です。 ⇒要件（****を～単位同時に登録が必要）を満たすことができるか確認して、対処（追加・変更・削除）してください。
【G】講座未登録課程の履修	学校・社会教育講座の各講座課程（教職課程、学芸員課程、司書課程、社会教育主事課程）に登録していない学生は、各講座で開講されている科目を履修登録することができません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【H】重複履修不可	この科目は、単位修得後に再び履修登録することが認められていません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【J】同一内容科目履修不可	履修要項の規定を確認してください。 ①科目名が異なっている科目の間で「同時に履修登録することはできない」場合 ⇒一方の科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。 ②「すでに修得済の場合は、もう一方の科目を履修登録できない」場合 ⇒登録できませんので、エラー表示科目を削除してください。
【K】同一科目（担当）不可	すでに修得した科目（科目名・担当教員ともに同じ科目）について再度の履修が認められない場合は、該当科目を履修登録することができません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【L】グループ科目の超過	この科目群は登録できる単位数が制限されていますので、履修要項の規定を確認してください。 ⇒現在エラー表示中の科目を含めて再度確認し、指定の単位数になるように科目を選択しなおして、超過している単位数分の科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、同じグループに該当する他の科目を削除してください。
【N】履修科目上限オーバー	学科・学年により全学共通カリキュラムと専門教育科目等の合計の履修登録単位数に上限単位数（科目数）が決まっています。それより多い単位数（科目数）の履修登録はできません。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。 ★【Q】エラーも同時に表示されている場合の注意★ 全カリ総合教育科目（総合自由科目を除く。科目コードFA***～FI***）の上限単位数も超過している場合は、まず、全カリ総合教育科目のうち、科目コード登録により登録した科目から、削除してください。
【O】専門教育上限オーバー	専門教育科目について履修登録できる上限単位数（科目数）が決まっています。それより多い単位数（科目数）の履修登録はできません。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。
【P】内部科目コードの重複	開講曜日・時限あるいは担当者などが異なる場合でも、同一内容の科目として規定されている科目は、1科目しか履修登録することはできません。 ⇒同一科目となるいずれかの科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
【Q】全学共通（全カリ）総合系科目上限オーバー	全学共通カリキュラムの総合教育科目（総合自由科目を除く。科目コードFA***～FI***）は、各学期の登録上限単位数（*）が決まっています。 ※2006年度以降入学者は合計6単位までです。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。
【R】今年度休講	この科目は今年度休講です。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【S】科目コードなし	この科目コードの開講科目はありません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【T】曜日・時限の重複	同じ曜日・時限に開講されている科目は、同時に1科目しか履修登録することができません。 ※G5限・G6限は5限・6限と授業時間が一部重複しているため注意すること。 ⇒科目コード登録により登録した科目を削除してください。
【U】必修科目未届け	今年度または今学期（まで）に修得しなければならない必修科目が、履修登録されていません。 ⇒履修要項で確認し、科目コード登録で登録する科目の場合は、画面上から追加してください。 <u>科目コード登録以外の登録方法が指示されている場合は、所属キャンパスの教務窓口で質問してください。</u>

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入入学者に適用)

履修登録状況画面 「エラー科目」欄の表示	エラーメッセージへの対応について
【V】登録時期エラー	9月期に登録する科目（秋学期科目）は、4月期に履修登録できません。同様に、4月期に登録する科目（通年科目、春学期科目）は、9月期に履修登録できません。履修要項で学期を確認してください。 ⇒エラー表示科目を削除してください（科目コードを誤って入力していた場合は、確認して入力しなおしてください）。
【W】外部科目コードの重複	同じ科目コードを複数届け出することはできません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【X】講座履修条件エラー	学校・社会教育講座において、その科目を履修するために必要な条件が定められていますが、その条件を満たしていません。もう一度履修要項と登録内容を確認してください。不明な点がある場合は、学校・社会教育講座事務室窓口で質問してください。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【Y】履修許可条件エラー	この科目を履修するためには履修要項に示されている必要な条件を満たす必要があります。 ⇒要件（別の特定の科目を履修中または修得済でなければ登録できない等）を満たすことができるか確認し、対処（追加・変更・削除）してください。

6 履修中止制度（社会学部・経営学部・異文化コミュニケーション学部の学生について）

1. 履修中止制度とは

履修登録を行った科目について、大学の定める一定期間に本人からの申請により、履修を中止することを認める制度である。

履修中止申請を行った科目については、当該学期の授業の出席、試験等の受験、単位の修得はできない。また、履修中止単位数分の新たな履修登録は認められない。
2. 適用対象となる学生

2006年度以降社会学部1年次入学者（2006年度以降1年次入学者向けカリキュラム適用者）
経営学部学生、異文化コミュニケーション学部学生
3. 申請した科目の扱い

履修中止を申請された科目は、以下のように扱われる。

 - (1) 成績評価：評価対象とはならず、成績通知表には「Q（履修中止）」と表示される。また、成績証明書には、科目名、成績評価とも記載されない。
 - (2) 履修登録上限：上限単位数に算入される。
 - (3) 追加登録：当該学期開講科目の追加登録は認められない。
 - (4) GPA：計算対象とならない。
4. 履修中止申請対象とならない科目

履修登録科目のうち、以下の科目は履修中止申請が認められない。ただし、長期療養等の事由により、審査のうえ正当であると認められた場合は、この限りではない。事由の提示にあたっては、事実の確認できる証明書類を提示すること。

 - (1) 必修科目
 - (2) 他大学で開講している科目（例：f-Campus等）
 - (3) 集中講義形式で開講している科目
 - (4) 実習料等授業実施にあたっての費用を別途徴収している科目

全カリ 「英語海外文化研修」「ドイツ語海外言語文化研修」
「フランス語海外言語文化研修」「スペイン語海外言語文化研修」
「中国語海外言語文化研修」「中国語海外言語文化研修春」
「朝鮮語海外言語文化研修」「ビクトリア夏ESL2」「ハワイ夏ESL1」
「ダブリン夏ESL3」「ダブリン春ESL3」「シドニー春ESL3」「ビクトリア春ESL2」
「ハワイ春ESL1」「GL301」「国際協力リテラシー」「アクティブ・リサーチ1」
「アクティブ・リサーチ2」「国連ユースボランティア」「陸前高田プロジェクト」
「海外インターンシップ1」「海外インターンシップ2」「RSL-1」
「RSL-1-b」「RSL-2」「RSL-3」「RSL-4」
学外で集中して実施するスポーツ実習
 - (5) 特に定める科目

全カリ ①言語教育科目の言語自由科目（2010年度以降入学者・「英語R」を含む）または自由選択科目（2009年度以前入学者）
②総合教育科目 選択科目
・「スポーツプログラム」「スポーツスタディ」の全科目
③総合教育科目 総合自由科目（2012年度以降入学者）

※専門教育科目および学校・社会教育講座科目については所属学部の履修要項で確認すること。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

5. 申請期日

(1) 申請期間

申請期間は履修中止を希望する科目によって異なる。下表を参照し、所定の期間に申請すること。

申請対象科目	申請期間
春学期1開講科目	2019年5月7日(火)～9日(木) 17:00
春学期科目 (春学期1開講科目を除く)	2019年6月18日(火)～20日(木) 17:00
秋学期1開講科目	2019年10月8日(火)～10日(木) 17:00
秋学期科目 (秋学期1開講科目を除く) 通年科目	2019年12月3日(火)～5日(木) 17:00

※受付時間11:00～26:00(締切日は11:00～17:00)

入院等により申請期間に申請できない場合は、原則として申請締切日以前に所属キャンパスの教務事務センターへ連絡すること。連絡があった場合には、所属学部教授会において審査されるので、追試験受験申請書提出時に準じ、事実を確認できる書類を提出すること。

(2) 申請手続き

履修登録システムよりアクセスし、履修中止申請画面より申請手続を行うこと。

〈手続内容〉

履修中止申請の対象となる科目が表示されているので、中止する科目について、**中止する**ボタンをクリックし、「履修中止申請状態」欄に「履修中止申請中」と表示されたことを確認すること。

(3) 履修中止処理結果の確認

履修中止を行った科目は、下記の日程で成績参照システムで確認できる。履修中止処理が行われた科目の成績欄には、「Q」と表示される。

申請対象科目	公開日
春学期1開講科目	2019年5月13日(月)
春学期科目 (春学期1開講科目を除く)	2019年6月24日(月)
秋学期1開講科目	2019年10月14日(月)
秋学期科目 (秋学期1開講科目を除く) 通年科目	2019年12月9日(月)

1 試験に関する規定

各学部および学校・社会教育講座科目の試験に関しては、その科目が設置されている学部等の履修要項および掲示に従うこと。

1. 試験の種類と
実施時期

(1) 定期試験

講義終了後に期間を定めて行う試験。

- ① 春学期末試験——春学期科目に対する試験

※春学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

- ② 秋学期末・学年末試験——秋学期科目および通年科目に対する試験

※秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

*通年科目の試験を、定期試験（中間試験）として春学期末に実施する場合がある。

◎全学の定期試験期間は、以下のとおり定められている。

■ 専門教育科目、全学共通カリキュラム科目、学校・社会教育講座科目とも、同一の定期試験期間で行う。

■ 1日5時限の試験を実施し、各時限とも、全科目同一時刻に試験を開始する。（各時限の試験終了時刻は、科目の設置学部等により、また科目により異なる。）

☞試験は授業と同じ曜日・時限に実施されるとは限らない。

試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）をよく確認すること。

〈2019年度 定期試験期間（全学）〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年7月20日（土）～7月31日（水）	2020年1月23日（木）～2月3日（月）

(2) 最終授業時試験

春学期末、秋学期末・学年末の最終授業時に行う試験。

※春学期1開講科目、秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

*通年科目の試験を、最終授業時試験（中間試験）として春学期末に実施する場合がある。

(3) 英語単位認定試験

英語単位認定試験は英語必修科目（英語ディスカッション1・2を除く）の不足単位の修得を目的とし、全学共通カリキュラム運営センターが定めた期日に行う定期試験。その詳細については別途定める。

☞ 適用カリキュラムの「言語教育科目 4 指定年次・学期以後の単位修得方法 1 英語単位認定試験」の項を参照のこと。

(4) 追試験

入院その他やむを得ない事由によって、最終授業時試験および定期試験を受験できなかった場合に実施する試験（いずれも試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問として発表され、追試験対象科目に指定された場合に限る）。

☞ 6 追試験 の項を参照のこと。

(5) 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）に実施する試験。

☞ 7 試験時間重複特別試験 の項を参照のこと。

2. 受験資格・受験資格の喪失・出校停止

(1) 受験資格

在学中の者であって、かつ当該科目について履修登録を完了している者のみ、受験資格がある。

(2) 受験資格の喪失

次のいずれかに該当する者は、受験資格を喪失し、受験した場合はその答案、レポート等は無効となる。

① 学生証または臨時学生証のいずれも不携帯の者^{*1}

② 当該試験期間中に休学中・停学中の者

③ 出席その他、当該科目の担当教員があらかじめ指示した受験資格要件を欠く者

④ 派遣留学・認定校留学中の者^{*2}

*1 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問と発表された受験に関してのみ適用される。

*2 ケント州立大学およびセントクラウド州立大学の秋学期派遣留学生は、秋学期末・学年末試験を受験することはできない。また同様に、当該科目の授業期間中に派遣留学・認定校留学し、定期試験期間に帰国していた場合においても、受験資格が無い派遣留学・認定校留学がある。詳細は所属キャンパスの教務窓口へ問い合わせること。

(3) 出校停止による受験不可

次に該当する者は、出校停止となるため、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問と発表された試験の受験はできない。追試験の受験を希望する場合は、追試験の申請をすること。出校停止期間中に受験した場合、その試験は無効となる。

試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、レポート試験と発表された試験については「5 レポート 2 提出方法 (1) レポート試験」の項を参照すること。

インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種に罹患中の者（「Ⅱ 授業（学習生活）6 学校感染症に罹患した場合の措置について」の項を参照）。

2 試験方法

1. 試験方法

(1) 試験は、筆記、レポートあるいは口頭試問によって実施する。ただし科目によっては、試験によらず平常点によって成績評価する場合もある。

△ 各科目の成績評価方法・基準は、シラバスの記載内容によるが、履修者数、教室などの条件により、やむを得ず変更する場合もある。シラバスの変更については、変更内容を各学部等掲示板およびホームページ上のシラバスにも示すので、確認すること。

試験（筆記・レポート・口頭試問）についての詳細は、「2. 試験方法発表」における発表内容が最終的な試験方法の指示となるので、必ず確認すること。

△ 試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）において発表された、筆記試験を欠席した場合、または「レポート試験」と発表されているレポート（「5 レポート」の項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

(2) 次の科目は、試験を行わず評価するものとし、試験方法発表掲示（「2. 試験方法発表」の項を参照）を行わない。

① 総合教育科目

「スポーツプログラム～」 「スポーツスタディ1～4」

「立教ゼミナール（2012～2015年度1年次入学対象）」

「立教生の学び方（2011年度以前1年次入学対象）」

「総合自由科目（2012～2015年度1年次入学対象）」

② 言語教育科目

全ての言語教育科目

(3) 次のテスト等は、平常点として扱う。

① 学期中随時実施される、筆記による小テスト・中間テスト、学期末の最終テスト（学期末に実施

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入入学者に適用)

されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては筆記試験とは発表されないもの）

- ② 学期中随時課されるレポート、学期末に課されるレポート（学期末に課されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においてはレポート試験とは発表されないもの）
- ③ 学期中に随時実施される口頭試問、学期末の口頭試問（学期末に実施されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては口頭試問とは発表されないもの）
- ④ 言語教育科目において実施される筆記によるテスト、口頭試問等は全て平常点として扱う。

2. 試験方法発表

試験方法は、下記の日程で掲示（11号館1階エントランスホール、新座キャンパスは1号館2階）、ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2019年度 試験方法発表（予定）〉

春学期1末	2019年5月18日（土）10：00
春学期末・春学期2末	2019年7月2日（火）10：00
秋学期1末	2019年10月30日（水）10：00
秋学期末・秋学期2末・学年末	2019年12月12日（木）10：00

3 筆記試験

筆記試験には、定期試験期間内に行われるもの、および最終授業時に行われるものがある。

1. 試験の時間割 ・試験時間

- (1) 定期試験時間は、通常の授業とは異なり70分である。

〈定期試験期間内筆記試験 試験時間〉

時限	1	2	3	4	5
試験時間	9：10 }	11：00 }	13：20 }	15：10 }	17：00 }
	10：20	12：10	14：30	16：20	18：10

* 科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

* 各学部科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該学部等の履修要項、試験時間割発表掲示を確認すること。

〈最終授業時筆記試験 試験時間〉

通常授業時間内（Ⅱ授業（学習生活）**2** 授業時間 の項を参照）で行われる。

* 科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

* 各学部科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該学部等の履修要項、試験時間割発表掲示を確認すること。

- ☞ 交通機関の遅れなどにより、試験の開始・終了時刻が遅くなることがあるので、試験当日の行動予定を立てるに際して、そのことを考慮しておくこと。

- (2) 試験方法等

- ① 試験方法・試験日程・時間割・試験場は、掲示（11号館1階エントランスホール、新座キャンパスは1号館2階）ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）
- ② 試験日程には、予備日が設けられている。予備日とは、定期試験期間内筆記試験および最終授業時筆記試験において、災害等、突発的な事情により試験を実施することができなくなった場合の代替日を示す。予備日に代替された科目、予備日の試験日程については、随時試験掲示およびホームページ上で発表するので、必ず確認すること。
- ③ 受験者は、必ず指定された教室で受験すること。
- ④ 試験は、授業時の教室と異なる教室で行うことがあるので注意すること。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入入学者に適用)

2. 筆記試験受験時の学生証携帯義務	(1) 学生証（または臨時学生証）を携帯しない場合は、いかなる理由があっても受験できない。 (2) 受験中は、学生証（または臨時学生証）を机上の試験監督者の見やすい位置に明示しておかなければならない。 (3) 学生証を紛失・破損した場合や、劣化により顔写真が不鮮明となった場合は、直ちに所属キャンパスの教務窓口で再交付を受けること。 (4) 試験当日、学生証を忘れた者は所属キャンパスの教務窓口で「臨時学生証」の発行を受けること。 臨時学生証 発行手数料500円・2日間有効・写真不要 ＊試験当日に入金できない場合は、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせすること。
3. 試験場への入退室	(1) 定期試験期間内筆記試験の受験者は試験時間開始の10分前までに試験場に入室すること。また、最終授業時筆記試験の受験者は授業開始時刻までに試験場に入室すること。 (2) 試験開始後15分までの遅刻については、試験監督者が許可した場合に受験を認める。 (3) 交通機関等の遅延による遅刻者であって、交通機関発行の遅延証明書を持参した者は、試験開始後15～30分までの遅刻については試験監督者が許可した場合に限り、受験を認める。 (4) 上記(3)において、やむを得ず「遅延証明書」を持参しなかった者については、試験場で「交通機関遅延受験許可申請書」に必要事項を記入した上で、試験監督者の許可を得て受験することができる。（監督者から指定された期日までに、交通機関発行の遅延証明書の提出が必要となる） (5) 試験開始後30分を経過しなければ退室することができない。また、原則として試験終了前10分間は、退室することができない。 (6) 交通機関の大幅な遅延、事件、事故などのため試験時間に遅れそうな場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。
4. その他	(1) 解答用紙および試験出席票に記入する所属、学年、学生番号、氏名は、特に指示のないかぎりペンまたはボールペンで記入すること。 (2) 学生番号・氏名が未記入の答案は無効とする。 (3) 当該科目の履修登録を行わない者は、受験資格を持たない。万一受験した場合は、その答案は無効とする。 (4) 受験した科目の解答用紙および試験出席票、試験問題は、白紙であっても氏名等を記入して、必ず提出すること。 (5) 携帯電話等の通信機器類は、試験場での使用を認めない（試験方法に「すべて持込可」とされた科目の場合も使用不可）。また、同機器類の時計・電卓としての使用も認めない。 (6) 筆記用具は筆入れから出すこと。筆記用具・学生証（臨時学生証）以外のものは、当該科目について特に許可されているものを除き、かばん等に入れて、指定された場所に、試験開始前におくこと。 (7) 受験中は、学生同士の会話、物の貸借を一切禁ずる。

4 口頭試問

定期試験として行う口頭試問の詳細については、掲示（11号館1階エントランスホール、新座キャンパスは1号館2階）ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する試験方法発表にて確認すること。（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）

5 レポート

レポートを作成する場合の注意事項は後述の「レポート・論文作成時のルールについて」も参照すること。

1. レポート	(1) レポートには下記の2種類がある。 ① 試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）において「レポート試験」と発表され、レポート提出期間に提出するレポート
---------	---

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

- ② 最終授業時など、①以外の方法・時期に提出するレポート
(2) 上記(1)～①におけるレポートの提出日時、提出場所、題目の発表

提出日時、提出場所、題目は、試験方法と同時に、掲示（11号館1階エントランスホール、新座キャンパスは1号館2階）、ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する。（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）

2. 提出方法

- (1) レポート試験

試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）で指定された期日・場所に、専用のレポート表紙を綴じ付け、レポート提出証を添えて提出すること。※一部webで受付する場合もある。試験方法発表にて詳細を発表するので注意すること。

- ① 指定期日後は、理由の如何にかかわらず一切受付けないので十分注意すること。（後述「レポート・論文等の提出に際しての注意」も参照）
- ② レポートは、同一科目につき複数提出することはできない。万一、複数提出された場合は、最初の1件のみを採点の対象とする。また、一度提出されたレポートの返却はしないので、不備がないか十分確認のうえ提出すること。
- ③ レポートの用紙は、特に指定のない限りA4判の用紙を使用すること。
- ④ レポート表紙とレポート提出証（いずれも専用のもの）の配付開始時期は、試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）により指示する。
- レポート表紙……A4サイズで科目設置学部等により色が異なる
- レポート提出証…レポート表紙と同色
- ⑤ レポート表紙、レポート提出証は、ペンまたはボールペンで必要事項を記入すること。
- ⑥ レポートとレポート表紙はホチキスで2箇所以上綴じること。
- ⑦ 提出されたレポートは、レポート表紙の整理記号欄の記入内容により採点されるので、記入間違いや他科目と表紙を付け間違えないよう十分注意すること。
- ⑧ レポート表紙に、学生番号・氏名が未記入のレポートは無効とする。
- ⑨ 当該科目の履修登録を完了していない者はレポート提出資格を持たない。万一レポートが提出された場合は、そのレポートを無効とする。
- ⑩ 病気、その他やむを得ない事情により本人が提出できない場合には、代理人による提出を認める（以下「レポート・論文等の提出に際しての注意」参照）。
- ⑪ 学校感染症第1種または第2種に罹患した場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口連絡を受けて指示を受けること（以下「レポート・論文等の提出に際しての注意」参照）。

レポート・論文等の提出に際しての注意

レポート・論文等は、指定された提出期限後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関等の遅延も予測されるので、提出にあたっては十分余裕をもって臨み、本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼する等の措置を講ずること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人または代理人が提出期限までにレポート・論文等の提出に来られない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故や交通機関等の大幅な遅延などの場合を言う。

*プリンター等、機器の故障は不測の事態に含まれないので注意すること。

学校感染症のため出校停止となった学生のレポート・卒業論文・修士論文の提出について

上記に該当した場合は、以下の指示に従うこと。

1. 上記の提出物の提出期間において本人が出校停止中である場合は、代理人を立て、当該の期間内に提出することを原則とする。

代理人による不備は、依頼した本人の責任となる。

2. 1. において代理人を立てることができない場合は、締め切り時刻以前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。

〈以下のすべてに該当する場合、後日の提出を認めることがある〉

- ① 上記2. に該当する学生であること。
- ② 医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」の提出によって、締切日当日に学校感染症に罹患して出校停止中であった事実が証明できること。
- ③ 「出校可能となった日の翌日（窓口対応可能日）」に提出すること。

(2) レポート試験以外のレポート

- ① 各自で表紙をつけ、表紙には、必要事項（科目名・科目担当教員名・所属学部・学科・年次・学生番号・氏名）を必ず記入すること。
- ② 紙媒体以外の提出方法による場合も、上記必要事項を必ず明記すること。
- ③ その他の提出方法については、科目担当教員の指示に従うこと。科目担当教員へ提出するよう指示されたレポートは直接科目担当教員に手渡すこと。

レポート・論文作成時のルールについて

皆さんは、さまざまな授業でレポートや論文を書く機会があると思います。授業の中で指示されて書くレポートや期末試験の代わりに書くレポート、討論会のために作成する論文や卒業論文など、その性質はさまざまですが、どのレポートや論文にも共通なルールがいくつかあります。その一つが、他人が書いたものを写して、あたかも自分が書いたかのように装ってはいけない、というルールです。

これは、元の文章や図表が書物のものであっても、Web上のデータのものであっても、友人のレポートであっても同じです。たとえその文章が著作権を放棄したものでも、リンクフリーのサイトに載っているものでも同じです。問題は、元の文章の性格ではなく、他の人の成果を自分の成果であるかのように装ってはいけない、ということなのです。このような他人の成果を盗む行為は「盗用」や「剽窃（ひょうせつ）」と呼ばれます。

もちろん、他の人がこれまで積み重ねてきた研究の業績を自分のレポートや論文に全く利用してはいけないということではありません。独りよがりにならないためには、従来の研究の成果に大いに学ばなければなりません。他人の業績のアイデアを利用することもあるでしょうし、他人の作った文章や図表などを引用して説明を行う場合もあるでしょう。

ただし、こうした利用や引用にはルールがあります。他の人のアイデアや文章、図表などを用いるときには、それがもともと誰の成果なのかを明記するというルールです。このルールをないがしろにすれば、悪気のあるなしにかかわらず「盗用」や「剽窃」になってしまうのです。

具体的な表記の仕方については授業で学びますが、一般的には次の通りです。

- ・引用対象が文章なら、その文章を「 」で囲み、他の部分と区別する。
- ・その対象の出典を明記する。

【例】【図書の場合】 著者名、『書名』、出版社、発行年、ページ

【雑誌論文、記事の場合】 筆者名、「論文名」、『雑誌名』、巻、号、発行年月、ページ

【ホームページの場合】 URL、取得年月日

【新聞記事の場合】 新聞紙名、朝夕刊の区別、号数、第何面か

これ以外にも表記の仕方にはいろいろなバリエーションがあります。そうした表記の方法や、そもそも論文やレポートでどのくらいの引用をすべきなのかといった点については教員の指導に従ってください。

盗用や剽窃は文章を書く場合にはもっとも恥ずべき行為のひとつであり、研究者がこうしたことを行えば研究者生命を失いかねない程の大問題になります。皆さんのレポートや論文についてもこうした盗用・剽窃がなされないように適切に指導することと、こうした行為が行われたときには厳しく対処することが全学の教員で合意されています。

レポートや論文は他の人の成果を調べて書き写したり、カットアンドペーストのみで作ったりするものではありません。さまざまな研究成果やデータをルールに則って利用しつつ、最終的に自分の考えや主張を論じることで完成するものです。他者の成果には十分に敬意を払い、ルールを守って論文やレポートを作成するようにしましょう。

6 追試験

入院その他やむを得ない事由によって春学期末試験または秋学期末・学年末試験を受験できなかった者で、追試験受験申請書を提出した者に対しては、審査の上追試験の受験を許可することがある。

1. 対象科目

追試験の対象となる科目は、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問として発表され、追試験対象科目に指定された、最終授業時試験科目および定期試験科目である。

- * 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、追試験対象科目として指定されなかった科目は、追試験の対象とはならない。
- * その他授業時間内に科目担当教員が任意に実施する小テスト・中間テスト・最終テストは、追試験の対象とはならない。それらが実施された授業日に欠席した場合は、科目担当教員の指示に従うこと。
- * 言語教育科目（必修科目、自由科目、自由選択科目）および総合教育科目自由科目については期末試験として筆記試験・口頭試問を実施する科目がないので追試験は行わない。

2. 受験申請書

追試験受験申請書を、履修登録状況画面のコピーと別表の証明書を添付の上、試験実施日の翌日から1週間以内（翌週の同じ曜日まで。締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

追試験受験申請書は、所属キャンパスの教務窓口で交付する。

（SPIRIT 教務部ページからもダウンロード可能。）

- * 入院等により期間内に追試験受験申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示に従うこと。特に、学校感染症（第1種または第2種）に罹患した場合は、速やかに連絡し、指示を受けること。
- * 所属キャンパスとは異なるキャンパスで履修した科目の追試験受験申請書は、当該科目の開講キャンパス窓口へ提出すること。ただし、所属キャンパスで履修した科目を同時に申請する場合はその限りではないので、事前に所属キャンパスの教務窓口へ相談すること。

3. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、下記の日程で掲示（11号館1階エントランスホール、新座キャンパスは7号館1階教務事務センター内移動掲示板）、ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2019年度 追試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年8月27日（火）10：00	2020年2月18日（火）10：00

* 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスにて行う。

4. 追試験実施期間

追試験は、次の期間に実施する。

〈2019年度 追試験 実施期間〉

追試験 実施方法	春学期末	秋学期末・学年末
筆記試験 口頭試問	実施期間： 2019年9月5日（木）～12日（木）	実施期間： 2020年3月2日（月）～7日（土）
レポートによる追試験	提出期間： 2019年9月5日（木） ～10日（火）16：00	提出期間： 2020年3月2日（月） ～4日（水）17：00

* 追試験の実施は当該科目の開講キャンパスにて行う。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

5. 追試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3 筆記試験** に準じる。

なお、追試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

〈別表：追試験受験申請書添付書類〉

	試験欠席事由	添付するべき証明書類 事由によっては、立教大学が記入用紙を作成する場合がある
(1)	入院またはそれに準ずる登校不能（風邪・下痢等の一時的な疾病は含まない）ただし、必修科目、先修科目については欄外*を参照	入院先機関の発行する入院証明書 ^{注1)}
(2)	インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種の罹患による登校不能 ^{注2)}	医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」 ^{注3)} 、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」 ^{注4)}
(3)	忌引（保証人、配偶者および3親等以内の血族または姻族に限る）（法事は含まない） ^{注5)}	本人と保証人の署名・捺印のある書類（様式は自由、本人との続柄を明記）およびその事実を明らかにするもの（死亡に関する公的証明書もしくは会葬礼状等）
(4)	交通機関の30分以上の遅延	交通機関発行の遅延証明書
(5)	重大な災害による登校不能	官公庁発行の被災証明書
(6)	学校・社会教育講座の各種実習・体験等	実習・体験期間証明書
(7)	就職試験（就職試験の日程が変更できない場合に限る。セミナー、複数企業の合同説明会、OB・OG訪問等は含まない）	本人が受験したことを証明する受験先機関発行の証明書（就職試験の場所、日時を明記、社印が押印されていること）
(8)	他大学大学院入学試験	受験票のコピー
(9)	日本代表としてのスポーツ公式競技への参加	派遣元団体が大学に宛てた公文書
(10)	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭、または裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭の場合、出頭した裁判所で出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」、裁判員に選任された場合、裁判員職務従事期間についての「証明書」
(11)	上記10事項に準ずる事由 ^{注6)}	

* 必修科目、先修科目については、医師の診断書がある病気・けがによる登校不能についても欠席事由とする。

先修科目とは、ある科目を履修するための条件として、先立って単位を修得しておくことが必要な科目をいう。
具体的には、科目設置学科等の規定を参照すること。

注1) 上記(1)の場合の入院証明書・医師の診断書は、試験を欠席した日の入院・病気・けがを証明する内容であること。

注2) 上記(2)に該当した場合には、速やかに所属キャンパスの教務窓口に関連し指示を受けること。なお、罹患中に試験を受験した場合には、その試験は無効となる。

注3) 上記(2)に該当した場合の医師の診断書において、罹患時と治癒時の受診医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合があるので注意が必要である。受診医療機関を変更する場合は、罹患時に受診した医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」を必ず取得しておくこと。こうすることにより、罹患時に取得した「診断書」と治癒時に受診した医療機関が発行する『治癒日と登校可能日の記載がある「診断書」』の2種類をもって「罹患期間についての証明」とすることが可能となる。

注4) 上記(2)に該当した場合の「治癒証明書」の書式は、SPIRIT 教務部ページからダウンロードすること。

注5) 3親等以内の血族または姻族とは次を指す。

血族—父母・子、祖父母・兄弟姉妹・孫、曾祖父母・伯叔父母・甥姪・曾孫

姻族—配偶者の父母・子の配偶者・配偶者の子（配偶者の前婚における子など）、配偶者の祖父母・配偶者の兄弟、姉妹・孫の配偶者・配偶者の孫（配偶者の前婚における孫など）・兄弟姉妹の配偶者、配偶者の曾祖父母・配偶者の伯叔父母・配偶者の甥姪・曾孫の配偶者・配偶者の曾孫（配偶者の前婚における曾孫など）・甥姪の配偶者・伯叔父母の配偶者

注6) 原則として、事前の届出に対して審査を行うので、所属キャンパスの教務窓口に関問合わせること。

7 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）は、試験時間重複特別試験を実施する。その場合は、原則として、他学部等の科目を定期試験期間内で受験し、自学部科目を特別試験において受験すること。

1. 受験申請書

受験希望者は、試験日時発表後から試験実施期間開始の1週間前までに、試験時間重複特別試験受験申請書を履修登録状況画面のコピーを添付の上、所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。ただし、試験時間が変更されたことによって試験時間に重複が生じた場合は、試験実施日の翌日から2日以内に試験時間重複特別試験受験申請書を所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

2. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、下記の日程で掲示（11号館1階エントランスホール、新座キャンパスは7号館1階教務事務センター内移動掲示板）、ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2019年度 試験時間重複特別試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年8月27日（火）10：00	2020年2月18日（火）10：00

* 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスにて行う。

3. 実施期間

試験時間重複特別試験は、次の期間に実施する。

〈2019年度 試験時間重複特別試験 筆記試験・口頭試験実施期間〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年9月5日（木）～12日（木）	2020年3月2日（月）～7日（土）

〈2019年度 試験時間重複特別試験 レポート提出期間〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年9月5日（木）～10日（火）16：00	2020年3月2日（月）～4日（水）17：00

* 試験時間重複特別試験の実施は当該科目の開講キャンパスにて行う。

4. 試験時間重複特別試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3 筆記試験** に準じる。

なお、試験時間重複特別試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

8 不正行為

試験は、学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。

1. 退室命令

試験中に不正行為とみなされる行為が発見された場合、不正行為者は、試験場から直ちに退出を命ぜられる。

2. 受験資格の喪失

- (1) 受験中に不正行為を行った者は、不正行為以降の全学共通カリキュラム科目、各学部科目等を含むその期の全科目の受験資格（レポート提出資格等を含む）を失う。
- (2) 全学共通カリキュラム英語単位認定試験（以下「全カリ英語単位認定試験」）を受験中に不正行為を行った者は、同日に行われる試験を含め、当該試験期間（6月実施：春学期末試験終了まで、11月実施：秋学期末・学年末試験終了まで）の筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績はすべて不合格となる。

3. 当該試験期間の成績

不正行為者の当該試験期間の成績は以下の通りとする。

- (1) 定期試験期間内筆記試験科目、最終授業時筆記試験科目については、すでに受験した科目を含む全科目の成績を不合格とする。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

- (2) 春学期末または秋学期末・学年末試験期間に不正行為を行った場合、6月または11月に受験した全カリ英語単位認定試験の受験資格をさかのぼって失い、合格は取り消される。
- (3) レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目等、原則として定期試験期間内筆記試験、最終授業時筆記試験以外の方法のみによって成績評価を実施する科目については、不正行為以前の成績評価は有効とする。

4. 処分の決定

- (1) 不正行為者の処分は、その者の所属する学部教授会がこれを決定する。
- (2) 処分は、訓告・停学・退学の3種類とする。不正行為の処分は、原則として停学とする。
- (3) 処分決定後は、不正行為以降全ての受験資格を喪失する。

9-1 成績(文・経済・理・法・観光・コミュニティ福祉・現代心理学部の学生について)

1. 成績評価

授業科目の成績は以下の基準に従い、S、A、B、Cを合格、D、欠を不合格とする。

⊖単位を修得した科目の評価を取り消すことはできない。

〈成績の評価〉

評価		評価基準	成績証明書の表示
合格	S (100～90点)	当該科目の目標をほぼ完全に達成していると認められる	S
	A (89～80点)	当該科目の目標を十分に達成していると認められる	A
	B (79～70点)	当該科目の目標の基幹部分は達成しているものと認められる	B
	C (69～60点)	当該科目の目標のうち最低限は達成していると認められる	C
不合格	D (59～0点)	当該科目の目標に及ばない	表示 されない
	欠席	試験未受験等により評価できないもの ^{注1)}	

注1) 筆記試験・口頭試問を欠席した場合、また試験発表掲示にレポート試験と発表されているレポート(5レポート)の項を参照)を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

次のように表示される科目もある。

評価	成績証明書
合格	合
不合格	表示されない
認定	認
Q ^{注1)}	表示されない

注1) 成績確定前に、休学したものおよび在留留学したもの

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

2. 成績の発表

成績は下記の日程で成績参照システムに発表する。電話・メールによる成績の問い合わせには一切応じない。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

〈成績の発表〉

春学期科目	2019年度在籍者 (特別卒業〔9月卒業〕申請者を含む)	2019年9月5日(木)
秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年2月28日(金)
	2020年度在籍者	2020年3月13日(金)
	2020年度在籍者 (2020年度の新年次での発表)	2020年3月28日(土)

〈追試験結果の発表〉

春学期科目	2019年度在籍者 (特別卒業〔9月卒業〕申請者を含む)	2019年9月23日(月)
秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年3月13日(金)
	2020年度在籍者	

3. 成績評価調査
の申請

成績評価調査制度は、成績評価が間違っていると思われる十分な理由がある場合に、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、の確認を求めるためのものであり、成績の再考を求めるものではない。調査の申請にあたっては、「成績評価調査申請書」にその理由を詳しく記入し、下記の期間内に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

* 「成績評価調査申請書」は所属キャンパスの教務窓口で配付する。

〈成績評価調査申請書提出期間〉

2019年度 春学期科目	特別卒業〔9月卒業〕申請者	2019年9月5日(木) ～9日(月) 16:00
	2019年度在籍者 (特別卒業〔9月卒業〕申請者を除く)	2019年9月5日(木) ～10日(火) 16:00
2019年度 秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年2月28日(金) ～3月2日(月) 17:00
	2020年度在籍者 (2019年度卒業合格 発表対象者を除く)	2020年3月13日(金) ～17日(火) 17:00

申請期限は遵守すること。

入院等により、期間内に成績評価調査申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示に従うこと。

9-2 成績(社会・経営・異文化コミュニケーション学部の学生について)

1. 成績評価

授業科目の成績は以下の基準に従い、S、A、B、Cを合格、D、欠を不合格とする。

○単位を修得した科目の評価を取り消すことはできない。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入入学者に適用)

〈成績の評価〉

評価		GP 注1)	評価基準	成績証明書の表示
合格	S (100～90点)	4	当該科目の目標をほぼ完全に達成していると認められる	S
	A (89～80点)	3	当該科目の目標を十分に達成していると認められる	A
	B (79～70点)	2	当該科目の目標の基幹部分は達成しているものと認められる	B
	C (69～60点)	1	当該科目の目標のうち最低限は達成していると認められる	C
不合格	D (59～0点)	0	当該科目の目標に及ばない	F
	欠席	0	試験未受験等により評価できないもの 注4)	
履修中止 注2)	Q	—	所定の期日までに履修中止の手続きをしたもの 注3)	表示 されない

注1) 「4. GPA」の項参照

注2) 「V 履修登録 6 履修中止制度」の項参照

注3) 成績確定前に、休学したものおよび在学留学したものも含む。

注4) 筆記試験・口頭試問を欠席した場合、また試験発表掲示にレポート試験と発表されているレポート（5 レポート の項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

次のように表示される科目もある。(GPA 注1) 算出対象外)

評価	成績証明書
合格	合
不合格	H
認定	認

注1) 「4. GPA」の項参照

2. 成績の発表

成績は下記の日程で成績参照システムに発表する。電話・メールによる成績の問い合わせには一切応じない。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

〈成績の発表〉

春学期科目	2019年度在籍者 (特別卒業(9月卒業)申請者を含む)	2019年9月5日(木)
秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年2月28日(金)
	2020年度在籍者	2020年3月13日(金)
	2020年度在籍者 (2020年度の新年次での発表)	2020年3月28日(土)

〈追試験結果の発表〉

春学期科目	2019年度在籍者 (特別卒業(9月卒業)申請者を含む)	2019年9月23日(月)
秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年3月13日(金)
	2020年度在籍者	

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

3. 成績評価調査
の申請

成績評価調査制度は、成績評価が間違っていると思われる十分な理由がある場合に、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、の確認を求めるためのものであり、成績の再考を求めるものではない。調査の申請にあたっては、「成績評価調査申請書」にその理由を詳しく記入し、下記の期間内に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

*「成績評価調査申請書」は所属キャンパスの教務窓口で配付する。

〈成績評価調査申請書提出期間〉

2019年度 春学期科目	特別卒業〔9月卒業〕申請者	2019年9月5日(木) ～9日(月) 16:00
	2019年度在籍者 (特別卒業〔9月卒業〕申請者を除く)	2019年9月5日(木) ～10日(火) 16:00
2019年度 秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年2月28日(金) ～3月2日(月) 17:00
	2020年度在籍者 (2019年度卒業合格 発表対象者を除く)	2020年3月13日(金) ～17日(火) 17:00

申請期限は遵守すること。

入院等により、期間内に成績評価調査申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示に従うこと。

4. GPA

(1) GPA (Grade Point Average)

GPAとは、履修した各科目の成績評価に対してそれぞれポイント(GP)を定め、当該期間の成績の平均値を示す成績評価結果の表示方法の一つである。GPAは、不合格科目も含め、学期ごと、学年ごとの値が算出されるので、学生が自分の学修の履歴や到達度を把握することができ、学習の促進に効果的な成績評価方法である。米国をはじめ海外の多くの大学が採用しており、留学や海外の大学院への進学を希望する場合には、提出が求められるものでもある。

(2) GPA算出方法

下記計算式によりGPAを求める。

*小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で、表示する。

$$\frac{S\text{の修得単位数} \times 4 + A\text{の修得単位数} \times 3 + B\text{の修得単位数} \times 2 + C\text{の修得単位数} \times 1}{\text{GPA算出対象科目の総履修登録単位数 (D・欠を含む)}}$$

○個々の学生のGPA値に関する問い合わせには応じない。

(3) GPA算出対象

① GPA算出対象科目

成績評価が、S・A・B・C・D・欠と表示される科目とする。

② GPA算出対象外科目

◇ 履修中止を申請した科目

◇ 単位認定科目(3年次編入や留学等により単位認定され成績評価が「認」と表示される科目)

◇ 学校・社会教育講座の科目

◇ 成績評価が合・不で表示される科目

(4) GPA値の表示形式

◇ 成績証明書には、通算のGPAを表示する。

◇ 前頁「2. 成績の発表」の成績参照システムでの成績発表においては、通算のGPAの他、履修年度ごと、学期ごとのGPAを表示する。

*通年開講科目については、秋学期開講科目を含めてGPAを計算し、表示する。

1 卒業および学位に関する規定

本学の学部にて4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得した者には、学士の学位を授与する。

なお、本学の卒業年月日は、当該年度3月31日付とする。

*休学などによる学修中断の期間は、この在学年数には数えられない。詳細は、「Ⅷ 学生証・学籍・学費 2 学籍」を参照。

2 最長在学年数

本学における最長在学年数は8年とする。これを超えて在学することはできない。なお、3年次に編入学または転部・転科・転専修した者は6年、2年次に転部・転科したものは7年とする。

3 卒業合否の発表

卒業合否は2020年2月28日（金）に成績参照システムにて発表する。在学8学期目以降の4年次生は必ず本人が卒業の合否を確認すること。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

☎電話や電子メールなどでの問い合わせには一切応じない。

4 卒業の延期（希望留年）

1. 希望留年とは

卒業に必要な所定の単位を修得した後も本学に留まり、勉学を継続するため在学（留年）を希望する場合、所定の受付期間に、所定の書式（希望留年願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて留年することができる。この場合、卒業は翌年度末まで認められない。この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。許可された場合、当該年次に納入すべき所定の学費その他の納入金の全額を納入することになる。なお、特別卒業を申請し、許可された場合、9月19日付で卒業となる。特別卒業に関しては次頁「5 特別卒業」を参照。
2. 希望留年願の配付

配付期間	2019年12月2日（月）8：50～2020年3月13日（金）17：00
配付場所	教務窓口（巻頭参照）
3. 希望留年願の受付と許可者発表

受付期間	2020年2月28日（金）10：00～3月13日（金）17：00
	*受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。
	*この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。
受付場所	教務窓口（巻頭参照）
許可者発表	2020年3月18日（水）
	成績参照システムに発表する。
	発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

5 特別卒業

1. 特別卒業（9月卒業）とは

「特別卒業（9月卒業）」とは、以下の6つの条件をすべて満たした学生が、所属学部が行う卒業判定で合格した場合、年度途中の9月19日付で卒業することができる制度である。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

〈特別卒業（9月卒業）申請条件〉

1. 所定の受付期間に、所定の書式（特別卒業願）によって保証人連署をもって願い出ていること
2. 学部学生であること
3. 申請時において、在学8学期目以降の学生であること^{*1}
4. 申請時において、所属学部の卒業に必要な単位を、修得または修得見込^{*2}であること
5. 申請学期において、在学中であること^{*3}
6. 申請時において、当該年次の「学費^{*4}その他の納入金」の全額または分納1を納めていること

この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。特別卒業願を提出し特別卒業を許可された場合の「学費^{*4}その他の納入金」は、学費^{*4}その他の納入金の2分の1額とする。

※1：休学中の期間は、在学年数ならびに在学学期数に含まれない。

※2：当該年度春学期科目の修得により、所属学部の卒業に必要な単位を修得する見込がある学生。

※3：休学中・停学中でないこと。

※4：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※5：特別卒業を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が特別卒業の申請条件として納入すべき金額に不足する場合は、特別卒業願を受理しない。

2. 特別卒業願の
配付

配付期間 2019年6月1日（土）8：50～7月15日（月）17：30

配付場所 教務窓口（巻頭参照）

3. 特別卒業申請
受付と許可者
発表

受付期間 2019年7月1日（月）8：50～7月15日（月）17：30

*受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。

*この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。

受付場所 教務窓口（巻頭参照）

許可者発表 2019年9月5日（木）

成績参照システムに発表する。

発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

4. 特別卒業式

2019年9月19日（木）

時間については、許可者発表日にあわせて成績参照システムに発表する。

1 学生証

1. 学生証

学生証は、立教大学の学生であることを証明するものである。学生証は、プラスチックカードと通学定期乗車券発行控がセットになっている。請求があった場合にはいつでも提示できるよう、常に携帯すること。

2. 学生番号について

学生番号は固有の番号で、在籍中および卒業後も変わることはない。各種手続きの際に必要なもので正確に覚えること。

1	9	A	A	1	2	3	Z
入学年度		入学時の 学部・学科 (研究科・専攻)		個人番号			

3. 有効期間

学生証の有効期限は在籍期間中である。ただし次の場合は学生証（プラスチックカードと通学定期乗車券発行控）を返却しなければならない。

- (1) 卒業・修了・退学・除籍などで学籍を失ったとき。
- (2) 紛失等により再交付を受けたのち、前の学生証が見つかったとき（前の学生証を返却すること）。

4. 貸与・譲渡の禁止

学生証は学生本人を証明する大変重要なものである。学生証を他人に貸与、または譲渡することは固く禁止されており、違反した学生は本学では懲戒の対象となる。なお、複写物の貸与・譲渡についても同様の扱いとなる。

5. 紛失・破損したとき

学生証を紛失・破損した場合や劣化により顔写真が不鮮明な場合は、直ちに教務窓口（巻頭参照）へ届け出ること。

再交付（再交付手数料2,000円^{*}）は2日後（窓口閉室日を除く）になる。

※劣化により顔写真が不鮮明な場合は、現在の学生証と交換（再交付手数料は不要）。

2 学籍

1. 学籍とは

学籍とは、本学に入学することによって取得されるものであり、本学の学生（在籍者）であることを意味する。本学を卒業・修了・退学・除籍となった場合は学籍を喪失する。

2. 在籍と在籍期間

在籍とは、本学に学籍が存在することをいい、その期間を在籍期間という。休学期間は在学年数に算入されないため、在籍期間は、在学状態の期間（在学期間）に休学状態の期間（休学期間）を加えた期間となる。

3. 修業年限と最長在学年数

本学を卒業・修了するために必要な年数（大学院学生の場合は標準的な年数）のことを修業年限という。学部学生が本学を卒業するためには、4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。ただし、最長在学年数を超えて在学することはできない。修業年限と最長在学年数は以下の表のとおりである。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

	修業年限	最長在学年数 ^{※1}
学部学生	4年 ^{※2}	8年 ^{※2}
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	2年	4年
博士課程後期課程の大学院学生	3年	6年
専門職学位課程の大学院学生（法務研究科）	3年	6年

※1：休学期間は最長在学年数には算入されない。休学については「3 休学・復学」を参照すること。

※2：編入学、学内転部、転科または転専修制度を利用した学生については、教務窓口にて確認すること。

4. 在学年数と在学学期数

学部学生の修業年限である「4年以上在学して」を学期に置き換えると、「8学期以上在学して」となり、以下の表のとおりである。

大学院学生についても、所属研究科が定める学位授与の要件において必要とされる在学年数を在学学期数に置き換える場合は、学部学生に準ずる。

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期

注意 2009年度以前に休学している学生の2019年4月時点の在学学期数については、教務窓口にて確認すること。

3 休学・復学

1. 休学とは

病気その他やむを得ない事由により満2ヶ月以上就学することができないときは、所定の受付期間に、所定の書式（休学願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて当該学期間休学することができる。休学中の期間は在学年数に算入しない。なお、休学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。

兵役のために休学する場合は例外措置が適用になる場合があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。

休学期間は理由の如何を問わず、休学願を提出した時期により以下の表のとおりとする。2学期以上にわたって休学するときは、学期ごとに定められた休学願提出期間内に改めて休学願を提出することが必要である。

休学学期	休学願提出時期	休学期間
2019年度春学期	2019年2月1日（金）～5月31日（金）	2019年9月19日（木）まで
2019年度秋学期	2019年8月1日（木）～12月3日（火）	2020年3月31日（火）まで

2. 復学について

休学した者は、休学期間終了後、自動的に復学となる。なお、復学の時期は以下のとおりである。

復学時期

■2019年度春学期を休学した場合の復学日 ⇒ 2019年9月20日

■2019年度秋学期を休学した場合の復学日 ⇒ 2020年4月1日

3. 休学学期と年次の扱いについて

休学中の期間は在学年数に算入しないと同時に、在学学期数にも算入しない。ただし、2010年度以降に休学制度を利用した場合、在学学期数にかかわらず年次は学部学生の場合4年次まで自動的に進む。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次※3	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 ※2	9学期 ※1

※1・2：卒業の時期については、「4. 卒業の時期について」を参照すること。

※3：学部学生が4年次に卒業できなかった場合は、再度4年次生として在籍することとなる。

注意 2009年度以前の休学は、休学期間にかかわらず年度単位の休学なので注意すること。

2010年度以降は学期単位の休学となるが、2009年度以前に休学した年度について、遡って学期単位の休学とはみなさない。

2009年度以前に休学している学生の2019年4月時点の在学学期数については、教務窓口にて確認すること。

4. 卒業の時期について

休学した学生の卒業も、原則として3月31日付となる。ただし春学期で8学期以上在学となる場合は、特別卒業を申請し許可を受けることにより9月19日付で卒業することができる。詳細は「Ⅶ卒業に関する事項 5 特別卒業」を参照すること。

なお、休学中に卒業・特別卒業はできないので注意すること。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 ※2	9学期 ※1

※1：通常の卒業時期は秋学期の終了日である。

※2：特別卒業を申請し許可された場合の卒業時期は春学期の終了日である。

5. 利用回数の上限について

休学制度の利用回数には上限が設けられている。いかなる理由においても上限回数を超えて休学することはできない。学期の初めから休学した場合でも学期の途中から休学した場合でも、いずれも1回として計算される。なお、上限回数は通算の休学回数である。2学期間連続して休学した場合や、1学期以上の在学期間をはさみ2学期間休学した場合は、休学回数は2回となる。

	休学制度を利用 できる回数	2007年度以前に 休学制度を利用した回数
学部学生	8回	上限回数に算入しない
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	4回	
博士課程後期課程の大学院学生	6回	
専門職学位課程の大学院学生（法務研究科）	4回	

※1：学内転部、転科または転専修制度を利用し、学部、学科または専修が変更になった場合、変更前の休学回数は変更後の学部、学科または専修に引き継がれる。なお、転部、転科または転専修前の休学が2007年度以前の場合はその限りではない。

※2：本学を退学後、再入学した場合、退学前の休学回数は引き継がれる。なお、退学前の休学が2007年度以前の場合はその限りではない。

※3：本学を卒業・修了・退学した後、選抜試験に合格し、入学（※2の再入学を除く）した場合は、過去に休学した回数は引き継がれない。

注意 2008年度と2009年度に休学した学生の上限回数について

2008年度と2009年度の休学については、2010年度より休学が従来の年度単位から学期単位の制度に変更されたことにともない、年度単位の回数を学期単位の回数に換算する。2008年度または2009年度のいずれかの年度を休学した場合は2回、2008年度と2009年度の両方を休学した場合は4回となるので注意すること。

6. 休学願の配付 ・提出先について

提出時期

■2019年度春学期を休学する場合

⇒ 2019年2月1日（金）9：00～5月31日（金）17：30

■2019年度秋学期を休学する場合

⇒ 2019年8月1日（木）9：00～12月3日（火）17：30

配付・提出場所

教務窓口（巻頭参照）

7. 休学許可通知 について

休学願を提出し各学部等教授会又は各研究科委員会で許可された場合、本人及び保証人に対して休学許可通知を郵送する。休学の許可についてはこの通知で確認すること。在籍料（「9. 休学中の学費について」参照）等、休学中にかかる諸経費の支払いは、休学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

8. 就学の問い合わせ について

休学している学生に対して、「就学問い合わせ」を郵送する^{※1}。引き続き休学を希望する場合は同封の休学願を、退学を希望する場合は同封の退学願を、必ず締切期日までに提出すること。締切期日は同封の書簡にて指示する。休学願または退学願を提出しない場合は、休学期間終了後、「2. 復学について」に示す日付をもって自動的に復学となるので注意すること。

休学学期	就学問い合わせの 送付時期 ^{※2}	就学問い合わせの 回答締切	回答時の提出書類		
			休学	退学	復学
2019年度春学期	2019年7月末	2019年8月下旬	休学願	退学願	手続不要
2019年度秋学期	2020年1月末 ^{※4}	2020年2月中旬			

※1：保証人住所宛に郵送する。

※2：兵役のために休学する場合は例外措置が適用になる場合があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。

※3：自己都合で休学した学期の後、間をあげずに派遣留学又は認定校留学に出発する場合は就学問い合わせを送付しない。

※4：2020年1月末時点で当該年次に納入すべき学費及び在籍料の全額または一部が未納の場合、就学問い合わせは当該年次に納入すべき所定の学費及び在籍料の全額を納入した後に発送する。

9. 休学中の学費 について

休学願を提出し休学を許可された場合、当該休学学期間の在籍料を除く学費^{※1}を免除する。在籍料は、在籍保証、在籍管理事務の経費として所属学部（学科・専修）・研究科に係らず1学期につき60,000円を、休学した学期ごとに徴収する。なお、休学が許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が休学時に納入すべき金額に満たない場合は、これを徴収する。

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

休学学期	学費		
	春学期	秋学期	当該年次
春学期	在籍料 (60,000円)	学費の1/2 (在籍料含む) ※2	学費の1/2 (在籍料含む) + 在籍料 (60,000円)
秋学期	学費の1/2 (在籍料含む) ※2	在籍料 (60,000円)	
春学期・秋学期	在籍料 (60,000円)	在籍料 (60,000円)	在籍料 (120,000円)

※1：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※2：学費の1/2（在籍料含む）とは、1年間に支払う学費の1/2額を意味する。

※3：授業料は在籍料120,000円（半期60,000円）を含むものとする。

※4：その他の納入金は、休学を許可された場合であっても所定の金額を徴収する。

4 退学

1. 退学とは

病気その他の事由により退学しようとする場合は、所定の受付期間に、所定の書式（退学願）により、保証人連署をもって願出で、許可を受けなければならない（学生証を返却のこと）。なお、退学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。

2. 提出時期と学費の減免について

退学願を提出し退学を許可された場合、退学願を提出した時期により学費^{※1}その他の納入金の一部を次のとおり減免する。なお、退学が許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が退学願を提出した時点で退学時に納入すべき金額に不足する場合は、退学願を受理しない。

退学願提出時期	減免額
2019年5月31日（金）まで	学生健康保険互助組合費を除く全額（在籍2年目以上） ^{※2}
2019年12月3日（火）まで	学費その他の納入金の1/2（在籍料含む）
2020年3月31日（火）まで	無し ^{※3}

※1：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※2：法務研究科の大学院学生については学生健康保険互助組合費および法科大学院生教育研究賠償責任保険を除く全額（在籍2年目以上）。

※3：当該年次に納入すべき所定の学費その他の納入金の全額を納入しなければならない。

3. 退学願の配付・提出先について

配付・提出場所
教務窓口（巻頭参照）

4. 退学許可通知について

退学願を提出し各学部等教授会又は各研究科委員会で許可された場合、本人及び保証人に対して退学許可通知を郵送する。退学の許可についてはこの通知で確認すること。学費の減免に関する手続きが生じる場合は、退学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

5 希望留年（学部4年次生のみ）

希望留年については「Ⅶ卒業に関する事項 4 卒業の延期（希望留年）」を参照すること。

6 特別卒業

特別卒業（9月卒業）については「Ⅶ卒業に関する事項 5 特別卒業」を参照すること。

7 再入学

1. 再入学とは
病気その他の理由で退学した者が再入学を希望するときは、所定の書式により、保証人連署をもって願い出て、年度の始め（4月1日付）に再入学を許可されることがある。再入学を申し出る場合は、再入学する前年度の10月初日（初日が窓口閉室の場合は直後の窓口開室日）から11月末日（末日が窓口閉室の場合は直前の開室日）までに所定の書式を提出すること。再入学に必要な所定の書式及び手続の詳細については下記まで問い合わせること。
2. 再入学に関する問合せ先
教務窓口（巻頭参照）

8 学費

1. 学費通知の発送
(1) 口座振替の場合
5月中旬に学費の口座振替のお知らせを、原則保証人宛に発送する。分納1回目分を通知するので、振替日の前金融機関営業日までに資金を準備すること。また、分納1回目納付者には9月上旬^{*1}に分納2回目の口座振替のお知らせを発送する。
(2) 振込の場合
学費振替口座の登録がない場合は、振込による納入となる。5月中旬に学費の振込用紙を、原則保証人宛に発送する。分納1回目の振込用紙を同封するので、期限までに納入すること。また、分納1回目納付者には9月上旬^{*1}に分納2回目の振込用紙を発送する。
※1：春学期休学者へは発送が1ヶ月ほど遅れ、10月中旬に発送する。
2. 延納制度
経済的な事情により、定められた期限までに納入ができない場合、もしくは資金の用意が難しい場合には、事前に本学SPIRIT 学費・奨学金ページから「学費延納願」を申請すること。「学費延納願」を申請し認められた場合には、納入期限を一定の範囲で延期することができる。延納願の提出は、定められた期間のみ認められる。詳細は、各学期に財務部経理課から送付される学費案内を参照すること。
3. 滞納した場合
当該年次に学費の未納がある場合は、除籍となる。

全学共通 カリキュラム について

2006～2015年度1年次入学者に適用
(2008年度以降3年次編入学者に適用)

●全学共通カリキュラムとは

全学共通 カリキュラムとは

2006～2015年度 1 年次入学者に適用
(2008年度以降 3 年次編入学者に適用)

立教大学では、学部ごとの専門教育カリキュラムと並ぶもうひとつのカリキュラムとして、全学部の学生を対象とした「全学共通カリキュラム」(以下「全カリ」と略称)が展開されている。全カリには実に多くの科目が用意されているが、それは、全カリを学ぶことを通じて、皆さんが広い視野に立って課題を発見し解決する能力を身に付けることを期待してのことである。

専門教育の成果も、全カリを通じて他の分野の知識と総合されなければ十分に活用することはできず、逆に、専門教育をきちんと学んでいなければ、全カリの提供する科目の多様性を真の意味で生かすことはできないと考えられる。全カリと専門教育とは相補う関係にあり、立教大学の教育目的である「専門性に立つ教養人の育成」のために、各学部は、学生が卒業までに全カリ科目で修得しなければならない単位数を定めている。全カリ科目は、「総合教育科目」と「言語教育科目」とに大別される。

「総合教育科目」には、選択科目と自由科目(2012～2015年度 1 年次入学者・2014年度以降 3 年次編入学者対象)とがあり、選択科目は「立教科目群」<立教A(講義系)と立教B(立教ゼミナール)>、「領域別科目群」<領域別A(講義系)と領域別B(文献系)>、「主題別科目群」<主題別Aと主題別B>、「スポーツ実習科目群」<スポーツプログラムとスポーツスタディ>の4科目群(2012～2015年度 1 年次入学者・2014年度以降 3 年次編入学者対象)、あるいは「総合A」、「総合B」、「領域別A(講義系)」、「領域別B(文献系)」、「立教生の学び方」、「情報実習」、「スポーツ実習」の7科目群(2006～2011年度 1 年次入学者・2008～2013年度 3 年次編入学者対象)で構成される。

「立教A(講義系)」「主題別A」「主題別B」「総合A」「総合B」では、現代の学問のあり方を知り、自分と世界の関わりを主体的に考える。「主題別A」「総合A」には、問題領域にそくして5つのカテゴリが立てられている。「領域別A(講義系)」と「領域別B(文献系)」は、自分の専門以外のさまざまな学問分野に触れ、異質な思考法や問題意識を身に付けることを目的としている。「立教B(立教ゼミナール)」「立教生の学び方」では、立教大学の学生として学んでいくうえで必要な能力を養う。「スポーツ実習」では、身体の発達と健康に資する多種多様な実習科目が開かれている。「情報実習」に含まれるのは、コンピュータの操作を行っていろいろな情報処理を理解する実習科目であるが、2012年度以降、全カリでは開講されていない。「総合教育科目」では履修年次の指定がなく、各自が自分のペースで履修を進めることができる。

また、総合自由科目は、立教大学の社会的な使命や課題を強く意識した全学的な教育の取組み(プロジェクト)のために設けられている。

「言語教育科目」では、多くの人にとって既習の言語である「英語」と、「ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・日本語(外国人留学生のみ)・ロシア語(文学部のみ選択可)」から1言語を選択して、合わせて2言語を学ぶ。立教大学では言語教育を重視して、多くの授業時間をこれにあてている。全ての学生が入学後の早い段階(1年次、入学年度によっては1～2年次)に言語の必修科目を履修し、さらに希望者は、必修科目修了後に、言語自由科目(入学年度によっては自由選択科目)を学ぶことになる。全カリの言語教育科目では、生きた言語に接する機会をふんだんに用意することで、コミュニケーション能力を格段に伸ばし、異文化への深い理解をもった国際的知性を養うことを目指している。世界のグローバル化に対応する立教大学では、言語科目の継続学習を強く推奨する。英語では、春学期と秋学期に1回ずつ無料で実施される英語力伸長度測定テスト(TOEIC® L&R IP)を毎年必ず受け、自分の英語力を確認すること。ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語には、学習到達度を測るための検定試験受験補助制度がある。

次頁以降にある詳しい説明をよく読み、全カリを存分に活用すること。

全学共通カリキュラムの教育目的、学習成果、学習環境

※2012～2015年度1年次入学者適用カリキュラムについて以下の通りである。

教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学習成果（言語教育科目）

全学共通カリキュラム言語教育科目の所定単位を修了した学生は、以下のような能力を有する。

〈言語A〉英語

1. 聞く・話す・読む・書くという基本的技能に基づいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
2. 英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な異文化を理解し、対応できる。
3. 自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身に付く。

〈言語B〉ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部のみ選択可）・日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修、異文化コミュニケーション学部以外の外国人留学生のみ）から選択した1言語。

1. 聞く・話す・読む・書くという基本的技能に基づいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。
2. 当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。
3. 留学生については、大学における学習・生活に必要とされる高度な日本語運用能力を身に付け、論文を日本語で作成できる。
4. 留学生については、実社会の日本語コミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身に付ける。

学習環境（言語教育科目）

上記のような学習成果をもたらすために、以下のような学習環境を提供する。

〈言語A〉1年次必修科目

1. プレイメントテストにより、能力別クラス編制を行ない、学生のレベルに応じて学ぶ場と機会を提供する。
2. 定員8名規模の少人数制で、英語を母語とする教員（あるいは英語を母語とする教員に準じる英語運用能力を持つ教員）によるディスカッション能力獲得のためのクラスを、週1回1年間提供する。
3. 定員20名規模の少人数制で、さまざまな国際的トピックを取り上げつつ、プレゼンテーション能力を身に付けるためのクラスを、週1回1年間提供する。
4. 定員20名規模の少人数制で、アカデミック・ライティングの能力を身に付けるためのクラスを週1回半年間提供する。
5. 一人一人のレベルに合わせて学ぶことのできるネット教材を用いて、リーディング力とリスニング力を養うeラーニングのクラスを週1回半年間提供する。

〈言語A〉課外学習および自由科目

1. 自宅など教室外からもアクセスできる英語自習システム（Rikkyo English Online）を提供する。
2. 夏季休暇中の期間、アメリカへの海外文化研修プログラムを提供する。
3. 必修科目修了後、より高い運用能力を養うための言語副専攻プログラムを提供する。

〈言語B〉1年次必修科目

1. 統一シラバスによる入門から初級にわたる総合的なクラスを週2回1年間提供する。
2. 上記クラスにおいて、聞く・話す・読む・書くという4技能の基礎を習得する場と機会を提供する。
3. 上記4技能の習得過程において、当該言語圏の文化を学ぶ場と機会を提供する。
4. 日本語科目として、アカデミック・ジャパニーズを習得するクラスを週2回1年間提供する。

〈言語B〉自由科目

1. 夏季休暇中の期間、学生が履修する言語圏への海外言語文化研修プログラムを提供する。
2. 必修科目修了後、より高い運用能力を養うための言語副専攻プログラムを提供する。
3. 留学生に対しては、日本社会に関して幅広く理解し、より高度な学術的日本語運用能力を身に付けるための場と機会を提供する。

学習成果（総合教育科目）

全学共通カリキュラム総合教育科目の所定単位を修了した学生は、以下のような能力を有する。

1. 知的柔軟性：学問的知見の多様性と豊饒性とを十分に理解し、世界を複眼的に解釈する柔軟な知性を身に付ける。
2. 論理的思考力：言語や論理を介して世界を抽象的に把握する学問が、実際に肌で触れる社会や世界の具体的な問題や現実と接点を持ち、よりよき世界の構築に貢献しうることを知り、自らもそうした能力を高めようとする。
3. 視野の広さ：所属学部専門的な学問的成果と、他の諸学問の成果とを交錯させることで生まれる壮大な知的建造物を展望できる。
4. アイデンティティ：立教大学の学生としての自覚を身に付け、後輩たちが誇れるような人物となるべく、社会のさまざまな分野で創造的な活動を行う力を備える。
5. 強靱な精神：人間一人一人は根源的に孤独であるがゆえに不毛なニヒリズムに落ち込む脆弱さを有するが、孤独だからこそ他者との連帯を希求できることを理性的な営為を経て理解し、孤独に耐え得る強靱な精神の必要性を弁えている。
6. 共感能力：自らの主張を論理的かつ具体的に発信する知識と知性を備えると同時に、他者を尊重し、その悲しみや不幸を正面から受け止め、人の話に真摯に耳を傾ける優しさと感受性を有する。

学習環境（総合教育科目）

上記のような学習成果をもたらすために、以下のような学習環境を提供する。

〈選択科目〉

1. 幅広い学術的成果と方法論、およびそれを背後で支える知的営為を体感できるよう、主題別の科目編成に基づいた、多種多様な領域にわたる科目を提供する。（主題別A）
2. 異次元・異領域の知性が交錯し互いに補完し合う過程で、新たな学際的風景が広がることを実感できるように、複合的かつ多様な学問的方法論を提供する機会を付与する。（主題別B）
3. 学知が織り成し発信するメッセージが、現代社会の諸課題といかに繋がり、いかなる点で変革をもたらしうるか、逆に、学問の世界が現実に対し作用する上で、いかなる限界に拘束されうのかを、具体例に沿って理解できる科目内容を提供する。（主題別A、主題別B）
4. キリスト教の精神に裏打ちされた建学の精神に遡り、立教大学への帰属意識（アイデンティティ）を育み、その見地から、大学・宗教・人権という現代の重要なテーマに習熟できる科目を提供する。（立教A（講義系））
5. 異なる学部や学年の学生が、一つのテーマをめぐって議論を展開する中で、自分の価値観や専門的知見を相対化し、世界を新しい目で見ると喜びを体験できる科目を用意する。これは少人数のゼミ形式で行われ、広い視野と深い洞察力を涵養すると同時に、他者の意見に耳を傾けつつ、自らの意見をも論理的に組み立てて発信できる場を提供する。（立教B（立教ゼミナール））
6. 他学部が提供する入門的な講義に積極的に参加し、自学部の専門を成立させている思考法の枠組みを超え、未知の知的方法論に触れ、世界を新たな目で見ると喜びを付与する。（領域別A（講義系））
7. 他学部が扱っている領域において、古典的名著や第一級の著作とされている諸文献などを能動的に読み込んだ上で、専門家の講義を受け、未知の分野における一見無意味な文字（ないし記号）の羅列が、驚異的に濃厚な意味を纏う瞬間に立ち会い、人間の知性に内在する多様な発想法に感動する科目を提供する。（領域別B（文献系））
8. 日本の国民としての矜持を備え、同時に、国家を超越した地球の構成員として、現代の世界が抱えるさまざまな難問題の解決に果敢に挑む高い公共性、倫理性と使命感を有し、差別意識や諸々の偏見から解放された自由な人材を育てる機会を提供する。（立教A（講義系）、立教B（立教ゼミナール）、主題別A、主題別B）
9. 現代世界を覆っている多様な価値観を尊重しつつも、常に自己の世界観に微調整を加えながら、異なる価値観がせめぎ合う現代という時代の、根源的な相対性に粘り強く堪えうる知性を涵養する。（立教A（講義系）、立教B（立教ゼミナール））

ル)、領域別A(講義系)、領域別B(文献系)、主題別A、主題別B)

10. 全学生が在学中にスポーツの理論と実践を通して、自分および他人の身体に対する配慮を育み、肉体的・精神的健康に関する正しい知識を修得し、健康やスポーツをめぐる商業的ないしは通俗的な言説に潜む虚偽や欺瞞に惑わされない、透徹した観察眼を得る機会を提供する。(スポーツプログラム、スポーツスタディ)
11. 外国人留学生とともに、英語を用いて日本の歴史や文化、社会を深く掘り下げ、極めて肥沃な我が国の学問、芸術、倫理、宗教などがもたらした歴史的厚みが、自らの現在を支えていること、数え切れない祖先(死者)とともに生者が存在していること、こうした文化が普遍性を獲得しうることに、改めて思いを馳せる機会を提供する。(F科目)
12. 以上の崇高な目的を達成するため、学生の主体的な選択と履修が可能となるように、履修すべき単位の区分は、必要最低限にとどめ、細分化を避けて自由度を持たせる。

〈自由科目〉

1. 権限がなくても発揮できるリーダーシップを身に付け、チームワークを活性化する能力を持った人材を育てる機会を提供する。(グローバル・リーダーシップ・プログラム)
2. 他大学と連携しながら、グローバル問題を英語で解釈できる力を身に付ける科目を提供する。([国際協力人材]育成プログラム)
3. 学問的教育に加え、社会現場での活動との結合を目指すプロジェクト型科目を、海外(国際機関、企業など)、国内(都市近郊型、農山村型など)から、科目内容にバラエティを持って提供する。(国連ユースボランティア、陸前高田プロジェクト、海外インターンシップ、立教サービスラーニング)

全学共通カリキュラムの教育目的、学習効果、学習環境

※2010・2011年度1年次入学者適用カリキュラムについて以下の通りである。

教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた「知」を、広くかつ多様な視点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の「知」と総合させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と国際的知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学習成果（言語教育科目）

全学共通カリキュラム言語教育科目の所定単位を修了した学生は、以下のような能力を有する。

〈言語A〉英語

1. 聞く・話す・読む・書くという基本的技能に基づいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
2. 英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な異文化を理解し、対応できる。
3. 自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身に付く。

〈言語B〉ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部のみ選択可）・日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修、異文化コミュニケーション学部以外の外国人留学生のみ）から選択した1言語。

1. 聞く・話す・読む・書くという基本的技能に基づいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。
2. 当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。
3. 留学生については、大学における学習・生活に必要とされる高度な日本語運用能力を身に付け、論文を日本語で作成できる。

学習環境（言語教育科目）

上記のような学習成果をもたらすために、以下のような学習環境を提供する。

〈言語A〉1年次必修科目

1. 各学期ごとに行うコンピュータを使ったプレイスメントテストにより、能力別クラス編制を行ない、学生のレベルに応じて学ぶ場と機会を提供する。
2. 定員8名規模の少人数制で、英語を母語とする教員（あるいは英語を母語とする教員に準じる英語運用能力を持つ教員）によるディスカッション能力獲得のためのクラスを、週1回1年間提供する。
3. 定員20名規模の少人数制で、さまざまな国際的トピックを取り上げつつ、プレゼンテーション能力を身に付けるためのクラスを、週1回1年間提供する。
4. 定員20名規模の少人数制で、アカデミック・ライティングの能力を身に付けるためのクラスを週1回半年間提供する。
5. パソコンを使い、一人一人のレベルに合わせて学ぶことのできる、リーディングとリスニングを含む総合的なeラーニングのクラスを週1回半年間提供する。

〈言語A〉課外学習および自由科目

1. 自宅など教室外からもアクセスできる英語自習システム（Rikkyo English Online）を提供する。
2. 夏季休暇中の期間、アメリカへの海外文化研修プログラムを提供する。
3. 必修科目修了後、より高い運用能力を養うための言語副専攻プログラムを提供する。

〈言語B〉1年次必修科目

1. 統一シラバスによる入門から初級にわたる総合的なクラスを週2回1年間提供する。
2. 上記クラスにおいて、聞く・話す・読む・書くという4技能の基礎を習得する場と機会を提供する。
3. 上記4技能の習得過程において、当該言語圏の文化を学ぶ場と機会を提供する。
4. 日本語科目として、アカデミック・ジャパニーズを習得するクラスを週2回1年間提供する。

〈言語B〉自由科目

1. 夏季休暇および春季休暇中の期間、学生が履修する言語圏への海外言語文化研修プログラムを提供する。
2. 必修科目修了後、より高い運用能力を養うための言語副専攻プログラムを提供する。
3. 留学生に対しては、日本社会に関して幅広く理解し、より高度な学術的日本語運用能力を身に付けるための場と機会を提供する。

学習成果（総合教育科目）

全学共通カリキュラム総合教育科目の所定単位を修了した学生は、以下のような能力を有する。

1. 「知」が現実的課題とどのような繋がりをもっているのかを理解することができる。
2. 所属学部において専攻する学問領域の「知」を補う他の学問領域の「知」を修得・理解し、応用することができる。
3. 立教大学の学生であるという意識をもつことができる。

学習環境（総合教育科目）

上記のような学習成果をもたらすために、以下のような学習環境を提供する。

1. 「知」の体系の全体像を体感することができるように、主題別の科目編成に基づいた幅広い領域にわたる科目を提供する。（総合A）
2. 「知」と「知」との関係を意識しながら学習することができるように、複合的な領域に基づく科目を提供する。（総合B）
3. 「知」が現実的課題とどのような繋がりをもっているのかを理解できる科目内容を提供する。（総合A・B）
4. 異なる学部・学年の学生が、ひとつのテーマに基づき議論することによって、自らの専門領域に捉われない広い視野をもち、立場の異なる相手の意見を尊重しながら、自分の意見をしっかりと主張できる能力を高めることができる科目を提供する。（立教生の学び方）
5. 高度な情報リテラシーを修得するための科目を提供する。（情報実習） ※2012年度以降開講科目なし
6. 全学生が在学中に1度はスポーツ実習科目を履修できる機会を提供する。（スポーツ実習）
7. 立教大学の「建学の精神」であるキリスト教の精神に基づく科目や、立教大学の歴史に関する科目を提供する。（立教科目）
8. 地球および地域社会の一市民として高い公共性と倫理性を持つために、宗教、人種、性、ジェンダー、国籍、差別・偏見などの基本的人権に配慮する科目を提供する。
9. 外国人留学生とともに英語を用いて日本の歴史や文化などを研究する科目を提供する。（F科目）
10. 高度なメディアを用いた科目を提供する。（オンデマンド授業）
11. 学生の主体的な履修が可能となるように、履修すべき単位の区分の定めについては、必要最低限にとどめ、自由度を持たせる。

総合教育科目

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

●総合教育科目について

- 1 総合教育科目とは
- 2 科目群・科目名
- 3 卒業要件単位
- 4 履修上の注意
- 5 過年度に開講されていた総合教育科目

●開講科目一覧

1 総合教育科目とは

総合教育科目の特色

総合教育科目では、複合的領域を扱う科目やスポーツ等の実習科目を含む幅広い選択科目、また個性の高い「プロジェクト」のために設けられた自由科目により、学術的知見の全体像を体感し理解する。

さまざまな科目の履修により知的好奇心を自由に羽ばたかせることで、時代の荒波を乗り切るための強靱な身体と精神の獲得が可能となるよう、各分野の科目が配置されている。

立教科目群は「立教A」と「立教B」から成る。「立教A」（講義系）は、現代社会が抱える諸問題を、立教大学の建学の精神に立ち返って考え直すことが出来るよう、宗教・人権・大学の3大テーマを基軸に展開されている。「立教B」（立教ゼミナール）は少人数のゼミで、学部学年を異にする履修者が多様な意見をぶつけ合い切磋琢磨するという、他大学にあまりみられない立教独自の自己形成の場である。

領域別科目群は「領域別A」（講義系）と「領域別B」（文献系）から成る。履修者は自分の学部が提供する領域別科目を履修できない仕組みになっている。自学部の専門科目とは異質な思考法に接してもらうことで知的な足腰が丈夫になり、専門の勉強にもかえってプラスになるはずである。「領域別A」では各専門領域の基礎を体系的に学ぶ。「領域別B」ではそれぞれの領域の古典や重要文献を直接読み、それについて専門家と一対一で話すことで、専門外の履修者も、大人数の授業や独学では得られない、その分野の深い理解に到達する。

主題別科目群は「主題別A」と「主題別B」から成る。「主題別A」は、「人間の探究」「社会への視点」「芸術・文化への招待」「心身への着目」「自然の理解」の5つのカテゴリに分かれるが、専門教育では容易に提供できない自由な発想の授業が目指されており、総合教育科目のいわばメインディッシュである。「主題別B」は、専門分野を異にする複数の教員がそれぞれ独自のアプローチで特定のテーマを多角的に分析する、これも立教大学独自のユニークな授業である。さまざまな知見が交錯する中で学生も議論に参加し頭を鍛える。

スポーツ実習科目群は知性の土台となる自己の身体を鍛えるための科目群である。「スポーツプログラム」は各競技の基礎技能を修得することで体力と健康を維持向上させる。「スポーツスタディ」は実技と理論を統合した授業で、座学も含むので自己の身体を対象に知的訓練も受けられる。

総合教育科目の自由科目は、上記のさまざまな全カリ総合科目群とは別個に、個性の高い「プロジェクト」のために設けられている。従って全カリ総合の卒業要件単位には算入されない。今年度は「グローバル・リーダーシップ・プログラム」、「『国際協力人材』育成プログラム」、「国連ユースボランティア」、「陸前高田プロジェクト」、「海外インターンシッププログラム」および「立教サービスラーニング」が展開される。

2 科目群・科目名

【注意】

入学した年度によって、カリキュラムや履修規定が大きく異なる。各自が適用されるカリキュラムや履修規定を確認のうえ、十分に注意しながら履修して欲しい。

1. 選択科目

立教科目群

この科目群は本学で学ぶ意味を追究しながら、立教生としてのアイデンティティと教養の核心を掴むことを目標としている。

立教A (講義系)

科目群
仏教の世界 日本の宗教 ジェンダーとキリスト教 イスラームの世界 「宗教」とは何か 人権思想の根源 手話と人権を考える 点字から考える人権 近代日本社会と人権 大学と現代社会 オーダーメイド医療最前線 大学と科学技術 立教大学の歴史 University Education in the World University in Modern Society

立教大学の建学理念をたずね、私学として今日まで果たしてきた社会的役割を辿りつつ、今後も社会のなかで多様な人々と繋がりながら歩んでいくための課題を、担当教員と履修学生がともに探究していく。

「宗教」「人権」「大学」の3つのテーマから構成され、「聖」「俗」の関係と派生する諸問題、人権をめぐる諸課題、高等教育のあり方を対象化し、熟考するような内容の講義科目を配置している。

立教大学らしいリベラルアーツとして、単に「人間性」「社会性」「倫理性」に関わる理念、とりわけ「他者との共生」の重要性を認識することにとどまらず、これらの探究に慣れ親しむ力をも涵養することになるだろう。

ぜひ積極的、主体的に受講し、立教大学で学ぶ足場を築いて欲しい。

立教B (立教ゼミナール)

科目群
立教ゼミナール

「立教B」(立教ゼミナール)は、学生同士で、また教員と積極的に議論できるように少人数で授業が行われる。

全カリ科目であるため、異なる学部・学年の履修者たちが、一つのテーマをめぐって「議論する」ことが可能である。この特徴を生かし、自らの専門領域にとらわれない広い視野を持ち、立場の異なる相手を尊重しながら、自らの意見を論理的に主張できる能力を高めることを狙いとした実践的科目である。

全て専任教員が担当し、立教大学ならではの多彩なテーマが用意されている。

この科目を通して、あらゆる分野の学生に必須の「聞く」「調べる」「考える」「書く」「発表する」といった基本的能力を涵養するとともに、自らの興味・関心を掘り下げていく手法を学ぶことができる。

展開される科目群の中から、自分の興味に沿った科目を選択し、「立教大学で、〇〇のテーマについて深く掘り下げました」と言えるような積極的な気持ちで履修して欲しい。

領域別科目群

この科目群は各学部から提供される科目の集合であり、それぞれの学部の特徴を持っている。学生が、4年間で自分の専門以外のさまざまな学問分野に触れ、異質な思考法や問題意識を身に付けることを目的としている。なお、各科目の提供元である学部には所属している学生は履修できない(たとえば理学部提供科目なら、理学部学生は履修できない)。

領域別A (講義系)

科目群
キリスト教への招待 文学への招待 哲学への招待 歴史学への招待 地域研究への招待 教育学への招待 社会学への招待 1 法への招待 経営学入門 観光学への招待 コミュニティと福祉 いのちの尊厳と福祉 身体学への招待

提供学部以外の学生も共有すべき課題等について、その学部の基本的な学問内容を支柱にして行われる講義形式の科目群である。履修に際しては、その分野の専門用語についての知識や数式を必要とは特にしない。履修する学生には自分の専門領域を超えた知的好奇心をもって臨むことが求められる。

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

領域別B
(文献系)

科目群
2016年度以降開講科目なし

各々の学問領域に於ける古典や重要文献を読む授業である（原則として日本語か英語で行われる）。専門以外の一流の文献を主体的に読み込むことで、古今東西の思想や他分野の思考に触れ、知的視野を広げることを目的としている。

主題別科目群

主題別科目群は、「専門性に立つ教養人の育成」という立教大学の教育目的に応えるための基礎となる科目群である。これらの科目は、主題別Aと主題別Bに分かれる。主題別Aでは、具体的な主題について、その分野の研究者が、自分の専門を生かしつつ分かりやすく講義する。主題別Bでは、専門の異なる教員が協力しつつ学問の枠を超えたダイナミックな授業を行う。

主題別A

主題別Aは、広い範囲の学問分野の全体像を俯瞰できるように、多様な科目群で構成されている。これらにより、専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養、総合的な判断力を養うことを目的としている。

また、主題別Aでは、各カテゴリの科目紹介にあるような科目が開講されるが、次のような特色のある科目が開講される。（全カリの履修要項には、これらの科目名欄に、科目の特色を示す「F、D」などの目印が記されているので、履修計画を立てる際には大いに活用してほしい。）

📖▶外国語による日本研究科目（F科目）

これらの科目は、日本の歴史、政治、社会、文化、文学などを演習形式で扱うもので、主題別Aのカテゴリに配分して開講され、通常の全カリ総合教育科目と同様に履修することができる。授業を履修するにあたって必要とされる英語能力については、各科目のシラバスを確認すること。これらの科目は、特別外国人学生などの留学生と正規学生が、英語を用いてともに議論し、ともに学ぶ点に特徴がある。異文化間のコミュニケーションや日本研究に興味を持つ学生はもちろん、留学を計画している学生にとっても有用な科目といえるだろう。

外国語による日本研究科目(F科目)

上級（TOEIC® 700点程度以上：演習）

Modern Japanese History 1 Modern Japanese History 2 Japanese Politics and Economy 1
Japanese Politics and Economy 2 Japanese Relations in Asia 1 Japanese Relations in Asia 2
Japanese Society 1 Japanese Society 2 Tokyo Studies Japanese Culture 1
Japanese Culture 2 Saitama Studies

中級（TOEIC® 550点程度以上：講義）

Japanese Ethnology Japanese Arts A Japanese Arts B
Japanese Mind Science Studies

📖▶オンデマンド授業科目（D科目）

オンデマンド授業科目とは、インターネット上で履修することが可能な授業のことである。履修者は、定められた期間内であれば自分の好きな時に、自宅や大学のパソコンから授業を受けることができる。

履修者は、講義を受講し、さらに、授業のために用意された電子掲示板システム（BBS）を使って担当教員と質疑応答やディスカッションを行う。

オンデマンド授業科目(D科目)

社会調査入門 社会調査の技法	データ分析入門 データの科学	多変量解析入門 Introduction to Statistics 1 Introduction to Statistics 2
-------------------	-------------------	--

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入入学者に適用)

カテゴリ
A-1 人間の探究

科目群
聖書と人間 現代社会と人間 論理的思考法 教育と人間 多文化の世界 文化を生きる 現代社会における言葉のもつ意味 アジアの文化とことば ヨーロッパの文化とことば ラテンアメリカの文化とことば ロシア・東欧の文化とことば 中東の文化とことば アフリカの文化とことば イタリアの文化とことば ドイツ語圏の文化 フランス語圏の文化 スペイン語圏の文化 中国語圏の文化 朝鮮語圏の文化 日本文化と精神性 Japanese Ethnology World History

このカテゴリでは、思想・文化という側面から私たち人間に迫っていく。書かれたものを読み、考えるという方法が、その中心に位置づけられるだろう。

立教大学の建学の精神を支えるキリスト教については、聖書を学ぶことによって、その人間観や思想に迫る。哲学や思想の古典も、このカテゴリで学ぶ。史料を読むことで築かれてきた歴史学も、このカテゴリで学ぶ。

しかし、古いことばかりにこだわるわけではなく、現代に息づく文化を扱う科目や、メディア論も配されているので、温故知新の精神を養うと同時に、先端的な知への好奇心をも満足させることができるだろう。

多様な文化を発見し、互いに認め合い、話し合い、思索を深めて行くという、能動的な営みが各科目で展開される。これらの科目を広く履修することで、現代人に求められる「教養」とは何かを問い、それ

をしっかりと自分のものにして欲しい。

カテゴリ
A-2 社会への視点

科目群
入門・経済教室 統計情報で社会・経済を診断する 景気・格差問題と統計情報 政治と社会 グローバル社会における法と政治 企業と社会 現代社会と環境 情報と倫理 メディアと人間 文化と社会 シティズンシップを考える パレスチナ問題の歴史と現在 市民活動の組織とマネジメント 世界の中のロシア ドイツ語圏の社会 フランス語圏の社会 スペイン語圏の社会 中国語圏の社会 朝鮮語圏の社会 国際情勢を読み解く
社会調査入門 社会調査の技法 データ分析入門 データの科学 多変量解析入門 デモクラシーとリベラルアーツ Introduction to Statistics 1 Introduction to Statistics 2 スポーツとメディア 世界経済と日本 日本国憲法 日本の「多文化」政策を問い直す Modern Japanese History 1 Modern Japanese History 2 Japanese Politics and Economy 1 Japanese Politics and Economy 2 Japanese Relations in Asia 1 Japanese Relations in Asia 2 Japanese Society 1 Japanese Society 2 Tokyo Studies Saitama Studies Political Sociology Economic Thought

このカテゴリでは、社会という側面から人間の営みに迫っていく。他者との関わり方を、政治学・法学・経済学・経営学・社会学などが築いてきた方法を手掛かりにして分析することが、その軸となる。いま、政治や経済、そして日常生活さえも、それぞれが複雑な問題を抱え、その姿を見極めることが難しくなっている。このカテゴリで学ぶ「社会への視点」とは、「私たちがどこから来たのか」という過去に学びながら、さらに「これから私たちがどこへ向かおうとしているのか」という、未来にまで向けた視野のなかで物事を見ていこうとするものである。情報と倫理の問題や、平和・人権・環境など、私たちに切実な問

題についても、このカテゴリで多くを学ぶことができる。これらの科目を履修することで、社会を一つの視点だけでなく、さまざまな角度から見つめ直していく道が開かれるはずである。

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

カテゴリ
A-3 芸術・文化への招待

科目群
表象文化
美術の歴史
美術と社会
音楽の歴史
音楽と社会
美術論演習
音楽論演習
キリスト教美術
キリスト教音楽
都市と芸術
建築と文化
映像と社会
言葉と身体
身体表現と哲学
ドイツ語圏の文学
フランス語圏の文学
スペイン語圏の文学
中国語圏の文学
朝鮮語圏の文学
日本の美術
日本の音楽
Japanese Culture 1
Japanese Culture 2
Japanese Arts A
Japanese Arts B
Culture and Fine Arts
Literature and Society

このカテゴリでは、人間が生み出してきた文学・美術・音楽を対象として、作品の作り手と受け手との緊張をはらんだ関係に迫る。芸術・文学の作品に、理性と感性とを総動員して向かい合うことが、その特色である。

このカテゴリに属する科目は、創作や実演を目的とするものではない。作品が生成される歴史的背景や、それぞれの芸術分野における理論を理解し、一人一人が考察を深めることを求められる。これらの作業は、創作など実践を志す学生には、幅広い土台を提供するはずである。また、映画や演劇などについても、「表象文化」を配置し、学びの場を用意した。これらの科目を深く学ぶことで、創造と鑑賞の道筋を理解することが可能となるだろう。

カテゴリ
A-4 心身への着目

科目群
認知・行動・身体
心の科学
パーソナリティの心理
対人関係の心理
心の健康
ストレスマネジメント
癒しの科学
スポーツの科学
健康の科学
栄養の科学
アンチエイジングの科学
スポーツと社会
スポーツと文化
レジャー・レクリエーションと現代社会
人間と看護
舞踊論
脳と心
Japanese Mind
Health and Wellness

このカテゴリでは、相互に影響しあっている「心」と「身体」の問題を幅広くとらえ、心理学、メディア、身体論、健康科学、スポーツ科学の分野から理解を深めていく。

現代社会の生活は、さまざまなストレスにさらされており、心身の健康が日常生活をよりよく生きるための重要な要因となっている。例えば、健全な身体を有しているものでも、心的症状に悩まされることもあるが、規則正しい生活と運動によって自律神経のバランスが取れると、その症状が治ったりする場合がある。心と身体とは、このように密接な関わりを持っている。

心身にかかわるテーマに、心理学の分野では「認知」、「行動」、「発達」、「心の健康」などの側面から、健康・スポーツ科学の分野では「医学」、「社会学」、「運動学」、「栄養学」などの側面から迫るとともに、

身体論の視点も取り上げる。このように、積極的に心身の問題を掘り下げて理解することを目的としている。

カテゴリ
A-5 自然の理解

科目群
数学の世界
物質の科学1
物質の科学2
宇宙の科学
生命の科学
化学と自然
化学と社会
行動の科学
生命の歩み
人類の進化
地球の理解
情報科学A
情報科学B
自然環境の保全
生物の多様性
地球環境の未来
自然と人間の共生
アウトドアの知恵に学ぶ
宇宙から地球の未来を考える
Science Studies
Nature of the Earth

このカテゴリでは、人類が今までの歴史の中で得てきた科学的な知識とその基盤、およびそれらが現代の私たちにどのように密接に結びついているのかを考える。

人間は、人類としてこの世界に現れるとすぐに自然を認識し、「我々の住む世界はどのようなになっているのか」、「世界を作っている基本的なものは何か」、「世界を支配する法則はどのようなものか」、「なぜ、この世界は多様な生命体で満たされているのか」などの素朴な疑問を持ち続けてきた。そして、長い歴史の中で「自然哲学」を発展させ、これらの疑問に「科学」として答えようと現在でも努力し続けている。自然界で起こっている現象の理解は日々進展し、私たちの世界観は大きく変わりつつある。

それを踏まえてこのカテゴリでは「自然の法則を記述する数学」やその「数学自身の語る世界」、世界とは何かという問いに答えて導き出された「宇宙の構造」やその構造を支配する「物理の基本法則」、「身近な物質の化学構造と反応」や「物質変換の基本原理解」、生命現象の中核をなす「遺伝子と生命」および「生命の歴史」、さらには生物の「行動メカニズムの科学」と「生命の多様性」などについて学ぶ。

現代における「自然の理解」の必要性は、理系の仕事に携わる人だけにとどまるものではない。人類

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入入学者に適用)

が作り出してきたさまざまな物質や技術は毎日の生活に大きな影響を与えており、私たちはこれらの事柄に対して無知ではいられなくなっている。その意味で、私たちにとって自然の理解はますます重要になってきているといえる。

また、情報科学に関わる分野も、このカテゴリで取り上げる。「情報科学A」、「情報科学B」では、コンピュータの機能と利用法、ハードウェアとソフトウェア、データや情報の表現・処理、インターネット、社会の中のコンピュータの役割などの講義が行われる。「情報科学入門」では、大学生として学ぶ情報科学に関心を寄せてもらうことを狙いとした講義が行われる。

主題別B

科目群
睡眠文化論 哲学対話 in RIKKYO 生・身体・テクノロジー・神 より良き隣人へ：日本植民地研究の最前線 文化の居場所を考える 現在形の文化活動から考えるジェンダー論 大衆演劇の世界 歌と私と時代と ボランティア論 翻訳・通訳と現代社会 グローバルシティ・ソウルを読み解く 音楽の生まれる場 こっち、あっちの人類学 立教OBOGの「社長の履歴書」 パトス・ロゴス・エトス 市民が動く、社会が変わる 演芸の世界 「観光立国」と日本の成長・地方創生 観光学からみた東京 ストレスから考える私たちの健康 Nativeから学ぶ海外の文化や社会問題

特定の専門的な知見だけでは十分に分析できない主題が世の中には多数ある。主題別Bは複数の教員の協力により、そうした主題に「学際的」に迫ろうとするものである。専門の異なる教員、ゲスト・スピーカーが緊密に連携し、特定のテーマについてさまざまな視角から見解を披瀝し議論を戦わせる。そうして作り出される知的な渦の中に巻き込まれた履修者は、入学以来の専門的な勉強で固まりかかっていた脳味噌が適度にシェイクされ、頭の底に沈殿していたさまざまな関心が呼び起こされて、才気あふれる探究者へと自己を形成していく。そうしたダイナミックで多方向的な教育研究の場を創り出そうというのが主題別Bの狙いである。規模の割には多様な分野のスタッフを擁し、学部間の垣根も低い立教大学だからこそ可能となるこうした知的な融合実験は、学問的にも、また人材育成の面でもこれまでに多大な成果を上げ、内外の注目を集めてきた。この仕組みの中では教員、ゲスト・スピーカーは「舵取り役」に過ぎず、専門研究ほどの知識は有さないものの、より頭が柔軟で、時代が抱える問題にも敏感な履修生こそが、知的探求の船旅の真の「漕ぎ手」である。

スポーツ実習科目群

スポーツ実習科目群の目的は、以下の2点に要約される。

- 1) 健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、スポーツの実践を通じて健康づくり、運動不足の解消、体力の向上を目指す。
- 2) スポーツは言語や国境を越えて人類が今日まで築き上げた文化であり、国際人の基礎教養として、あるいは国際交流の手段として、その役割は大きい。スポーツの文化的側面を理解し、同時にその実践を通じて現代人に必要とされるバランスのとれた理性や的確な判断力を養成する。

スポーツプログラム

科目名
スポーツプログラム1 スポーツプログラム2 スポーツプログラム3 スポーツプログラム4

「スポーツプログラム1～4」は1単位科目で、スポーツ実践を通して、それぞれの種目の運動技術を高め、その種目を楽しむ素養を身に付ける。また、スポーツの歴史的、文化的背景について学ぶ。実技中心の科目であるが、「運動と栄養」、「トレーニング方法」など、健康の維持増進に関連した講義も併せて行うものとする。加えて、スポーツパーソンに代表されるルールやマナーを守ること、コミュニケーションづくりについても学ぶ。スポーツプログラム4は、集中科目である。

スポーツスタディ

科目名
スポーツスタディ1 スポーツスタディ2 スポーツスタディ3 スポーツスタディ4 スポーツスタディe

「スポーツスタディ1～4」は2単位科目で、スポーツ実践を通して、それぞれの種目の運動技術を高め、その種目を楽しむ素養を身に付ける。また、スポーツの歴史的、文化的背景について学ぶ。スポーツスタディは全体の3分の1程度の時間を使い、それぞれのスポーツについての講義（「スポーツ文化」、「スポーツ栄養学」、「トレーニングと健康」など）を行う。また、各担当者から課されたレポートを提出することによって、スポーツ文化、スポーツ科学等に対する理解を深め、同時に健康の維持・増進のための方法論を学ぶ。スポーツスタディ4は、集中科目である。「スポーツスタディe」は、オンデマンド科目である。

2. 自由科目

総合自由科目

総合教育科目の自由科目は、立教大学の社会的な使命や課題を強く意識した全学的な教育の取組み（プロジェクト）のために設けられている科目で、全カリ総合教育科目の中で最も柔軟性に富んだ部分である。全カリ総合科目は立教大学に在学する全学部・全学年の学生が自由に履修できることが原則だが、総合自由科目については、履修できる学部・学年等が制限されたり、先修規定があったり、語学能力等で参加が制限されたりすることがある。個性性が高いので、単位を修得しても全カリ総合の卒業要件（20単位内）には算入されない（修得した単位は、各学部・学科・専修の規定の範囲内で自由科目区分の卒業要件単位として認められる）。

具体的には、6つのプログラムが展開される。

グローバル・リーダーシップ・プログラム

科目名
GL101 (PBLによるリーダーシップ入門)
GL102 (他者のリーダーシップ開発)
GL111 (Introduction to Leadership)
GL201 (質問を活用したリーダーシップ開発)
GL202 (Leadership through Inquiry)
GL301 (グローバル・リーダー海外実践)
GL302 (Leadership in Changing World)

「グローバル・リーダーシップ・プログラム」は、権限がなくとも発揮できるリーダーシップを少人数のプロジェクト型学習等を通じて段階的に身に付けるプログラムである。GL111およびGL202, GL301, GL302は英語で開講し、母国語でない環境での経験と講義を通して、グローバルリーダーになるためのリーダーシップスキルと知識を身に

付けることを目指す。

「学びの精神」科目として開講しているGL101では、企業（クライアント）から与えられた課題に少人数のチームで取り組み、自分の持ち味を生かしたリーダーシップのあり方に気付く。

「多彩な学び」科目として開講しているGL111は、GL101の英語版であり、英語を用いた環境における自分のリーダーシップに関する気付きとその発揮方法について学ぶ。GL102では、他者のリーダーシップ開発について学ぶ。GL201では、質問力を通してリーダーシップの発揮方法を身に付ける。GL202以降は、英語でのプログラムとなり、GL101, GL201またはGL111等で身につけたリーダーシップを土台として、グローバルに活躍するために必要なリーダーシップを英語で強化する。

「国際協力人材」育成プログラム

科目名
グローバル・イシュー各論
グローバル共通教養総論
ソリューション・アプローチA (国際人権系)
ソリューション・アプローチB (開発経済系)
ソリューション・アプローチC (人道支援系)
ソリューション・アプローチD (国際システム系)
ソリューション・アプローチE (模擬国連・総合演習系)
ソリューション・アプローチF (強制移転・移住系)
ソリューション・アプローチG (紛争と平和)
国際協力リテラシー
アクティブ・リサーチ1
アクティブ・リサーチ2

立教大学・明治大学・国際大学の三大学により運営・開講される「国際協力人材」の育成を目指す、全て英語による科目を展開するプログラムである。

立教大学、明治大学で開講する各科目は、両校の学生が自由に履修可能であり、授業内でのグループワークやディスカッションにて、両大学の学生が活発に交流することができる。

国際協力に関わる多様なゲスト・スピーカーの招聘を中心とした科目、フィールドワーク型・集中合宿型の科目等、多様な科目を体系的に設置することにより、実践的な英語力と、「国際協力人材」としてのマインドを醸成することを目指す。

国連ユースボランティアプログラム

科目名
国連ユースボランティア

国連ボランティア計画（UN Volunteers）が大学と連携し、学生を開発途上国へボランティアとして約5ヶ月間派遣するプログラムである。

陸前高田プロジェクト

科目名
陸前高田プロジェクト

被災地の現状を広く知り、復興における課題を共有していくことを目的とし、本学の学部生および大学院生、特別外国人学生を対象とした、全て英語で開講される課題基盤型学習（PBL）プログラムである。事前研修・現地研修（4泊5日）、事後研修の3部構成である。また、スタンフォード大学、香港大学、シンガポール国立大学との協働プログラムである。

海外インターンシッププログラム

科目名
海外インターンシップ1
海外インターンシップ2

海外における就業体験を通じて、企業を知り、社会の仕組みを理解し、働くイメージを持つとともに、国際的に活躍できるグローバル人材としての能力を高めることを目的とするプログラムである。

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入入学者に適用)

立教サービス
ラーニング

科目名
RSL-1
RSL-1-b
RSL-2
RSL-3
RSL-4

「立教サービスラーニング」は、社会の現場での活動と、教室における学問的学習との結合を目指す実践型の科目群である。「RSL-1」「RSL-1-b」「RSL-2」「RSL-3」および「RSL-4」の実践系科目については、一定期間にわたり、専門機関（NPO、行政、企業）の指導の下、さまざまな分野の社会活動等を行い、あわせて理論的学習等（事前・事後学習）を行うことで単位が付与される。履修登録方法（抽選登録科目）は、全学共通科目の抽選登録方法による。また各科目の詳細・注意事項は、「シラバス」および「立教サービスラーニングガイド」を必ず確認すること。

3 卒業要件単位

総合教育科目の卒業要件単位は以下の表の通りである。

4 履修上の注意 を参照のうえ、間違いのないよう履修すること。

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数
選択科目	20	総合教育科目 立教科目群 立教A（講義系） 立教B（立教ゼミナール）	6
		総合教育科目 領域別科目群 領域別A（講義系） 領域別B（文献系）	
		総合教育科目 主題別科目群 主題別A（1, 2, 3, 4, 5） 主題別B	14
		総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ	

【注意】 法学部の学生は、主題別A『2 社会への視点』の「政治と社会」、「現代社会と法」（2015年度まで開講）、「日本国憲法」、「司法の現在」（2015年度まで開講）を履修しても卒業要件単位とはならない。

「領域別A」「領域別B」のうち、開講科目一覧の備考欄に「**学部所属学生履修不可」とある科目については、「**学部」に所属する学生は履修できない。

履修上の注意に従い、全カリの卒業要件単位数を超えて修得した単位（全カリ言語自由科目、総合自由科目で修得した単位および全カリの総合教育科目の選択科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位）については、各学部（学科・専修）の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。

4 履修上の注意

1. 履修登録 上限単位数

全学年において、「立教科目群」「領域別科目群」「主題別科目群」「スポーツ実習科目群」を全て合計して春・秋学期それぞれ6単位以内とする（全カリ言語自由科目および総合自由科目は含まない）。なお、履修登録上限単位数には、履修登録した科目で、単位を修得できなかった科目も含まれる。
また、4年次生は、秋学期の授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。

2. 同一科目の 重複履修

「立教科目群」「領域別科目群」「主題別科目群」「スポーツ実習科目群」「総合自由科目」の全ての科目に関し、同一科目は、学期を変えれば重複履修することはできる。その場合には最初に修得した1科目のみが卒業要件単位として認められ、2回目以降に修得した単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。なお、成績証明書には修得した（GPAを算出している学部は不合格科目を含む）すべての科目の成績が記載される。

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

同一科目とは、科目の名称（番号までを含む）、単位数が同一の科目である。したがって、担当者が同じでも科目の名称が一部でも異なる場合には別科目となる。逆に、担当者、タイトルや授業の内容が異なっても、科目の名称が同じであれば、同一科目であり、2度以上履修した場合には、最初に修得した1科目のみが卒業要件単位となる。

(例) 「グローバル社会における法と政治」〈現代中国の政治を知る〉(倉田 2単位) } 同一科目
「グローバル社会における法と政治」〈法の世界を学ぶ〉(高橋 2単位) }
「スポーツスタディ4」〈ネイチャーキャンプ〉(担当者：濁川 2単位) } 同一科目
「スポーツスタディ4」〈スキーA〉(担当者：濁川 2単位) }
「物質の科学1」〈身近な物理〉(小泉 2単位) } 別科目 (数字が異なるため)
「物質の科学2」〈サイズ概念に基づく物質の性質の統一的理解〉(枝元 2単位) }

3. 卒業要件とは
ならない科目

法学部の学生は、主題別A『2 社会への視点』の「政治と社会」「現代社会と法（2015年度まで開講）」「日本国憲法」「司法の現在（2015年度まで開講）」を履修しても卒業要件単位とはならないので注意すること。

4. オンデマンド
科目履修につ
いて

履修資格を有するのは休学・在学留学中の学生を除いた学部学生となる。なお履修に際して注意事項があるので、申込前に<http://spirit.rikkyo.ac.jp/odc/>で必ず確認をすること。

各学期の定められた履修登録期間にオンデマンド科目を登録申請し、履修を許可された者は、下記の期間中にBlackboardにログインをして「コース」画面から「レクチャー」をクリックし、具体的な授業の受講方法について必ずその内容を確認すること。

春学期：2019年4月10日（水）から2019年4月30日（火）まで

秋学期：2019年9月20日（金）から2019年9月30日（月）まで

※オンデマンド受講にあたっての操作方法是次のURL (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/odc/>)
にて「オンデマンド受講生用マニュアル」を参照すること。

※一部科目では学期中のスクーリングや期末の定期試験など、Web上での学習以外に大学へ直接出向く必要が生じる場合があるので各科目のシラバスで確認すること。

5. グローバル・
リーダーシッ
プ・プログラ
ムの履修につ
いて

履修資格

学部学生対象。各科目の履修資格は以下の通りである。

◆「GL102」「GL201」：「GL101（経営学部の学生は「リーダーシップ入門（BL0）」）」の単位を修得済みであること。

※経営学部の学生については、「GL101」の履修は不可。

◆「GL111」：下記の申請基準相当の語学（英語）力を有すること。

- ・TOEIC®（またはTOEIC® IP）700点程度
- ・TOEFL® iBT 75点程度 TOEFL® PBT 540点程度
- ・IELTS 6.0程度

◆「GL202」：「GL111」または「GL201」の単位を修得済みであり、かつ下記の申請基準を満たす語学（英語）力を有すること。

- ・TOEIC®（またはTOEIC® IP）700点以上
- ・TOEFL® iBT 75点以上、TOEFL® PBT 540点以上
- ・IELTS 6.0以上

◆「GL302」：「GL202」の単位を修得済みまたは履修中であること。

履修登録方法

科目の登録は「その他登録」とする。全ての科目の履修にあたって選考を行う。選考方法とスケジュールは以下のとおり。

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

春学期開講「GL101」履修登録

上記科目の履修を希望する者は、Rikkyo V-CampusのBlackboard (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/blackboard/>) にログインし、年度別コース一覧の「その他」より「GL101 (履修申請用)」をクリックのうえ、そこに設定された設問に対応すること。設問の回答をもって、履修を希望したものとする。
申請期間：2019年4月2日(火) 10:00～2019年4月5日(金) 18:00

※申請期間が短いので注意すること。

選考の結果、履修を許可された者は、2019年4月9日(火) 21:00より履修登録システムに「GL101」の情報が表示され、登録確認が可能となる。

春学期開講「GL202」履修登録

上記科目の履修を希望する者は、Rikkyo V-campusのBlackboard (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/blackboard/>) にログインし、年度別コース一覧の「その他」より「GL202 (履修申請用)」をクリックのうえ、そこに設定された設問と提出物に対応すること。設問の回答と提出物の提出をもって、履修を希望したものとする。

申請期間 2019年3月19日(火) 10:00～2019年3月25日(月) 17:00

選考の結果、履修を許可された者は、2019年4月1日(月) 10:00に全学共通カリキュラム掲示板に学生番号を掲示する。履修登録システムにおいても登録確認が可能となる。

秋学期開講「GL102」「GL111」「GL201」履修登録

上記科目の履修を希望する者は、Rikkyo V-CampusのBlackboard (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/blackboard/>) にログインし、年度別コース一覧の「その他」より「GL102 (履修申請用)」「GL111 (履修申請用)」「GL201 (履修申請用)」をクリックのうえ、そこに設定された設問や提出物に対応すること。設問の回答や提出物の提出をもって、履修を希望したものとする。

申請期間：2019年9月2日(月) 10:00～2019年9月6日(金) 18:00

選考の結果、履修を許可された者は、2019年9月11日(水) 11:00より履修登録システムに「GL102」「GL111」「GL201」の情報が表示され、登録確認が可能となる。

春学期期間外科目および秋学期期間外科目「GL301」履修登録

グローバル教育センターが「GL301」として認定する学外プログラム(8～9月/2～3月に実施)への参加が必要となる。指定プログラムより参加を希望するプログラムを選択し、各自申込手続きを行うこと。プログラムごとの選考を経て参加が決定したのち、下記要領に従い本科目の履修申請書を提出すること。書類審査の上履修者を決定する。

〈春学期〉

説明会：2019年4月中旬～下旬 ※グローバル教育センターHP等で案内予定

申請期間：2019年5月13日(月)～2019年6月6日(木)

申請書配付・提出場所：グローバル教育センター／新座キャンパス国際センター

履修許可者発表：2019年6月14日(金) 10:00 (全学共通カリキュラム掲示板に掲示)

〈秋学期〉

説明会：2019年10月上旬頃 ※グローバル教育センターHP等で案内予定

申請期間：2019年10月21日(月)～2019年11月21日(木)

申請書配付・提出場所：グローバル教育センター／新座キャンパス国際センター

履修許可者発表：2019年11月29日(金) 10:00 (全学共通カリキュラム掲示板に掲示)

「GL301」は春／秋学期期間外科目として通常の履修登録期間終了後に履修登録を行う科目であり、全学共通カリキュラム科目総合自由科目として各学部の定める年間履修登録上限に含まれる。詳細の考え方については、「9.海外インターンシップ・プログラムについて」の「履修登録上限」と同様であるため、必ず確認し履修計画を立てる際には充分に注意すること。

指定プログラム等詳細については、春学期は4～5月、秋学期は9～10月にグローバル教育センタ

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

ーHPで公開し説明会を行う。詳細は募集要項を確認すること。

注意事項

- ①選考の結果、履修が許可されないことがある。
- ②選考のため、面接を行うことがある。その際は科目担当者より直接連絡する。
- ③履修を希望する場合、申請した曜日・時限に他の科目を履修登録システム上で登録しないこと。1次抽選・2次抽選・科目コード登録で他の科目をシステム上で履修登録していた場合、その科目の履修登録が優先されてしまうので注意すること。また、申請時にはシステムの履修登録上限単位数に含まれていないため、十分注意すること。
- ④「GL101」など同一曜日・時限に複数クラスを開講している科目では、任意のクラスに割り当てられる。選考の結果、どのクラスに配当されるか必ず確認すること。
- ⑤履修を許可された者の履修登録は大学が行うので、履修登録状況画面で正しく登録されているか必ず確認すること。
- ⑥修得した単位は、各学部・学科・専修の規定の範囲内で自由科目区分の卒業要件単位として認められる。

6. 「国際協力人材」育成プログラムの履修について

◆履修にあたっては、グローバル教育センター窓口およびグローバル教育センター提供科目ガイダンスなどで配付している「国際協力人材」育成プログラムパンフレット等を参照のこと。

履修資格

2012年度以降1年次入学者。ただし「ソリューション・アプローチA～G」「アクティブ・リサーチ1」の履修については、配当年次が2年次以上となる。

また「アクティブ・リサーチ1」については、所定の申請書類を提出する必要がある。詳細は下記「履修登録方法」を参照のこと。

履修登録方法

「グローバル・イシュー各論」「グローバル共通教養総論」「ソリューション・アプローチA～G」の登録は抽選登録に準ずる。

履修登録にあたっては、科目が立教大学・明治大学の各キャンパスで開講されているので、キャンパス間の移動時間、また、授業時間の違いを考慮して登録を行うこと。移動時間が不足していた場合でも自己責任となるので注意すること。明治大学開講科目については、開講時間が本学と異なるので、必ずシラバス・時間割検索システムの検索結果一覧「注意」欄で確認のうえ登録すること。

2017年度より、「アクティブ・リサーチ1」と「国際協力リテラシー」「アクティブ・リサーチ2」は原則隔年開講とし、2019年度は「アクティブ・リサーチ1」を開講する。

「アクティブ・リサーチ1」については、「その他」登録となり、所定の用紙での申請が必要となる。

申請方法・申請基準・申請期間・選考結果発表については以下のとおり。

◆申請方法：履修を希望する者は、「履修申請書」を提出する。書類はグローバル教育センターの窓口にて配付する。

申請者は、2019年5月15日（水）～2019年5月22日（水）のいずれかの日程で面接を行う可能性がある。面接を行う場合、申請書に記入された連絡先に直接連絡する。

◆申請書配付期間：2019年5月1日（水）～5月14日（火）

◆提出場所：グローバル教育センター窓口に提出。

◆申請期間：2019年5月7日（火）～2019年5月14日（火）17：00

◆選考結果：2019年5月24日（金）11：00に、全学共通カリキュラム掲示板にて発表する。

*注意事項

- ①「アクティブ・リサーチ1」については、選考の結果、履修が許可されないことがある。
- ②「アクティブ・リサーチ1」の履修を許可された者の履修登録は大学が行うので、履修登録状況画面で正しく登録されているか必ず確認すること。

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

- ③「アクティブ・リサーチ1」の単位については、秋学期他科目となる。各自所属する学部・学科の履修規定により履修登録上限単位数が設定されている場合には、履修計画を立てる際に注意すること。
- ④修得した単位は、各学部・学科・専修の規定の範囲内で自由科目区分の卒業要件単位として認められる。

特別聴講学生証

科目登録の結果、明治大学での開講科目の履修が決定した学生は、特別聴講学生証を春学期は2019年4月27日（土）以降、秋学期は2019年10月8日（火）以降に所属キャンパスの教務窓口にて受け取る。明治大学での授業出席や試験等では、特別聴講学生証が必要となるので、紛失しないよう管理すること。

プログラム修了認定

本プログラムは「モチベーション・パス」「キャリア・パス」の要件に沿って体系的に学んだ場合、修了認定証が発行される。各パスについては、入学年度に配付されたパンフレットを参照すること。パンフレットは、グローバル教育センターにて閲覧可能である。プログラムの修了認定は、本人からの申請により、次の修了要件を全て満たしていると認められる場合に認定する。

＜モチベーション・パス＞

- ①修了に必要な単位数は10単位以上とする。ただし、重複履修して修得した科目については、最初に修得した1科目分だけがプログラム修了要件単位として認められる。
- ②「グローバル・イシュー各論」および「グローバル共通教養総論」の2科目4単位を必修とする。
- ③「ソリューション・アプローチA～G」のうち3科目6単位以上を修得すること

＜キャリア・パス＞

- ①修了に必要な単位数は16単位以上（モチベーション・パス科目10単位以上を含む）とする。ただし、重複履修して修得した科目については、最初に修得した1科目分だけがプログラム修了要件単位として認められる。
- ②モチベーション・パスの修了要件を満たしていること。
- ③キャリア・パス科目のうち、2科目4単位以上を修得すること。

修了申請手続

春学期・秋学期に「モチベーション・パス」「キャリア・パス」の修了要件を満たした学生は、以下の方法・日時で申請を行うこと。修了申請書は、グローバル教育センター窓口にて配付する。

＜必要書類＞

春学期・秋学期とも以下の2点を提出すること

- ①「モチベーション・パス」「キャリア・パス」修了申請書
- ②成績参照画面のコピー

＜申請方法・日程・場所＞

申請書配付 春学期修了：2019年9月2日（月）～9月9日（月）

秋学期修了：2020年3月2日（金）～3月13日（金）

申請期間 春学期修了：2019年9月5日（木）～9月10日（火）

秋学期修了：2020年3月13日（金）～3月18日（水）

提出場所 グローバル教育センター窓口

結果発表 春学期修了：2019年9月11日（水）

秋学期修了：2020年3月18日（金）

両学期とも全学共通カリキュラム掲示板にて発表する。

*修了証については、結果発表時の掲示の指示に従い受け取ること。

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

7. 国連ユースボランティアプログラムの履修について

選考から派遣、帰国までのスケジュール

2019年4月4日(木) 17:00	応募締切
2019年4月6日(土)～13日(土) うち数日	日本語および英語による面接審査 ※日程詳細は申請書参照
2019年4月15日(月) 頃	本学推薦派遣候補者発表 推薦確定後の辞退は認めません。
2019年5月～7月	国連による選考(英語による電話インタビューなど)、最終合格者決定
2019年8月～9月	最終合格者対象の派遣事前研修(集中講義合宿)[受講必須] ※関東および関西において、計10日間程度
2019年9月～2020年2月	現地派遣
2020年3月	帰国報告会

履修資格

- ①学部学生であること。
- ②2019年度に在学していること(休学をしていないこと)。
- ③日本国籍を有すること。
- ④2019年9月1日時点で、満20歳以上かつ心身ともに健康であること。
- ⑤次のいずれか一つの英語能力を満たしていること。
TOEFL® ITP500点, TOEFL® iBT61点, TOEIC® 590点, IELTS 5.0点
英語能力を証明する書類のコピーを必ず提出すること。
- ⑥開発途上国へ2週間以上の渡航経験を持つことが望ましいが、必須ではない。
- ⑦ボランティア経験があることが望ましいが、必須ではない。
- ⑧円滑に共同作業ができること。
- ⑨基本的なICTスキル(Word/Excel/Power Point)を有すること。
- ⑩全学共通カリキュラム言語必修科目に未修得の単位がある場合、申請を認めない。
- ⑪2012年度以降1年次入学者および2014年度以降3年次編入学者であること。

履修申請方法

2019年4月4日(木) 17:00までに、いずれかの事務室に以下の提出書類を提出すること。ただし、留学等の理由により、窓口での提出に支障がある場合は、必ず事前にグローバル教育センターに問い合わせること。

提出場所: 池袋キャンパス グローバル教育センター窓口
新座キャンパス 国際センター窓口

提出書類: ①申請書

グローバル教育センターホームページ(<https://ghrd.rikkyo.ac.jp/>)よりダウンロードすること。

②成績参照画面のコピー

2018年度までの成績がすべて表示されている成績参照画面を出力し、提出すること。

③英語能力証明書のコピー (TOEIC® IP可)

④英文履歴書

グローバル教育センターホームページより参考資料をダウンロードすること。締切日までの完成が困難な場合、後日提出も可とする。

履修登録

国連による最終選考に合格し派遣が決定した学生は、秋学期他科目として大学が「その他」登録を行う。派遣決定後に改めて本科目に関する履修登録申請手続きをする必要はないが、各自必ず当該学期の履修登録状況画面を確認すること。

なお、本科目が履修登録される学期において他科目の履修はできない。

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

※派遣決定前に履修登録した通年科目の取り扱い

通年科目を履修している場合、その科目は履修が中止された扱いとなり、成績評価は「Q」と表示され単位を修得することはできない。

単位の扱い

本科目の単位数は12単位である。修得した単位は、各学部・学科・専修の規定の範囲内で自由科目区分の卒業要件単位として認められる。

成績

本科目の成績は「合格」または「不合格」とする。

なお、派遣国からの帰国の時期により成績発表の時期が遅れることがある。4年次生については、派遣国からの帰国の時期により、卒業合格者発表（2月下旬）までに本科目の成績評価を確定させることが出来ない場合がある。その場合、追加合格者としての発表（3月中旬）となる。

研修

最終合格者は、2019年8月～9月に計10日間程度、関東および関西において実施される合宿形式の派遣事前研修を必ず受講すること。

その他

- ・最終合格後および派遣後であっても、国際情勢や現地事情の変化等の事由により派遣中止や途中帰国となる場合がある。
- ・2011年度以前1年次入学者および2013年度以前3年次編入学者は正課外プログラムとしても、参加を認めない。
- ・本科目に関する詳細はグローバル教育センターホームページおよび募集要項で確認すること。

8. 陸前高田プロジェクトの履修について

スケジュール

2019年5月中旬	募集説明会
2019年6月13日（木）17：00	応募締切
2019年6月中旬	面接 ※日程詳細は申請書参照
2019年6月24日（月）頃	参加者決定
2019年7～8月	事前研修（2回）
2019年9月3，4日（火，水）	事前研修（東京）※現地研修直前2日間予定，海外からの参加者合流
2019年9月5日（木）～9日（月）	現地研修（陸前高田）※4泊5日
2019年9月10，11日（火，水）	事後研修（東京）※現地研修直後2日間予定

履修資格

- ①2012年度以降1年次入学者および2014年度以降3年次編入学者。
- ②2019年度春学期および秋学期とも在学していること。

履修申請方法

本プログラムは、選考を経て参加者を決定する。

申込期限：2019年6月13日（木）17：00

提出場所：池袋キャンパス グローバル教育センター窓口
新座キャンパス 国際センター窓口

提出書類：①申請書

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

グローバル教育センターホームページよりダウンロードすること。

②成績参照画面のコピー

2018年度までの成績がすべて表示されている成績参照画面を出力し、提出すること。

③英語能力証明書のコピー (TOEIC IP可)

履修登録

参加が決定した学生は、秋学期他科目として大学が登録を行う。参加決定後に改めて本科目に関する履修登録申請手続きをする必要はないが、各自必ず当該学期の履修登録状況画面を確認すること。

単位の扱い

修得した単位は、各学部・学科・専修の規定の範囲内で自由科目区分の卒業要件単位として認められる。

成績

本科目の成績は「合格」または「不合格」とする。

その他

・2011年度以前1年次入学者および2013年度以前3年次編入学者は正課外プログラムとして参加することができるが、単位は付与されない。

本科目は幅広い学生の参加を期待することから、博士課程前期課程の学生も参加することができるが、その修得単位は随意科目となる。

・本科目に関する詳細はグローバル教育センターホームページおよび募集要項で確認すること。

9. 海外インター
ンシッププロ
グラムについ
て

科目の概要

大学直営で行うプログラムと他団体が運営する2プログラムを利用する計3種類のプログラムがあり、いずれも事前研修、現地海外インターンシップ、事後報告会の3つから構成される。

スケジュール

具体的な日程については、グローバル教育センターホームページ (<https://ghrd.rikkyo.ac.jp/>) を確認すること。詳細な派遣スケジュールは、派遣地域や派遣先によっても異なるため、海外インターンシッププログラムに参加を希望する場合、自身のスケジュールは余裕をもって確保しておく必要がある。

また、渡航および派遣期間中の遵守事項があるため、応募前によく確認すること。

<8～9月実施> (春学期期間外科目)

2019年4月中旬	募集説明会
2019年5月8日(水) 17:00	応募締切
	※応募者多数の場合、書類選考
2019年5月中旬	面接、結果通知 ※日程詳細は申請書参照
2019年6月	履修登録
2019年6月	受入企業／団体との調整
2019年8月	渡航準備、事前研修
～2019年8～9月	現地インターンシップ
2019年9月	事後報告会
2019年9月下旬以降	成績発表

<2020年2～3月実施> (秋学期期間外科目)

2019年9月下旬～10月初旬 募集説明会

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

2019年10月24日(木) 17:00	応募締切
	※応募者多数の場合、書類選考
2019年11月中旬	面接、結果通知 ※日程詳細は申請書参照
2019年11月	履修登録
2019年11～12月	受入企業／団体との調整
～2020年2月	渡航準備、事前研修
2020年2～3月	現地インターンシップ
2020年3月	事後報告会
翌年度4月	成績発表

派遣先情報

2019年8～9月実施は2019年4月中旬、2020年2～3月実施は2019年10月初旬に、具体的な派遣先企業等の情報をグローバル教育センターホームページに掲載する（閲覧にはV-CampusのID及びパスワードが必要）。受入企業／団体によって学年や語学レベル等の条件がある場合があるので注意すること。

履修申請方法

前述のスケジュールに記載の応募締め切りまでに、いずれかの事務室に以下の提出書類を提出すること。

提出場所：池袋キャンパス グローバル教育センター窓口
新座キャンパス 国際センター窓口

提出書類：①申請書

グローバル教育センターホームページよりダウンロードすること。

②成績参照画面のコピー

最新の成績参照画面（当該学期の履修登録内容が反映されたもの）を出力し、提出すること。

③履修登録状況画面のコピー

④語学能力証明書のコピー（受験している場合。TOEIC® IP可）

⑤大学宛誓約書

※応募者多数の場合、書類選考を行う。

履修登録

派遣が決定した学生は、各学期期間外科目として大学が「その他」登録を行う。改めて登録申請手続きをする必要はないが、履修登録後に更新される履修登録状況画面を各自必ず確認すること。

履修登録上限

・春学期期間外、秋学期期間外いずれの学期で本科目を履修登録した場合も、各学部が定める年間履修登録上限のカウントに含まれる。

例) ◎春学期期間外科目として履修

すでに各学部の定める春学期の履修登録上限の上限単位数に達するまで履修している場合でも、上記のカウントの原則に従い本科目を履修することができる。

◎秋学期期間外科目として履修

すでに各学部の定める秋学期の履修登録上限の上限単位数に達するまで履修している場合でも、上記のカウントの原則に従い各学部の定める年間履修登録上限の範囲内で本科目を履修することができる。

※選考の結果合格した場合でも、上記に示された履修登録上限のルールを超えて履修登録ならびに単位の修得をすることはできない。本科目の履修登録時期は通常の履修登録時期より遅いため、申込をす

る前に自身でよく確認し、計画的に履修計画を立てること。

単位の扱い

修得した単位は、各学部・学科・専修の規定の範囲内で自由科目区分の卒業要件単位として認められる。

成績

本科目の成績は「合格」または「不合格」とする。

その他

- ・募集要項を確認すること。
- ・当該学期に在学し、かつインターンシップ時に日本からの出国、日本への帰国が可能な者のみ参加可。また、選考時に海外滞在中など大学に来ることができない場合は申請・参加不可。
- ・派遣後であっても、国際情勢や現地事情の変化等の事由により派遣中止や途中帰国となる場合がある。渡航に際しては、本学の指定する賠償責任保険及び海外旅行保険に加入すること。
- ・本プログラムは幅広い学生の参加を期待するため、下記(1)～(3)に該当する学生についても当該学期に在学している場合に限り参加申込を認め、選考により合格した場合はプログラムに参加することができる。下記注意事項を確認し、希望する場合はグローバル教育センターに相談すること。

(1) 秋学期期間外科目における学部4年次生

参加を認められた場合も履修登録および単位修得をすることはできない。

(2) 学部1～3年次生および春学期期間外科目における学部4年次生で履修登録を希望しない者

履修登録した上で参加することが原則であるが、履修登録上限超過等特段の理由がある場合履修登録せずプログラム参加申込をすることを認める。参加を認められた場合も単位修得はできず、途中で単位修得を希望することもできない。

(3) 博士課程前期課程1年次生

参加が認められた場合には、履修登録を行うが、その修得単位は随意科目となる。

※(1)～(3)いずれにおいても、プログラム参加に当たっては履修登録の上参加する学部学生と同様、現地海外インターンシップのみならず事前研修、事後報告会、課題提出、および関係各所の諸指示に従うことを必須とする。

10. RSL科目の 履修について

RSL実践系科目（多彩な学び科目群 6.「知識の現場」で開講される科目）について

(1) 履修登録について

抽選登録の履修登録方法に準ずる。

(2) 履修に関する注意点

- ・「RSL-ローカル（南魚沼）」「RSL-グローバル（フィリピン）」は4年次生履修不可。
- ・事前説明会に必ず参加すること。説明会日程は全学共通科目掲示板、池袋キャンパス5号館1階、新座キャンパス7号館前に設置される掲示板で確認すること。
- ・事前・事後学習および学外活動（フィールドワーク）には全日程に参加しなければならない。
- ・原則として履修登録後の辞退は認められない。やむをえない事情で活動を辞退する場合は所属キャンパスのRSLセンターの指示に従い、所定の手続きが必要である。尚、辞退した場合にはキャンセル料が発生する場合がある。
- ・当該年度の定期健康診断を必ず受診していること。受診していない場合は速やかにRSLセンターに相談すること
- ・その他事項は「立教サービスラーニング（RSL）ガイド」および「シラバス」を参照すること。

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

「RSLゼミナール」について

「主題別A」科目群『2 社会への視点』の「RSLゼミナール」は、以下の科目と同一内容であるため、過年度の当該科目単位修得者の履修を推奨しない。

- ・科目名：立教ゼミナール
- ・2017年度，2018年度開講の「立教ゼミナール RSL-社会基盤としての文化論」

5 過年度に開講されていた総合教育科目

以下は過年度に開講されていた総合教育科目で、今年度は開講されていない科目である。

過年度に、これらの科目について、それぞれの科目の開講年度における「履修上の注意」により修得した単位は、規定の範囲内で卒業要件として認められる。開講キャンパスが移動した場合は、下表には記載していない。

科目群 カテゴリー	科目名	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
立教A	キリスト教の歩み	●	●	●	●			
	日本キリスト教の歩み	●	●	●	●			
	キリスト教と思想	●	●	●	●			
	宗教と実践	●	●	●	●			
	子どもと人権	●	●	●	●			
	しょうがいと人権	●	●	●	●			
	大学とミッション	●	●	●	●			
	現代に見るキリスト教	●	●	●	●			
	平和と人権	●	●	●	●			
	多文化共生と人権	●	●	●	●			
	高等教育の歴史的展開	●	●	●	●			
	大学と多文化共生	●	●	●	●			
	ジェンダーの現在	●	●	●	●			
	キリスト教と芸術	●	●	●	●			
	キリスト教文学の世界	●	●	●	●			
領域別 A	生命倫理とキリスト教	●	●	●	●			
	経済学の基礎	●	●	●	●			
	経済政策の基礎	●	●	●	●			
	会計学の基礎	●	●	●	●			
	数学入門	●	●	●	●			
	物理学入門	●	●	●	●			
	化学入門	●	●	●	●			
	生命科学入門	●	●	●	●			
	社会学への招待2	●	●	●	●			
	社会学への招待3	●	●	●	●			
	政治の諸相	●	●	●	●			
	異文化コミュニケーション学への招待	●	●	●	●			
	地域・文化研究の世界	●	●	●	●			
	観光と社会	●	●	●	●			
	ウエルネスの科学	●	●	●	●			
	心身コンディショニング	●	●	●	●			
	心理学への招待1	●	●	●	●			
	心理学への招待2	●	●	●	●			
領域別 B	映像学への招待	●	●	●	●			
	キリスト教文学を読む	●	●	●	●			
	文学を読む	●	●	●	●			
	哲学を読む	●	●	●	●			
	歴史を読む	●	●	●	●			
	地域を読む	●	●	●	●			
	教育を読む	●	●	●	●			
	経済学を読む	●	●	●	●			
	社会学を読む	●	●	●	●			
	法文学文献講読	●	●	●	●			
	政治学文献講読	●	●	●	●			
	経営学文献レビュー	●	●	●	●			
	言語研究・言語教育研究レビュー	●	●	●	●			
	観光の捉え方	●	●	●	●			
	福祉社会を考える	●	●	●	●			
	競技スポーツの科学	●	●	●	●			
	こころの科学基礎文献講読	●	●	●	●			
	映像と身体について考える	●	●	●	●			
主題別A-1 人間の探求	茶・虎そして人	●	●					
	思索と人生	●	●	●	●			
	歴史と社会	●	●	●	●			
	歴史と現代	●	●	●	●			
	歴史と資料	●	●	●	●			
	メディアと人間・社会	●	●	●	●			
	シンボルと人間	●	●	●	●			
	習俗と人間	●	●	●	●			
	あそびと人間	●	●	●	●			
	青年期の自我と恋愛	●	●	●	●			
	聖書考古学入門	●	●	●	●			
	Environmental Studies in Japan			●	●			
主題別A-2 社会への視点	平和とは何か	●	●					
	多文化共生と平和	●	●					
	グローバル化と平和	●	●					
	東アジア共同体の可能性	●	●					
	平和とコミュニティ	●	●					

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

科目群 カテゴリー	科目名	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
主題別A-2 社会への視点	新時代の企業経営	●	●	●				
	現代社会と法	●	●	●	●			
	接続可能な社会と平和	●	●	●	●			
	民族紛争と平和	●	●	●	●			
	政治とマスコミ	●	●	●	●			
	スポーツジャーナリズムの現在	●	●	●	●			
	学歴社会論	●	●	●	●			
	サブカルチャー論	●	●	●	●			
	司法の現在	●	●	●	●			
	アフリカへの扉			●	●			
	コミュニティデザイン			●	●			
	グローバリゼーションと平和への道すじ			●	●			
	日本の「多文化」社会を考える			●	●			
	東北アジアの平和と市民社会			●	●			
主題別A-3 芸術・文化への招待	平和学入門			●	●			
	都市空間の再編と市民参加			●	●			
	文学と歴史	●	●	●	●			
主題別A-4	文学と社会	●	●	●	●			
	文学と人間	●	●	●	●			
	からだの科学	●	●	●	●			
	心の進化	●	●	●	●			
	対人関係と自己理解	●	●	●	●			
	現代人とサプリメント	●	●	●	●			
	バイオメカニクス入門	●	●	●	●			
	医学の基礎	●	●	●	●			
	人間と看護	●	●	●	●	●	●	●
	情報科学入門	●	●	●	●			
主題別A-5 自然の理解	都市と野鳥	●	●	●	●			
	都市環境と人	●	●	●	●			
	武蔵野の自然	●	●	●	●			
	自然保護最前線	●	●	●	●			
	都市と自然					●	●	
主題別B	文明と文明の接点をどう読むか	●						
	ラテンアメリカ社会ウォッチング	●						
	オリンピック・インパクト	●						
	親密性を考える	●						
	立教学院と戦争	●						
	映像を通して「働くこと」について考える	●						
	対人コミュニケーション	●						
	スポーツを支える仕事	●	●					
	心のバリアオーバーとしょうがい者支援	●	●					
	女性就労とワーク・ライフ・バランス	●	●					
	睡眠の文化を考える	●	●					
	リベラル・アーツの源流	●	●					
	「スピリチュアリティ」入門	●	●					
	ネット社会における「ミニコミ」の可能性	●	●					
	持続可能な開発のための教育（ESD）	●	●					
	人間の尊厳と権利を考える	●	●					
	2020年東京オリンピック招致のゆくえ		●					
	自立と福祉		●					
	震災復興論入門		●					
	現代的貧困への処方箋		●					
	日本のコンテンツ産業は世界に通用するか			●				
	女子力、その可能性を考える			●				
	翻訳行為に関わる人々			●				
	立教のスポーツ			●				
	東京オリンピックのレガシー			●				
	北欧モデルの可能性		●	●				
	ラグジュアリービジネスの世界		●	●				
	観光におけるアセットマネジメント		●	●				
	現代社会とジェンダー		●	●				
	コミュニティ福祉から考える震災復興支援		●	●				
	睡眠を科学する			●	●			
	東西世界をつなぐ近世東南アジア			●	●			
	市民による知識創造の可能性			●	●			
	ボランティア・「耕す知」と「共生」の探求			●	●			
	クリエイティブ・プロデュース論				●			
	大学をプロデュースする				●			
	オリンピック 東京からTOKYOへ				●			
	「婚活」現象を考える				●			
	社会で学ぶこと、立教生ができること		●	●	●			
	立教建学の理念から考える人権			●	●			
	Fiat lux：キリスト教霊性と文化					●		
	キャスターが教える“伝える力”					●		
	社会人への階段	●	●		●	●		
	ヒロシマ・ミナマタ・原発事故後の日本					●		
	大衆文化・社会論	●	●			●		
	立教OBOGの「社長の履歴書」				●	●		
	スポーツ観戦論					●		
	オリンピック×学生＝レボリューション					●		
	持続可能な地域社会を考える					●		
	新しい時代を生き抜く力						●	
	少女歌劇の100年	●	●	●	●	●	●	

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

科目群 カテゴリー	科目名	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
主題別B	武力紛争を生きる人びと						●	
	オリンピックマーケティング						●	
	いのちと暮らしのジェンダー論						●	
	震災復興とコミュニティの再編	●	●	●	●	●	●	
	ヒトといきものたち						●	
	キャンパスデザインの思想と立教スピリット						●	●
	2020年東京パラリンピック支援を考える						●	●
	キリスト教と民衆文化						●	●
	テレビという媒体							●
	フィールドから考える現代世界の暴力と平和							●
	キャスターが教える“コミュニケーション力”							●
	戦後社会と原子力							●
	グローカルの可能性							●
	〈トランプ時代〉の解剖学							●
	人の移動と人文学							●
スポーツプログラム	しょうがい者の視点から捉え直す現代社会							●
	Nativeと学ぶ社会開発							●
	スポーツプログラムA	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムB	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムC	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムD	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムE	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムF	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムG	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムH	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムI	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムJ	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムK	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムL	●	●	●	●	●	●	

2019年度 総合教育科目
選択科目
開講科目一覧

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

立教科目群

立教A（講義系）

	科目名	単位数	配当年次	備考
宗教	仏教の世界	2	1・2・3・4	
宗教	日本の宗教	2	1・2・3・4	
宗教	ジェンダーとキリスト教	2	1・2・3・4	
宗教	イスラームの世界	2	1・2・3・4	
宗教	「宗教」とは何か	2	1・2・3・4	
人権	人権思想の根源	2	1・2・3・4	
人権	手話と人権を考える	2	1・2・3・4	
人権	点字から考える人権	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員30名
人権	近代日本社会と人権	2	1・2・3・4	
人権	オーダーメイド医療最前線	2	1・2・3・4	
大学	大学と現代社会	2	1・2・3・4	
大学	大学と科学技術	2	1・2・3・4	
大学	立教大学の歴史	2	1・2・3・4	
大学	University Education in the World	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生と特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC785点相当以上の英語力を有することが望ましい
大学	University in Modern Society	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生と特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC785点相当以上の英語力を有することが望ましい

立教B（ゼミナール）

科目名	単位数	配当年次	備考
立教ゼミナール	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員30名

領域別科目群

領域別A（講義系）

提供学部	科目名	単位数	配当年次	備考
文学部	キリスト教学への招待	2	1・2・3・4	・文学部所属学生履修不可
	文学への招待	2	1・2・3・4	
	哲学への招待	2	1・2・3・4	
	歴史学への招待	2	1・2・3・4	
	地域研究への招待	2	1・2・3・4	
	教育学への招待	2	1・2・3・4	
社会学部	社会学への招待 1	2	1・2・3・4	・社会学部所属学生履修不可
法学部	法への招待	2	1・2・3・4	・法学部所属学生履修不可
経営学部	経営学入門	2	1・2・3・4	・経営学部所属学生履修不可
観光学部	観光学への招待	2	1・2・3・4	・観光学部所属学生履修不可
コミュニティ福祉学部	コミュニティと福祉	2	1・2・3・4	・コミュニティ福祉学部所属学生履修不可
	いのちの尊厳と福祉	2	1・2・3・4	
現代心理学部	身体学への招待	2	1・2・3・4	・現代心理学部所属学生履修不可

主題別科目群

主題別A

1. 人間の探究

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	聖書と人間	2	1・2・3・4	
	現代社会と人間	2	1・2・3・4	
	論理的思考法	2	1・2・3・4	
	教育と人間	2	1・2・3・4	
	多文化の世界	2	1・2・3・4	
	文化を生きる	2	1・2・3・4	
	アジアの文化とことば	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	ヨーロッパの文化とことば	2	1・2・3・4	
	ラテンアメリカの文化とことば	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	ロシア・東欧の文化とことば	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講
	中東の文化とことば	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	アフリカの文化とことば	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講
	イタリアの文化とことば	2	1・2・3・4	
	ドイツ語圏の文化	2	1・2・3・4	
	フランス語圏の文化	2	1・2・3・4	
	スペイン語圏の文化	2	1・2・3・4	
	中国語圏の文化	2	1・2・3・4	
	朝鮮語圏の文化	2	1・2・3・4	
	日本文化と精神性	2	1・2・3・4	
	現代社会における言葉の持つ意味	2	1・2・3・4	
F	Japanese Ethnology	2	1・2・3・4	・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい
	World History	4	1・2・3・4	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生と特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

2. 社会への視点

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	入門・経済教室	2	1・2・3・4	
	統計情報で社会・経済を診断する	2	1・2・3・4	
	景気・格差問題と統計情報	2	1・2・3・4	
	政治と社会	2	1・2・3・4	・法学部所属学生は履修しても卒業要件単位とはならない
	グローバル社会における法と政治	2	1・2・3・4	
	企業と社会	2	1・2・3・4	
	現代社会と環境	2	1・2・3・4	
	情報と倫理	2	1・2・3・4	
	メディアと人間	2	1・2・3・4	
	文化と社会	2	1・2・3・4	
	シティズンシップを考える	2	1・2・3・4	
	市民活動の組織とマネジメント	2	1・2・3・4	
	デモクラシーとリベラルアーツ	2	1・2・3・4	
	パレスチナ問題の歴史と現在	2	1・2・3・4	
	世界の中のロシア	2	1・2・3・4	
	ドイツ語圏の社会	2	1・2・3・4	
	フランス語圏の社会	2	1・2・3・4	
	スペイン語圏の社会	2	1・2・3・4	
	中国語圏の社会	2	1・2・3・4	
	朝鮮語圏の社会	2	1・2・3・4	
D	社会調査入門	2	1・2・3・4	・社会学部所属学生は履修不可 ・オンデマンド授業
D	社会調査の技法	2	1・2・3・4	・社会学部所属学生は履修不可 ・オンデマンド授業
D	データ分析入門	2	1・2・3・4	・オンデマンド授業
D	データの科学	2	1・2・3・4	・オンデマンド授業
D	多変量解析入門	2	1・2・3・4	・オンデマンド授業
D	Introduction to Statistics 1	2	1・2・3・4	・オンデマンド授業
D	Introduction to Statistics 2	2	1・2・3・4	・オンデマンド授業
	世界経済と日本	2	1・2・3・4	
	日本の「多文化」政策を問い直す	2	1・2・3・4	
	国際情勢を読み解く	2	1・2・3・4	
	日本国憲法	2	1・2・3・4	・法学部所属学生は履修しても卒業要件単位とはならない
	スポーツとメディア	2	1・2・3・4	
F	Modern Japanese History 1	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Modern Japanese History 2	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Politics and Economy 1	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Politics and Economy 2	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Relations in Asia 1	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Relations in Asia 2	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
F	Japanese Society 1	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Society 2	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Tokyo Studies	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Saitama Studies	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Political Sociology	4	1・2・3・4	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生と特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Economic Thought	4	1・2・3・4	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生と特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Career and University Education in the Global World	2	3・4	・集中科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

3. 芸術・文化への招待

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	表象文化	2	1・2・3・4	
	美術の歴史	2	1・2・3・4	
	美術と社会	2	1・2・3・4	
	音楽の歴史	2	1・2・3・4	
	音楽と社会	2	1・2・3・4	
	美術論演習	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員30名
	音楽論演習	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員30名
	キリスト教美術	2	1・2・3・4	
	キリスト教音楽	2	1・2・3・4	
	都市と芸術	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	建築と文化	2	1・2・3・4	
	映像と社会	2	1・2・3・4	
	身体表現と哲学	2	1・2・3・4	
	ドイツ語圏の文学	2	1・2・3・4	
	フランス語圏の文学	2	1・2・3・4	
	スペイン語圏の文学	2	1・2・3・4	
	中国語圏の文学	2	1・2・3・4	
	朝鮮語圏の文学	2	1・2・3・4	
	日本の美術	2	1・2・3・4	
	日本の音楽	2	1・2・3・4	
	言葉と身体	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員30名
F	Japanese Culture 1	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
F	Japanese Culture 2	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Arts A	2	1・2・3・4	・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい
F	Japanese Arts B	2	1・2・3・4	・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Literature and Society	4	1・2・3・4	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生と特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Culture and Fine Arts	4	1・2・3・4	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生と特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

4. 心身への着目

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	認知・行動・身体	2	1・2・3・4	
	心の科学	2	1・2・3・4	
	パーソナリティの心理	2	1・2・3・4	
	対人関係の心理	2	1・2・3・4	
	心の健康	2	1・2・3・4	
	ストレスマネジメント	2	1・2・3・4	
	癒しの科学	2	1・2・3・4	
	スポーツの科学	2	1・2・3・4	
	健康の科学	2	1・2・3・4	
	栄養の科学	2	1・2・3・4	
	アンチエイジングの科学	2	1・2・3・4	
	スポーツと社会	2	1・2・3・4	
	スポーツと文化	2	1・2・3・4	
	レジャー・レクリエーションと現代社会	2	1・2・3・4	
	舞踊論	2	1・2・3・4	
	脳と心	2	1・2・3・4	
F	Japanese Mind	2	1・2・3・4	・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Health and Wellness	4	1・2・3・4	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生と特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

5. 自然の理解

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	数学の世界	2	1・2・3・4	
	宇宙の科学	2	1・2・3・4	
	生命の科学	2	1・2・3・4	

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	化学と自然	2	1・2・3・4	
	行動の科学	2	1・2・3・4	
	生命の歩み	2	1・2・3・4	
	人類の進化	2	1・2・3・4	
	地球の理解	2	1・2・3・4	
	情報科学A	2	1・2・3・4	
	情報科学B	2	1・2・3・4	
	自然環境の保全	2	1・2・3・4	
	生物の多様性	2	1・2・3・4	
	地球環境の未来	2	1・2・3・4	
	自然と人間の共生	2	1・2・3・4	
	アウトドアの知恵に学ぶ	2	1・2・3・4	
	物質の科学1	2	1・2・3・4	
	物質の科学2	2	1・2・3・4	
	化学と社会	2	1・2・3・4	
	宇宙から地球の未来を考える	2	1・2・3	・学外集中講義 ・他に聖路加国際大学学生が履修
F	Science Studies	2	1・2・3・4	・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Nature of the Earth	4	1・2・3・4	・週2回科目 ・人数制限科目定員10名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生と特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

主題別B

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
1	睡眠文化論	2	1・2・3・4	
2	ボランティア論	2	1・2・3・4	
3	翻訳・通訳と現代社会	2	1・2・3・4	
4	こっち、あっちの人類学	2	1・2・3・4	
5	グローバルシティ・ソウルを読み解く	2	1・2・3・4	
6	立教OBOGの「社長の履歴書」	2	1・2・3・4	
7	音楽の生まれる場	2	1・2・3・4	
8	パトス・ロゴス・エトス	2	1・2・3・4	
9	市民が動く、社会が変わる	2	1・2・3・4	
10	演芸の世界	2	1・2・3・4	
11	Nativeから学ぶ海外の文化や社会問題	2	1・2・3・4	
12	哲学対話 in RIKKYO	2	1・2・3・4	
13	生・身体・テクノロジー・神	2	1・2・3・4	
14	より良き隣人へ：日本植民地研究の最前線	2	1・2・3・4	
15	文化の居場所を考える	2	1・2・3・4	
16	現在形の文化活動から考えるジェンダー論	2	1・2・3・4	
17	大衆演劇の世界	2	1・2・3・4	
18	歌と私と時代と	2	1・2・3・4	
19	ストレスから考える私たちの健康	2	1・2・3・4	
20	「観光立国」と日本の成長・地方創生	2	1・2・3・4	
21	観光学からみた東京	2	1・2・3・4	

スポーツ実習科目群

※担当者、開講学期、種目名および科目定員については、
当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

スポーツプログラム

科目名	単位数	配当年次	備考
スポーツプログラム1 (レクリエーション系)	1	1・2・3・4	
スポーツプログラム2 (トレーニング系)		1・2・3・4	
スポーツプログラム3 (球技系)		1・2・3・4	
スポーツプログラム4 (学外で集中して実施する科目)		1・2・3・4	・4年次生は秋学期授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。

スポーツスタディ

科目名	単位数	配当年次	備考
スポーツスタディ1 (レクリエーション系)	1	1・2・3・4	
スポーツスタディ2 (トレーニング系)		1・2・3・4	
スポーツスタディ3 (球技系)		1・2・3・4	
スポーツスタディ4 (学外で集中して実施する科目)		1・2・3・4	・4年次生は秋学期授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。
スポーツスタディe (オンデマンドで実施する科目)		1・2・3・4	

スポーツ実習科目に関する注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレティックセンター（池袋キャンパス）／体育館1階（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。
なお、第1回目の授業より、実習が始まるので、運動が出来る服装を準備し、授業に出席すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内科目、屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレティックセンター入口（池袋キャンパス）／体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。
3. 4月に行われる定期健康診断を必ず受診しておくこと。

2019年度 総合教育科目
自由科目
開講科目一覧

2012～2015年度1年次入学者に適用
(2014～2017年度3年次編入学者に適用)

グローバル・リーダーシップ・プログラム

※担当者、開講学期は当該年度シラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目名	単位数	配当年次	備考
GL101 (PBLによるリーダーシップ入門)	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員20名
GL111 (Introduction to Leadership)	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員10名
GL102 (他者のリーダーシップ開発)	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員36名
GL201 (質問力を活用したリーダーシップ開発)	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員20名
GL202 (Leadership through Inquiry)	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員10名
★GL301 (グローバル・リーダー海外実践)	2	1・2・3・4 1・2・3	・学外集中科目 ・事前、事後研修：池袋キャンパス
GL302 (Leadership in Changing World)	2	1・2・3	・学外集中科目

「国際協力人材」育成プログラム

科目名	単位数	配当年次	備考
グローバル・イシュー各論	2	1・2・3・4	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員30名
グローバル共通教養総論	2	1・2・3・4	・モチベーションパス科目 ・明治大学和泉キャンパス開講科目 ・人数制限科目定員20名
ソリューション・アプローチA (国際人権系)	2	2・3・4	・モチベーション・パス科目 ・明治大学駿河台キャンパス開講科目 ・人数制限科目定員25名
ソリューション・アプローチB (開発経済系)	2	2・3・4	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員25名
ソリューション・アプローチC (人道支援系)	2	2・3・4	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員25名
ソリューション・アプローチD (国際システム系)	2	2・3・4	・モチベーション・パス科目 ・明治大学学外集中科目 ・人数制限科目定員5名
ソリューション・アプローチE (模擬国連・総合演習系)	2	2・3・4	・モチベーションパス科目 ・明治大学中野キャンパス開講科目 ・人数制限科目定員20名
ソリューション・アプローチF (強制移転・移住系)	2	2・3・4	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員10名
ソリューション・アプローチG (紛争と平和)	2	2・3・4	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員10名
国際協力リテラシー	2	1・2・3・4	・キャリア・パス科目 ・池袋キャンパス、国際大学、明治大学駿河台キャンパス開講 ・人数制限科目定員12名
アクティブ・リサーチ1	4	2・3・4	・スリランカ ・キャリア・パス科目 ・池袋キャンパス、明治大学駿河台キャンパス開講 ・人数制限科目定員6名
アクティブ・リサーチ2	2	2・3・4	・キャリア・パス科目 ・講義：池袋キャンパス、明治大学駿河台キャンパス ・研修：学外 ・人数制限科目定員10名

国連ユースボランティアプログラム

科目名	単位数	配当年次	備考
国連ユースボランティア	12	1・2・3・4	・事前、事後研修：池袋キャンパス、学外 ・現地研修：学外

陸前高田プロジェクト

科目名	単位数	配当年次	備考
陸前高田プロジェクト	2	1・2・3・4	・事前、事後研修：池袋キャンパス ・現地研修：学外 ・人数制限科目定員10名程度

海外インターンシッププログラム

科目名	単位数	配当年次	備考
海外インターンシップ1	1	1・2・3・4	・事前、事後研修：池袋キャンパス ・現地研修：学外 ・詳細は「3. 履修上の注意」の項を参照のこと
★海外インターンシップ2	2	1・2・3・4 1・2・3	・期間外科目 ・事前、事後研修：池袋キャンパス ・現地研修：学外 ・詳細は「3. 履修上の注意」の項を参照のこと

立教サービスラーニングプログラム

科目名	単位数	配当年次	備考
RSL-1	2	1・2・3・4	・RSL科目 ・人数制限科目定員15名 ・事前、事後研修：池袋キャンパス
RSL-1-b	2	1・2・3・4	・RSL科目 ・人数制限科目定員20名 ・事前、事後研修：池袋キャンパス
★RSL-2	2	1・2・3	・RSL科目 ・人数制限科目定員15名 ・事前、事後研修：池袋キャンパス
★RSL-3	2	1・2・3	・RSL科目 ・人数制限科目定員15名 ・事前、事後研修：池袋キャンパス
RSL-4	2	1・2・3・4	・RSL科目 ・人数制限科目定員50名 ・事前、事後研修：池袋キャンパス

★4年次生は、秋学期授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。
明治大学開講科目は、科目ごとに開講キャンパスが異なるので、履修登録の際は注意すること（駿河台・和泉・中野の3キャンパスで開講）。

総合教育科目

2006～2011 年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入学者に適用)

●総合教育科目について

- 1 総合教育科目とは
- 2 科目群・科目名
- 3 卒業要件単位
- 4 履修上の注意
- 5 過年度に開講されていた総合教育科目

●開講科目一覧

1 総合教育科目とは

総合教育科目の特色

総合教育科目では、情報、スポーツ等の実習科目、複合的領域を扱う科目を含む幅広い選択科目で、「知」の体系の全体像を体感し理解する。

専門知識は、社会生活上の具体的問題と結びついてはじめて意味を持つ。社会生活は、自然・社会・人間に関わるあらゆる領域の事象を含んでいる。その意味で人は、どのような事態に対しても主体的に判断し対処できるよう、生きた教養を身に付けていなければならない。それが全カリの目指す総合性である。

総合教育科目のカリキュラムは、それを実現するために、学生のさまざまな学習の総合、教員の教育意識の総合、各自が専攻する専門科目と非専門科目との総合が可能になるように提示されている。総合教育科目を履修する学生は、担当教員が具体的・総合的なテーマにそくして科学的な分析と学問の意義を説く授業を、自らの問題関心にしながら総合し意味づけなければならない。したがって、学生は、なぜその科目を学ぶのかを自ら考え、どのように履修するかを計画する必要がある。

「総合 A」では、従来の専門的学問領域による分類を避け、問題領域にそくしたカテゴリごとに科目を配置しています。そこでは、担当教員がそれぞれ専門的見地に立ちながらも、それ自体で総合的応用性をもちうるように工夫されている。「総合 B」では、教員側の対話に立脚しつつ、複数教員による全学的英知を結集した多様な授業形態を展開する。「領域別 A」では、提供学部の基本的学問内容を支柱に講義が行われ、「領域別 B」では、提供学部の学問領域に於ける古典や重要文献が取り扱われる。「立教生の学び方」では、大学生としての学習に不可欠な調査・討論・レポート作成・発表などのスキルを学ぶ。さらに知を整理し表現するリテラシーとなる「情報実習」、人の身体と健康を実践的に考える「スポーツ実習」の科目群が置かれている。

2 科目群・科目名

[注意]

入学した年度によって、カリキュラムや履修規定が大きく異なる。各自が適用されるカリキュラムや履修規定を確認のうえ、十分に注意しながら履修すること。

1. 総合 A

総合 A は、「専門性に立つ教養人の育成」という立教大学の教育目的に応える基幹に位置付けられる科目群である。問題領域に応じてカテゴリごとに編成される総合 A では、問題を掘り下げて、自分の力で考え抜く力を養う。

また、総合 A では、各カテゴリの科目紹介にあるような科目が開講されるが、次のような立教大学独自の特色のある科目が開講される。(全カリの履修要項には、これらの科目名欄に、科目の特色を示す「R、F、D」などの目印が記されているので、履修計画を立てる際には大いに活用してほしい。)

▶ 立教科目 (R 科目)

立教大学らしい特色をもった科目や時事的トピックを扱う科目を設け、それぞれ「立教科目 (R 科目)」として総合 A の各カテゴリで開講している。

R 科目は、立教大学の「建学の精神」であるキリスト教に基づく教育理念が問いかける「人間としての基本的なあり方」を、「人間性」「社会性」「倫理性」の 3 つの側面と 21 世紀に人類が直面している「他者との共生」という視点に重心をおいて学ぶことを目的としている。「宗教」「人権」「大学」の 3 テ

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入学者に適用)

ーマそれぞれにバラエティに富んだ科目を用意している。

R科目は、立教大学らしい特色ある科目なので、立教大学の学生であるみなさんには履修することを大いに薦めたい。

立教科目(R科目)

宗教

「宗教」とは何か
イスラームの世界
ジェンダーとキリスト教
日本の宗教
仏教の世界

人権

オーダーメイド医療最前線
近代日本社会と人権
手話と人権を考える
人権思想の根源
点字から考える人権

大学

大学と科学技術
大学と現代社会
立教大学の歴史

外国語による日本研究科目 (F科目)

これらの科目は、日本の歴史、政治、社会、文化、文学などを演習形式で扱うもので、総合Aのカテゴリに配分して開講され、通常の全カリ総合教育科目と同様に履修することができる。授業を履修するにあたって必要とされる英語能力については、各科目のシラバスを確認すること。これらの科目は、特別外国人学生などの留学生と正規学生が、英語を用いてともに議論し、ともに学ぶ点に特徴がある。異文化間のコミュニケーションや日本研究に興味を持つ学生はもちろん、留学を計画している学生にとっても有用な科目といえるだろう。

外国語による日本研究科目(F科目)

上級 (TOEIC® 700点程度以上：演習)

Modern Japanese History 1 Modern Japanese History 2 Japanese Politics and Economy 1
Japanese Politics and Economy 2 Japanese Relations in Asia 1 Japanese Relations in Asia 2
Japanese Society 1 Japanese Society 2 Tokyo Studies Japanese Culture 1
Japanese Culture 2 Saitama Studies

中級 (TOEIC® 550点程度以上：講義)

Japanese Ethnology Japanese Arts A Japanese Arts B
Japanese Mind Science Studies

オンデマンド授業科目 (D科目)

オンデマンド授業科目とは、インターネット上で履修することが可能な授業のことである。履修者は、定められた期間内であれば自分の好きな時間に、自宅や大学のパソコンから授業を受けることができる。

履修者は、講義を受講し、さらに、授業のために用意された電子掲示板システム (BBS) を使って担当教員と質疑応答やディスカッションを行う。

オンデマンド授業科目(D科目)

社会調査入門 データ分析入門 多変量解析入門
社会調査の技法 データの科学 Introduction to Statistics 1 Introduction to Statistics 2

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入学者に適用)

カテゴリ
A-1 人間の探究

1 人間の探究

科目名	
聖書と人間	F Japanese Ethnology
現代社会と人間	R 仏教の世界
論理的思考法	R 日本の宗教
教育と人間	R イスラームの世界
多文化の世界	R 「宗教」とは何か
文化を生きる	R 人権思想の根源
現代社会における言葉のもつ意味	R 手話と人権を考える
アジアの文化とことば	R 点字から考える人権
ヨーロッパの文化とことば	
ラテンアメリカの文化とことば	
ロシア・東欧の文化とことば	
中東の文化とことば	
アフリカの文化とことば	
イタリアの文化とことば	
ドイツ語圏の文化	
フランス語圏の文化	
スペイン語圏の文化	
中国語圏の文化	
朝鮮語圏の文化	
日本文化と精神性	

R：立教科目
F：外国語による日本研究科目

このカテゴリでは、思想・文化という側面から私たち人間に迫っていく。書かれたものを読み、考えるという方法が、その中心に位置付けられるだろう。

立教大学の建学の精神を支えるキリスト教については、聖書を読むことや、これまでにキリスト教が歩んできた歴史や背景を学ぶことによって、その人間観や思想に迫る。哲学や思想の古典も、このカテゴリで学ぶ。史料を読むことで築かれてきた歴史学も、このカテゴリで学ぶ。しかし、なにも古いことばかりにこだわるわけではない。現代に息づく文化を扱う科目や、メディア論も配されているので、みなさんは、温故知新の精神を養うと同時に、先端的な

知への好奇心をも満足させることができるだろう。

多様な文化を発見し、互いに認め合い、話し合い、思索を深めて行くという、能動的な営みが各科目で展開される。これらの科目を広く履修することで、現代人に求められる「教養」とは何かを問い、それをしっかりと自分のものにして欲しいと思う。

カテゴリ
A-2 社会への視点

2 社会への視点

科目名	
入門・経済教室	D 社会調査入門
統計情報で社会・経済を診断する	D 社会調査の技法
景気・格差問題と統計情報	D データ分析入門
政治と社会	D データの科学
グローバル社会における法と政治	D 多変量解析入門
企業と社会	D Introduction to Statistics 1
現代社会と環境	D Introduction to Statistics 2
情報と倫理	F Modern Japanese History 1
メディアと人間	F Modern Japanese History 2
文化と社会	F Japanese Politics and Economy 1
シティズンシップを考える	F Japanese Politics and Economy 2
パレスチナ問題の歴史と現在	F Japanese Relations in Asia 1
市民活動の組織とマネジメント	F Japanese Relations in Asia 2
デモクラシーとリベラルアーツ	F Japanese Society 1
世界の中のロシア	F Japanese Society 2
ドイツ語圏の社会	F Tokyo Studies
フランス語圏の社会	F Saitama Studies
スペイン語圏の社会	R ジェンダーとキリスト教
中国語圏の社会	R 近代日本社会と人権
朝鮮語圏の社会	R 大学と現代社会
スポーツとメディア	R 立教大学の歴史
世界経済と日本	
日本国憲法	
日本の「多文化」政策を問い直す	
国際情勢を読み解く	

R：立教科目
F：外国語による日本研究科目
D：オンデマンド授業

このカテゴリでは、社会という側面から私たちの営みに迫っていく。他者との関わり方を、政治学・法学・経済学・経営学・社会学などが築いてきた方法を手掛かりにして分析することが、その軸となる。

いま、政治や経済、そして日常生活さえも、それぞれが複雑な仕組みを抱え込み、その姿を見極めることが難しくなっている。このカテゴリで学ぶ「社会への視点」とは、「私たちがどこから来たのか」という過去に学びながら、さらに「これから私たちがどこへ向かおうとしているのか」という未来にまで向けた視野のなかで物事を見ていこうとするものである。情報と倫理の問題や、平和・人権・環境など、私たちに切実な問題についても、このカテゴリで多くを学ぶことができる。

これらの科目を履修することで、社会を一つの視点から見るだけでなく、さまざまな角度から見つめ直していく道が開かれるはずである。

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入入学者に適用)

カテゴリ

A-3 芸術・文化への招待

3 芸術・文化への招待

科目名
表象文化
美術の歴史
美術と社会
音楽の歴史
音楽と社会
美術論演習
音楽論演習
キリスト教美術
キリスト教音楽
都市と芸術
建築と文化
映像と社会
言葉と身体
身体表現と哲学
ドイツ語圏の文学
フランス語圏の文学
スペイン語圏の文学
中国語圏の文学
朝鮮語圏の文学
日本の美術
日本の音楽
F Japanese Culture 1
F Japanese Culture 2
F Japanese Arts A
F Japanese Arts B

F：外国語による日本研究科目

このカテゴリでは、人間が生み出してきた文学・美術・音楽を対象として、作品の作り手と受け手との緊張をはらんだ関係に迫る。芸術・文学の作品に、理性と感性とを総動員して向かい合うことが、その特色となる。

このカテゴリに属する科目は、創作や実演を目的とするものではない。作品が生成される歴史的背景や、それぞれの芸術分野における理論を理解し、一人一人が考察を深めることを目的とする。これらの作業は、創作など実践を志す学生には、幅広い土台を提供するはずである。また、多くのみなさんが興味を持っている映画や演劇などについても、「表象文化」を配置し、学びの場を用意した。

これらの科目を深く学ぶことで、創造と鑑賞の道筋を理解することが可能となるであろう。

カテゴリ

A-4 心身への着目

4 心身への着目

科目名
認知・行動・身体
心の科学
パーソナリティの心理
対人関係の心理
心の健康
ストレスマネジメント
癒しの科学
スポーツの科学
健康の科学
栄養の科学
アンチエイジングの科学
スポーツと社会
スポーツと文化
レジャー・レクリエーションと現代社会
舞踊論
脳と心
F Japanese Mind

F：外国語による日本研究科目

このカテゴリでは、相互に影響しあっている「心」と「身体」の問題を幅広くとらえ、心理学、メディア、身体論、健康科学、スポーツ科学の分野から理解を深めていく。

現代社会で過ごす私たちの生活は、さまざまなストレスにさらされており、心身の健康が日常生活をよりよく生きるための重要な要因となっている。例えば、健全な身体を有しているものでも、心的症状に悩まされることもあるが、規則正しい生活と運動によって交感神経と副交感神経のバランスが取れると、その症状が治ったりする場合がある。心と身体とは、このように密接な関わりを持っている。

心身にかかわるテーマに、心理学の分野では「認知」、「行動」、「発達」、「心の健康」などの側面から、健康・スポーツ科学の分野では「医学」、「社会学」、「運動学」、「栄養学」などの側面から迫るとともに、身体論の視点も取り上げる。このように、積極的に心身の問題を掘り下げて理解することを目的としている。

カテゴリ
A-5 自然の理解

5 自然の理解

科目名
数学の世界
物質の科学 1
物質の科学 2
宇宙の科学
生命の科学
化学と自然
化学と社会
行動の科学
生命の歩み
人類の進化
地球の理解
情報科学A
情報科学B
自然環境の保全
生物の多様性
地球環境の未来
自然と人間の共生
アウトドアの知恵に学ぶ
宇宙から地球の未来を考える
F Science Studies
R オーダーメイド医療最前線
R 大学と科学技術

R：立教科目
F：外国語による日本研究科目

このカテゴリでは、人類が今までの歴史の中で得てきた科学的な知識とその基盤、およびそれらが現代の私たちにどのように密接に結びついているのかを考えていく。

人間は、人類としてこの世界に現れるとすぐに自然を認識し、「我々の住む世界はどのようなになっているのか」、「世界を作っている基本的なものは何か」、「世界を支配する法則はどのようなものか」、「なぜ、この世界は多様な生命体で満たされているのか」などの素朴な疑問を持ち続けてきた。そして、長い歴史の中で「自然哲学」を発展させ、これらの疑問に「科学」として答えようと現在でも努力し続けている。自然界で起こっている現象の理解は日々進展し、私たちの世界観は大きく変わりつつある。

それを踏まえてこのカテゴリでは「自然の法則を記述する数学」やその「数学自身の語る世界」、世界とは何かという問いに答えて導き出された「宇宙の構造」やその構造を支配する「物理の基本法則」、「身近な物質の化学構造と反応」や「物質変換の基本原則」、生命現象の中核をなす「遺伝子と生命」および「生命の歴史」、さらには生物の「行動メカニズムの科学」と「生命の多様性」などについて学ぶ。

現代における「自然の理解」の必要性は、理系の仕事に携わる人だけにとどまるものではない。人類が作り出してきたさまざまな物質や技術は毎日の生活に大きな影響を与えており、私たちはこれらの事柄に対して無知ではいられなくなっている。その意味で、私たちにとって自然の理解はますます重要になってきているといえる。

また、情報科学に関わる分野も、このカテゴリで取り上げる。「情報科学A」、「情報科学B」では、コンピュータの機能と利用法、ハードウェアとソフトウェア、データや情報の表現・処理、インターネット、社会の中のコンピュータの役割などの講義が行われる。「情報科学入門」では、大学生として学ぶ情報科学に関心を寄せてもらうことをねらいとした講義が行われる。

2. 総合B

科目名
睡眠文化論
哲学対話 in RIKKYO
生・身体・テクノロジー・神
より良き隣人へ：日本植民地研究の最前線
文化の居場所を考える
現在系の文化活動から考えるジェンダー論
大衆演劇の世界
歌と私と時代と
ボランティア論
翻訳・通訳と現代社会
しょうがい者の視点から捉え直す現代社会
音楽の生まれる場
こっち、あっちの人類学
立教OBOGの「社長の履歴書」
パトス・ロゴス・エトス
市民が動く、社会が変わる
演芸の世界
「観光立国」と日本の成長・地方創生
観光学からみた東京
ストレスから考える私たちの健康
Nativeから学ぶ海外の文化や社会問題

大学での勉学は専門知識の習得に重点が置かれているが、それだけでは一面的な物の見方に偏り、バランスのとれた判断ができなくなるおそれがある。総合教育科目は、専門外の他の分野の知識にも触れることを通じて、そうした偏りを防ぐことを主な狙いとしている。なかでも総合Bは、同じ1つの問題をめぐって複数の専門分野から提供される複数の見方を1つの科目のなかで総合しようとするもので、そのために、専門分野の異なる複数の担当者がコーディネーターを中心に緊密に協力し合いながら授業を進める。多面的な見方が重んじられるので、履修者の発言も歓迎される。総合Bの各科目がとりあげる問題やそのとりあげ方は多様かつ個性的で、年度・学期によっても変わる。それぞれの科目についてのシラバスをよく読み、積極的に履修してほしい。

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入学者に適用)

3. 領域別A
(講義系)

科目群
キリスト教学への招待
文学への招待
哲学への招待
歴史学への招待
地域研究への招待
教育学への招待
社会学への招待 1
法への招待
経営学入門
観光学への招待
コミュニティと福祉
いのちの尊厳と福祉
身体学への招待

提供学部以外の学生も共有すべき課題等について、その学部の基本的な学問内容を支柱にして行われる講義形式の科目群である。履修に際しては、その分野の専門用語についての知識や数式を特に必要としない。履修する学生には自分の専門領域を超えた知的好奇心をもって臨むことを求める。

4. 領域別B
(文献系)

科目群
2016年度以降開講科目なし

各々の学問領域に於ける古典や重要文献を読む授業である（原則として日本語が英語で行われる）。専門以外の一流の文献を主体的に読み込むことで、古今東西の思想や他分野の思考に触れ、知的視野を広げることを目的としている。

5. 立教生の
学び方

科目名
立教生の学び方

「立教生の学び方」は、2006年度から新たに開講された科目群で、学生同士や教員と積極的に議論できるように少人数で授業が行われる。

全カリでは、全学部全学年の学生を履修対象としているため、学問的背景や年齢の異なる履修者が、テーマについて「議論する」ことが可能となる。この特徴を生かして、学部学年、また自分の専門領域にとらわれない広い視野を持ち、立場の異なる相手の意見を尊重しながら、自分の意見をしっかりと主張できる能力を高めることを大きなねらいとしている。

また与えられた知識や情報を鵜呑みにせず、自ら価値判断する方法を学んでいくために、自分の興味・関心を見つけ、それを自らの意志で探求し掘り下げていく手法を学ぶ。

具体的には、あらゆる分野の学生に必須な「調べる」「読む」「考える」「書く」「発表する」能力を養う。

「立教生の学び方」は全て専任教員が担当するので、立教大学ならではの多彩なテーマが用意されている。展開される科目群の中から、自分の興味に沿った科目を選択し、「立教大学で、このテーマについて深く掘り下げた」と言えるような積極的な気持ちで履修してほしい。

6. 情報実習

情報実習は2012年度より開講されていない。

なお、情報に関する講義科目は、総合Aで開講される。A-2「社会への視点」では、「情報と倫理」が、A-5「自然の理解」では、「情報科学入門」、「情報科学A」、「情報科学B」が開講される。このうち「情報科学入門」は、情報社会に参画するための情報リテラシーを目標に学習する。「情報科学A」、「情報科学B」は、履修順序を問わないで、人間、社会、問題解決の側面から情報を多面的に学習する。

＊）初心者向けの実習は、メディアセンター主催の講習会で行われる予定。

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入学者に適用)

7. スポーツ実習

科目名
スポーツプログラム1
スポーツプログラム2
スポーツプログラム3
スポーツプログラム4
スポーツスタディ1
スポーツスタディ2
スポーツスタディ3
スポーツスタディ4
スポーツスタディe

スポーツ実習科目の目的は、以下の2点に要約される。

1) 健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、スポーツの実践を通じて健康づくり、運動不足の解消、体力の向上を目指す。

2) スポーツは言語や国境を越えて人類が今日まで築き上げた文化であり、国際人の基礎教養として、あるいは国際交流の手段として、その役割は大きい。スポーツの文化的側面を理解し、同時にその実践を通じて、現代人に必要とされるバランスのとれた理性的確かな判断力を養成する。

これらの目的を達成するため、スポーツ実習にはバラエティ豊かな科目が開講されている。「スポーツプログラム1～4」は1単位科目で、種目の技能修得、体力、健康の維持増進をはかるとともに、スポーツの文化的背景を学ぶ。「スポーツスタディ1～4」は2単位科目で、スポーツ実践に加えて全体の3分の1程度の講義が含まれる実技・理論統合型の授業である。スポーツプログラム4およびスポーツスタディ4は、集中科目である。「スポーツスタディe」はオンデマンド科目である。

3 卒業要件単位

総合教育科目の卒業要件単位は以下の表の通りである。

4 履修上の注意 を参照のうえ、間違いのないよう履修すること。

【2010・2011年度1年次入学者】

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数
選択科目	20	総合教育科目 総合A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6
		総合教育科目 総合A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4
		総合教育科目全体 【総合A (1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合A (4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A (講義系) 領域別B (文献系) 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10

【注意】法学部の学生は、総合A『2 社会への視点』の「政治と社会」「法学の世界」(2011年度まで開講)「現代社会と法」(2015年度まで開講)「日本国憲法」「司法の現在」(2015年度まで開講)を履修しても卒業要件単位とはならない。

「領域別A」「領域別B」のうち、開講科目一覧の備考欄に「**学部所属学生履修不可」とある科目については、「**学部」に所属する学生は履修できない。

履修上の注意に従い、全カリの卒業要件単位数を超えて修得した単位(全カリの総合教育科目の選択科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位および言語自由科目で修得した単位)については、各学部(学科・専修)の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。

【2006～2009年度1年次入学者】

総合教育科目	履修区分		卒業要件単位	合計
	総合A	1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6	20
		4. 心身への着目 5. 自然の理解	4	
	総合教育科目全体		10	
	【総合A（1，2，3）】 6単位を超えて修得した単位			
	【総合A（4，5）】 4単位を超えて修得した単位			
総合B				
領域別A（講義系）				
領域別B（文献系）				
立教生の学び方				
情報実習				
スポーツ実習				

【注意】法学部の学生は、総合A『2 社会への視点』の「政治と社会」「法学の世界」（2011年度まで開講）「現代社会と法」（2015年度まで開講）「日本国憲法」「司法の現在」（2015年度まで開講）を履修しても卒業要件単位とはならない。

「領域別A」「領域別B」のうち、開講科目一覧の備考欄に「**学部所属学生履修不可」とある科目については、「**学部」に所属する学生は履修できない。

履修上の注意に従い、全カリの卒業要件単位を超えて修得した単位（全カリの総合教育科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位および言語自由選択科目で修得した単位）については、各学部（学科・専修）の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。

4 履修上の注意

1. 履修登録 上限単位数

全学年において、総合A、総合B、領域別A、領域別B、立教生の学び方、情報実習、スポーツ実習をすべて合計して春・秋学期それぞれ6単位以内とする（言語教育科目の自由科目／自由選択科目は含まない）。なお、履修登録上限単位数には、履修登録した科目で、単位を修得できなかった科目も含まれる。

また、4年次生は、秋学期の授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。

2. 同一科目の 重複履修

総合A、総合B、領域別A、領域別B、立教生の学び方、情報実習、スポーツ実習のすべての科目に関し、同一科目は、学期を変えれば重複履修することができる。その場合には最初に修得した1科目のみが卒業要件単位として認められ、2回目以降に修得した単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。なお、成績証明書には修得したすべての科目の成績が記載される。

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入学者に適用)

同一科目とは、科目の名称（番号までを含む）、単位数が同一の科目である。したがって、担当者が同じでも科目の名称が一部でも異なる場合には別科目となる。逆に、担当者、タイトルや授業の内容が異なっても、科目の名称が同じであれば、同一科目であり、2度以上履修した場合には、最初に修得した1科目のみが卒業要件単位となる。

(例) 「グローバル社会における法と政治」〈現代中国の政治を知る〉(倉田 2単位) } 同一科目
「グローバル社会における法と政治」〈法の世界を学ぶ〉(高橋 2単位)
「スポーツスタディ4」〈ネイチャーキャンプ〉(担当者:濁川 2単位) } 同一科目
「スポーツスタディ4」〈スキーA〉(担当者:濁川 2単位)
「物質の科学1」〈身近な物理〉(小泉 2単位) } 別科目 (数字が異なるため)
「物質の科学2」〈サイズ概念に基づく物質の性質の統一的理解〉(枝元 2単位)

3. 卒業要件とは
ならない科目

法学部の学生は、総合A『2 社会への視点』の「政治と社会」「法学の世界（2011年度まで開講）」「現代社会と法（2015年度まで開講）」「日本国憲法」「司法の世界（2015年度まで開講）」を履修しても卒業要件単位とはならないので注意すること。

4. オンデマンド
科目履修につ
いて

履修資格を有するのは休学・在学留学中の学生を除いた学部学生となる。なお履修に際して注意事項があるので、申込前に<http://spirit.rikkyo.ac.jp/odc/>で必ず確認をすること。

各学期の定められた履修登録期間にオンデマンド科目を登録申請し、履修を許可された者は、下記の期間中にBlackboardにログインをして「コース」画面から「レクチャー」をクリックし、具体的な授業の受講方法について必ずその内容を確認すること。

春学期：2019年4月11日（木）から2019年4月30日（火）まで

秋学期：2019年9月20日（金）から2019年9月29日（日）まで

※オンデマンド受講にあたっての操作方法是次のURL (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/odc/>)
にて「オンデマンド受講生用マニュアル」を参照すること。

※一部科目では学期中のスクーリングや期末の定期試験など、Web上での学習以外に大学へ直接出向く必要が生じる場合があるので各科目のシラバスで確認すること。

5. RSL科目の
履修について

「RSLゼミナール」について

「総合A」科目群『2 社会への視点』の「RSLゼミナール」は、以下の科目と同一内容であるため、過年度の当該科目単位修得者の履修を推奨しない。

- ・科目名：立教生の学び方
- ・2017年度、2018年度開講の「立教生の学び方 RSL-社会基盤としての文化論」

5 過年度に開講されていた総合教育科目

以下は過年度に開講されていた総合教育科目で、今年度は開講されていない科目である。

過年度に、これらの科目について、それぞれの科目の開講年度における「履修上の注意」により修得した単位は、規定の範囲内で卒業要件として認められる。開講キャンパスが移動した場合は、下表には記載していない。

科目群 カテゴリー	科目名	開講年度															
		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018			
総合A A-1 人間の探求	文化と開発		●	●	●												
	文章作成法			●	●												
	キリスト教思想の展開	●	●	●	●	●	●										
	キリスト教と諸思想	●	●	●	●	●	●										
	日本文化の周縁	●	●	●													
	性倫理とキリスト教	●	●	●	●	●	●										
	キリスト教考古学	●	●	●	●	●	●										

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入学者に適用)

科目群 カテゴリー	科目名	開講年度															
		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018			
総合A A－1 人間の探求	生と死の宗教学			●	●	●	●										
	坐禅入門				●	●	●										
	スポーツパーソンシップを考える					●	●										
	異文化コミュニケーション論	●	●	●	●												
	茶・虎そして人		●	●	●	●	●	●	●								
	思索と人生	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	歴史と社会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	歴史と現代	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
	歴史と資料	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
	メディアと人間・社会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
	シンボルと人間									●	●	●					
	習俗と人間									●	●	●					
	あそびと人間									●	●	●					
	青年期の自我と恋愛			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
	聖書考古学入門			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
	Environmental Studies in Japan											●	●				
	キリスト教の歩み									●	●	●	●				
	日本キリスト教の歩み									●	●	●	●				
	キリスト教と思想									●	●	●	●				
	宗教と実践									●	●	●	●	●			
	子どもと人権									●	●	●	●	●			
	しょうがいと人権									●	●	●	●	●			
	大学とミッション	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
総合A A－2 社会への視点	セクシュアル・ハラスメント概論	●															
	ジェンダーと平和	●	●														
	情報技術と社会	●	●	●													
	アジアと平和			●													
	都市アムニティ論		●	●													
	都市と新しい社会運動	●	●	●	●												
	食の安全性と行政の対応	●	●	●	●												
	少年法の現在	●	●	●	●												
	朝鮮半島と日本		●	●	●												
	北京オリンピックを考える			●	●												
	市場と社会	●	●	●	●	●	●										
	個人と社会	●	●	●	●	●	●										
	福祉と人間	●	●	●	●	●	●										
	法学の世界	●	●	●	●	●	●										
	経営学の世界	●	●	●	●	●	●										
	現代社会とツーリズム	●	●	●	●	●	●										
	在日外国人と日本社会	●	●	●	●	●	●										
	マイノリティと宗教	●	●	●	●	●	●										
	現代社会と宗教	●	●	●	●	●	●										
	都市と政策	●	●	●	●	●	●										
	医療過誤と患者の権利	●	●	●	●	●	●										
	規制改革を考える				●	●	●										
	海洋環境保全の情報技術				●	●	●										
	貧困と福祉の政治学					●	●										
	北欧式教育の現在					●	●										
	人権の国際的保障の現在とヨーロッパ					●	●										
	平和と安全保障	●	●	●	●	●	●										
	平和とは何か	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
	多文化共生と平和	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
	グローバリゼーションと平和	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
	東アジア共同体の可能性	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
	平和とコミュニティ				●	●	●	●	●	●							
	新時代の企業経営						●	●	●	●	●						
	ジェンダーとキリスト教							●	●	●	●	●					
	現代に見るキリスト教							●	●	●	●	●	●				
	平和と人権							●	●	●	●	●	●				
	多文化共生と人権							●	●	●	●	●	●				
	高等教育の歴史的展開							●	●	●	●	●	●				
	大学と多文化共生							●	●	●	●	●	●				
	ジェンダーの現在							●	●	●	●	●	●				
	現代社会と法	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
	持続可能な社会と平和	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
	民族紛争と平和	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
政治とマスコミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
スポーツジャーナリズムの現在	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
学歴社会論								●	●	●	●	●	●				
サブカルチャー論								●	●	●	●	●	●				
司法の現在								●	●		●	●	●				
アフリカへの扉											●	●	●				
コミュニティデザイン											●	●	●				
グローバリゼーションと平和への道すじ											●	●	●				
日本の「多文化」社会を考える											●	●	●				
東北アジアの平和と市民社会											●	●	●				
平和学入門											●	●	●				
都市空間の再編と市民参加											●	●	●				

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入学者に適用)

科目群 カテゴリー	科目名	開講年度															
		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018			
総合 A A-3 芸術・文化への 招待	Society and Culture 1	●															
	Society and Culture 2	●															
	外国文学とキリスト教	●	●	●	●	●	●										
	信仰と説話文学			●	●	●	●										
	江戸と文学	●	●	●	●	●	●										
	乱歩再発見	●	●	●	●	●	●										
	キリスト教と芸術							●	●	●	●						
	キリスト教文学の世界							●	●	●	●						
	文学と歴史	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	文学と社会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	文学と人間	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
目総合 A A-4 心身への着目	自然環境と人間	●	●	●	●	●	●										
	高齢化社会におけるヒトの弱点と予防法		●	●	●												
	身体コンディショニング論	●	●	●	●												
	支え合いの諸相	●	●	●	●	●	●										
	心身コンディショニング論					●	●										
	ウェルネス実践論	●	●	●	●	●	●										
	からだの科学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	心の進化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	対人関係と自己理解	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	現代人とサブリメント			●	●	●	●	●	●	●	●						
	バイオメカニクス入門							●	●	●	●						
	医学の基礎							●	●	●	●						
	人間と看護	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	環境の科学的理解																
総合 A A-5 自然の理解	地球の理解 1	●															
	地球の理解 2	●															
	地球の理解 3	●															
	地球の理解演習	●															
	生命操作と人権	●	●	●													
	生態系と人間の未来	●	●	●	●	●											
	宇宙の科学 1	●	●	●	●	●	●										
	宇宙の科学 2	●	●	●	●	●	●										
	生命のしくみ	●	●	●	●	●	●										
	環境の成立と人間活動			●	●	●	●										
	生命倫理とキリスト教							●	●	●	●						
	情報科学入門	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	都市と野鳥	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	都市環境と人	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	武蔵野の自然	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	自然保護最前線	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	都市と自然											●	●				
総合 B	平和学から見た環境問題	●	●														
	高度成長と文化の変容		●	●													
	体験学習ー環境と人間	●	●	●													
	技術の進歩と人間	●															
	「見ため」の力		●	●	●												
	契約とサービス提供を考える	●															
	異文化交流とキリスト教文化	●															
	グローバリゼーションと企業社会	●															
	これからの法律専門職	●															
	キャリアワークショップ	●		●	●	●											
	近代社会システムを問い直す	●															
	30代・プロフェッショナルの仕事		●														
	身近な環境問題を考える	●	●														
	放送80年	●	●														
	これからの日本の行政と公務員		●														
	文化と越境		●														
	新たな身体知にむけて		●														
	企業の社会的責任とリーダーシップ		●														
	心のバリアフリーを考える	●	●	●													
	スポーツビジネスの現場から	●	●	●													
	生命はどこまで過酷な環境に耐えられるか			●			●										
	アメリカ先住民環境思想と環境問題			●													
	持続可能な福祉コミュニティ			●													
	リスクの政治経済学					●											
	心とは何か					●											
	アメリカ先住民文化の現在					●											
	知ること・感じること					●											
	ESDー持続可能な開発と教育					●											
	北欧に学ぶ					●											
	文明と文明の接点をどう読むか							●									
	ラテンアメリカ社会ウォッチング							●									
	オリンピック・インパクト							●									
	親密性を考える							●									
	立教学院と戦争							●									
	映像を通して「働くこと」について考える							●									
	対人コミュニケーション							●									
	スポーツを支える仕事							●									
	心のバリアオーバーとしょうがい者支援							●	●								
	女性就労とワーク・ライフ・バランス							●	●								
	文学と歴史	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入入学者に適用)

科目群 カテゴリー	科目名	開講年度														
		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		
総合 B	文学と社会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	文学と人間	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	からだの科学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	心の進化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	対人関係と自己理解	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	現代人とサブリメント			●	●	●	●	●	●	●	●					
	バイオメカニクス入門							●	●	●	●					
	医学の基礎							●	●	●	●					
	情報科学入門	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	都市と野鳥	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	都市環境と人	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	武蔵野の自然	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	自然保護最前線	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	睡眠の文化を考える							●	●							
	リベラル・アーツの源流							●	●							
	「スピリチュアリティ」入門							●	●							
	ネット社会における「ミニコミ」の可能性							●	●							
	持続可能な開発のための教育 (ESD)							●	●							
	人間の尊厳と権利を考える							●	●							
	2020年東京オリンピック招致のゆくえ								●							
	自立と福祉								●							
	震災復興論入門								●							
	現代的貧困への処方箋								●							
	日本のコンテンツ産業は世界に通用するか									●						
	女子力、その可能性を考える									●						
	翻訳行為に関わる人々									●						
	立教のスポーツ									●						
	東京オリンピックのレガシー									●						
	北欧モデルの可能性								●	●						
	ラグジュアリービジネスの世界								●	●						
	観光におけるアセットマネジメント								●	●						
	現代社会とジェンダー								●	●						
	コミュニティ福祉から考える震災復興支援								●	●						
	睡眠を科学する									●	●					
	東西世界をつなぐ近世東南アジア									●	●					
	市民による知識創造の可能性									●	●					
	ボランティア・「耕す知」と「共生」の探求									●	●					
	クリエイティブ・プロデュース論										●					
	大学をプロデュースする										●					
	オリンピック 東京からTOKYOへ										●					
	「婚活」現象を考える										●					
	社会で学ぶこと、立教生ができること								●	●	●					
	立教建学の理念から考える人権									●	●					
	Fiat lux: キリスト教霊性と文化											●				
	キャスターが教える “伝える力”											●				
	社会人への階段							●	●		●	●				
	ヒロシマ・ミナマタ・原発事故後の日本											●				
	大衆文化・社会論							●	●			●				
	立教OBOGの「社長の履歴書」										●	●				
	スポーツ観戦論											●				
	オリンピック×学生＝レボリューション											●				
	持続可能な地域社会を考える											●				
	新しい時代を生き抜く力												●			
	少女歌劇の100年							●	●	●	●	●	●			
	武力紛争を生きる人びと												●			
	オリンピックマーケティング												●			
	いのちと暮らしのジェンダー論												●			
	震災復興とコミュニティの再編							●	●	●	●	●	●			
	ヒトといきものたち												●			
	キャンパスデザインの思想と立教スピリット												●		●	
	2020年東京パラリンピック支援を考える												●		●	
	キリスト教と民衆文化												●		●	
	テレビという媒体													●		
	フィールドから考える現代世界の暴力と平和													●		
	キャスターが教える “コミュニケーション力”													●		
	戦後社会と原子力													●		
	グローバルの可能性													●		
	〈トランプ時代〉の解剖学													●		
	人の移動と人文学													●		
	しょうがい者の視点から捉え直す現代社会													●		
	Nativeと学ぶ社会開発													●		
領域別 A	経済学の基礎							●	●	●	●					
	経済政策の基礎							●	●	●	●					
	会計学の基礎							●	●	●	●					
	数学入門							●	●	●	●					
	物理学入門							●	●	●	●					
	化学入門							●	●	●	●					
	生命科学入門							●	●	●	●					
	社会学への招待 2							●	●	●	●					
	社会学への招待 3							●	●	●	●					
	政治の諸相							●	●	●	●					
	異文化コミュニケーション学への招待							●	●	●	●					

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入学者に適用)

科目群 カテゴリー	科目名	開講年度															
		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018			
領域別 A	地域・文化研究の世界							●	●	●	●						
	観光と社会							●	●	●	●						
	ウェルネスの科学							●	●	●	●						
	心身コンディショニング							●	●	●	●						
	心理学への招待1							●	●	●	●						
	心理学への招待2							●	●	●	●						
領域別 B	映像学への招待							●	●	●	●						
	キリスト教学を読む							●	●	●	●						
	文学を読む							●	●	●	●						
	哲学を読む							●	●	●	●						
	歴史を読む							●	●	●	●						
	地域を読む							●	●	●	●						
	教育を読む							●	●	●	●						
	経済学を読む							●	●	●	●						
	社会学を読む							●	●	●	●						
	法学文献講読							●	●	●	●						
	政治学文献講読							●	●	●	●						
	経営学文献レビュー							●	●	●	●						
	言語研究・言語教育研究レビュー							●	●	●	●						
	観光の捉え方							●	●	●	●						
	福祉社会を考える							●	●	●	●						
	競技スポーツの科学							●	●	●	●						
	こころの科学基礎文献講読							●	●	●	●						
	映像と身体について考える							●	●	●	●						
スポーツプログラム	スポーツプログラムA	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムB	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムC	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムD	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムE	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムF	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムG	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムH	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムI	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムJ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムK	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	スポーツプログラムL	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

2019年度 総合教育科目 開講科目一覧

2006～2011年度以降1年次入学者に適用
(2008～2013年度以降3年次編入学者に適用)

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

総合A

1. 人間の探究

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	聖書と人間	2	1・2・3・4	
	現代社会と人間	2	1・2・3・4	
	論理的思考法	2	1・2・3・4	
	教育と人間	2	1・2・3・4	
	多文化の世界	2	1・2・3・4	
	文化を生きる	2	1・2・3・4	
	アジアの文化とことば	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	ヨーロッパの文化とことば	2	1・2・3・4	
	ラテンアメリカの文化とことば	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	ロシア・東欧の文化とことば	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講
	中東の文化とことば	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	アフリカの文化とことば	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講
	イタリアの文化とことば	2	1・2・3・4	
	ドイツ語圏の文化	2	1・2・3・4	
	フランス語圏の文化	2	1・2・3・4	
	スペイン語圏の文化	2	1・2・3・4	
	中国語圏の文化	2	1・2・3・4	
	朝鮮語圏の文化	2	1・2・3・4	
	日本文化と精神性	2	1・2・3・4	
	現代社会における言葉の持つ意味	2	1・2・3・4	
R 宗教	仏教の世界	2	1・2・3・4	
R 宗教	日本の宗教	2	1・2・3・4	
R 宗教	イスラームの世界	2	1・2・3・4	
R 宗教	「宗教」とは何か	2	1・2・3・4	
R 人権	人権思想の根源	2	1・2・3・4	
R 人権	手話と人権を考える	2	1・2・3・4	
R 人権	点字から考える人権	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員30名
F	Japanese Ethnology	2	1・2・3・4	・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい

2. 社会への視点

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	入門・経済教室	2	1・2・3・4	
	統計情報で社会・経済を診断する	2	1・2・3・4	
	景気・格差問題と統計情報	2	1・2・3・4	
	政治と社会	2	1・2・3・4	・法学部所属学生は履修しても卒業要件単位とはならない

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入学者に適用)

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	グローバル社会における法と政治	2	1・2・3・4	
	企業と社会	2	1・2・3・4	
	現代社会と環境	2	1・2・3・4	
	情報と倫理	2	1・2・3・4	
	メディアと人間	2	1・2・3・4	
	文化と社会	2	1・2・3・4	
	シティズンシップを考える	2	1・2・3・4	
	市民活動の組織とマネジメント	2	1・2・3・4	
	デモクラシーとリベラルアーツ	2	1・2・3・4	
	国際情勢を読み解く	2	1・2・3・4	
	パレスチナ問題の歴史と現在	2	1・2・3・4	
	世界の中のロシア	2	1・2・3・4	
	ドイツ語圏の社会	2	1・2・3・4	
	フランス語圏の社会	2	1・2・3・4	
	スペイン語圏の社会	2	1・2・3・4	
	中国語圏の社会	2	1・2・3・4	
	朝鮮語圏の社会	2	1・2・3・4	
D	社会調査入門	2	1・2・3・4	・社会学部所属学生は履修不可 ・オンデマンド授業
D	社会調査の技法	2	1・2・3・4	・社会学部所属学生は履修不可 ・オンデマンド授業
D	データ分析入門	2	1・2・3・4	・オンデマンド授業
D	データの科学	2	1・2・3・4	・オンデマンド授業
D	多変量解析入門	2	1・2・3・4	・オンデマンド授業
D	Introduction to Statistics 1	2	1・2・3・4	・オンデマンド授業
D	Introduction to Statistics 2	2	1・2・3・4	・オンデマンド授業
	世界経済と日本	2	1・2・3・4	
	日本の「多文化」政策を問い直す	2	1・2・3・4	
	日本国憲法	2	1・2・3・4	・法学部所属学生は履修しても卒業要件単位とはならない
	スポーツとメディア	2	1・2・3・4	
R 大学	大学と現代社会	2	1・2・3・4	
R 大学	立教大学の歴史	2	1・2・3・4	
R 人権	ジェンダーとキリスト教	2	1・2・3・4	
R 人権	近代日本社会と人権	2	1・2・3・4	
F	Modern Japanese History 1	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Modern Japanese History 2	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Politics and Economy 1	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Politics and Economy 2	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Relations in Asia 1	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する

2006～2011年度1年次入学者に適用
(2008～2013年度3年次編入学者に適用)

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
F	Japanese Relations in Asia 2	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Society1	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Society2	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Tokyo Studies	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Saitama Studies	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する

3. 芸術・文化への招待

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	表象文化	2	1・2・3・4	
	美術の歴史	2	1・2・3・4	
	美術と社会	2	1・2・3・4	
	音楽の歴史	2	1・2・3・4	
	音楽と社会	2	1・2・3・4	
	美術論演習	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員30名
	音楽論演習	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員30名
	キリスト教美術	2	1・2・3・4	
	キリスト教音楽	2	1・2・3・4	
	都市と芸術	2	1・2・3・4	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	建築と文化	2	1・2・3・4	
	映像と社会	2	1・2・3・4	
	身体表現と哲学	2	1・2・3・4	
	ドイツ語圏の文学	2	1・2・3・4	
	フランス語圏の文学	2	1・2・3・4	
	スペイン語圏の文学	2	1・2・3・4	
	中国語圏の文学	2	1・2・3・4	
	朝鮮語圏の文学	2	1・2・3・4	
	日本の美術	2	1・2・3・4	
	日本の音楽	2	1・2・3・4	
	言葉と身体	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員30名
F	Japanese Culture 1	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Culture 2	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
F	Japanese Arts A	2	1・2・3・4	・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい
F	Japanese Arts B	2	1・2・3・4	・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい

4. 心身への着目

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	認知・行動・身体	2	1・2・3・4	
	心の科学	2	1・2・3・4	
	パーソナリティの心理	2	1・2・3・4	
	対人関係の心理	2	1・2・3・4	
	心の健康	2	1・2・3・4	
	ストレスマネジメント	2	1・2・3・4	
	癒しの科学	2	1・2・3・4	
	スポーツの科学	2	1・2・3・4	
	健康の科学	2	1・2・3・4	
	栄養の科学	2	1・2・3・4	
	アンチエイジングの科学	2	1・2・3・4	
	スポーツと社会	2	1・2・3・4	
	スポーツと文化	2	1・2・3・4	
	レジャー・レクリエーションと現代社会	2	1・2・3・4	
	舞踊論	2	1・2・3・4	
	脳と心	2	1・2・3・4	
F	Japanese Mind	2	1・2・3・4	・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい

5. 自然の理解

科目 特色 記号	科目名	単位数	配当年次	備考
	数学の世界	2	1・2・3・4	
	宇宙の科学	2	1・2・3・4	
	生命の科学	2	1・2・3・4	
	化学と自然	2	1・2・3・4	
	行動の科学	2	1・2・3・4	
	生命の歩み	2	1・2・3・4	
	人類の進化	2	1・2・3・4	
	地球の理解	2	1・2・3・4	
	情報科学A	2	1・2・3・4	
	情報科学B	2	1・2・3・4	
	自然環境の保全	2	1・2・3・4	
	生物の多様性	2	1・2・3・4	
	地球環境の未来	2	1・2・3・4	
	自然と人間の共生	2	1・2・3・4	
	アウトドアの知恵に学ぶ	2	1・2・3・4	
	物質の科学1	2	1・2・3・4	
	物質の科学2	2	1・2・3・4	
	化学と社会	2	1・2・3・4	
	宇宙から地球の未来を考える	2	1・2・3	・学外集中講義 ・他に聖路加国際大学学生が履修
R 人権	オーダーメイド医療最前線	2	1・2・3・4	
R 大学	大学と科学技術	2	1・2・3・4	
F	Science Studies	2	1・2・3・4	・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい

総合B

	科目名	単位数	配当年次	備考
1	睡眠文化論	2	1・2・3・4	
2	ボランティア論	2	1・2・3・4	
3	翻訳・通訳と現代社会	2	1・2・3・4	
4	こっち、あっちの人類学	2	1・2・3・4	
5	グローバルシティ・ソウルを読み解く	2	1・2・3・4	
6	立教OBOGの「社長の履歴書」	2	1・2・3・4	
7	音楽の生まれる場	2	1・2・3・4	
8	パトス・ロゴス・エトス	2	1・2・3・4	
9	市民が動く、社会が変わる	2	1・2・3・4	
10	演芸の世界	2	1・2・3・4	
11	Nativeから学ぶ海外の文化や社会問題	2	1・2・3・4	
12	哲学対話 in RIKKYO	2	1・2・3・4	
13	生・身体・テクノロジー・神	2	1・2・3・4	
14	より良き隣人へ：日本植民地研究の最前線	2	1・2・3・4	
15	文化の居場所を考える	2	1・2・3・4	
16	現在形の文化活動から考えるジェンダー論	2	1・2・3・4	
17	大衆演劇の世界	2	1・2・3・4	
18	歌と私と時代と	2	1・2・3・4	
19	ストレスから考える私たちの健康	2	1・2・3・4	
20	「観光立国」と日本の成長・地方創生	2	1・2・3・4	
21	観光学からみた東京	2	1・2・3・4	

領域別科目群

領域別A（講義系）

提供学部	科目名	単位数	配当年次	備考
文学部	キリスト教学への招待	2	1・2・3・4	・文学部所属学生履修不可
	文学への招待	2	1・2・3・4	
	哲学への招待	2	1・2・3・4	
	歴史学への招待	2	1・2・3・4	
	地域研究への招待	2	1・2・3・4	
	教育学への招待	2	1・2・3・4	
社会学部	社会学への招待 1	2	1・2・3・4	・社会学部所属学生履修不可
法学部	法への招待	2	1・2・3・4	・法学部所属学生履修不可
経営学部	経営学入門	2	1・2・3・4	・経営学部所属学生履修不可
観光学部	観光学への招待	2	1・2・3・4	・観光学部所属学生履修不可
コミュニティ福祉学部	コミュニティと福祉	2	1・2・3・4	・コミュニティ福祉学部所属学生履修不可
	いのちの尊厳と福祉	2	1・2・3・4	
現代心理学部	身体学への招待	2	1・2・3・4	・現代心理学部所属学生履修不可

立教生の学び方

科目名	単位数	配当年次	備考
立教生の学び方	2	1・2・3・4	・人数制限科目定員30名

スポーツ実習科目群

※担当者、開講学期、種目名および科目定員については、
当該年度のシラバス・時間割検索システムを確認すること。

スポーツプログラム

科目名	単位数	配当年次	備考
スポーツプログラム1 (レクリエーション系)	1	1・2・3・4	
スポーツプログラム2 (トレーニング系)		1・2・3・4	
スポーツプログラム3 (球技系)		1・2・3・4	
スポーツプログラム4 (学外で集中して実施する科目)		1・2・3・4	・4年次生は秋学期授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。

スポーツスタディ

科目名	単位数	配当年次	備考
スポーツスタディ1 (レクリエーション系)	1	1・2・3・4	
スポーツスタディ2 (トレーニング系)		1・2・3・4	
スポーツスタディ3 (球技系)		1・2・3・4	
スポーツスタディ4 (学外で集中して実施する科目)		1・2・3・4	・4年次生は秋学期授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。
スポーツスタディe (オンデマンド科目)		1・2・3・4	

スポーツ実習科目に関する注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレティックセンター（池袋キャンパス）／体育館1階（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。
なお、第1回目の授業より、実習が始まるので、運動が出来る服装を準備し、授業に出席すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内科目、屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレティックセンター入口（池袋キャンパス）／体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。
3. 4月に行われる定期健康診断を必ず受診しておくこと。

言語教育科目

2010年度～2015年度 1 年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

●言語教育科目について

- 1 言語教育科目とは
- 2 学部・学科別卒業要件単位数
- 3 必修科目に関する特別措置
- 4 履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置

●必修科目

- 1 英語
- 2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部のみ）
- 3 日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修・異文化コミュニケーション学部以外の外国人留学生のみ）
- 4 指定年次・学期以後の単位修得方法（英語単位認定試験、英語R、英語ディスカッション再履修）

●自由科目

- 1 自由科目 履修上の注意
- 2 言語副専攻
- 3 自由科目 科目一覧表
- 4 言語副専攻 学部展開科目 科目一覧
- 5 2010～2018年度に開講されていた自由科目

言語教育科目について

2010年度～2015年度 1 年次入学者に適用
(2012～2017年度 3 年次編入学者に適用)

1 言語教育科目とは

言語教育科目の特色

言語教育科目では、少人数クラスでの聞く・話す・読む・書くの基本的技能の訓練を通じて当該言語による専門的または日常的なコミュニケーションを可能にし、異文化対応能力を獲得する。

立教大学の全ての学生は、英語を含めて2つの言語を必修科目として履修しなければならない。英語は、大多数の学生にとって、中学校・高等学校を通じて学習してきた言語である。大学では、これまでの学習を基礎とし、各自の目的に応じて、運用能力を鍛えると同時に、異文化への理解を深めることによって、国際的な場で活躍できる英語の能力を養うことを目的とする。

英語以外のもう1つの言語は、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部のみ）・日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修・異文化コミュニケーション学部以外の外国人留学生のみ）の諸言語から学生が自らの関心や将来の計画に応じて選択する。これらの言語がめざすところは、英語圏以外の国・地域の人々が築き上げてきた社会や文化、ものの考え方などに言語を通じて触れることによって、世界が多文化であることの理解を深め、多様な視点を獲得することである。ただし、多くの学生にとっては大学入学後に初めてこれらの言語を学習することになるので、このような目的を達成するために必要な基礎作りから始めることになる。

言語教育科目には、必修科目に加えて、言語の学習をさらに深めたいと希望する学生のために多様な自由科目が用意されている。また、自由科目を含めた指定科目を規定単位数以上修得することで、その言語の副専攻修了が認定される。言語副専攻は、英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語で用意されている。

1. 必修科目

言語Aと言語B

1 年次で履修する言語A「英語」と、言語B「ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部のみ）・日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修・異文化コミュニケーション学部以外の外国人留学生のみ）」の中から選択した1言語」の計2言語が、必修科目として履修しなければならない科目である（学部・学科・専修により選択できない言語がある場合や、特定の言語が指定されている場合がある）。言語Bについては入学手続き時に希望を提出済みであり、時間割計画シートにて通知されるので、それに従うこと。なお、時間割計画シートは、学生証等交付時に配付する。

英語については、入学前にTOEFL® iBT, TOEIC®, IELTSの一定スコアを獲得している場合、本人の希望があれば申請により必修科目の全ての単位を認定し、履修を免除する。なお英語の必修科目履修免除は2011年度以降の入学者に適用となる特別措置で、かつ入学時のみの申請受付となる。

* TOEFL, TOEICはEducational Testing Service (ETS) の登録商標です。

※英語の必修科目履修免除は2016年度以降廃止。

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部のみ）については、すでに一定の学習歴がある者（既習者）に対して、本人の希望があれば、口頭試験および筆記試験をもって、必修科目の全ての単位を認定し、履修を免除することがある。

日本語を選択（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修・異文化コミュニケーション学部以外の外国人留学生のみ）した場合、本人の希望があれば、口頭試験および筆記試験により大学で学ぶための日本語能力が充分と認められた場合は、必修科目の全ての単位を認定し、履修を免除することがある。（2019年度以降廃止。）

なお、学習歴把握のため、以下の(1)～(3)のいずれかに該当する者は、2019年4月3日(水) 17:00までに所属キャンパスの教務窓口まで申し出ること。

- (1) 入試科目を英語以外の外国語科目で受験した者。
- (2) 中学校・高等学校、あるいは海外などで、英語以外の外国語を主として学習してきた者。
- (3) 外国人留学生入学試験により入学した、英語を母語としない者で、かつ英語学習歴がない者。

2. 自由科目

自由科目の中には、①さらに高度な言語運用能力の育成を目的とする科目、②その言語を使って文化・言語・情報処理に関する、より専門的な知識の修得を目的とする科目、③第3・第4の言語を学ぼうとする学生を対象とした入門的な科目がある(必修科目にはないが、ポルトガル語・日本手話も用意されている)。**1 自由科目 履修上の注意**に従い修得した単位は、各学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる(「全学共通カリキュラムの卒業要件単位数を超えて修得した単位の扱い」参照)。また、ドイツ語、フランス語の自由科目の中には、その科目の単位を修得すると次学期以降、文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の専門教育科目に接続できるものもある。

3. 言語副専攻

① 英語

英語必修科目を修了したのち、さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために、**2 言語副専攻**の制度が用意されている。原則として、必修科目修了後に、指定された自由科目等を履修し、規定単位数以上を修得すると、本人の申請に基づき、言語副専攻修了が認定される。

② 言語B

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語については、必修科目を修了したのち、さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために、「聞く・話す・読む・書く」それぞれの能力を体系的に養成する**2 言語副専攻**の制度が用意されている。原則として、当該言語の必修科目修了後に、指定された自由科目等を履修し、規定単位数以上を修得すると、本人の申請に基づき、言語副専攻修了が認定される。

2 学部・学科別卒業要件単位数

言語教育科目は、学部・学科・専修により、選択できる言語が異なる。以下の表で、自分の学部・学科・専修の英語とそれ以外の言語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語のうちの1つ）の履修単位数、履修チャート記号ならびに履修方法を確認すること。

学部	学科	言語	履修 チャート記号	卒業要件 単位数	
文	キリスト教 文：英米文学専修 文：日本文学専修 文：文芸・思想専修 史 教育	A 英語	A1	6	10
		B ドイツ語 フランス語 スペイン語 中国語 朝鮮語 ロシア語 日本語 ※留学生のみ	B1 J1 ※日本語のみ	4	
		A 英語	A1	6	
		B ドイツ語	B1	4	
	文：ドイツ文学専修	A 英語	A1	6	
		B フランス語	B1	4	
	文：フランス文学専修	A 英語	A1	6	
		B フランス語	B1	4	
経済 理 社会 法 経営 観光 コミュニティ 福祉 現代心理	全	A 英語	A1	6	10
		B ドイツ語 フランス語 スペイン語 中国語 朝鮮語 日本語 ※留学生のみ	B1 J1 ※日本語のみ	4	
		A 英語	A1	6	
異文化 コミュニケ ーション	全	A 英語	A1	6	10
		B ドイツ語 フランス語 スペイン語 中国語 朝鮮語	B1	4	

3 必修科目に関する特別措置

1. 英語

※2016年度以降は本制度廃止。

入学前に下表のスコアを獲得している者は、有効期限内のTOEFL® Examinee Score Report, TOEIC®公式認定証またはIELTS公式の成績証明書 (Test Report Form) の提示をもって、英語必修科目の全ての単位を認定し (評価はSとする) 履修を免除する。なお、申請は入学時のみであり、秋学期は受付を行わない。

言語	申請基準
英語	TOEFL® iBT 76点以上 ^{*1}
	TOEIC® 700点以上 ^{*2}
	IELTS 6.0以上 ^{*3}

* 1 TOEFL® ITPは不可

* 2 TOEIC® IP, TOEIC® SWテストは対象としない。

* 3 IELTSはアカデミック・モジュールのみを対象とし、ジェネラル・トレーニング・モジュールは対象としない。

※ 本学出願時に証明書原本を入学センターへ提出した者は、申請時に申し出ること。

※ 各証明書は原本とコピー両方を持参すること。

2. ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語 (文学部のみ) の既習者

以下の(1)あるいは(2)に該当する者は、教務事務センター (池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階) まで申し出ること。言語の変更結果および必修科目の履修免除者は、所属キャンパスの教務窓口で発表する。

(1) ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語 (文学部のみ) 学習経験者 (初級修了程度) で、当該言語を入学時の言語選択の際、第1希望にしていたにもかかわらず、抽選に外れた者。

⇒面接のうえ、言語の変更を認める場合がある。

(2) ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語 (文学部のみ) を必修科目として履修することになった者で、すでに一定の学習歴があり、次のAもしくはBに該当する者 (既習者)。

⇒当該言語必修科目の全ての単位を認定し (評価はSとする) 履修を免除する場合がある。

A：検定試験における一定の等級またはスコアを取得している場合

すでに一定の学習歴があり、かつ、入学前に下表に記載されている等級またはスコアを獲得している場合、その等級またはスコアおよび口頭・筆記試験をもって、当該言語必修科目の単位を認定し (評価はSとする)、履修を免除する場合がある。口頭・筆記試験に際しては、申請書および等級またはスコアを認定する証明書 (原本とそのコピー) を必ず持参すること。

【言語別申請基準および試験方法】

言語	申請基準	試験方法
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験4級以上	口頭・筆記試験
	Goethe-Zertifikat A2以上	
フランス語	実用フランス語技能検定試験3級以上	
	DELF A2以上	
スペイン語	TCF250点以上	
	スペイン語技能検定試験4級以上	
中国語	DELE A2以上	
	中国語検定試験4級以上	
朝鮮語	漢語水平考試 (HSK) 4級, 5級, 6級 各180点以上	
	「ハングル」能力検定試験4級以上	
ロシア語	韓国語能力試験2級以上	
	ロシア語能力検定試験4級以上	

※ 本学出願時に証明書原本を入学センターへ提出した者は、申請時に申し出ること。

※ 各証明書は原本とコピー両方を持参すること。

B：所定の等級もしくはスコアを取得していない場合

入学前に申請基準に示された等級またはスコアを取得していない学生でも、口頭・筆記試験の結果により一定の学習歴があることが認められた場合は、指定された期日までに等級またはスコアを取得することを条件に、当該科目の単位認定を行うことがある。口頭・筆記試験時に担当教員の指示に従うこと。

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

- | | |
|--------------------|---|
| 3. 文学部への転部・転科（専修）者 | 文学部文学科ドイツ文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した者および文学部文学科フランス文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した者で専修指定の言語Bを4単位修得していない者については、当該言語の言語Bの不足単位数分の単位を認定し、履修を免除する。成績は認定とする。 |
| 4. 外国人留学生 | <p>外国人留学生（外国人留学生入試による入学者）は、原則として言語Aは英語、言語Bはドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部のみ）・日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修・異文化コミュニケーション学部を除く）から1言語を選択（母語は不可）し、履修する。</p> <p>言語Bとして日本語を選択する学生で、入学前に日本語能力試験1級または日本語能力試験N1を取得し、かつ、口頭試験および筆記試験により大学で学ぶための日本語能力が充分と認められた場合は、日本語必修科目のすべての単位を認定し（評価はSとする）、履修を免除する。（2019年度以降廃止。）</p> |

4 履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置

- | | |
|---------------------------|--|
| 1. 英語
※2016年度以降は本制度廃止。 | 英語の必修科目履修免除（単位認定）者は、配当年次に達していない場合でも、1年次から英語自由科目の履修を認める。 |
| 2. 言語B | 言語B必修科目履修免除（単位認定）者は、配当年次に達していない場合でも、1年次から当該言語の自由科目の履修を認める。また、第3の言語として他の言語Bの1言語について1年次で「基礎～語入門」「基礎～語初級」を履修することを認める。 |
| 3. 自由科目の履修登録受付 | 上記1. 2. で、配当年次に達していなくても自由科目の履修が認められた場合は、登録受付をWebサイトではなく、教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）で行う。春・秋学期とも言語副専攻履修資格判定申請と同日程で行うので、希望者は申し出ること。 |
| 4. 文学部への転部・転科（専修）者 | <p>文学部文学科ドイツ文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した者および文学部文学科フランス文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した（以下転部等とする）者で、言語副専攻科目の履修を希望する場合は、以下の通りとする。</p> <p>＜転部等の前に選択していた言語B必修科目単位を全て修得済の場合＞</p> <p>転部等の前に選択していた言語Bの副専攻科目とドイツ語またはフランス語の言語副専攻科目の履修を認める。</p> <p>例えば、転部等の前に言語Bとしてドイツ語またはフランス語以外の言語を選択・履修しており、必修科目単位を全て修得してドイツ文学専修またはフランス文学専修に転部等した場合、転部前に修得した言語とドイツ語またはフランス語の2言語の副専攻科目の履修を認める。</p> <p>＜転部等の前に選択していた言語B必修科目単位に未修得がある場合＞</p> <p>ドイツ語またはフランス語の言語副専攻科目の履修を認める。</p> <p>転部等の前に選択していた言語Bと同じ言語の副専攻科目の履修を希望する場合は、各学期の抽選登録期間開始前に所属キャンパスの教務窓口で相談すること。</p> |

1 英語

1. カリキュラム
概要

現代社会においては、変化の激しい世界の状況を正しく認識していく力と、各自が生まれ育った文化や社会環境を正確に受け止め、それらを基にして自らの意見を積極的に発信していく能力が必要とされる。さらに、さまざまな分野でグローバル化しているなか、世界に広がる多様な文化を偏見のない視線で分析して受容する力を培うことが要求されている。必修英語では、このようなグローバル社会に対応した総合的かつバランスのとれたコミュニケーション能力を育成することを目的としている。

この目的を実現するために、世界情勢や異文化を英語で理解するうえで不可欠なリーディング力とリスニング力の強化をPCを利用した授業で行い、グローバル社会で必要とされる自らの意見を英語で発信していく能力を3種類の発信型授業で積極的に伸ばしていく。発信型授業の一つは、会話やディスカッションのスキルの向上を目指した1クラス8名程度のクラスである。授業は基本的表現の練習から始まり、その日の授業の最後には扱ったトピックについて自分の意見を英語で表現できるように訓練する。上位クラスでは、対象トピックについての情報交換を含め、より内容の濃いディスカッションを試みる。残りの2つの発信型授業では、それぞれプレゼンテーション能力とライティング力の向上を図る。プレゼンテーションのクラスでは、構成法をはじめとしたプレゼンテーション・スキルの習得を集中的に行う。さらに、リーディング活動をととして、社会問題や異文化理解等の様々なトピックについて情報を収集し、それらの情報を利用して自分の意見を口頭で発表する。ライティングのクラスでは、アカデミックな作文のルールにしたがって自分の意見を論理的にまとめていく。ライティングのクラスは文法的に正しい文章を書けるようにするという基本的な使命もある。

必修英語のクラスをととして、英語で国内外の様々な社会問題に関する情報を得、討論し、考え、発信する方法を学びながらオールラウンドな英語運用能力を身につけると同時に、社会問題を批判的かつ多角的に分析し、理解する能力を身につけることが期待される。

プレイスメントテストの結果により、1・2・3・4の4つのレベル*に分かれる。レベル1のクラスについては、科目によっては設置されない学部もある。レベル1・2のクラスでは、英語eラーニングを除いた全ての授業を英語で行う。レベル3・4のクラスでは授業は原則として英語で行う。

各科目内容の詳細は『シラバス』を参照すること。

*2010・2011年度はS・A・Bの3つのレベル

クラスの編成

①【英語ディスカッション（英語D1・英語D2）】（春学期・秋学期）

極少人数の学習環境で発言する機会を増やし、スピーキング力を徹底して強化することを目的とするクラス。特に、ディスカッションに必要な基本的表現を習得し、ディスカッションスキルの向上を図る。各授業の後半では、その回で学んだ表現を利用し、ディスカッションの内容を発展させて、自分の考えを適切な英語で述べられるようにする（すべて英語で指導）。

②【英語プレゼンテーション（英語P1・英語P2）】（春学期・秋学期）

プレゼンテーション活動を中心とした1クラス20名程度のクラス。語彙力およびリーディング力、リスニング力、スピーキング力の総合的な英語運用能力の育成を目的とする。プレゼンテーションの基本パターンの習得とともに、書き手の論理や意図を正確に読みとる訓練をし、読んだ内容についてプレゼンテーションができるようにする（原則としてすべて英語で指導）。

③【英語ライティング（英語W）】（春学期または秋学期）

ライティング力の強化を目的としたクラス。1クラス20名程度という、担当教員から十分なフィードバックが得られる学習環境のもと、文法的に正しい文を書けるだけでなく、パラグラフとしてまとめた文章を書けるようにする。文を組み立てるテクニックおよび書く時のルールやマナーも学ぶ（英語または日本語による指導）。

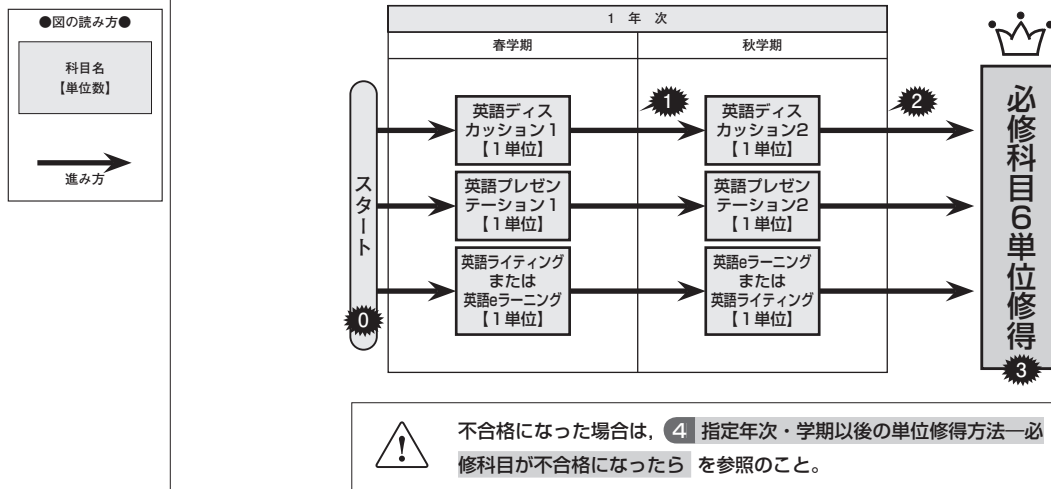
④【英語eラーニング（英語e）】（春学期または秋学期）

PCを活用した能力別個別英語学習プログラムによるリーディング力およびリスニング力を強化するクラス。自分のペースで学習を進め、弱点を補強し、得意とする部分を伸ばしていく。一人の教員（補助付き）の指導のもと、160名程度の学生が一斉に学習する。毎回、Evaluation Sheetに自分の学習進捗度を記録する。学期末までには、自主的および継続的な外国語学習の習慣を身につける（日本語による指導）。

2. 履修チャート

A1

各学期に履修する科目、単位数は以下の通り。



0 <履修クラスの発表について>

- 入学時のプレイメントテストの結果によって履修するクラスが決定される。
- クラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期の履修について>

- 1年次秋学期開始時には、英語ディスカッションのクラスの再編成を行う。なお、英語ディスカッションについてはクラスの再編成によって履修する曜日・時限も変わる場合があるので注意すること。

<1年次春学期科目が不合格になったら>

- 1年次春学期に履修した科目が不合格であっても、1年次秋学期の科目を履修すること。

2 <1年次科目が不合格になったら>

- 1年次に履修した科目が不合格であった場合（英語ディスカッションを除く）は、2年次春学期以降、英語単位認定試験を受験、もしくは英語再履修クラス（「以下、英語R」）を履修すること。英語単位認定試験を受験した、または、「英語R」を履修したにも関わらず、単位を修得できなかった場合は、次学期以降に行われる英語単位認定試験を再度受験または「英語R」の履修し、不足単位がなくなるまでこれを繰り返す。英語ディスカッションが不合格となった場合は、2年次以降、英語ディスカッション1については夏期（8月実施）、英語ディスカッション2については冬期（2月実施）に集中科目として再履修すること。



2020年度以降、英語ディスカッションの再履修は廃止する。必修科目の不足単位は全て英語単位認定試験、もしくは「英語R」で修得すること。

3 <必修科目を修得したら>

- 必修の6単位を修得（履修免除、英語単位認定試験および「英語R」で修得した場合も含む）後は、自由科目を履修し、さらに高度な運用能力を身につけることができる。指定された自由科目を履修し、規定の単位数以上を修得すると、本人の申請に基づき、言語副専攻修了が認定される。

2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部のみ）

1. カリキュラム

必修科目として履修するドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語で開講される科目は履修段階に応じておおむね以下のようになっている。各言語によって多少の違いがあるので詳細は、『シラバス』を参照すること。

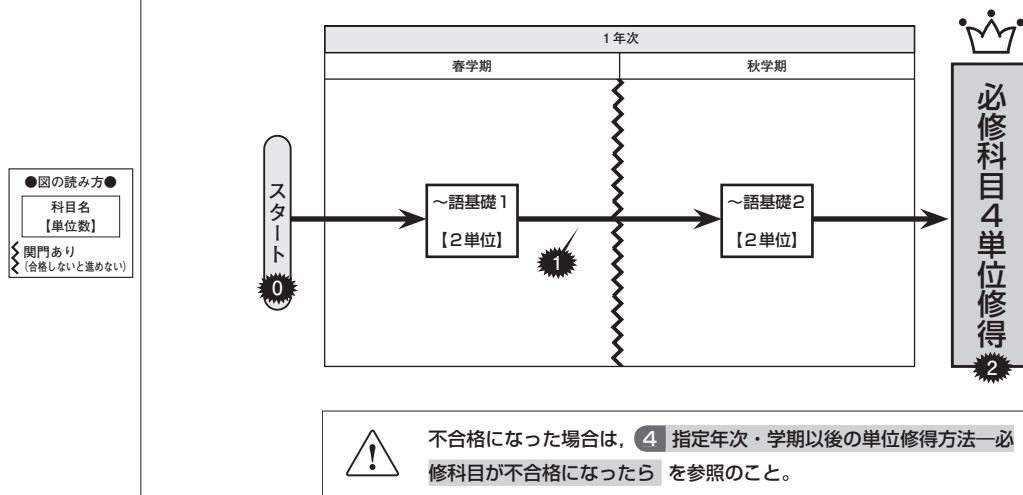
科目名	単位数	開講学期	配当年次	概要
～語基礎1	2	春	1	文字や発音を身につけ、比較的簡単な会話表現を通して初歩的な文法を学習する。
～語基礎2	2	秋	1	正確な発音の定着をはかるとともに、引き続き初級文法を学び、表現力の幅を広げる。また、「聞く・話す・読む・書く」という各技能の基礎を養成する。あわせて各言語圏の歴史や文化などについても学ぶ。

2. 履修チャート

B1

各学期に履修する科目、単位数は以下の通り。

科目名で「～語」と記載されているところは、各自の履修言語に従い、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語と読み替えること。



0 <言語の決定について>

- 言語およびクラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期のクラスについて>

- 「～語基礎2」は「～語基礎1」に合格しないと履修できない。
- 「～語基礎1」合格者は、春学期と同じクラス番号のクラスで「～語基礎2」を履修する。

2 <自由科目について>

- 必修科目を履修しながら、または、必修科目の単位修得後、自由科目を履修することができる。必修科目の単位修得後、さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために、言語副専攻の制度が用意されている。

3 日本語 (文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修・異文化コミュニケーション学部以外の外国人留学生のみ)

1. カリキュラム

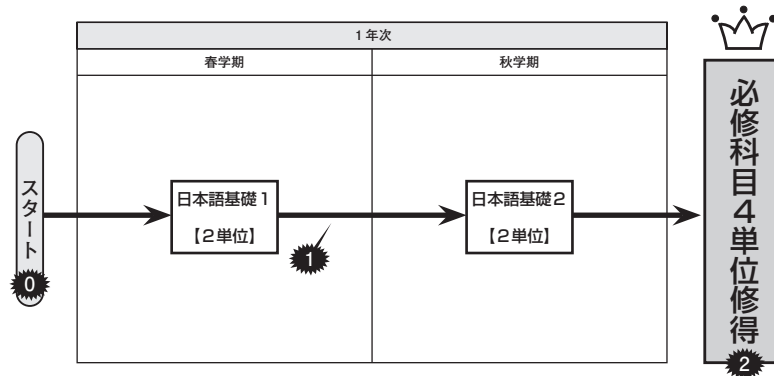
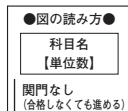
必修科目として履修する日本語で開講される科目は履修段階に応じておおむね以下のようになっている。詳細は、『シラバス』を参照すること。

科目名	内容	単位数	開講学期	配当年次	概要
日本語基礎1	Academic Japanese 1	2	春	1	大学における学習、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。具体的には、ノート・テーキングの方法、わかりやすく話すためのスキル練習、レポートの形式、機能別文型などについて学ぶ。
日本語基礎2	Academic Japanese 2	2	秋	1	プレゼンテーション用コンピュータソフトの使い方、資料検索の方法、テーマからレポートのまとめ方、AV機器を用いたプレゼンテーションのスキルなどについて学ぶ。

2. 履修チャート

J1

各学期に履修する科目、内容、単位数は以下の通り。



0 <言語の決定について>

- 言語およびクラスを変更することはできない。「日本語基礎1」「日本語基礎2」は個別指導。個別指導の詳細は対象者に通知する。

1 <1年次秋学期の履修について>

- 1年次秋学期開始時には、クラスの再編成は行わない。春学期と同じクラスで「日本語基礎2」を履修すること。

<1年次春学期科目が不合格になったら>

- 1年次春学期に履修した科目が不合格であっても、1年次秋学期の科目を春学期と同じクラス番号のクラスで履修すること。

2 <自由科目について>

- 必修科目を履修しながら、または、必修科目の単位修得後、自由科目を履修することができる。



不合格になった場合は、4 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が不合格になったらを参照のこと。

4

指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が不合格になったら(英語単位認定試験, 英語R, 英語ディスカッション再履修)

英語

英語ディスカッションを除く*英語必修科目が不合格となった場合は、英語単位認定試験を受験して、未修得となった科目の単位を修得する、あるいは英語再履修クラス「英語R」を履修し、未修得となった科目の単位を修得する。

英語必修科目不合格者の単位修得にあたっては、英語単位認定試験と英語再履修者クラス「英語R」とでは、受験(もしくは履修)できる回数が異なるため、修得できる単位数が異なることに注意すること。

英語ディスカッションが不合格となった場合は、2年次以降、英語ディスカッション1については夏期(8月実施)、英語ディスカッション2については冬期(2月実施)に集中科目として再履修する。



2020年度以降、英語ディスカッションの再履修は廃止する。必修科目の不足単位は全て英語単位認定試験、もしくは「英語R」で修得すること。

1 英語単位認定試験

英語単位認定試験は、英語必修科目(英語ディスカッションを除く*)の不足単位の修得を目的とした試験であり、全学共通カリキュラム運営センターが定めた期日に行う試験である。

受験者は、英語単位認定試験説明会に参加すること。詳細は全学共通カリキュラム掲示板で確認すること。

なお、休学等による未履修の必修科目がある場合、試験に合格してもその科目の単位に充当することはできない。

1. 対象者

以下のすべてを満たす者。

- (1) 英語必修科目(英語ディスカッションを除く*)の修得単位が4単位に満たない者。
- (2) 2年次生以上の者。
- (3) Rikkyo English Online (REO) の指定ユニット(課題I, 課題II)を期日までに終了した者。
- (4) 当該学期の「英語R」を履修登録していない者。

※ 2020年度以降、英語ディスカッションの未修得単位も英語単位認定試験の対象とする。

2. 実施概要

および

スケジュール

英語単位認定試験は、年2回、6月と11月に実施する。各回につき2種類の試験を実施し、それぞれの試験につき異なる課題が課される。

行 事	2019年6月実施	2019年11月実施
説明会	3月22日(金) 池袋 10:00~11:00 8202教室 新座 N852教室	7月10日(水) 池袋・新座 10:00~11:00 教室は全学共通カリキュラム掲示板にて発表
試験時間・試験場発表	4月3日(水) 全学共通カリキュラム掲示板	9月12日(木) 全学共通カリキュラム掲示板
事前学習期間 *学習期間は所属学部により異なる。	(課題I) 4月6日(土) 9:00~5月1日(水) 9:00 文・理・社会・異文化 12:00 12:00 経済・法・経営 15:00 15:00 観光・福祉・現代心理 (課題II) 5月4日(土) 9:00~5月29日(水) 9:00 文・理・社会・異文化 12:00 12:00 経済・法・経営 15:00 15:00 観光・福祉・現代心理	(課題I) 9月14日(土) 9:00~10月6日(日) 9:00 文・理・社会・異文化 12:00 12:00 経済・法・経営 15:00 15:00 観光・福祉・現代心理 (課題II) 10月8日(火) 9:00~10月30日(水) 9:00 文・理・社会・異文化 12:00 12:00 経済・法・経営 15:00 15:00 観光・福祉・現代心理
受験対象者発表	6月4日(火) 全学共通カリキュラム掲示板	11月5日(火) 全学共通カリキュラム掲示板
試験日	6月8日(土) 英語単位認定試験A 英語単位認定試験B	11月9日(土) 英語単位認定試験C 英語単位認定試験D
合格者発表	7月1日(月) 全学共通カリキュラム掲示板	12月2日(月) 全学共通カリキュラム掲示板
成績証明書への記載	[2019年度在籍者] 9月5日(木)~	[2020年度在籍者] 4月1日(水)~ [卒業合格発表対象者] 卒業式終了後~

注1) 履修登録は不要であり、各学部の定める履修登録上限単位数には含まれない。

注2) 英語単位認定試験の結果について内容的な問い合わせがある場合は、合格発表後1週間を期日として、教務事務センター(池袋: タッカーホール1階/新座: 7号館1階)に申し出ること。

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

3. 修得できる 単位数 および成績	1つの試験の合格につき1単位を修得できる。科目対応はしていない。1回の英語単位認定試験では、不足単位数にかかわらず前頁の表の通り2試験（各1単位、計2単位）まで受験できる。ただし、試験に合格した場合に認定される単位数は不足単位数分のみとする。合格した場合に成績参照画面ならびに証明書に記載される科目名は、「英語単位認定試験～（1単位）」となる（～にはA, B, C, Dのうち合格した試験が記される）。評価は「C」とする。
4. 英語単位認定 試験の受験資 格	Rikkyo English Online (REO) にアップロードされている教材のうち、指定のユニット（課題Ⅰ、課題Ⅱ）を期日までに終了させることが、英語単位認定試験の受験資格となっているので注意すること。 各学期の各試験につき、2回の事前学習期間を設ける。所定の期日までに全てのユニットを終えることが受験資格を得る要件となる。指定ユニットおよびそれぞれの学習完了指定期日等については、各学期の始めに、説明会およびREOの画面上で確認すること。
5. 受験手続	受験希望者は、試験当日、学生証を持って試験場に行くこと。 試験時間、試験場は全学共通カリキュラム掲示板に掲示するので、事前に確認しておくこと。
6. 試験問題形式	リーディングとリスニングの総合問題（文法・語彙含む。マークシート形式）。 持ち込みは不可とする。 問題はRikkyo English Online (REO) にアップロードされている「スーパー英語」の教材のうち、事前学習において指定されたユニットをベースに出題される。（詳細は4. 英語単位認定試験の受験資格を参照すること。）
7. 受験上の注意	(1) 試験当日は、学生証・HBの鉛筆・消しゴム・ペンまたはボールペンを必ず持参すること。 (2) 遅刻者の入室は許可しない。ただし、試験開始後15分以内の遅刻者は、監督者の許可を得て入室できるものとする。なお、交通機関の遅延による遅刻の場合は、試験開始後30分まで、入室を許可することもある（交通機関発行の遅延証明書の提出が必要）。 (3) 試験当日、学生証を忘れた学生には臨時学生証（500円）を発行するので、所属キャンパスの教務窓口へ時間に余裕を持って申し出ること。
8. 追試験	英語単位認定試験は、追試験を行わない。
9. 不正行為	(1) 試験は学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。 (2) 受験中不正行為を行った者は、直ちに退場させられる。 (3) 英語単位認定試験を受験中に不正行為を行った者は、同日に行われる試験を含め、当該試験期間（6月実施：春学期末試験終了まで、11月実施：秋学期末試験終了まで）の筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績は全て不合格となる。 (4) 不正行為を行った者の当該試験期間の成績は、筆記試験以外の方法のみによって成績評価をする科目（レポート・レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目）について有効とする。ただし、処分決定後は、不正行為以後の全ての受験資格を喪失する。 (5) 春学期末または秋学期末試験期間に不正行為を行った場合、6月または11月に受験した英語単位認定試験の受験資格をさかのぼって失い、合格は取り消される。 (6) 不正行為を行った者の処分は、当該学生の所属学部教授会が決定する。 (7) 不正行為に対する処分は、訓告、停学、退学の3種類とする。 不正行為の処分は、原則として停学とする。

2 英語再履修クラス「英語R」の履修

英語必修科目（英語ディスカッションを除く[※]）について、再履修クラス「英語R」を履修することができる。このクラスでは、基礎的な英語力を身につけることを目的とする。このため、1回のみの履修を許可することとし、このクラスを履修したことで修得できる単位は1単位までとする。また、「英語R」を履修した場合、当該学期の英語単位認定試験を受験することはできないため、間違えないよう手続きをすること。

1. 対象者

以下のすべてを満たす者。

- (1) 英語必修科目（英語ディスカッションを除く[※]）の修得単位が4単位に満たない者。
- (2) 2年次生以上の者。
- (3) 春学期は3月、秋学期は9月に開催予定の説明会に出席した者。

※ 2020年度以降、英語ディスカッションの未修得単位も「英語R」の対象とする。

2. 実施概要およびスケジュール

行 事	2019年度春学期	2019年度秋学期
説明会	3月22日（金） 池袋 8202 新座 N852 10:00～11:00	7月10日（水） 池袋・新座 10:00～11:00 教室は全学共通カリキュラム掲示板にて発表
履修登録申請	3月22日（金）～3月25日（月）16:30 教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）	9月5日（木）～9月9日（月）16:00
履修許可者発表	3月30日（土）	9月17日（火） 履修登録状況画面で発表

3. 履修に関する注意事項

- (1) 履修登録および履修許可

履修希望者は、説明会に必ず出席し、説明会で配付する「履修希望届」に必要事項を記入の上、指定の期日までに教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）に提出すること。締切日時を過ぎてからの提出は、一切受け付けない。

- (2) 成績評価方法・基準

『シラバス』を参照のこと。

- (3) 修得できる単位数および評価

「英語R」を履修した場合は、当該学期の英語単位認定試験を受験することはできない。「英語R」は1クラスしか履修できないため、履修した場合の当該学期の英語（ディスカッション科目を除く[※]）の修得可能な単位は1単位となる。合格した場合に成績参照画面ならびに証明書に記載される科目名は、「英語R（1単位）」となる。評価は「C」とする。不足単位が2単位以上ある場合は、次学期以降に **1 英語単位認定試験** を受験し、不足単位を修得することになる。

- (4) 重複履修

すでに「英語R」にて単位修得している場合は、「英語R」を再度履修することはできない。

- (5) 履修登録上限単位

「英語R」は、「その他登録」となり、履修登録上限単位数に含まれる。

- (6) 履修取消およびクラス変更

いかなる理由があっても「英語R」の履修取消、クラス変更はできない。

3 英語ディスカッションの再履修

2年次以降、春学期「英語ディスカッション1」不合格者は夏期（8月実施）、秋学期「英語ディスカッション2」不合格者は冬期（2月実施）に、集中科目として再履修する。再度「英語ディスカッション1／2」が不合格となった場合も、同じように履修する。授業の日程は下記の通り。

「英語ディスカッション1」

春学期：2019年8月1日（木）～8月7日（水）（土日は除く）

「英語ディスカッション2」

秋学期：2020年2月17日（月）～2月21日（金）

または

2020年2月25日（火）～2月29日（土）

いずれの日も1時限8：50～10：30、2時限10：45～12：25、3時限13：40～15：20で行う。通常の時間割とは異なるので注意すること。

クラスは、指定され、自動登録される。各学期の授業開始前に履修登録状況画面を確認すること。

※英語ディスカッション2を再履修する4年次生の成績発表は追試験結果発表と同じ2020年3月13日（金）となる。



2020年度以降、英語ディスカッションの再履修クラスは廃止する。必修科目の不足単位は全て英語単位認定試験、もしくは「英語R」で修得すること。

言語B

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語については、不合格になった場合、不合格となった科目の指定されたクラスで再履修することにより、未修得となった単位を修得する。以下に注意すること。

- 春学期開講科目、秋学期開講科目とも、それぞれの授業開始前に各自の履修するクラス・担当者を履修登録状況画面で発表する。春・秋学期でクラス・担当者が変わる場合があるので充分注意すること。
- 秋学期開講科目について、履修するクラスは秋学期授業開始前に発表されるが、所属学部別に指定される曜日・時限が「シラバス・時間割検索システム」に記載されているので、1年間の履修計画を立てる際に、確認しておくこと。

それぞれの学期に再履修可能な科目は、下表の通り。履修方法の詳細については、再履修チャート記号に従って、次頁以降を参照すること。

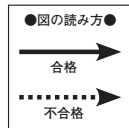
年次・学期 科目	1年次		2年次		3年次		4年次		不合格になったら (再履修チャート記号)
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
～語基礎1	◎	×	●	×	●	×	●	×	X1 (日本語はX3)
「～語基礎1」に合格しないと「～語基礎2」を履修することはできない。 ただし、日本語については「日本語基礎1」の合格・不合格にかかわらず 「日本語基礎2」を履修することができる。									
～語基礎2	×	◎	×	●	×	●	×	●	X2 (日本語はX3)

◎……配当年次・学期

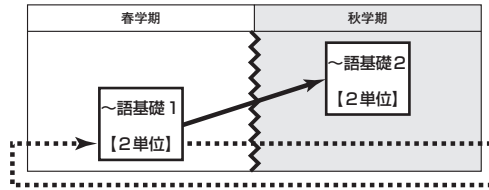
●……再履修クラスが指定され、自動登録される

×……当該学期には開講されていないため履修不可

1. 「～語基礎1」
が不合格にな
ったら
(日本語を除く)

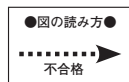


X1

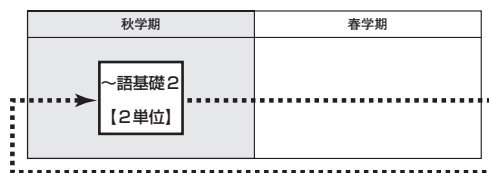


- 「～語基礎1」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「～語基礎1」を履修する。再度「～語基礎1」が不合格となった場合も、同じように履修する。合格するまで、秋学期に開講される「～語基礎2」を履修することはできない。
- 履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

2. 「～語基礎2」
が不合格にな
ったら
(日本語を除く)

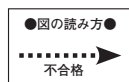


X2

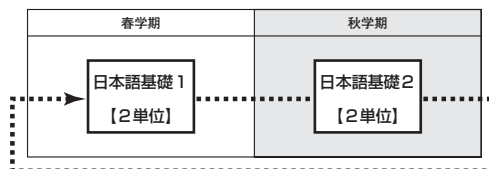


- 「～語基礎2」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「～語基礎2」を履修する。再度「～語基礎2」が不合格となった場合も、同じように履修する。
- 履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

3. 「日本語基礎1」
「日本語基礎2」
が不合格にな
ったら



X3



- 「日本語基礎1」が不合格になった場合、次年度春学期に指定されたクラスで「日本語基礎1」を履修する。再度「日本語基礎1」が不合格となった場合も、同じように履修する。合格・不合格に関わらず、秋学期に開講される「日本語基礎2」を履修することができる。
- 「日本語基礎2」が不合格になった場合、次年度秋学期に指定されたクラスで「日本語基礎2」を履修する。再度「日本語基礎2」が不合格となった場合も、同じように履修する。
- 履修クラスは個別指導となり、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

自由科目

2010年度～2015年度 1 年次入学者に適用
(2012～2017年度 3 年次編入学者に適用)

1 自由科目 履修上の注意

1. 自由科目の履修について

自由科目には、履修資格が定められている科目や履修者決定のための選抜を行う科目もあるので、「科目一覧表」をよく読み履修計画を立てること。
2. 同一科目の重複履修について

同一科目は、1 学期に 1 つしか履修できない。ただし、学期を変えれば 2 度以上履修することができるが、その場合には最初に単位を修得した 1 科目のみが所属学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。

同一科目とは、科目の名称（番号および括弧内の名称を含む）、単位数が同一のものである。

したがって、担当者が同じでも科目の名称が一部でも異なる場合には別科目となる。逆に担当者や授業の内容が異なっても、科目の名称が同じであれば、同一科目である。

(例) 「English through Movies A」(担当教員 A) と「English through Movies B」(担当教員 A) は別科目である。

「TOEFL 2 (reading)」(担当教員 A) と「TOEFL 2 (listening)」(担当教員 A) は別科目である。

「Current English 1 (reading)」(担当教員 A) と「Current English 1 (reading)」(担当教員 B) は同一科目である。
3. 自由科目の修得単位の扱いについて
 - (1) 言語教育科目の自由科目として修得した単位は、言語 A あるいは言語 B の必修科目としては認定されない。
 - (2) 重複履修等の規定に従い修得した単位は、所属学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。

2 言語副専攻

1. 言語副専攻
 - (1) 英語

指定された英語の自由科目を履修し、規定の単位数以上を修得すると、本人の申請に基づき、言語副専攻修了が認定される。

以下の日程で説明会を実施するので、履修を考えている者は参加すること。

2019年3月22日（金）13：00～13：40 （池袋：8202教室 新座：N852教室）

2019年3月26日（火）13：00～13：40 （池袋：7102教室 新座：N852教室）
- 英語力伸長度測定テストの受験**
- 2019年度に在学する学生は以下の日程で英語力伸長度測定テスト（TOEIC® L&R IP）を受験することができる。
- 受験の結果、規定以上のスコアを獲得できた際には、基準点が定められている言語副専攻科目の履修資格判定の申請に利用することができる。詳細は別途全学共通科目・カリキュラム掲示板で発表する。
- 受験にあたっては事前に申込が必要となるため、自宅宛に発送（4 月度は 2 月中旬、12 月度は 10 月下旬）される受験案内はがきを確認すること。受験会場等の詳細は全学共通カリキュラムホームページ、全学共通カリキュラム掲示板にて確認すること。
- 【日程】 春学期：2019年4月13日（土）
秋学期：2019年12月7日（土）

1. 2 年次生以上

2010年度～2015年度 1 年次入学者に適用
(2012～2017年度 3 年次編入入学者に適用)

言語副専攻(英語)

* 科目名等の後にある() 内数字は単位数

ステージ	ステージ1		ステージ2	ステージ3	ステージ4
プログラム	必修科目		自由科目 言語副専攻 (選択)		
履修年次	1 年次春学期	1 年次秋学期	2 年次～4 年次		
コース・科目名	英語ディスカッション1(1) 英語プレゼンテーション1(1) 英語ライティング(1)または 英語ラーニング(1)	英語ディスカッション2(1) 英語プレゼンテーション2(1) 英語ライティング(1)または 英語ラーニング(1)	基準点 / TOEFL® iBT60点・TOEFL® ITP (Level 1)500点・TOEIC®(または TOEIC® IP)570点・GTEC250点 IELTS5.5 インテンシブ・コース(16) インディペンデント・コース(16) *学部展開科目・留学認定科目含む	基準点 / TOEFL® iBT76点・TOEFL® ITP (Level 1)540点・TOEIC®(または TOEIC® IP)700点・GTEC300点 IELTS6.0 アドバンスト・コース(8) *学部展開科目・留学認定科目含む	基準点 / TOEFL® iBT87点・TOEFL® ITP (Level 1)570点・TOEIC®(または TOEIC® IP)785点・GTEC325点・IELTS6.5 オナーズ・コース(8) *留学認定科目含む

- () 内の数字は単位数 ※原則として、必修科目修了後に言語副専攻に進む。また、ステージ2、ステージ3、ステージ4へと順に進む(原則として先修制だが、所定の要件を満たしていればスキップ制度を利用できる。[3. スキップ制度について]を参照)。
※「インテンシブ・コース」および「アドバンスト・コース」の科目を履修する場合、上表に提示された基準点を取得していることを目安とし、履修登録前に履修資格判定のための申請手続きなどが必要となる。
※各コースの修了要件単位を満たし、修了認定(修了証書授与)を受けたい場合には、指定された期日に修了認定の申請を行う必要がある。
※TOEIC® SW, TOEIC® IPは対象としない。GTECはListeningとReadingの合計点のみを対象とする。IELTSはアカデミック・モジュールのみを対象とする。

(2) ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語

自由科目において、言語副専攻科目として指定された科目を履修し、規定の単位数以上を修得すると、本人の申請に基づき、言語副専攻修了が認定される。

言語副専攻(ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語)

* 科目名の後にある() 内数字は単位数

スキル科目		言語B 必修科目		自由科目 言語副専攻(スキル科目1 2単位+関連科目4単位=1 6単位)			
				基礎科目(4単位)		コア科目(8単位)	
		1年次春学期	1年次秋学期	(2年次～)春学期	(2年次～)秋学期	(3年次～)春学期	(3年次～)秋学期
		～語基礎1(2)	～語基礎2(2)	～語中級1(2)	～語中級2(2)	上級～語コミュニケーション1(2) 上級～語ライティング1(2) 上級～語リスニング・リーディング1(2) 上級～語演習1(2)	上級～語コミュニケーション2(2) 上級～語ライティング2(2) 上級～語リスニング・リーディング2(2) 上級～語演習2(2)
～語スタンダード1(1)	～語スタンダード3(1)						
～語スタンダード2(1)	～語スタンダード4(1)						
		～語海外言語文化研修(中級)(2)夏期(集中) 中国語海外言語文化研修春(中級)(2)冬期(集中)			～語海外言語文化研修(上級)(2)夏期(集中) 中国語海外言語文化研修春(上級)(2)冬期(集中)		
* 関連科目 (4単位)	全カリ総合科目 (2～4単位)	～語圏の文化(2) ～語圏の社会(2) ～語圏の文学(2)					
	その他指定された 科目(0～2単位)	言語情報処理論(～語)(2)					

- ※～語は、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語とそれぞれ読み替える。
※原則として、必修科目修了後に言語副専攻に進む(「基礎～語入門」「基礎～語初級」は同じ言語の副専攻に進むための必修科目と同等に扱う)。また、原則として基礎科目修了後にコア科目に進む(先修制)が、所定の要件を満たしていればスキップ制度を利用できる。[3. スキップ制度について]を参照。
※学部専門教育科目の一部も、言語副専攻の修了要件単位に算入することができる。
※留学認定科目も、言語副専攻の修了要件単位に算入することができる。
※～語情報処理(2012年度にて廃止)も言語副専攻の修了要件単位に算入することができる。

* 1・2 年次春学期に言語副専攻基礎科目 4 単位を修得し終えた場合の措置

春学期に言語副専攻基礎科目を 4 単位修得し、秋学期からコア科目の履修を希望する 1・2 年次生は、秋学期履修登録時に事前申請を行うことで履修を認める場合がある。希望者は2019年9月5日(木)～9日(月)に申請書と成績参照画面をプリントアウトしたものを提出すること。なお、申請書は教務事務センター(池袋：タッカーホール 1 階 / 新座：7 号館 1 階)で配付する。

* 言語副専攻関連科目群：

言語自由科目以外の科目も含めた、言語副専攻の関連科目として指定された科目群であり、言語副専攻修了のためには、全カリ総合科目(2～4 単位)とその他指定された科目(0～2 単位)を合わせて 4 単位を修得する必要がある。なお、全カリ総合教育科目のうち関連科目となる科目は次頁の表のとおり。

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

【池袋キャンパス開講科目】

言語	科目名	単位
ドイツ語	ドイツ語圏の文化	2
	ドイツ語圏の社会	2
	ドイツ語圏の文学	2
フランス語	フランス語圏の文化	2
	フランス語圏の社会	2
	フランス語圏の文学	2
スペイン語	スペイン語圏の文化	2
	スペイン語圏の社会	2
	スペイン語圏の文学	2
中国語	中国語圏の文化	2
	中国語圏の社会	2
	中国語圏の文学	2
朝鮮語	朝鮮語圏の文化	2
	朝鮮語圏の社会	2
	朝鮮語圏の文学	2

【新座キャンパス開講科目】

言語	科目名	単位
ドイツ語	ドイツ語圏の文化 (N)	2
	ドイツ語圏の社会 (N)	2
	ドイツ語圏の文学 (N)	2
フランス語	フランス語圏の文化 (N)	2
	フランス語圏の社会 (N)	2
	フランス語圏の文学 (N)	2
スペイン語	スペイン語圏の文化 (N)	2
	スペイン語圏の社会 (N)	2
	スペイン語圏の文学 (N)	2
中国語	中国語圏の文化 (N)	2
	中国語圏の社会 (N)	2
	中国語圏の文学 (N)	2
朝鮮語	朝鮮語圏の文化 (N)	2
	朝鮮語圏の社会 (N)	2
	朝鮮語圏の文学 (N)	2

2010年度～2015年度 1 年次入学者に適用
(2012～2017年度 3 年次編入入学者に適用)

言語副専攻申請2019年スケジュール等

①2010～2015年度 1 年次入学者

英語	申請内容	履修資格判定申請, スキップ制度適用申請(インテンシブ・コース,アドバンスト・コース,オナーズ・コース)
	必要手続	英語副専攻専用Web(https://emp.rikkyo.ac.jp)にて履修資格判定申請, スキップ制度適用申請の手続を行うこと。
	申請受付期間	【英語副専攻Web】 <春学期>3月19日(火)10:00～3月28日(木)23:59,<秋学期>9月5日(木)10:00～9月8日(日)23:59
	結果発表・日時	<春学期>3月30日(土)16:00,<秋学期>9月10日(火)16:00 英語副専攻専用Web画面
	備考	2009年度以前1年次入学者も言語副専攻科目の履修を希望する場合は上記に準じる。 履修を希望する者は, 履修登録申請も必ず行うこと。
	申請内容	履修登録申請(インテンシブ・コース,アドバンスト・コース,オナーズ・コース)
	必要書類・手続	英語副専攻専用Web上に履修登録申請手続を行うこと。 ※インディペンデント・コース科目は抽選登録期間に履修登録システムより申請すること。
	申請受付期間・場所	【英語副専攻Web】 <春学期>3月19日(火)10:00～3月28日(木)23:59,<秋学期>9月5日(木)10:00～9月8日(日)23:59
	結果発表・日時	<春学期>3月30日(土)16:00,<秋学期>9月10日(火)16:00 英語副専攻専用Web画面
	備考	2009年度以前1年次入学者も言語副専攻科目の履修を希望する場合は上記に準じる。
	申請内容	言語副専攻修了認定申請(インディペンデント・コース,インテンシブ・コース,アドバンスト・コース,オナーズ・コース)
	必要書類・手続	英語副専攻専用Web上に修了認定申請手続を行うこと。
	申請受付期間・場所	【英語副専攻Web】 <春学期>3月19日(火)10:00～3月28日(木)23:59,<秋学期>9月5日(木)10:00～9月8日(日)23:59
	結果発表・日時	<春学期>3月30日(土)16:00,<秋学期>9月10日(火)16:00 英語副専攻専用Web画面
	備考	2009年度以前1年次入学者も言語副専攻科目の履修のために,言語副専攻修了と同等であることが求められている場合,上記に準じて申請すること。

ドイツ語 フランス語 スペイン語 中国語 朝鮮語	申請内容	履修資格判定申請, スキップ制度適用申請(第3言語としての言語副専攻含む)
	必要書類・手続	①言語副専攻【ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語】スキップ制度申請書兼履修希望科目申請書 ②語学力,スコア等を証明する証明書など(原本とそのコピー) ③成績参照画面を印刷したもの
	申請受付期間・場所	<春学期>3月19日(火)～3月29日(金),<秋学期>9月5日(木)～9月9日(月) 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階)※書類受付時間は窓口開室日・時間に準ずる。
	結果発表・日時	<春学期>4月1日(月)13:00,<秋学期>9月11日(水)10:00 全学共通カリキュラム掲示板
	備考	2009年度以前1年次入学者は対象外。
	申請内容	履修登録申請
	必要書類・手続	抽選登録期間に履修登録システムより申請すること。 ※ただし配当年次に達していないが自由科目の履修が認められた者は登録受付をWebサイトではなく,教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階)で行う。履修資格判定申請, スキップ制度適用申請と同日程で行うので希望者は下記のとおり申し出ること。
	申請受付期間・場所	<春学期>3月19日(火)～3月29日(金),<秋学期>9月5日(木)～9月9日(月) 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階)※書類受付時間は窓口開室日・時間に準ずる。 上段の※印対象者(配当年次に達していないが自由科目の履修が認められた者)は申請期間・手続が異なるため注意すること。それ以外の者は抽選登録期間を確認すること。
	結果発表・日時	<春学期>,<秋学期>ともに履修登録システムより結果を確認すること。
	備考	2009年度以前1年次入学者は対象外。
	申請内容	言語副専攻修了認定申請
	必要書類・手続	①言語副専攻【ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語】修了認定申請書 ②成績参照画面を印刷したもの ③学生証
	申請受付期間・場所	<春学期>3月19日(火)～3月29日(金),<秋学期>9月5日(木)～9月9日(月) 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階)※書類受付時間は窓口開室日・時間に準ずる。
	結果発表・日時	<春学期>4月1日(月)13:00,<秋学期>9月11日(水)10:00 全学共通カリキュラム掲示板
	備考	2009年度以前1年次入学者は対象外。

※語学力, スコアなどの証明書の有効期限は2年(テスト受験日が, 春学期申請時は2017年4月1日以降, 秋学期申請時は2017年9月1日以降のもの)とする。ただし, 言語Bで2017年3月31日以前(秋学期に申請する者は2017年8月31日以前)にスコアを修得している学生についても等級またはスコアによってはスキップ制度を適用し基礎科目群の履修をすることなくコア科目群の履修を認める場合がある。

※4年次生は秋学期の言語副専攻修了認定を次の期間に受け付ける。

2020年2月28日(金)～3月2日(月)

英語は英語副専攻専用Webにて, 言語Bは教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階)にて申請すること。ただし書類受付時間は窓口開室日・時間に準ずる。

2. 修了要件単位
数および修了
認定の申請に
ついて

(1) 英語

下表のとおり、各区分で指定された単位数以上修得すること。

言語副専攻インテンシブ・コース または 言語副専攻インディペンデント・コース	(インテンシブ・コース) 春学期8単位 秋学期8単位 (インディペンデント・コース) 16単位
言語副専攻アドバンスト・コース	8単位
言語副専攻オナーズ・コース	8単位

※留学認定科目は以下のとおり言語副専攻修了の単位に含むことができる（●は単位数）。

- ・留学認定英自N●＝インディペンデント・コース
- ・留学認定英自A●＝アドバンスト・コース
- ・留学認定英自H●＝オナーズ・コース

※インテンシブ・コース科目の履修開始学期は春・秋学期問わないが、コース修了には春学期1セット・秋学期1セットの科目履修が必要となる。春学期科目または秋学期科目のみを2回以上履修しても、コース修了としては認定されない。

※インディペンデント・コースの科目はレベルⅠ、レベルⅡに分かれており、16単位のうちレベルⅡ科目を6単位以上修得すること。

※「英語海外文化研修」の単位を修得した者は、その単位をインディペンデント・コースの修了要件として算入することができる。

※ケント州立大学、セントクラウド州立大学、留学プログラムで認定された単位は、所定の手続きにより全学共通カリキュラム言語教育科目「自由科目（英語）」の単位として認められる場合がある。この単位は、各学部の規定の範囲内で、卒業要件単位として認められる。なお、認定された単位は申請により、言語副専攻（英語）インディペンデント・コース修了要件単位として認められる。

(2) ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語

下表のとおり、指定された単位数以上修得すること。

言語副専攻基礎科目群	4単位
言語副専攻コア科目群	8単位
言語副専攻関連科目群	4単位
言語副専攻修了	合計16単位

※留学認定科目は以下のとおり言語副専攻修了の単位に含むことができる（～は言語名、●は単位数）。

- ・留学認定～自K●＝基礎科目群
- ・留学認定～自C●＝コア科目群
- （留学認定～語自●は、必修科目相当として扱われる）

(3) 修了認定の申請

修了認定申請を希望する者は、必要書類を持参の上、定められた期間に申請すること。

※英語の修了認定申請は英語副専攻専用Webにて行う。

(4) 注意点

言語副専攻科目として開講されている科目を重複履修した場合には、最初に単位を修得した1科目のみが言語副専攻修了要件として算入される。言語副専攻修了申請にあたっては、言語A・言語B必修科目を修得済であることを条件とする。

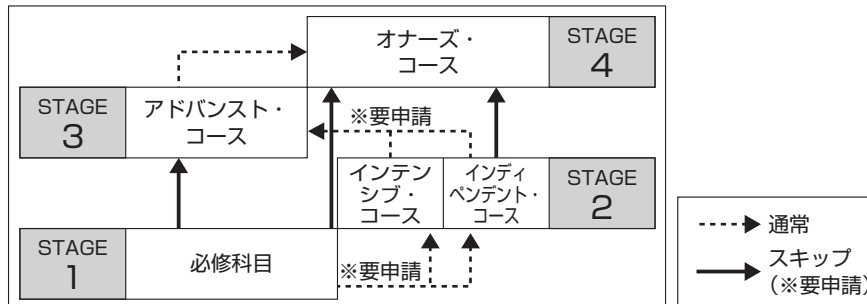
※派遣留学および認定校留学後の単位認定により認められた単位を、言語副専攻の修了要件単位として認める場合がある（単位認定申請より前に言語A・言語B必修科目を修得済であること。ただし、2016年度まで実施していた国際交流制度短期英語研修プログラムは除く）。留学は期間の長短にかかわらず、一つの学期とみなし、その学期（留学）の開始以前に言語副専攻の各コース（科目群）の履修資格を満たしていれば、当該コースの科目として判定ができる。また、上位コース（科目群）の履修資格を満たしている場合は、科目内容によって、下位コース（科目群）の科目としての判定もできる。

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入入学者に適用)

3. スキップ制度
について
(英語・ドイツ
語・フランス
語・スペイン
語・中国語・
朝鮮語)

(1) 英語

下表の申請基準を満たしている者は、春学期・秋学期の定められた期間に、英語副専攻専用Webよりスキップ申請を行うことで該当ステージから履修することができる。ただし、スキップしたコースの科目も履修することができる（例：ステージ1からステージ3にスキップを認められた者は、ステージ2の科目の履修資格も有する。同様にステージ2からステージ4にスキップを認められた者は、ステージ3の履修資格も有する。またステージ1からステージ4へのスキップを認められた者は、ステージ2、3の履修資格も有する）。



コース	申請基準
アドバンスト・コース	TOEFL® iBT 76点以上, TOEFL® ITP (Level1) 540点以上
	TOEIC® (またはTOEIC® IP) 700点以上*1
	GTEC 300点以上*2
	IELTS 6.0以上*3
オナーズ・コース	TOEFL® iBT 87点以上, TOEFL® ITP (Level1) 570点以上
	TOEIC® (またはTOEIC® IP) 785点以上*1
	GTEC 325点以上*2
	IELTS 6.5以上*3

*2014年度よりSTAGE1からSTAGE4へのスキップ制度が導入された。

*1 TOEIC® SWテスト, TOEIC® SW IPテストは対象としない。

*2 GTECはListeningとReadingの合計点のみを対象とし, SpeakingとWritingの得点は対象としない。

*3 IELTSはアカデミック・モジュールのみを対象とし, ジェネラル・トレーニング・モジュールは対象としない。

(2) ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語

以下のAまたはB, およびCに該当する者は、春学期・秋学期の定められた期間に次頁の表の申請基準を満たすことを証明できる証明書等（コピー不可）を提示した上で、そのコピーと申請書を提出し認定されることにより、言語副専攻（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語）における基礎科目群の履修をすることなく、コア科目の履修をすることができる。

A：言語教育科目必修単位修得済の者または1年次に履修免除が認められた者。

B：スキップ制度申請期間前までに派遣留学制度または認定校留学制度による単位認定申請を行い、認定の判定を受ける見込みまたは受けた者。

C：次頁の表の申請基準いずれかを満たしている者。ただし、各試験受験時期は原則として春学期に申請する者は2017年4月1日以降、秋学期に申請する者は2017年9月1日以降とする。

※2017年3月31日以前(秋学期に申請する者は、2017年8月31日以前)に表の等級またはスコアを取得している学生についても、等級またはスコアによっては基礎科目群の履修をすることなくコア科目の履修を認める場合がある。

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

【言語別申請基準】

言語	申請基準
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験3級以上
	ドイツ語基礎統一試験（ZD）またはGoethe-Zertifikat B1
	ヨーロッパ言語共通参照枠A2以上の語学コース（45分×50以上）受講証明書
	文学部文学科ドイツ文学専修「ドイツ語基礎演習1～3」修了
フランス語	実用フランス語技能検定試験準2級以上
	DELF A2以上
	TCF350点以上
	ヨーロッパ言語共通参照枠A2以上の語学コース（45分×50以上）受講証明書 文学部文学科フランス文学専修「フランス語基礎演習1～3」修了
スペイン語	スペイン語技能検定試験3級以上
	DELE A2以上
	ヨーロッパ言語共通参照枠A2以上の語学コース（45分×50以上）受講証明書 ^{*1}
中国語	中国語検定試験3級以上
	漢語水平考試（HSK）4級 210点以上, 5級 6級180点以上
朝鮮語	「ハングル」能力検定試験3級以上
	韓国語能力試験3級以上

*1 ヨーロッパ言語共通参照枠と異なるレベル設定の証明書の場合、レベル対照表もしくは使用教材など補足資料を提出すること。

※基礎科目群の履修を免除された場合、基礎科目群（0～3単位）とコア科目群（8単位以上）を合計12単位以上、さらに関連科目4単位以上を修得した場合は、言語副専攻修了が認定される。また、基礎科目群（0～3単位）とコア科目群（8単位以上）の合計が12単位未満で、かつ関連科目を4単位以上修得した場合は、言語副専攻修了相当と認定される場合がある。

(3) スキップ制度適用の申請および発表

スキップ制度適用を希望する者は、必要書類を持参のうえ、定められた期間に申請すること。

(4) スキップ制度の認定を受けた者で配当年次に達していない場合でも自由科目の履修が認められた場合は、登録受付を教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）の窓口で行う。春・秋学期とも言語副専攻履修資格判定申請と同日程で行うので希望者は教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）まで申し出ること。

4. 第3言語としてのドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語の言語副専攻科目履修について

必修科目として選択した言語とは異なる言語の言語副専攻基礎科目の履修を希望する者（「基礎～語入門」、「基礎～語初級」およびそれに準ずる留学認定科目を修得した者を除く）は、必修科目履修免除（単位認定）の基準を満たしていると認められた場合、履修できる。副専攻コア科目の履修を希望する者は、スキップ制度適用の基準を満たしていると認められた場合に履修できる。

5. 3年次編入学者の自由科目履修について

3年次編入学者は、言語必修科目を修得済の者と同様に自由科目を履修することができる。ただし、履修資格が定められている科目の履修を希望する場合は、その履修資格・基準を満たしていると認められた場合に限り履修できる。申請方法等は、履修を希望するコース・科目によって定められた方法に準ずるので、自由科目一覧表などを確認すること。

6. 学部展開科目

学部専門教育科目の一部を、全学共通カリキュラム言語教育科目 言語副専攻の修了要件として算入することができる。

言語副専攻に算入できる学部展開科目の一覧については **4 言語副専攻 学部展開科目 科目一覧**を参照すること（過年度に修得した科目については当該年度の全学共通カリキュラム履修要項で確認すること）。

3 自由科目 科目一覧表

1. 英語

グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力や、海外の大学に留学するために必要な語学力など、一人ひとりが望むレベルに到達できるよう、継続的・系統的に学べる科目を展開する。

〈履修上の注意〉

- (1) インテンシブ・コース修了の認定を受けるためには、春学期に開講される科目と秋学期に開講される科目の合計16単位を修得しなければならない。なお、インテンシブ・コース科目の単位をインディペンデント・コース修了認定のための単位の一部とすることができるが、その利用した単位は、インテンシブ・コース修了のための単位として認めない。
- (2) インテンシブ・コース、アドバンスト・コースおよびオナーズ・コースは、履修資格を判定するため、履修を希望する者は、定められた期間に英語副専攻専用Webにて申請すること。
- (3) インディペンデント・コースは「TOEIC 1」, 「TOEIC 2」, 「TOEFL 2」, 「IELTS」の「資格系科目」とそれ以外の「資格系以外科目」の履修申請の上限単位数がそれぞれ各学期6単位、合わせて12単位までとなっているため申請時に注意すること。なお、「英語海外文化研修」と「国際交流制度短期英語研修プログラム」は6単位の上限には含まない。

※インテンシブ・コースにおける、春学期に開講される2科目8単位（週4回）および秋学期に開講される2科目8単位（週4回）のセット履修のルールについては、2019年度以降廃止。

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	ステージ	科目名	単位数	配当年次	履修資格	コース	定員	※
「その他」登録		English Intensive A (Global World)	4 (週2回)		英語必修科目単位修得済であり、TOEFL® iBT60点 (TOEFL® ITP[Level1]500点)、TOEIC®(または TOEIC® IP)570点、IELTS5.5またはGTEC250点以上の能力を有する者。	インテンシブ・コース	25名	
		English Intensive B (Academic Language Skills)	4 (週2回)				25名	
		English Intensive C (Integrated Language Skills)	4 (週2回)				25名	
		English Intensive D (Intercultural Understanding)	4 (週2回)				25名	
抽選登録	2	English Communication 1	4 (週2回 ずつ)	2・3・4	英語必修科目単位修得済	インディペンデント・コース(資格系以外科目)	10名	
		English Communication 2	4 (週2回 ずつ)				10名	☆
		Pleasure Reading	2				25名	
		Speech	2				25名	☆
		Debate	2				25名	☆
		Presentation	2				25名	☆
		Current English 1 (reading)	2				25名	
		Current English 2 (reading)	2				25名	☆
		Current English 1 (listening)	2				25名	
		Current English 2 (listening)	2				25名	☆
		Japanese Studies through English	2				25名	
		Language and History	2				25名	
		English through Movies A	2				25名	
		English through Movies B	2				25名	
		English through Movies D	2				25名	
		English through Movies E	2				25名	
		World Cultures	2				25名	
		English through Dramas	2				25名	
		Advertisement English	2				25名	

※☆印のある科目は、インディペンデント・コース レベルⅡ科目

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	ステージ	科目名	単位数	配当年次	履修資格	コース	定員	※
抽選登録	2	TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	2	2・3・4	英語必修科目単位修得済	インディペンデントコース(資格系科目)	25名	☆
		TOEFL 2 (reading)	2				25名	☆
		TOEFL 2 (listening)	2				25名	☆
		TOEFL 2 (speaking and writing)	2				25名	☆
		TOEIC 1 (reading)	2				25名	
		TOEIC 1 (listening)	2				25名	
		TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	2				25名	
		TOEIC 2 (reading)	2				25名	☆
		TOEIC 2 (listening)	2				25名	☆
		TOEIC 2 (vocabulary and grammar)	2				25名	☆
		IELTS	2				25名	
「その他」登録		Lecture and Discussion A	4 (週2回ずつ)		ステージ2を修了した者、または、TOEFL® iBT76点(TOEFL® ITP[Level 1]540点)、TOEIC®(またはTOEIC® IP)700点、IELTS6.0またはGTEC 300点以上の能力を有する者。	アドバンスコース	25名	
		Lecture and Discussion B	4 (週2回ずつ)				25名	
		Lecture and Discussion C	4 (週2回ずつ)				25名	
		Lecture and Discussion E	4 (週2回ずつ)				25名	
		Lecture and Discussion F	4 (週2回ずつ)				25名	
		Lecture and Discussion G	4 (週2回ずつ)				25名	
		Discussion and Debate	2				25名	
	3	Advanced Academic Vocabulary	2				25名	
		Current English 3 (Comprehensive)	2				25名	
		Academic Studies (advanced presentation)	2				25名	
		Academic Studies (advanced writing)	2				25名	
		Career Studies (English for vocational purposes)	2				25名	
	4	University Lecture A	2		ステージ3の修了認定を受けた者またはTOEFL® iBT87点(TOEFL® ITP[Level 1]570点)、TOEIC®(またはTOEIC® IP)785点、IELTS6.5またはGTEC 325点以上の能力を有する者。	オナーズコース	25名	
		University Lecture B	2				25名	
		University Lecture D	2				25名	
		University Lecture E	2				25名	

※☆印のある科目は、インディペンデント・コース レベルⅡ科目

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

英語海外文化研修

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

人数制限を行う

登録方法	ステージ	科目名	単位数	配当年次	履修資格	コース	定員
「その他」登録	2	英語海外文化研修	4	1・2・3・4	下記のいずれかに該当する者。 ①1年次生 ②英語必修科目単位修得済の2～4年次生	インディペンデント・コース	約50名

【注意】

- 募集人数は1～4年次生50名程度。
- 春学期の土曜日に事前研修、秋学期の指定日に報告会などが池袋キャンパスで実施され、これらへの参加状況も含めて成績が評価される。成績発表は通年・秋学期科目と同時期となる。
- 履修を希望する学生は、全学年とも、下記日程で開催の説明会に「シラバス」を読んだ上で参加すること。

説明会：池袋…2019年4月4日（木）11：15～12：15 7101教室（7号館1階）

出願：池袋・新座…2019年4月1日（月）～4月11日（木）（窓口開室時間内）

提出場所：教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）

選考結果発表：2019年4月15日（月）10：00 全学共通カリキュラム掲示板

*「英語海外文化研修」の単位については、履修登録上は1学期あたり2単位（春学期2単位・秋学期2単位）として計算する。各自所属する学部・学科の履修規定により履修登録上限単位数が設定されている場合には履修計画を立てる際に注意すること。

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	ステージ	科目名	単位数	配当年次	履修資格	コース	定員	※
「その他」登録		English Intensive A (Global World)	4 (週2回)		英語必修科目単位修得済であり、TOEFL® iBT60点 (TOEFL® ITP [Level 1] 500点)、TOEIC® (または TOEIC® IP) 570点、IELTS5.5またはGTEC250点以上の能力を有する者。	インテンシブ・コース	25名	
		English Intensive B (Academic Language Skills)	4 (週2回)				25名	
		English Intensive C (Integrated Language Skills)	4 (週2回)				25名	
		English Intensive D (Intercultural Understanding)	4 (週2回)				25名	
抽選登録	2	English Communication 1	4 (週2回ずつ)	2・3・4	英語必修科目単位修得済	インディペンデント・コース(資格系以外科目)	10名	
		English Communication 2	4 (週2回ずつ)				10名	☆
		Speech	2				25名	☆
		Debate	2				25名	☆
		Presentation	2				25名	☆
		Current English 1 (reading)	2				25名	
		Current English 2 (reading)	2				25名	☆
		Current English 1 (listening)	2				25名	
		Current English 2 (listening)	2				25名	☆
		Japanese Studies through English	2				25名	
		English through Movies C	2				25名	
		English through Movies F	2				25名	
		World Heritage Sites	2				25名	

※☆印のある科目は、インディペンデント・コース レベルⅡ科目

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	ステージ	科目名	単位数	配当年次	履修資格	コース	定員	※
抽選登録	2	TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	2	2・3・4	英語必修科目単位修得済	インディペンデントコース(資格系科目)	25名	☆
		TOEFL 2 (reading)	2				25名	☆
		TOEFL 2 (listening)	2				25名	☆
		TOEFL 2 (speaking and writing)	2				25名	☆
		TOEIC 1 (reading)	2				25名	
		TOEIC 1 (listening)	2				25名	
		TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	2				25名	
		TOEIC 2 (reading)	2				25名	☆
		TOEIC 2 (listening)	2				25名	☆
		TOEIC 2 (vocabulary and grammar)	2				25名	☆
		IELTS	2				25名	
「その他」登録	3	Lecture and Discussion D (週2回ずつ)	4	2・3・4	ステージ2を修了し、TOEFL® iBT76点(TOEFL® ITP[Level 1]540点), TOEIC®(または TOEIC® IP)700点、IELTS6.0またはGTEC 300点以上の能力を有する者。	アドバンスコース	25名	
		Lecture and Discussion H (週2回ずつ)	4				25名	
		Discussion and Debate	2				25名	
		Advanced Academic Vocabulary	2				25名	
		Current English 3 (Comprehensive)	2				25名	
		Academic Studies (advanced presentation)	2				25名	
		Academic Studies (advanced writing)	2				25名	
		Career Studies (English for vocational purposes)	2				25名	
	4	University Lecture C	2		ステージ3の修了認定を受けた者。またはTOEFL® iBT87点(TOEFL® ITP[Level 1]570点), TOEIC®(または TOEIC® IP)785点、IELTS6.5またはGTEC325点以上の能力を有する者。	オナーズコース	25名	
		University Lecture F	2				25名	

※☆印のある科目は、インディペンデント・コース レベルⅡ科目

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

国際交流制度短期英語研修プログラムについて

2017年度より立教大学学生国際交流制度のプログラムに参加し履修登録申請をした学生は、各大学の短期英語研修で修得した単位が、全学共通カリキュラム言語教育科目「自由科目（英語）」の単位として認められる。この単位は、各学部の規定の範囲内で、卒業要件単位として認められる。

なお、修得した単位は申請により、言語副専攻（英語）インディペンデント・コース修了要件単位として認められる。科目の詳細については国際センターまで問い合わせること。

登録方法	ステージ	科目名	単位数	配当年次	コース	定員
「その他登録」	2	ビクトリア夏ESL2	2	1・2・3・4	インディペンデント・コース (資格系以外科目)	約30名
		ハワイ夏ESL1	1	1・2・3・4		約20名
		ダブリン夏ESL3	3	1・2・3・4		約25名
		ダブリン春ESL3	3	1・2・3		約25名
		シドニー春ESL3	3	1・2・3		約25名
		ビクトリア春ESL2	2	1・2・3		約20名
		ハワイ春ESL1	1	1・2・3		約20名
注意 1）履修を希望する学生は、国際センターで配付する募集要項を必ず確認すること。 2）夏季実施は、4月上旬に説明会を行い、4月上旬に出願が締め切られる。 春季実施は、7月上旬に説明会を行い、8月下旬に出願が締め切られる。 なお、説明会への参加は任意である。 3）成績は「合」「否」のいずれかで評価し、成績発表は夏季実施は10月、春季実施は5月の予定である。 *上記科目の単位は、履修登録申請を行った年度の年間履修登録上限単位に算入される。						

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

2. ドイツ語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
抽選登録	ドイツ語スタンダード1	1	2・3・4	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位修得済。	言語副専攻基礎科目群 (中級レベル)	30名
	ドイツ語スタンダード2	1				30名
	ドイツ語スタンダード3	1				30名
	ドイツ語スタンダード4	1				30名
	ドイツ語中級1	2 (週2回)				30名
	ドイツ語中級2	2 (週2回)				30名
	上級ドイツ語 コミュニケーション1	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	言語副専攻コア科目群 (上級レベル)	30名
	上級ドイツ語 コミュニケーション2	2				30名
	上級ドイツ語 ライティング1	2				30名
	上級ドイツ語 ライティング2	2				30名
	上級ドイツ語 リスニング・リーディング1	2				30名
	上級ドイツ語 リスニング・リーディング2	2				30名
	上級ドイツ語演習1	2				30名
	上級ドイツ語演習2	2				30名
	言語情報処理論 (ドイツ語)	2	1・2・3・4	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎ドイツ語入門	2 (週2回)	2・3・4	必修科目がドイツ語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名
	基礎ドイツ語初級	2 (週2回)		必修科目がドイツ語以外の者。 「基礎ドイツ語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名

「基礎ドイツ語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル (科目群)	定員
その他登録	ドイツ語海外言語文化研修（中級）	2	1・2・3・4	「ドイツ語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	計15名
	ドイツ語海外言語文化研修（上級）	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	
注意 ドイツ語海外言語文化研修（中級・上級）の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んで上で、必ず参加すること。						
説明会：池袋…2019年4月4日（木） 11:15～12:15 A304教室（11号館3階） 出願：池袋・新座…2019年4月1日（月）～4月11日（木）（窓口開室時間内） 提出場所：教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階） 選考結果発表：2019年4月15日（月） 10:00 全学共通カリキュラム掲示板						

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
抽選登録	ドイツ語スタンダード1	1	2・3・4	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位修得済。	言語副専攻基礎科目群 (中級レベル)	30名
	ドイツ語スタンダード2	1				30名
	ドイツ語スタンダード3	1				30名
	ドイツ語スタンダード4	1				30名
	ドイツ語中級1	2 (週2回)				30名
	ドイツ語中級2	2 (週2回)				30名
	上級ドイツ語 コミュニケーション1	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	言語副専攻コア科目群 (上級レベル)	30名
	上級ドイツ語 コミュニケーション2	2				30名
	上級ドイツ語 ライティング1	2				30名
	上級ドイツ語 ライティング2	2				30名
	上級ドイツ語 リスニング・リーディング1	2				30名
	上級ドイツ語 リスニング・リーディング2	2				30名
	上級ドイツ語演習1	2				30名
	上級ドイツ語演習2	2				30名
	言語情報処理論 (ドイツ語)	2	1・2・3・4	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

3. フランス語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
抽選登録	フランス語スタンダード1	1	2・3・4	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位修得済。	言語副専攻基礎科目群 (中級レベル)	30名
	フランス語スタンダード2	1				30名
	フランス語スタンダード3	1				30名
	フランス語スタンダード4	1				30名
	フランス語中級1	2 (週2回)				30名
	フランス語中級2	2 (週2回)				30名
	上級フランス語コミュニケーション1	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	言語副専攻コア科目群 (上級レベル)	30名
	上級フランス語コミュニケーション2	2				30名
	上級フランス語ライティング1	2				30名
	上級フランス語ライティング2	2				30名
	上級フランス語リスニング・リーディング1	2				30名
	上級フランス語リスニング・リーディング2	2				30名
	上級フランス語演習1	2				30名
	上級フランス語演習2	2				30名
	言語情報処理論(フランス語)	2	1・2・3・4	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎フランス語入門	2 (週2回)	2・3・4	必修科目がフランス語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名
	基礎フランス語初級	2 (週2回)		必修科目がフランス語以外の者。 「基礎フランス語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名

「基礎フランス語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
「その他」登録	フランス語海外言語文化研修(中級)	2	1・2・3・4	「フランス語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	計20 ～30名
	フランス語海外言語文化研修(上級)	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	

注意 フランス語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んで上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…2019年4月4日(木) 11:15～12:15 A301教室(11号館3階)
出願：池袋・新座…2019年4月1日(月)～4月11日(木)(窓口開室時間内)
提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階)
選考結果発表：2019年4月15日(月) 10:00 全学共通カリキュラム掲示板

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
抽選登録	フランス語スタンダード1	1	2・3・4	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位修得済。	言語副専攻基礎科目群 (中級レベル)	30名
	フランス語スタンダード2	1				30名
	フランス語スタンダード3	1				30名
	フランス語スタンダード4	1				30名
	フランス語中級1	2 (週2回)				30名
	フランス語中級2	2 (週2回)				30名
	上級フランス語コミュニケーション1	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	言語副専攻コア科目群 (上級レベル)	30名
	上級フランス語コミュニケーション2	2				30名
	上級フランス語ライティング1	2				30名
	上級フランス語ライティング2	2				30名
	上級フランス語リスニング・リーディング1	2				30名
	上級フランス語リスニング・リーディング2	2				30名
	上級フランス語演習1	2				30名
	上級フランス語演習2	2				30名
	言語情報処理論(フランス語)	2	1・2・3・4	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

4. スペイン語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
抽選登録	スペイン語スタンダード1	1	2・3・4	「スペイン語基礎1」および「スペイン語基礎2」の単位修得済。	言語副専攻基礎科目群 (中級レベル)	30名
	スペイン語スタンダード2	1				30名
	スペイン語スタンダード3	1				30名
	スペイン語スタンダード4	1				30名
	スペイン語中級1	2 (週2回)				30名
	スペイン語中級2	2 (週2回)				30名
	上級スペイン語 コミュニケーション1	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	言語副専攻コア科目群 (上級レベル)	30名
	上級スペイン語 コミュニケーション2	2				30名
	上級スペイン語 ライティング1	2				30名
	上級スペイン語 ライティング2	2				30名
	上級スペイン語 リスニング・リーディング1	2				30名
	上級スペイン語 リスニング・リーディング2	2				30名
	上級スペイン語演習1	2				30名
	上級スペイン語演習2	2				30名
	言語情報処理論 (スペイン語)	2	1・2・3・4	「スペイン語基礎1」および「スペイン語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎スペイン語入門	2 (週2回)	2・3・4	必修科目がスペイン語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名
	基礎スペイン語初級	2 (週2回)		必修科目がスペイン語以外の者。 「基礎スペイン語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名

「基礎スペイン語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
「その他」登録	スペイン語海外言語文化研修(中級)	2	1・2・3・4	「スペイン語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	約20名
	スペイン語海外言語文化研修(上級)	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	約20名

注意 スペイン語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…2019年4月4日(木) 11:15～12:15 A202教室(11号館2階)
出願：池袋・新座…2019年4月1日(月)～4月11日(木)(窓口開室時間内)
提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階)
選考結果発表：2019年4月15日(月) 10:00 全学共通カリキュラム掲示板

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
抽選登録	スペイン語スタンダード1	1	2・3・4	「スペイン語基礎1」および「スペイン語基礎2」の単位修得済。	言語副専攻基礎科目群 (中級レベル)	30名
	スペイン語スタンダード2	1				30名
	スペイン語スタンダード3	1				30名
	スペイン語スタンダード4	1				30名
	スペイン語中級1	2 (週2回)				30名
	スペイン語中級2	2 (週2回)				30名
	上級スペイン語 コミュニケーション1	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	言語副専攻コア科目群 (上級レベル)	30名
	上級スペイン語 コミュニケーション2	2				30名
	上級スペイン語 ライティング1	2				30名
	上級スペイン語 ライティング2	2				30名
	上級スペイン語 リスニング・リーディング1	2				30名
	上級スペイン語 リスニング・リーディング2	2				30名
	上級スペイン語演習1	2				30名
	上級スペイン語演習2	2				30名
	言語情報処理論 (スペイン語)	2	1・2・3・4	「スペイン語基礎1」および「スペイン語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

5. 中国語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
抽選登録	中国語スタンダード1	1	2・3・4	「中国語基礎1」および「中国語基礎2」の単位修得済。	言語副専攻基礎科目群 (中級レベル)	30名
	中国語スタンダード2	1				30名
	中国語スタンダード3	1				30名
	中国語スタンダード4	1				30名
	中国語中級1	2 (週2回)				30名
	中国語中級2	2 (週2回)				30名
	上級中国語 コミュニケーション1	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	言語副専攻コア科目群 (上級レベル)	30名
	上級中国語 コミュニケーション2	2				30名
	上級中国語 ライティング1	2				30名
	上級中国語 ライティング2	2				30名
	上級中国語 リスニング・リーディング1	2				30名
	上級中国語 リスニング・リーディング2	2				30名
	上級中国語演習1	2				30名
	上級中国語演習2	2				30名
	言語情報処理論 (中国語)	2	1・2・3・4	「中国語基礎1」および「中国語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎中国語入門	2 (週2回)	2・3・4	必修科目が中国語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名
	基礎中国語初級	2 (週2回)		必修科目が中国語以外の者。 「基礎中国語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名

「基礎中国語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
「その他」登録	中国語海外言語文化研修(中級)	2	1・2・3・4	「中国語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	計50名 程度
	中国語海外言語文化研修(上級)	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	
	中国語海外言語文化研修春(中級)	2	1・2・3	「中国語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	計50名 程度
	中国語海外言語文化研修春(上級)	2	3	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	

注意 中国語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…2019年4月4日(木) 11:15～12:15 A203教室(11号館3階)
出願：池袋・新座…2019年4月1日(月)～4月11日(木)(窓口開室時間内)
提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階)
選考結果発表：2019年4月15日(月) 10:00 全学共通カリキュラム掲示板

中国語海外言語文化研修春(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…2019年7月9日(火) 12:30～13:15 教室は掲示を確認すること。
新座…2019年7月10日(水) 12:30～13:15 教室は掲示を確認すること。
出願：池袋・新座…2019年7月9日(火)～7月12日(金)(窓口開室時間内)
提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階)
選考結果発表：2019年7月18日(木) 10:00 全学共通カリキュラム掲示板

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

(新座キャンパス開講科目)

登録 方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル (科目群)	定員
抽選 登録	中国語スタンダード1	1	2・3・4	「中国語基礎1」および「中国語基礎2」の 単位修得済。	言語副専攻基礎科目群 (中級レベル)	30名
	中国語スタンダード2	1				30名
	中国語スタンダード3	1				30名
	中国語スタンダード4	1				30名
	中国語中級1	2 (週2回)				30名
	中国語中級2	2 (週2回)				30名
	上級中国語 コミュニケーション1	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得 済。	言語副専攻コア科目群 (上級レベル)	30名
	上級中国語 コミュニケーション2	2				30名
	上級中国語 ライティング1	2				30名
	上級中国語 ライティング2	2				30名
	上級中国語 リスニング・リーディング1	2				30名
	上級中国語 リスニング・リーディング2	2				30名
	上級中国語演習1	2				30名
	上級中国語演習2	2				30名
	言語情報処理論 (中国語)	2	1・2・3・4	「中国語基礎1」および「中国語基礎2」の 単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

6. 朝鮮語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
抽選登録	朝鮮語スタンダード1	1	2・3・4	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位修得済。	言語副専攻基礎科目群 (中級レベル)	30名
	朝鮮語スタンダード2	1				30名
	朝鮮語スタンダード3	1				30名
	朝鮮語スタンダード4	1				30名
	朝鮮語中級1	2 (週2回)				30名
	朝鮮語中級2	2 (週2回)				30名
	上級朝鮮語コミュニケーション1	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	言語副専攻コア科目群 (上級レベル)	30名
	上級朝鮮語コミュニケーション2	2				30名
	上級朝鮮語ライティング1	2				30名
	上級朝鮮語ライティング2	2				30名
	上級朝鮮語リスニング・リーディング1	2				30名
	上級朝鮮語リスニング・リーディング2	2				30名
	上級朝鮮語演習1	2				30名
	上級朝鮮語演習2	2				30名
	言語情報処理論(朝鮮語)	2	1・2・3・4	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎朝鮮語入門	2 (週2回)	2・3・4	必修科目が朝鮮語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名
	基礎朝鮮語初級	2 (週2回)		必修科目が朝鮮語以外の者。 「基礎朝鮮語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名

「基礎朝鮮語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
その他	朝鮮語海外言語文化研修(中級)	2	1・2・3・4	「朝鮮語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	計30名程度
	朝鮮語海外言語文化研修(上級)	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	

注意 朝鮮語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること(各回は同内容のため、いずれかの回に参加すること)。

説明会：池袋…2019年4月4日(木) 11:15～12:15 A201教室(11号館2階)

新座…2019年4月3日(水) 12:30～13:00 N212教室(2号館1階)

出願：池袋・新座…2019年4月1日(月)～4月11日(木)(窓口開室時間内)

提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階)

選考結果発表：2019年4月15日(月) 10:00 全学共通カリキュラム掲示板

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル(科目群)	定員
抽選登録	朝鮮語スタンダード1	1	2・3・4	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位修得済。	言語副専攻基礎科目群 (中級レベル)	30名
	朝鮮語スタンダード2	1				30名
	朝鮮語スタンダード3	1				30名
	朝鮮語スタンダード4	1				30名
	朝鮮語中級1	2 (週2回)				30名
	朝鮮語中級2	2 (週2回)				30名
	上級朝鮮語コミュニケーション1	2	3・4	言語副専攻基礎科目群から4単位以上修得済。	言語副専攻コア科目群 (上級レベル)	30名
	上級朝鮮語コミュニケーション2	2				30名
	上級朝鮮語ライティング1	2				30名
	上級朝鮮語ライティング2	2				30名
	上級朝鮮語リスニング・リーディング1	2				30名
	上級朝鮮語リスニング・リーディング2	2				30名
	上級朝鮮語演習1	2				30名
	上級朝鮮語演習2	2				30名
	言語情報処理論(朝鮮語)	2	1・2・3・4	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

7. ロシア語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	定員
抽選登録	ロシア語セミナーA	1	1・2・3・4	「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」の単位修得済が望ましい。	30名
	ロシア語セミナーB	1		「ロシア語セミナーA」の単位修得済が望ましい。	30名
	ロシア語セミナーC	1		「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」の単位修得済が望ましい。	30名
	ロシア語セミナーD	1		「ロシア語セミナーC」の単位修得済が望ましい。	30名
	ロシア語セミナー1	1		ロシア語科目を6単位以上（必修4単位を含む）修得していることが望ましい。	30名
	ロシア語セミナー2	1		ロシア語科目を6単位以上（必修4単位を含む）修得していることが望ましい。	30名

【基礎からのロシア語～言語Bがロシア語以外の人のための科目～】

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎ロシア語入門	2 (週2回)	2・3・4	必修科目がロシア語以外の者。	必修クラスに合併して行う。	8名
	基礎ロシア語初級	2 (週2回)		必修科目がロシア語以外の者。「基礎ロシア語入門」の単位修得済。	必修クラスに合併して行う。	8名

「基礎ロシア語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「セミナー」の履修を推奨する。

8. ポルトガル語

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	備考	定員
抽選登録	ポルトガル語1	1	2・3・4	特になし	隔年開講	30名
	ポルトガル語2	1		「ポルトガル語1」の単位修得済が望ましい。		30名
	ポルトガル語3	1		「ポルトガル語2」の単位修得済が望ましい。	隔年開講	30名
	ポルトガル語4	1		「ポルトガル語3」の単位修得済が望ましい。		30名

2010年度～2015年度1年次入学者に適用
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

9. 日本語
(外国人留学生入試による
入学者対象)

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル	定員
抽選登録	日本の文化・社会A	1	2・3・4	特になし	日本語必修科目修了程度	20名
	日本の文化・社会B	1				20名
	日本の文化・社会C	1				20名
	日本語論文作成法	1				20名
	日本語の諸相A	1				20名
	日本語の諸相B	1				20名
	日本語論文読解	1				20名
	キャリアジャパニーズA	1				15名
	キャリアジャパニーズB	1				25名
	ビジネス日本語(文書)	1				25名
	ビジネス日本語口頭A	1				15名
	ビジネス日本語口頭B	1				15名

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル	定員
抽選登録	ビジネス日本語(文書)	1	2・3・4	特になし	日本語必修科目修了程度	25名
	日本語論文読解	1				20名
	キャリアジャパニーズA	1				15名
	キャリアジャパニーズB	1				25名
	日本語論文作成法	1				20名
	ビジネス日本語口頭A	1				15名
	ビジネス日本語口頭B	1				15名

10. 日本手話

(池袋キャンパス・新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	履修資格	レベル	定員
抽選登録	日本手話1	1	1・2・3・4	特になし	入門	25名
	日本手話2	1		「日本手話1」の単位修得済が望ましい。	初級	25名
	日本手話3	1		「日本手話2」の単位修得済が望ましい。	中級	20名
	日本手話4	1		「日本手話3」の単位修得済が望ましい。		20名

4 言語副専攻 学部展開科目 科目一覧

2019年度言語副専攻 学部展開科目科目一覧については、全学共通カリキュラム掲示板を確認すること。

言語副専攻 学部展開科目のシラバス・履修対象年次・履修登録方法等については、各学部の履修要項およびシラバスを確認すること。

過年度に修得した科目については、当該年度の全学共通カリキュラム履修要項で確認すること。

5 2010～2018年度に開講されていた自由科目

以下は、2010～2018年度に開講されていた自由科目で2019年度は開講されていない科目である。

これらの科目について、開講年度における「履修上の注意」により修得した単位は、所属学部の規定の範囲内で卒業要件として認められる。

言語	科目名	開講年度								
		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
英語	University Lecture			●						
	Career Seminar			●						
	World Heritage Sites through English		●	●	●	●	●	●		
	World Cultures through English		●	●	●	●	●	●		
	TOEFL 3 (comprehensive)		●	●	●	●	●	●		
	TOEIC 3 (comprehensive)		●	●	●	●	●	●		
	Lecture and Discussion		●	●	●	●	●	●		
	Career Seminar A				●	●	●	●		
	Career Seminar D				●	●	●	●		
	Career Seminar F				●	●	●	●		
	Current English 3 (Reading)		●	●	●	●	●	●		
Current English 3 (Listening)		●	●	●	●	●	●			
ドイツ語	ドイツ語情報処理	●	●	●						
フランス語	フランス語情報処理	●	●	●						
スペイン語	スペイン語情報処理	●	●	●						
中国語	中国語情報処理	●	●	●						
朝鮮語	朝鮮語情報処理	●	●	●						
日本語	就職活動の日本語	●	●							
	就職試験の日本語	●	●							
	ビジネス日本語（口頭）	●								
	ビジネス日本語口頭1		●	●	●	●	●			
	ビジネス日本語口頭2		●	●	●	●	●			
	上級日本語									
	上級日本語 A		●							
	上級日本語 B		●							

※「上級日本語」は2010・2011年度休講で2012年度廃止となったため無印。

言語教育科目

2008・2009年度1年次入学者に適用
(2010・2011年度3年次編入学者に適用)
〈文・経済・理・社会・法・経営・観光・
コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・
現代心理学部〉

●言語教育科目について

- 1 言語教育科目とは
- 2 学部・学科別卒業要件単位数
- 3 必修科目に関する特別措置
- 4 履修免除（単位認定）者の自由選択科目に関する特別措置

●必修科目

- 1 英語
- 2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語
- 3 日本語（外国人留学生のみ）
- 4 指定年次・学期以後の単位修得方法（英語単位認定試験）

●自由選択科目

- 1 自由選択科目 履修上の注意
- 2 インテンシブコース（副専攻）について
- 3 自由選択科目 科目一覧表
- 4 2008～2018年度に開講されていた自由選択科目

言語教育科目について

2008・2009年度1年次入学者に適用
(2010・2011年度3年次編入学者に適用)
〈文・経済・理・社会・法・経営・観光・
コミュニティ福祉(スポーツウエルネス学科除く)・現代心理学部〉

1 言語教育科目とは

言語教育科目の特色

言語教育科目では、少人数クラスでの聞く・話す・読む・書くの基本的技能の訓練を通じて当該言語による専門的または日常的なコミュニケーションを可能にし、異文化対応能力を獲得する。

立教大学の全ての学生は、英語を含めて2つの言語を必修科目として履修しなければならない。英語は、大多数の学生にとって、中学校・高等学校を通じて学習してきた言語である。大学では、これまでの学習を基礎とし、各自の目的に応じて、運用能力を鍛えると同時に、異文化への理解を深めることによって、国際的な場で活躍できる英語の能力を養うことを目的とする。

英語以外のもう1つの言語は、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語の諸言語から学生が自らの関心や将来の計画に応じて選択する(外国人留学生は日本語)。これらの言語がめざすところは、英語圏以外の国・地域の人々が築き上げてきた社会や文化、ものの考え方などに言語を通じて触れることによって、世界が多文化であることの理解を深め、多様な視点を獲得することである。ただし、多くの学生にとっては大学入学後に初めてこれらの言語を学習することになるので、このような目的を達成するために必要な基礎作りから始めることになる。

言語教育科目には、必修科目に加えて、言語の学習をさらに深めたいと希望する学生のために多様な自由選択科目が用意されている。また、自由選択科目を含めた指定科目を規定単位数以上修得することで、その言語のインテンシブコース(副専攻)修了が認定される。インテンシブコースは、ロシア語と日本語を除く言語で用意されている。

1. 必修科目 言語Aと言語B

1年次で履修する言語A「英語」と、1～2年次で履修する言語B「ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語の中から選択した1言語(外国人留学生は日本語)」の計2言語が、必修科目として履修しなければならない科目である(学部・学科・専修により選択できない言語がある場合や、特定の言語が指定されている場合がある)。言語Bについては入学手続き時に希望を提出済みであり、時間割計画シートにて通知してあるので、それに従うこと。

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語については、すでに一定の学習歴がある者(既習者)に対して、本人の希望があれば、口頭試験および筆記試験をもって、必修科目の一部またはすべての単位を認定し、履修を免除することがある。

外国人留学生については、原則として言語Aは英語、言語Bは日本語を履修することになっている。また、日本語については、本人が希望があれば、口頭試験および筆記試験のうえ大学で学ぶための日本語能力が充分と認められた場合は、必修科目の履修を免除することがある。(2019年度以降、必修科目の履修免除制度は廃止。)

2. 自由選択科目

自由選択科目の中には、①さらに高度な言語運用能力の育成を目的とする科目、②その言語を使って文化・言語・情報処理に関する、より専門的な知識の修得を目的とする科目、③第3・第4の言語を学ぼうとする学生を対象とした入門的な科目がある(必修科目にはないが、ポルトガル語・日本手話も用意されている)。

1 自由選択科目 履修上の注意 に従い修得した単位は、各学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる(「全学共通カリキュラムの卒業要件単位を超えて修得した単位の扱い」参照)。また、ドイツ語、フランス語の自由選択科目の中には、その科目の単位を修得すると次学期以降、文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の専門教育科目に接続できるものもある。

3. インテンシブ コース (副専攻)

① 英語

英語必修科目を修了したのち、さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために、インテンシブコース(副専攻)が用意されている。原則として、当該言語の必修科目修了後に、英語の自由

選択科目を履修し規定の条件を満たすと、本人の申請に基づき、インテンシブコース修了が認定される。

② 言語B

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語については、必修科目を修了したのち、さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために、「聞く・話す・読む・書く」それぞれの能力を体系的に養成するインテンシブコース（副専攻）が用意されている。原則として、当該言語の必修科目修了後に、指定された科目を履修し規定単位以上を取得すると、本人の申請に基づき、インテンシブコース修了が認定される。

2 学部・学科別卒業要件単位数

言語教育科目は、学部・学科・専修により、選択できる言語や卒業のために必要な単位数が異なる。以下の表で、自分の学部・学科・専修の英語とそれ以外の言語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語のうちの1つ）の履修単位数、履修チャート記号ならびに履修方法を確認すること。

学部	学科	言語	履修 チャート記号	卒業要件 単位数
文	キリスト教 文 英米文学専修 文 日本文学専修 文 文芸・思想専修 史 教育	A 英語	A1	8
		B ドイツ語 フランス語 スペイン語 中国語 朝鮮語 ロシア語	B2	8
		日本語 ※留学生のみ	J2	
				16
	文 ドイツ文学専修	A 英語	A1	8
		B ドイツ語	B3	8
	文 フランス文学専修	A 英語	A1	8
		B フランス語	B3	8
経済 理 社会 法 経営 観光	全	A 英語	A1	8
		B ドイツ語 フランス語 スペイン語 中国語 朝鮮語	B1	6
	コミュニティ福祉	スポーツウエルネス学科以外		
	現代心理	全	日本語 ※留学生のみ	J1

3 必修科目に関する特別措置

1. 英語初習者
 ※2010年度以降は本制度廃止。
 以下の(1)あるいは(2)のいずれか、または両方に該当し、かつ英語初習者対応を希望する者。
 (1) 入試科目を英語以外で受験した者。
 (2) 中学校・高等学校、あるいは海外などで、英語以外の外国語を主として学習してきた者。
 ⇒英語の学習歴とプレイスメントテストの結果および英語教育研究室による面接により英語初習者クラスでの学習が望ましいと判断した学生に対しては、英語初習者クラスでの学習を指示する。

2. 英語初心者
 ※2010年度以降は本制度廃止。
 以下の(1)および(2)に該当する者。
 (1) 外国人留学生入学試験により入学した英語を母語としない者。
 (2) 英語学習歴がない者。
 ⇒入学前に提出する英語学習歴申告書、英語プレイスメントテストの結果および英語教育研究室による面接により英語初心者クラスでの学習が望ましいと判断した学生に対しては、英語初心者クラスでの学習を指示する。

3. ドイツ語
 フランス語
 スペイン語
 中国語
 朝鮮語
 ロシア語
 の既習者
 以下の(1)あるいは(2)に該当する者。
 (1) ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語学習経験者（初級修了程度）で、当該言語を入学時の言語選択の際、第1希望にしていたにもかかわらず、抽選に外れた者。
 ⇒面接のうえ、言語の変更を認める場合がある。
 (2) ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語を必修科目として履修することになった者で、すでに一定の学習歴がある者（既習者）。
 ⇒面接のうえ、当該言語能力が以下のいずれかに相当し、かつ本人が希望する場合、当該言語の必修科目の一部またはすべての単位を認定し（評価はSとする）、履修を免除する。

 ① 1年次配当科目修了相当の能力を持つ者に対し、1年次配当必修科目を履修免除（単位認定）する。対象学生は1年次に2年次科目を履修する。
 ② 1・2年次配当科目修了相当の能力を持つ者に対し、全必修科目を履修免除（単位認定）する。対象学生には自由選択科目に関する特別措置がある。

4. 文学部への
 転部・転科
 （専修）者
 文学部文学科ドイツ文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した者および文学科フランス文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した者で専修指定の言語Bを8単位修得していない者については、当該言語の言語Bの不足単位数分の単位を認定し、履修を免除する。成績は認定とする。

5. 外国人留学生
 外国人留学生は、原則として言語Aは英語、言語Bは日本語を履修する。
 ただし、大学で学ぶための日本語能力が充分と認められ、かつ本人が希望する場合、日本語必修科目のすべての単位を認定し（評価はSとする）、履修を免除する。（2019年度以降、必修科目の履修免除制度は廃止。）

4 履修免除（単位認定）者の自由選択科目に関する特別措置

- ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語の履修免除（単位認定）者は、配当年次に達していない場合でも、言語Bとして認定された単位数に応じて1年次から当該言語の自由選択科目の履修を認める。また、第3の言語として他の1言語について1年次で「基礎～語入門」「基礎～語初級」を履修することを認める。
 ※「入門～語」「初級～語」は2010年度以降廃止、「中級～語1・2」は2011年度以降廃止。
 ※2010年度から、日本語の自由選択科目全てについて1年次からの履修を認める。

必修科目

2008・2009年度1年次入学者に適用

(2010・2011年度3年次編入学者に適用)

(文・経済・理・社会・法・経営・観光・

コミュニティ福祉 (スポーツウエルネス学科除く)・現代心理学部)

1 英語 (2010年度以降開講なし)

1. コース カリキュラム

必修科目として履修する英語には、「コミュニケーション・コース (COC)」と「言語文化コース (LCC)」,そして「特別コース (Sクラス)」(理学部・コミュニティ福祉学部除く)の3つのコースがある。「コミュニケーション・コース (COC)」と「言語文化コース (LCC)」については、本人の希望とプレイメントテストの結果によってコースが決定される。また、プレイメントテストの成績上位者は、本人の希望に関係なく「特別コース (Sクラス)」を履修する。

コミュニケーション・ コース (COC)

コミュニケーション・コース (COC)

現代社会においては、変化の激しい世界の状況を正しく認識していく力と、各自が生まれ育った文化や社会環境を正確に受け止め、それらを基にして自らの意見を積極的に発信していく能力が必要とされる。このようなグローバル社会に対応した総合的なコミュニケーション能力を育成することがコミュニケーション・コースの目的である。

この目的を実現するために、コミュニケーション・コースでは、英語運用能力、特にディスカッションとプレゼンテーションを通しての英語発信能力の強化に力を入れる。さらに、身近な話題から国際的な問題まで、自らの視点に立って意見を出していくと共に他者の意見にも耳を傾け、その問題について深く議論し合いながら結論を導き出していく能力の育成を目指す。その際に、客観的な分析、論理的な思考、建設的なディスカッションといったものが可能となるような訓練を行っていく点も、このコースの特徴である。コミュニケーション・コースを修了した学生は、優れた英語発信能力とともに現代社会の情勢を批判的かつ多角的に理解する能力を身につけていることが期待される。

コミュニケーション・コースのクラス構成

- ①【インターアクティブ・ワールド・イングリッシュ (IWE)】(春, 秋学期 英語1/英語3)
週2回のクラスを原則として同じ教員が担当し、現代社会の多様な諸問題に客観的に対応できる訓練とともに、英語によるコミュニケーション能力を総合的に育成するクラス (注)
- ②【メディア・イングリッシュ (MDE)】(春学期 英語2A2)
時事的教材を学習しながら主にリーディング力の強化を目指すクラス
- ③【ライティング (WRT)】(秋学期 英語4A2)
ライティングの基礎力および応用力を育成するクラス
- ④【リーディング&リスニング (R&L)】(春, 秋学期 英語2A1/英語4A1)
リーディング力とリスニング力を集中的に育成するクラス
春学期または秋学期にPCを利用した授業を展開する

(注) 週2回の授業のうち、週1回の授業が8人程度の少人数ディスカッションクラスとなる場合がある。

プレイメントテストの結果により、コミュニケーション・コースAとコミュニケーション・コースBの2つに分かれる。コミュニケーション・コースAは、リーディング&リスニング (R&L) のPC利用授業を除いて、全クラスの授業を英語で行い、コミュニケーション・コースBは、リーディング&リスニング (R&L) のPC利用授業を除いて、全クラスの授業を原則として英語で行う。

言語文化コース
 (LCC)

言語文化コース (LCC)

現代社会のさまざまな分野でグローバル化が進行している。このような社会においては、世界に広がる多様な文化を偏見のない視線で分析して受容する力と、各自が生まれ育った文化や環境をより深く理解したうえで自らの意見を発信する力を培うことが要求されている。言語文化コースは、このような文化の異なる人々との共存を可能とするバランスのとれたコミュニケーション能力を育成することを目的としている。

この目的を実現するために、言語文化コースでは具体的な2つの目標を設定している。ひとつは、異文化を理解していく能力の養成である。異なる文化圏に生きる人々の風俗習慣の多様性を知ることが必要であるが、ある特定の文化に優越性を与えてしまうようなことがあってはならない。また、一見異なって見える諸文化に共通する普遍的な要素にも目配りできるようにならなければならない。ふたつ目の目標は、このような異文化理解を可能とするために必要な言語能力の育成である。世界の文化を英語で理解するうえで不可欠なリーディング力とリスニング力の強化を基本とするが、同時に、グローバル社会で必要とされる自らの意見を発信していく能力も積極的に伸ばしていく。これによって、言語文化コースを修了した学生は、異文化を批評的かつ多角的に理解し、それを基に自分の意見を英語でしっかりと発信していける能力を身につけていることが期待される。

言語文化コースのクラス構成

①【イングリッシュ・フォー・カルチュラル・アンダースタンディング (ECU)】

(春, 秋学期 英語1 / 英語3)

週2回のクラスを原則として同じ教員が担当し、異文化を知り、異文化について論理的に考え、自分の意見を英語で発信する能力を育成するクラス

②【イングリッシュ・スルー・ビデオ (ETV)】(秋学期 英語4A2)

映像教材を通してリスニング力を育成すると共に、さまざまな事例から異文化理解を深めていくクラス

③【ライティング (WRT)】(春学期 英語2A2)

ライティングの基礎力および応用力を育成するクラス

④【リーディング&リスニング (R&L)】(春, 秋学期 英語2A1 / 英語4A1)

リーディング力とリスニング力を集中的に育成するクラス

春学期または秋学期にPCを利用した授業を展開する

プレイスメントテストの結果により、言語文化コースAと言語文化コースBの2つに分かれる。言語文化コースAは、リーディング&リスニング (R&L) のPC利用授業を除いて、全クラスの授業を英語で行う。言語文化コースBは、リーディング&リスニング (R&L) のPC利用授業を除いて、全クラスの授業を原則として英語で行う。

特別コース
 (Sクラス)

特別コース (Sクラス)

情報、モノ、また人が国境を越えて行き交う現代社会にあって、異なる言語、文化に属する人々と接触する機会はますます増えている。特別コースでは、将来仕事や勉強のために使える国際的に通用する英語の運用能力養成を目指す。

プレイスメントテスト成績上位者に限定されたコースで、1年次必修英語クラスの中では最も高度な英語力を身につけることができる。全て週2回のクラスで、それぞれを同じ教員が担当する。

特別コース (Sクラス) のクラス構成

①【SAクラス (World Issues)】(春学期 英語1)

世界の諸問題に関する最新の話題について学びながら、スピーチ、ディベートなどを通して高度な発信力を養成するクラス

②【SBクラス (Intercultural Topics)】(春学期 英語2A1 / 2A2)

国際的な文化理解に関するテーマについて、速読やリサーチ・スキル、プレゼンテーション・スキルを身につけるクラス

③【SCクラス (Global Business)】(秋学期 英語3)

国際ビジネスの諸問題について学ぶと同時に、ビジネスレターの書き方やプレゼンテーション力の向上を目指すクラス

④【SDクラス (Educational Issues)】(秋学期 英語4A1 / 4A2)

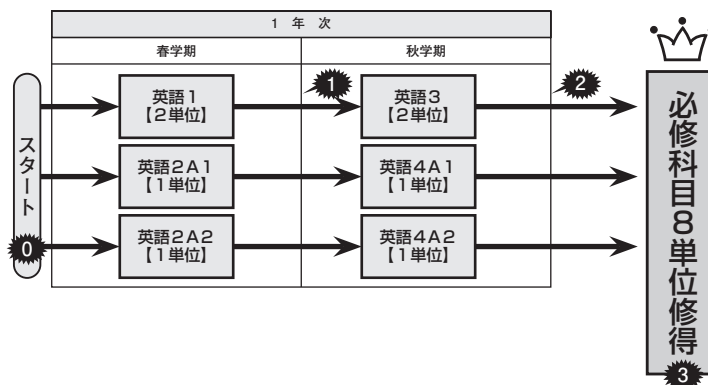
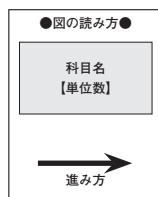
教育に関する様々なテーマについて学ぶと同時に、ノートの取り方やリサーチ・ペーパーの書き方を扱うクラス

特別コース (Sクラス) は全クラスの授業を英語で行う。

2. 履修チャート

A1 8単位履修者

各学期に履修する科目，単位数は以下の通り。



不合格になった場合は，4 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が不合格になったら を参照のこと。

0

<履修コース・クラスの発表について>

- 履修するコースは，「コミュニケーション・コース（COC）」と「言語文化コース（LCC）」については，本人の希望とプレイスメントテストの結果によってコースが決定される。また，プレイスメントテストの成績上位者は本人の希望に関係なく「特別コース（Sクラス）」を履修する。
- コースおよびクラスを変更することはできない。

1

<1年次秋学期の履修について>

- 1年次秋学期開始時には，クラスの再編成は行わない。春学期と同じクラス番号のクラスで履修すること。

<1年次春学期科目が不合格になったら>

- 1年次春学期に履修した科目（英語1，英語2A1，英語2A2）が不合格であっても，1年次秋学期の科目（英語3，英語4A1，英語4A2）を春学期と同じクラス番号のクラスで履修すること。

2

<1年次科目が不合格になったら>

- 1年次に履修した科目が不合格であった場合は，2年次春学期以降，英語単位認定試験を受験すること。英語単位認定試験を受験したにも関わらず，単位を修得できなかった場合は，次学期以降に行われる英語単位認定試験を再度受験し，不足単位がなくなるまでこれを繰り返す。

3

<必修科目を修得したら>

- 必修の8単位を修得（英語単位認定試験で修得した場合も含む）後は，自由選択科目を履修することができる。
- また，必修科目の単位修得後，さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために，インテンシブコース（副専攻）が開講されている。

2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語

1. カリキュラム

必修科目として履修するドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語で開講される科目は履修段階に応じておおむね以下のようになっている。各言語によって多少の違いがあるので、詳細は『シラバス』を参照すること。

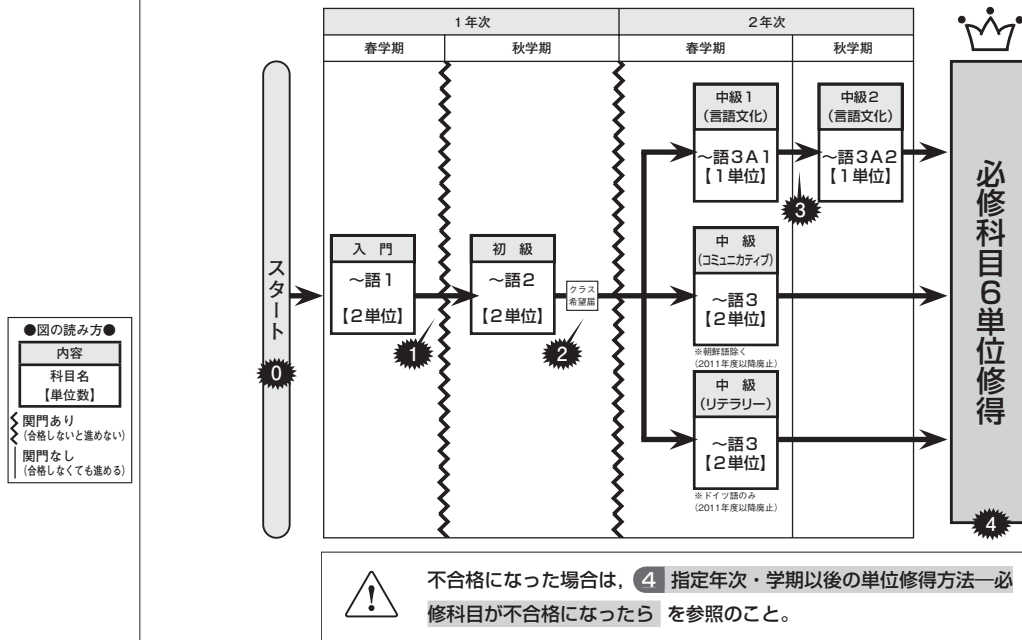
科目名	内容	履修		単 位	概要
		年 次	学 期		
～語1	入門	1	春	2	発音練習，文字の習得。挨拶など簡単な会話表現を通して初歩的な文法を学ぶ。
～語2	初級	1	秋	2	発音の定着をはかるとともに，初級文法を学ぶ。テキストなどを通じてその言語圏の歴史や文化などについての理解を深める。
～語3A1	中級1 (言語文化)	2	春	1	会話練習，講読などを通じて，1年次に学習した初級文法を確認し，中級文法の学習へと進む。様々な表現を学び，言語運用能力を高め，テキストなどを通じてその言語圏の歴史や文化などについての理解を深める。
～語3A2	中級2 (言語文化)	2	秋	1	会話練習，講読などを通じて，より多様な表現力，理解力を身につける。テキストなどを通じてその言語圏の歴史や文化などについての理解を深める。
～語4A1	応用1 (言語文化)	2	春	1	3A1の学習内容と連動し，会話練習や講読などを通じて，コミュニケーション能力，多様な表現力を学ぶ。
～語4A2	応用2 (言語文化)	2	秋	1	3A2の学習内容と連動し，会話練習や講読などを通じて，4A1で習得したコミュニケーション能力，表現力をさらに強化する。
～語3	中級1・2 (コミュニケーション) ※朝鮮語・ ロシア語除く 2011年度以降廃止	2	春	2	原則として，ネイティブ・スピーカーの教員が担当し（ドイツ語を除く），「聞く・話す」能力を強化する。日常会話に用いる文法事項は，初級文法をマスターすれば不足はない。初級文法を定着させ，それを運用する能力を身につける。
～語4	応用1・2 (コミュニケーション) ※朝鮮語・ ロシア語除く 2011年度以降廃止	2	秋	2	原則として，ネイティブ・スピーカーの教員が担当し（ドイツ語を除く），「聞く・話す」能力を強化する。より多様な表現の学習を通じて，語彙を増やし，中級文法を学ぶ。授業の中で，その言語圏の歴史や文化などについての理解を深める。
～語3	中級1・2 (リテラリー) ※ドイツ語のみ 2011年度以降廃止	2	春	2	語彙数を増やすための造語論，文章語になれるための構造論の概説を踏まえて，ドイツ語文章の読解力の育成を図る。辞書を使わない速読と，辞書を用いた精読についても学習する。1年次に学習した初級文法を復習から強化するとともに，未修得の文法事項を適宜補う。テキストの文章を読み進めつつ，練習問題や関連するプリントを用いて，ドイツ語圏の日常生活，歴史，文化に触れる。
～語4	応用1・2 (リテラリー) ※ドイツ語のみ 2011年度以降廃止	2	秋	2	語彙数を増やすための造語論，文章語になれるための構造論の概説を踏まえて，ドイツ語文章の読解力の育成を図る。辞書を使わない速読と，辞書を用いた精読についても学習する。1年次に学習した初級文法を復習から強化するとともに，未修得の文法事項を適宜補う。テキストの文章を読み進めつつ，練習問題や関連するプリントを用いて，ドイツ語圏の日常生活，歴史，文化に触れる。
～語1 ～語2 ～語3 ～語4	集中 ※ドイツ文学専修 ・ フランス文学専修 のみ	1	春 ・ 秋	各 2	文学部文学科ドイツ文学専修およびフランス文学専修の学生対象。2年次から始まる専門教育科目の履修のための準備として，1年次に週4回行われ，「聞く・話す・読む・書く」能力を最大限に育成することを目的とする。

2. 履修チャート

B1 6単位履修者（文学部以外）

各学期に履修する科目、内容、単位数は以下の通り。

科目名で「～語」と記載されているところは、各自の履修言語に従い、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語と読み替えること。



0 <言語の決定・1年次春学期のクラス分けについて>

- 言語およびクラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期のクラス分けについて>

- 「～語2」は「～語1」に合格しないと履修できない。
- 「～語1」合格者は、春学期と同じクラス番号のクラスで「～語2」を履修する。

2 <2年次春学期のクラス分け（クラス選択）について（2011年度以降はクラス選択制度廃止）>

- 「～語2」を1年次秋学期に合格した学生は、2年次春学期に言語文化クラス、コミュニケーション・クラス（朝鮮語除く、2011年度以降廃止）、リテラリー・クラス（ドイツ語のみ、2011年度以降廃止）の中から希望するクラスを選択する。ただし、理学部の学生は、コミュニケーション・クラスおよびリテラリー・クラスを選択することはできない。
- クラス選択のための「クラス希望届」は、2年次春学期授業開始前に提出する。
- 提出された「クラス希望届」により、「～語2」の成績上位者から順に希望のクラスに振り分ける。
- 言語文化クラスへ進むと、2年次春学期に「～語3A1」を週1回、2年次秋学期に「～語3A2」を週1回履修する。「～語3A1」「～語3A2」は個別指導。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- コミュニケーション・クラス（朝鮮語除く、2011年度以降廃止）、リテラリー・クラス（ドイツ語のみ、2011年度以降廃止）へ進むと、2年次春学期に「～語3」を週2回セットで履修する。このクラスに合格すると、2年次春学期で必修科目の6単位を修得し終えたことになる。

3 <2年次秋学期の履修について>

- 言語文化クラスの場合、「～語3A1」の合否に関わらず、指定されたクラスで「～語3A2」を履修する。「～語3A1」「～語3A2」は個別指導。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- 秋学期開始時のクラス確認は、履修登録状況画面で行うこと。

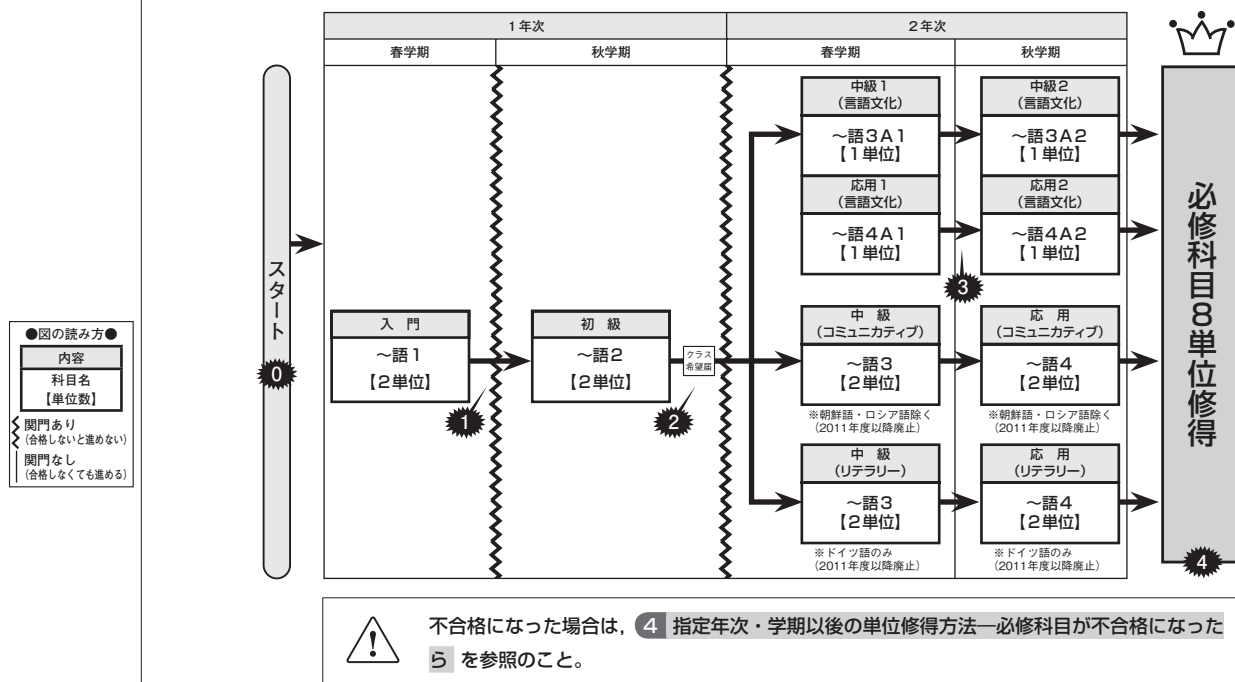
4 <自由選択科目について>

- 必修科目を履修しながら、または、必修科目の単位修得後、自由選択科目を履修することができる。また、必修科目の単位修得後、さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために、インテンシブコース（副専攻）が用意されている。

B2 8単位履修者（文学部 ※文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修除く）

各学期に履修する科目、内容、単位数は以下の通り。

科目名で「～語」と記載されているところは、各自の履修言語に従い、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語と読み替えること。



0 <言語の決定・1年次春学期のクラス分けについて>

- 言語およびクラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期のクラス分けについて>

- 「～語2」は「～語1」に合格しないと履修できない。
- 「～語1」合格者は、春学期と同じクラス番号のクラスで「～語2」を履修する。

2 <2年次春学期のクラス分け（クラス選択）について（2011年度以降はクラス選択制度廃止）>

- 「～語2」を1年次秋学期に合格した学生は、2年次春学期に言語文化クラス、コミュニケーション・クラス（朝鮮語・ロシア語除く、2011年度以降廃止）、リテラリー・クラス（ドイツ語のみ、2011年度以降廃止）の中から希望するクラスを選択する。
- クラス選択のための「クラス希望届」は、2年次春学期授業開始前に提出する。
- 提出された「クラス希望届」により、「～語2」の成績上位者から順に希望のクラスに振り分ける。
- 言語文化クラスへ進むと、2年次春学期に「～語3A1」と「～語4A1」をそれぞれ週1回、2年次秋学期に「～語3A2」と「～語4A2」をそれぞれ週1回履修する。「クラス希望届」では、「～語3A1」「～語3A2」のクラスを選択する。「～語4A1」「～語4A2」は「～語3A1」「～語3A2」と同じクラス番号のクラスで履修する。「～語4A1」「～語4A2」（ロシア語除く）は個別指導。「～語3A1」「～語3A2」（ロシア語除く）は個別指導。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- コミュニケーション・クラス（朝鮮語・ロシア語除く、2011年度以降廃止）、リテラリー・クラス（ドイツ語のみ、2011年度以降廃止）へ進むと、2年次春学期に「～語3」を週2回セットで履修し、2年次秋学期に「～語4」を週2回セットで履修する。

3

<2年次秋学期の履修について>

- 言語文化クラスの場合、「～語3 A 1」の可否に関わらず、指定されたクラスで「～語3 A 2」を履修する。「～語3 A 1」「～語3 A 2」（ロシア語除く）は個別指導。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- 言語文化クラスの場合、「～語4 A 1」の可否に関わらず、指定されたクラスで「～語4 A 2」を履修する。「～語4 A 1」「～語4 A 2」（ロシア語除く）は個別指導。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- コミュニケーション・クラスの場合、「～語3」の可否に関わらず、コミュニケーション・クラスで「～語4」を週2回セットで履修する（2011年度以降廃止）。
- リテラリー・クラスの場合、「ドイツ語3」の可否に関わらず、リテラリー・クラスで「ドイツ語4」を週2回セットで履修する（2011年度以降廃止）。
- 秋学期開始時のクラス確認は、履修登録状況画面で行うこと。

4

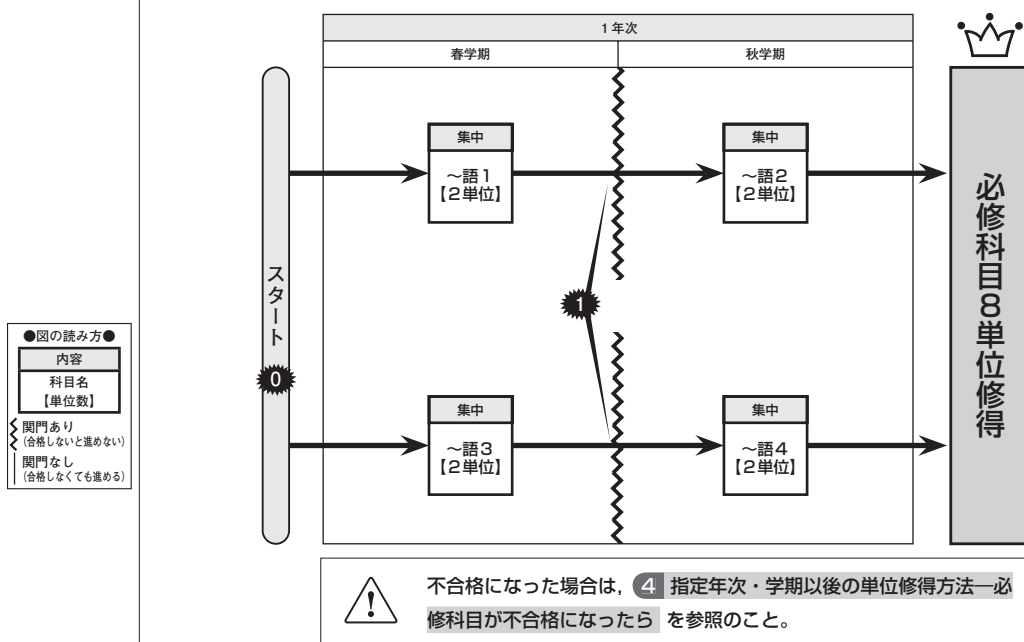
<自由選択科目について>

- 必修科目を履修しながら、または、必修科目の単位修得後、自由選択科目を履修することができる。また、必修科目の単位修得後、さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために、インテンシブコース（副専攻）が用意されている。

B3 8単位履修者（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修）

各学期に履修する科目、内容、単位数は以下の通り。

科目名で「～語」と記載されているところは、各自の履修言語に従い、ドイツ語・フランス語と読み替えること。



0 <1年次春学期・秋学期の履修について>

- 1年次春学期には、集中コースのうち、「～語1」と「～語3」の2科目を履修し、1年次秋学期には、「～語2」と「～語4」の2科目を履修する。

1 <「～語2」「～語4」の履修について>

- 「～語2」は「～語1」に合格しないと履修できない。
- 「～語4」は「～語3」に合格しないと履修できない。

⇒ドイツ文学専修

- 「ドイツ語1」合格者は、指定されたクラスで「ドイツ語2」を履修する。
- 「ドイツ語3」合格者は、指定されたクラスで「ドイツ語4」を履修する。

⇒フランス文学専修

- 「フランス語1」合格者は、指定されたクラスで「フランス語2」を履修する。
- 「フランス語3」合格者は、指定されたクラスで「フランス語4」を履修する。

3 日本語（外国人留学生のみ）

1. カリキュラム

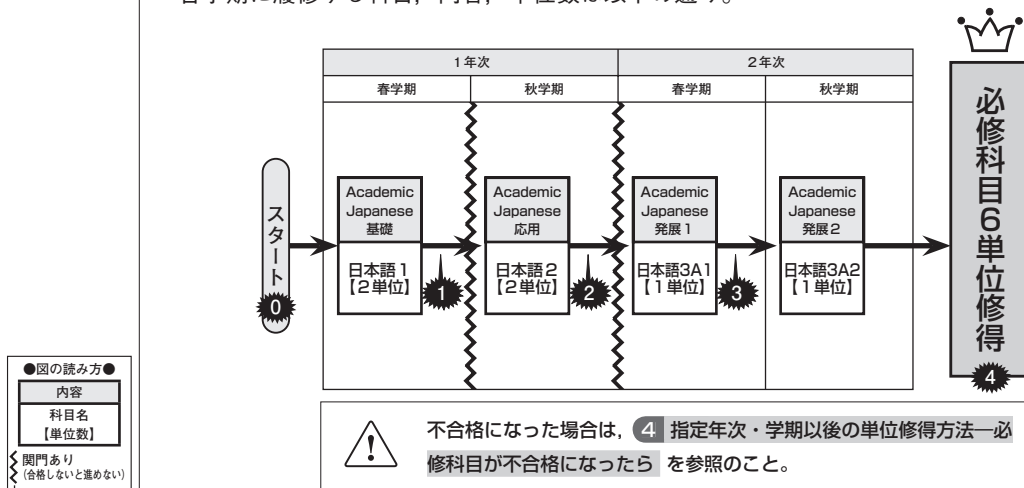
必修科目として履修する日本語で開講される科目は履修段階に応じておおむね以下のようになっている。詳細は、『シラバス』を参照すること。

科目名	内容	単 位 数	開 講 学 期	配 当 年 次	概要
日本語1	Academic Japanese 基礎	2	春	1	大学における学習、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。具体的には、ノート・テーキングの方法、わかりやすく話すためのスキル練習、レポートの形式、機能別文型などについて学ぶ。
日本語2	Academic Japanese 応用	2	秋	1	日本語1で学んだ基本的スキルを定着させるとともに、その応用を目指す。具体的には、プレゼンテーション用コンピュータソフトの使い方、資料検索の方法、テーマからレポートのまとめ方、AV機器を用いたプレゼンテーションのスキルなどについて学ぶ。
日本語3A1	Academic Japanese 発展1	1	春	2	1年次に学習した基本的スキルをさらに発展させ、より知的な日本語の獲得を目指す。日本語3A1では、グループ・ワークに焦点をあて、授業参加者が自主的にトピックを選択し、グループワーク形式で、資料の収集からプレゼンテーション、レポート作成までを行う。
日本語3A2	Academic Japanese 発展2	1	秋	2	2年次春学期までに身につけた日本語能力をさらに高め、大学生活で必要となる高度な日本語運用能力の習得を目指す。各学生が自分の専門分野に近いトピックについて調査、研究を行い、それを論文形式でまとめるとともに、プレゼンテーションも行う。
日本語4A1	Academic Japanese 演習1	1	春	2	1年次に引き続き、アカデミック・ジャパニーズの訓練を行うが、特に卒業論文の作成を念頭において、より高度な文章構成能力の養成を目指す。
日本語4A2	Academic Japanese 演習2	1	秋	2	2年次春学期に引き続き、アカデミック・ジャパニーズの訓練を行うが、特に卒業論文の作成を念頭において、より高度な文章構成能力の養成を目指す。

2. 履修チャート

J1 6単位履修者（文学部以外）

各学期に履修する科目、内容、単位数は以下の通り。



0 <言語の決定・1年次春学期のクラス分けについて>

- 言語およびクラスを途中で変更することはできない。

1 <1年次秋学期の履修について>

- 「日本語2」は「日本語1」に合格しないと履修できない。
- 「日本語1」合格者は、春学期と同じクラスで「日本語2」を履修する。

2 <2年次春学期の履修について>

- 「日本語3A1」は「日本語2」を合格しないと履修できない。
- 個別指導で「日本語3A1」を履修する。個別指導の詳細は対象者に通知する。

3 <2年次秋学期の履修について>

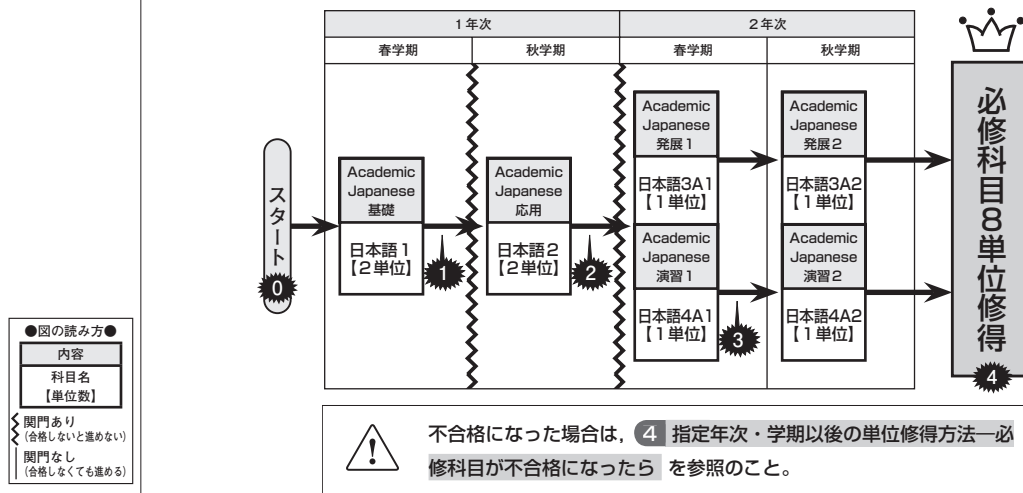
- 「日本語3A1」の可否に関わらず、個別指導で「日本語3A2」を履修する。個別指導の詳細は対象者に通知する。

4 <自由選択科目について>

- 必修科目を履修しながら、または、必修科目の単位修得後、自由選択科目を履修することができる。

J2 8単位履修者（文学部）

各学期に履修する科目、内容、単位数は以下の通り。



0 <言語の決定・1年次春学期のクラス分けについて>

- 言語およびクラスを途中で変更することはできない。

1 <1年次秋学期の履修について>

- 「日本語2」は「日本語1」に合格しないと履修できない。
- 「日本語1」合格者は、春学期と同じクラスで「日本語2」を履修する。

2 <2年次春学期の履修について>

- 「日本語3A1」および「日本語4A1」は「日本語2」を合格しないと履修できない。
- 個別指導で「日本語3A1」および「日本語4A1」を履修する。個別指導の詳細は対象者に通知する。

3 <2年次秋学期の履修について>

- 「日本語3A1」の合否に関わらず、個別指導で「日本語3A2」を履修する。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- 「日本語4A1」の合否に関わらず、個別指導で「日本語4A2」を履修する。個別指導の詳細は対象者に通知する。

4 <自由選択科目について>

- 必修科目を履修しながら、または、必修科目の単位修得後、自由選択科目を履修することができる。

4 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が不合格になったら（英語単位認定試験）

英語

英語必修科目については、不合格者に対して、再履修者用クラスを開講していない。1年次生クラスへの編入も認めないので、不合格者はすべて以下に説明する英語単位認定試験を受験して、未修得となった科目の単位を修得する。

英語単位認定試験

英語単位認定試験は、英語必修科目の不足単位の修得を目的とした試験であり、全学共通カリキュラム運営センターが定めた期日に行う試験である。

なお、休学等による未履修の必修科目がある場合、試験に合格してもその科目の単位に充当することはできない。

1. 対象者

以下のすべてを満たす者。

- (1) 英語必修科目の修得単位が8単位に満たない者。
- (2) 2年次生以上の者。

※Rikkyo English Online (REO) にアップロードされている教材のうち、指定ユニットの学習を終了することが望ましい。

2. 実施概要

および

スケジュール

英語単位認定試験は、年2回、6月と11月に実施する。各回につき2種類の試験を実施し、それぞれの試験につき異なる課題が課される。2017年度より池袋キャンパスのみでの実施とする（新座キャンパスでは実施しない）。

行 事	2019年6月実施	2019年11月実施
説明会	3月22日（金）10:00～11:00 池袋 8202教室 新座 N852教室	7月10日（水）池袋・新座 10:00～11:00 教室は全学共通カリキュラム掲示板にて発表
試験時間・試験場発表	4月3日（水） 全学共通カリキュラム掲示板	9月12日（木） 全学共通カリキュラム掲示板
事前学習開始日	4月6日（土）	9月14日（土）
試験日	6月8日（土） 英語単位認定試験A 英語単位認定試験B	11月9日（土） 英語単位認定試験C 英語単位認定試験D
合格者発表	7月1日（月） 全学共通カリキュラム掲示板	12月2日（月） 全学共通カリキュラム掲示板
成績証明書への記載	[2019年度在籍者] 9月5日（木）～	[2020年度在籍者] 4月1日（水）～ [卒業合格発表対象者] 卒業式終了後～

注1）履修登録は不要であり、各学部の定める履修登録上限単位数には含まれない。

注2）英語単位認定試験の結果について内容的な問い合わせがある場合は、合格発表後1週間を期日として、教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）に申し出ること。

3. 修得できる

単位数

および成績

1つの試験の合格につき2単位を修得できる。科目対応はしていない。1回の英語単位認定試験では、不足単位数にかかわらず上表の通り2試験（各2単位、計4単位）まで受験できる。ただし、試験に合格した場合に認定される単位数は不足単位数分のみとする。合格した場合に成績参照画面ならびに証明書に記載される科目名は、「英語単位認定試験～（2単位または1単位）」となる（～にはA、B、C、Dのうち合格した試験が記される）。評価は「C」とする。

4. 英語単位認定

試験受験者へ

の学習支援

受験者は、Rikkyo English Online (REO) にアップロードされている教材のうち、各学期の各試験につき、指定のユニットを終了することが望ましい。

指定ユニットの詳細はログイン時に各自が確認すること。

5. 受験手続	受験希望者は、試験当日、学生証を持って試験場に行くこと。 試験時間、試験場は全学共通カリキュラム掲示板に掲載するので、事前に確認しておくこと。
6. 試験問題形式	リーディングとリスニングの総合問題（文法・語彙含む。マークシート形式）。 持ち込みは不可とする。 問題は、Rikkyo English Online（REO）にアップロードされている「スーパー英語」の教材のうち、指定のユニットをベースに出題される。
7. 受験上の注意	(1) 試験当日は、学生証・HBの鉛筆・消しゴム・ペンまたはボールペンを必ず持参すること。 (2) 遅刻者の入室は許可しない。ただし、試験開始後15分以内の遅刻者は、監督者の許可を得て入室できるものとする。なお、交通機関の遅延による遅刻の場合は、試験開始後30分まで、入室を許可することもある（交通機関発行の遅延証明書の提出が必要）。 (3) 試験当日、学生証を忘れた学生には臨時学生証（500円）を発行するので、池袋キャンパスの教務窓口へ時間に余裕を持って申し出ること。
8. 追試験	英語単位認定試験は、追試験を行わない。
9. 不正行為	(1) 試験は学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。 (2) 受験中不正行為を行った者は、直ちに退場させられる。 (3) 英語単位認定試験を受験中に不正行為を行った者は、同日に行われる試験を含め、当該試験期間（6月実施：春学期末試験終了まで、11月実施：秋学期末試験終了まで）の筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績は全て不合格となる。 (4) 不正行為を行った者の当該試験期間の成績は、筆記試験以外の方法のみによって成績評価をする科目（レポート・レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目）について有効とする。ただし、処分決定後は、不正行為以後の全ての受験資格を喪失する。 (5) 春学期末または秋学期末試験期間に不正行為を行った場合、6月または11月に受験した英語単位認定試験の受験資格をさかのぼって失い、合格は取り消される。 (6) 不正行為を行った者の処分は、当該学生の所属学部教授会が決定する。 (7) 不正行為に対する処分は、訓告、停学、退学の3種類とする。 不正行為の処分は、原則として停学とする。
言語B	ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語については、不合格になった場合、不合格となった科目を指定されたクラスまたは個別指導で再履修することにより、未修得となった単位を修得する。以下に注意すること。 ● 春学期開講科目、秋学期開講科目とも、それぞれの授業前に各自の履修するクラス・担当者を履修登録状況画面で発表する。春、秋学期でクラス・担当者が変わる場合があるので充分注意すること。 ● 秋学期開講科目については、履修するクラスは秋学期授業開始前に発表されるが、所属学部別に指定される曜日・時限が「シラバス・時間割検索システム」に記載されているので、1年間の履修計画を立てる際に、確認しておくこと。 ● 個別指導については、教務事務センターから対象者に連絡する。 ※「～語3A1」「～語3A2」再履修クラス： ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、日本語は個別指導。ロシア語は自由（選択）科目に合併して開講する。

2008・2009年度1年次入学者に適用
 <文・経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部>
 (2010・2011年度3年次編入学者に適用)

※「～語4A1」「～語4A2」再履修クラス（文学部のみ）：

ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、日本語は個別指導。ロシア語は自由（選択）
 科目に合併して開講する。

※文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修学生の再履修：

「ドイツ語1」「ドイツ語2」「フランス語3」「フランス語4」は個別指導，「ドイツ語3」「ドイツ語4」「フランス語1」「フランス語2」は1年次クラスに合併して開講する。

それぞれの学期に再履修可能な科目は，下表の通り。履修方法の詳細については，再履修チャート記号に従って，次頁以降を参照すること。

科目	1年次		2年次		3年次		4年次		不合格になったら (再履修チャート記号)
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
～語1	◎	×	●	×	●	×	●	×	X1
「～語1」に合格しないと「～語2」を履修することはできない。									
～語2		◎	×	●	×	●	×	●	X2
「～語2」に合格しないと「～語3A1」を履修することはできない。									
～語3A1			◎	×	●	△1	●	△1	言語文化 X3 X3 X4 X4 コミュニケーション ライブラリー X5 X6 X6
～語3A2				◎	△2	●	△2	●	
～語4A1			◎	×	●	△3	●	△3	
～語4A2				◎	△4	●	△4	●	

◎……配当年次・学期

●……再履修クラスまたは個別指導が指定され，自動登録される

×……当該学期には開講されていないため履修不可

△……振替履修のための再履修クラスまたは個別指導が指定され，自動登録される

△1：既に「～語3A2」修得済の者は，「～語3A2」を「～語3A1」に振り替える。

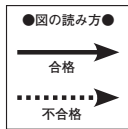
△2：既に「～語3A1」修得済の者は，「～語3A1」を「～語3A2」に振り替える。

△3：既に「～語4A2」修得済の者は，「～語4A2」を「～語4A1」に振り替える。

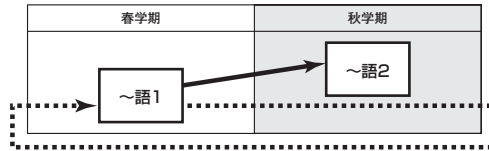
△4：既に「～語4A1」修得済の者は，「～語4A1」を「～語4A2」に振り替える。

履修チャート **B3**（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修）の再履修のしかたについては，再履修チャート記号 **X7** を参照すること。

1. 「～語1」が
不合格になっ
たら

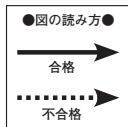


X1

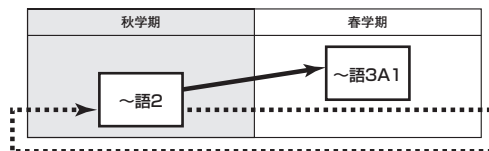


- 「～語1」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「～語1」を再履修する。再度「～語1」が不合格となった場合も、同じように再履修する。合格するまで、秋学期に開講される「～語2」を履修することはできない。
- 再履修で春学期に「～語1」を修得後は、秋学期に「～語2」を、次年度春学期に「～語3 A 1」を、次年度秋学期に「～語3 A 2」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する（自動登録）。
- 一度でも「～語1」が不合格になった学生は、「クラス希望届」を提出できない。また、コミュニケーション・クラスまたはリテラリー・クラスを選択できない。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。

2. 「～語2」が
不合格になっ
たら



X2

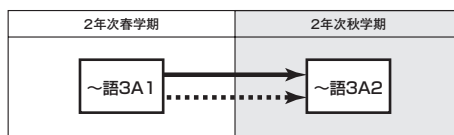


- 「～語2」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「～語2」を再履修する。再度「～語2」が不合格となった場合も、同じように再履修する。合格するまで、春学期に開講される「～語3 A 1」を履修することはできない。
- 再履修で秋学期に「～語2」を修得後は、次年度春学期に「～語3 A 1」を、次年度秋学期に「～語3 A 2」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する（自動登録）。
- 一度でも「～語2」が不合格になった学生は、「クラス希望届」を提出できない。また、コミュニケーション・クラスまたはリテラリー・クラスを選択できない。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。

2年次科目 言語文化クラス不合格者の履修について

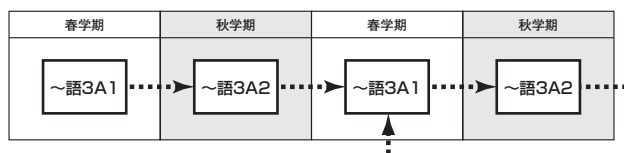
X3

① 2年次春学期に「～語3A1」が不合格になったら



- 2年次春学期に「～語3A1」が不合格であった場合でも、秋学期は、「～語3A2」をあらかじめ指定されているクラスまたは個別指導で履修すること。
- 「～語3A1」および「～語3A2」の3年次以降の再履修のしかたについては、②～④を参照すること。

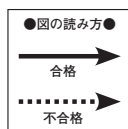
② 「～語3A1」および「～語3A2」の単位が未修得の者



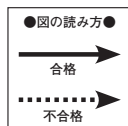
- 春学期は「～語3A1」、秋学期は「～語3A2」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する。「～語3A1」または「～語3A2」のどちらかを修得するまでこれを繰り返す。
- 「～語3A1」が合格になった者は、「～語3A2」の再履修のしかたについて、③を参照すること。
- 「～語3A2」が合格になった者は、「～語3A1」の再履修のしかたについて、④を参照すること。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。

3. 「～語3A1」
 「～語3A2」
 が不合格にな
 ったら

☆2年次生☆



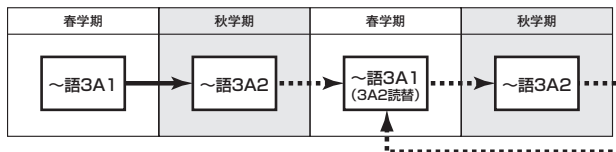
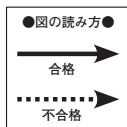
☆3年次以降☆



③ 「～語3A1」の単位修得済で、「～語3A2」の単位が未修得の者

以下のいずれかのパターンで2単位を修得する。

- (1) 「～語3A1」と「～語3A2」を1つずつ（修得順は問わない）
- (2) 「～語3A1」を年度をかねて2つ

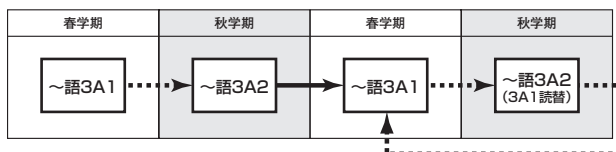
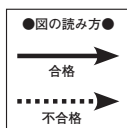


- 「～語3A1」修得済で、「～語3A2」が未修得の場合、秋学期は「～語3A2」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する。「～語3A2」が不合格になった場合、次年度春学期は「～語3A1」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修し、合格した場合、「～語3A2」を修得したものとする。合格するまでこれを繰り返す。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- 「～語3A1」を年度をかねて2つ修得した場合も、成績参照画面および成績証明書には、「～語3A1」と「～語3A2」を修得したものとして記載される。

④ 「～語3A1」の単位が未修得で、「～語3A2」の単位修得済の者

以下のいずれかのパターンで2単位を修得する。

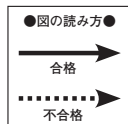
- (1) 「～語3A1」と「～語3A2」を1つずつ（修得順は問わない）
- (2) 「～語3A2」を年度をかねて2つ



- 「～語3A1」が未修得で、「～語3A2」は修得済の場合、春学期は「～語3A1」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する。「～語3A1」が不合格になった場合、秋学期は「～語3A2」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修し、合格した場合、「～語3A1」を修得したものとする。合格するまでこれを繰り返す。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- 「～語3A2」を年度をかねて2つ修得した場合も、成績参照画面および成績証明書には、「～語3A1」と「～語3A2」を修得したものとして記載される。

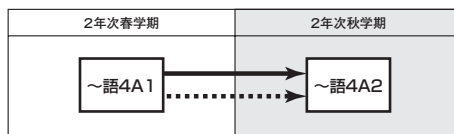
4. 「～語4A1」
 「～語4A2」
 が不合格にな
 ったら

☆2年次生☆



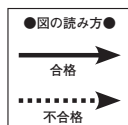
X4

① 2年次春学期に「～語4A1」が不合格になったら

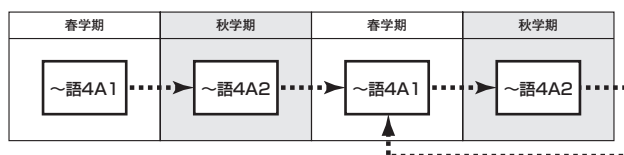


- 2年次春学期に「～語4A1」が不合格であった場合でも、秋学期は、「～語4A2」をあらかじめ指定されているクラスまたは個別指導で履修すること。
- 「～語4A1」および「～語4A2」の3年次以降の再履修のしかたについては、②～④を参照すること。

☆3年次以降☆



② 「～語4A1」および「～語4A2」の単位が未修得の者

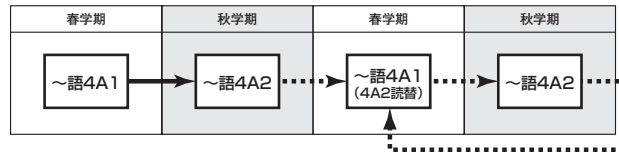
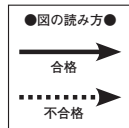


- 春学期は「～語4A1」、秋学期は「～語4A2」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する。「～語4A1」または「～語4A2」のどちらかを修得するまでこれを繰り返す。
- 「～語4A1」が合格になった者は、「～語4A2」の再履修のしかたについて、③を参照すること。
- 「～語4A2」が合格になった者は、「～語4A1」の再履修のしかたについて、④を参照すること。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。

③ 「～語4A1」の単位修得済で、「～語4A2」の単位が未修得の者

以下のいずれかのパターンで2単位を修得する。

- (1) 「～語4A1」と「～語4A2」を1つずつ（修得順は問わない）
- (2) 「～語4A1」を年度をかえて2つ

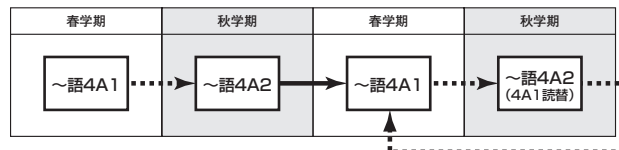
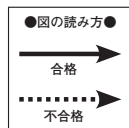


- 「～語4A1」修得済で、「～語4A2」が未修得の場合、秋学期は「～語4A2」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する。「～語4A2」が不合格になった場合、次年度春学期は「～語4A1」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修し、合格した場合、「～語4A2」を修得したものとする。合格するまでこれを繰り返す。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- 「～語4A1」を年度をかえて2つ修得した場合も、成績参照画面および成績証明書には、「～語4A1」と「～語4A2」を修得したものとして記載される。

④ 「～語4A1」の単位が未修得で、「～語4A2」の単位修得済の者

以下のいずれかのパターンで2単位を修得する。

- (1) 「～語4A1」と「～語4A2」を1つずつ（修得順は問わない）
- (2) 「～語4A2」を年度をかえて2つ

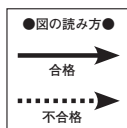


- 「～語4A1」が未修得で、「～語4A2」は修得済の場合、春学期は「～語4A1」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する。「～語4A1」が不合格になった場合、秋学期は「～語4A2」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修し、合格した場合、「～語4A1」を修得したものとする。合格するまでこれを繰り返す。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- 「～語4A2」を年度をかえて2つ修得した場合も、成績参照画面および成績証明書には、「～語4A1」と「～語4A2」を修得したものとして記載される。

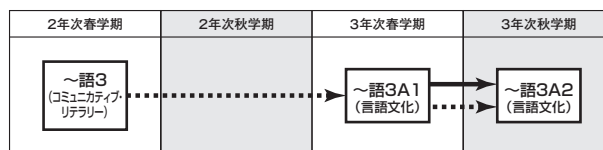
2年次科目 コミュニカティブ・クラスまたはリテラリー・クラス不合格者の履修について

X5 B1（6単位履修者）の場合

☆2年次生☆



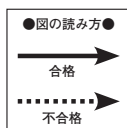
2年次春学期に「～語3」が不合格になったら



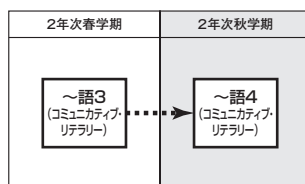
- 2年次春学期に「～語3」をコミュニカティブ・クラスまたはリテラリー・クラスで履修し、不合格であった場合、3年次春学期に「～語3A1」を、3年次秋学期に「～語3A2」を指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する（自動登録）。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- 3年次に「～語3A1」または「～語3A2」が不合格になった場合は、再履修チャートX3の②～④を参照すること。
 ※「～語3」は2011年度以降廃止。

X6 B2（8単位履修者）の場合

☆2年次生☆

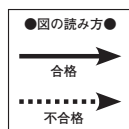


① 2年次春学期に「～語3」が不合格になったら

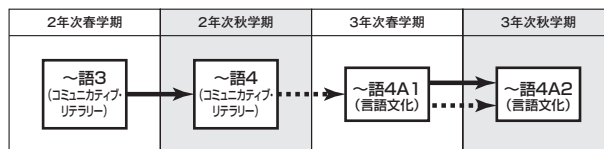


- 2年次春学期に「～語3」をコミュニカティブ・クラスまたはリテラリー・クラスで履修し、不合格であった場合、2年次秋学期は、「～語4」を指定されたクラスまたは個別指導で履修する。
- 3年次以降の再履修の仕方については、②～④を参照すること。
 ※「～語3」「～語4」は2011年度以降廃止。未履修の場合であっても再履修の場合に準じて履修すること。

☆3年次☆

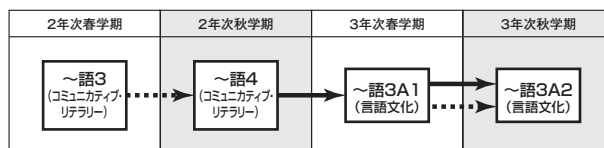


②「～語3」の単位修得済で、「～語4」の単位が未修得の者



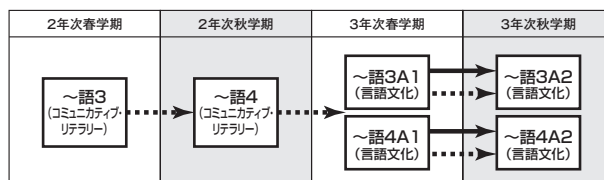
- 3年次春学期は、「～語4A1」を、3年次秋学期は、「～語4A2」をそれぞれ指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- 3年次に「～語4A1」または「～語4A2」が不合格になった者は、再履修チャートX4の②～④を参照すること。

③「～語3」の単位が未修得で、「～語4」の単位が修得済の者

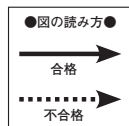


- 3年次春学期は、「～語3A1」を、3年次秋学期は、「～語3A2」をそれぞれ指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- 3年次に「～語3A1」または「～語3A2」が不合格になった者は、再履修チャートX3の②～④を参照すること。

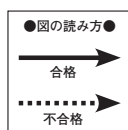
④「～語3」および「～語4」の単位が未修得の者



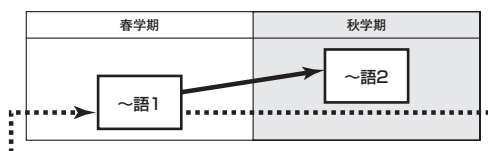
- 3年次春学期は、「～語3A1」と「～語4A1」を、3年次秋学期は、「～語3A2」と「～語4A2」をそれぞれ指定されたクラス（言語文化）または個別指導で履修する。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。
- 3年次に「～語3A1」または「～語3A2」が不合格になった者は、再履修チャートX3の②～④を参照すること。
- 3年次に「～語4A1」または「～語4A2」が不合格になった者は、再履修チャートX4の②～④を参照すること。



1. 「～語1」が
不合格になった
たら

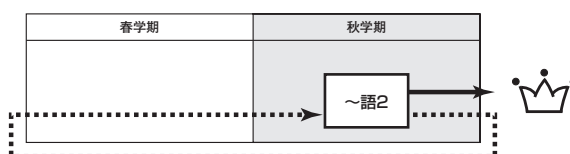
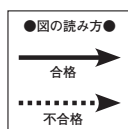


X7 B3 (文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修) の場合



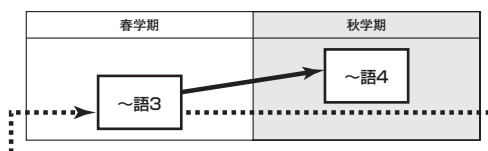
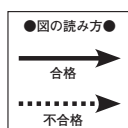
- 「～語1」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスまたは個別指導で「～語1」を再履修する。再度「～語1」が不合格となった場合も、同じように再履修する。合格するまで、秋学期に開講される「～語2」を履修することはできない。
- 再履修で春学期に「～語1」を修得後は、秋学期に「～語2」を指定されたクラスまたは個別指導で履修する（自動登録）。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。

2. 「～語2」が
不合格になった
たら



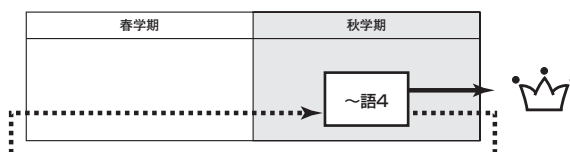
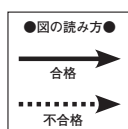
- 「～語2」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスまたは個別指導で「～語2」を再履修する。再度「～語2」が不合格となった場合も、同じように再履修する。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。

3. 「～語3」が
不合格になった
たら



- 「～語3」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスまたは個別指導で「～語3」を再履修する。再度「～語3」が不合格となった場合も、同じように再履修する。合格するまで、秋学期に開講される「～語4」を履修することはできない。
- 再履修で春学期に「～語3」を修得後は、秋学期に「～語4」を指定されたクラスまたは個別指導で履修する（自動登録）。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。

4. 「～語4」が
不合格になった
たら



- 「～語4」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスまたは個別指導で「～語4」を再履修する。再度「～語4」が不合格となった場合も、同じように再履修する。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。個別指導の詳細は対象者に通知する。

自由選択科目

2008・2009年度1年次入学者に適用

(2010・2011年度3年次編入学者に適用)

〈文・経済・理・社会・法・経営・観光・

コミュニティ福祉 (スポーツウエルネス学科除く)・現代心理学部〉

1 自由選択科目 履修上の注意

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1. 自由選択科目
の履修について | 自由選択科目には、履修資格が定められている科目や履修者決定のための選抜を行う科目もあるので、「科目一覧表」をよく読み履修計画を立てること。 |
| 2. 同一科目の重
複履修について | <p>同一科目は、1学期に1つしか履修できない。ただし、学期を変えれば2度以上履修することができるが、その場合には最初に単位を修得した1科目のみが所属学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"><p>同一科目とは、科目の名称 (番号および括弧内の名称を含む)、単位数が同一のものである。</p><p>したがって、担当者が同じでも科目の名称が一部でも異なる場合には別科目となる。逆に担当者や授業の内容が異なっても、科目の名称が同じであれば、同一科目である。</p><p>(例) 「English through Movies A」 (担当教員A) と 「English through Movies B」 (担当教員A) は別科目である。</p><p>「TOEFL 2 (reading)」 (担当教員A) と 「TOEFL 2 (listening)」 (担当教員A) は別科目である。</p><p>「Current English 1 (reading)」 (担当教員A) と 「Current English 1 (reading)」 (担当教員B) は同一科目である。</p></div> |
| 3. 自由選択科目
の修得単位の
扱いについて | <p>(1) 言語教育科目の自由選択科目として修得した単位は、言語Aあるいは言語Bの必修科目としては認定されない。</p> <p>(2) 重複履修等の規定に従い修得した単位は、所属学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。</p> |

2 インテンシブコース（副専攻）について

1. インテンシブ コース （副専攻）

2017年度以降廃止

(1) 英語

英語の自由選択科目を履修し、規定の条件を満たすと、本人の申請に基づき、インテンシブコース修了が認定される。

※注：「英語インテンシブ」とは異なるので、注意すること。

(2) ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語の自由選択科目の科目において、インテンシブコース科目として指定された科目を履修し、規定単位数以上を修得すると、本人の申請に基づき、インテンシブコース修了が認定される。

3 自由選択科目 科目一覧表

1. 英語

英語海外文化研修

※インテンシブコース
（副専攻）対象科目

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

人数制限を行う

登録方法	科目名	単位	配当年次	授業概要	履修資格	定員
「その他」登録	英語海外文化研修	4	全年次	英語圏の中での文化と言語の学習	下記のいずれかに該当する者。 ①1年次生 ②英語必修科目単位修得済の2～4年次生	約50名

注意 1) 募集人数は、1～4年次生50名程度。
 2) 春学期の土曜日に事前研修、秋学期の指定日に報告会などが池袋キャンパスで実施され、これらへの参加状況も含めて成績が評価される。成績発表は通年・秋学期科目と同時期となる。
 3) 履修を希望する学生は、全学年とも、下記日程で開催の説明会に「シラバス」を読んだ上で参加すること。

説明会：池袋…2019年4月4日（木）11:15～12:15 7101教室（7号館1階）
 出願：池袋・新座…2019年4月1日（月）～4月11日（木）（窓口開室時間内）
 提出場所：教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）
 選考結果発表：2019年4月15日（月）10:00 全学共通カリキュラム掲示板

※「英語海外文化研修」の単位については、履修登録上は1学期あたり2単位（春学期2単位・秋学期2単位）として計算する。各自所属する学部・学科の履修規定により履修上限単位数が設定されている場合には、履修計画を立てる際に注意すること。

国際交流制度短期 英語研修プログラム について

2017年度より立教大学学生国際交流制度のプログラムに参加し履修登録をした学生は、各大学の短期英語研修で修得した単位は、全学共通カリキュラム言語教育科目「自由選択科目（英語）」の単位として認められる。この単位は、各学部の規定の範囲内で、卒業要件単位として認められる。科目の詳細については国際センターまで問い合わせること。

2010年度以降 1年次入学用 自由科目の履修

※インテンシブコース
（副専攻）対象外

2010年度以降1年次入学者向けに開講される自由科目を自由選択科目として履修することができる。履修資格・申請方法等は2010年度以降1年次入学者と同様である。事前に申請をし、履修資格を認められていなければ履修できない科目もあるので注意すること。ただし、インテンシブコース（副専攻）対象外。

英語力伸長度 測定テストの受験

2019年度に在学する学生は以下の日程で英語力伸長度測定テスト（TOEIC® L&R IP）を受験することができる。

受験の結果、規定以上のスコアを獲得できた際には、基準点が定められている言語副専攻科目の履修資格判定の申請に利用することができる。

受験にあたっては事前に申込が必要となるため、自宅宛に発送（4月度は2月中旬、12月度は10月下旬）される受験案内はがきを確認すること。受験会場等の詳細は全学共通カリキュラムホームページ、全学共通カリキュラム掲示板にて確認すること。

【日程】春学期：2019年4月13日（土）

秋学期：2019年12月7日（土）

2008・2009年度1年次入学者に適用
 <文・経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部>
 （2010・2011年度3年次編入学者に適用）

2. ドイツ語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

（池袋キャンパス開講科目）

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	インテンシブコース科目群	レベル（学期初め）	定員
抽選登録	言語情報処理論（ドイツ語）	2	1・2・3・4	インターネットを通して当該言語圏の情報処理能力および発信能力を習得するための基礎的な知識を学ぶ。	「ドイツ語1」および「ドイツ語2」の単位取得済が望ましい。	インテンシブコースコア科目群	「ドイツ語2」修了程度	30名
	上級ドイツ語コミュニケーション1	2	3・4	ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、高度なコミュニケーション能力を身につける。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級ドイツ語コミュニケーション2	2		ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、高度なコミュニケーション能力を身につける。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級ドイツ語ライティング1	2		ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、ドイツ語の文章を書く力を身につける。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級ドイツ語ライティング2	2		ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、ドイツ語の文章を書く力を身につける。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級ドイツ語リスニング・リーディング1	2		まとまった文章の読解、聴解の力を高め、理解のための背景知識、技術を身につける。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級ドイツ語リスニング・リーディング2	2		まとまった文章の読解、聴解の力を高め、理解のための背景知識、技術を身につける。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級ドイツ語演習1	2		聞く・話す・読む・書くについてより高い力を身につける。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級ドイツ語演習2	2		聞く・話す・読む・書くについてより高い力を身につける。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名

（池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目）

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎ドイツ語入門	2 (選2回)	2・3・4	1年次春学期必修クラスに同じ。	必修科目がドイツ語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名
	基礎ドイツ語初級	2 (選2回)		1年次秋学期必修クラスに同じ。	必修科目がドイツ語以外の者。 「入門ドイツ語」または「基礎ドイツ語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名

※「入門・初級ドイツ語」は2010年度以降廃止。

（池袋キャンパス・新座キャンパス共通）

人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	インテンシブコース科目群	レベル(学期初め)	定員
「その他登録」	ドイツ語海外言語文化研修(中級)	2	1・2・3・4	ドイツの大学の語学コースに参加し、言語・文化について総合的に学ぶ。	「ドイツ語1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群 インテンシブコース インテンシブコース コア科目群	「ドイツ語1」修了程度	計15名
	ドイツ語海外言語文化研修(上級)	2	3・4	ドイツの大学の語学コースに参加し、言語・文化について総合的に学ぶ。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	
注意 ドイツ語海外言語文化研修の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。 説明会：池袋…2019年4月4日(木) 11:15～12:15 A304教室(11号館3階) 出願：池袋・新座…2019年4月1日(月)～4月11日(木) (窓口開室時間内) 提出場所：教務事務センター (池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階) 選考結果発表：2019年4月15日(月) 10:00 全学共通カリキュラム掲示板								

（新座キャンパス開講科目）

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	インテンシブコース科目群	レベル（学期初め）	定員
抽選登録	言語情報処理論（ドイツ語）	2	1・2・3・4	インターネットを通して当該言語圏の情報処理能力および発信能力を習得するための基礎的な知識を学ぶ。	「ドイツ語1」および「ドイツ語2」の単位取得済が望ましい。		「ドイツ語2」修了程度	30名

2008・2009年度1年次入学者に適用
 <文・経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部>
 (2010・2011年度3年次編入学者に適用)

3. フランス語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	インテシブコース科目群	レベル(学期初め)	定員
抽選登録	言語情報処理論(フランス語)	2	1・2・3・4	インターネットを通して当該言語圏の情報処理能力および発信能力を習得するための基礎的な知識を学ぶ。	「フランス語1」および「フランス語2」の単位取得が望ましい。	インテシブコースコア科目群	「フランス語2」修了程度	30名
	上級フランス語コミュニケーション1	2	3・4	会話能力の発展を目指す。口頭表現や聴解の訓練と同時に、口頭コミュニケーションに必要な応用表現や語彙などの知識を深める。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級フランス語コミュニケーション2	2		上級フランス語コミュニケーション1とは異なる教材・テーマで、上級フランス語コミュニケーション1と同様の学習を行う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級フランス語ライティング1	2		主に作文力の発展を目指す。報告書を書いたり、自分の考えたことを文章にまとめて表現する応用力を養う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級フランス語ライティング2	2		上級フランス語ライティング1とは異なる教材・テーマで、上級フランス語ライティング1と同様の学習を行う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級フランス語リスニング・リーディング1	2		言語の受容能力の発展を目指す。リスニングの訓練と聞き取った内容を正確に理解し、文章を正確に読み取る応用力を養う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級フランス語リスニング・リーディング2	2		上級フランス語リスニング・リーディング1とは異なる教材・テーマで、上級フランス語リスニング・リーディング1と同様の学習を行う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級フランス語演習1	2		仏検2～準1級受験対策、およびフランス語の能力・知識を発展させ、時事、歴史、文化など様々な分野におけるテーマ別学習を行う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級フランス語演習2	2		上級フランス語演習1とは異なる教材・テーマで、上級フランス語演習1と同様の学習を行う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎フランス語入門	2 (選2)	2・3・4	1年次春学期必修クラスに同じ。	必修科目がフランス語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名
	基礎フランス語初級	2 (選2)		1年次秋学期必修クラスに同じ。	必修科目がフランス語以外の者。 「入門フランス語」または「基礎フランス語入門」の単位取得済。	必修科目に合併して行う	5名

※「入門・初級フランス語」は2010年度以降廃止。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	インテシブコース科目群	レベル(学期初め)	定員
「その他」登録	フランス語海外言語文化研修(中級)	2	1・2・3・4	フランスの大学の語学コースに参加し、言語・文化について総合的に学ぶ。	「フランス語1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	「フランス語1」修了程度	計20〜30名
	フランス語海外言語文化研修(上級)	2	3・4	フランスの大学の語学コースに参加し、言語・文化について総合的に学ぶ。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。	コア科目群	インテシブコース基礎科目群修了程度	
注意 フランス語海外言語文化研修の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んで上で、必ず参加すること。 説明会：池袋…2019年4月4日(木)11:15～12:15 A301教室(11号館3階) 出願：池袋・新座…2019年4月1日(月)～4月11日(木)(窓口開室時間内) 提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階) 選考結果発表：2019年4月15日(月)10:00 全学共通カリキュラム掲示板								

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	インテシブコース科目群	レベル(学期初め)	定員
抽選登録	言語情報処理論(フランス語)	2	1・2・3・4	インターネットを通して当該言語圏の情報処理能力および発信能力を習得するための基礎的な知識を学ぶ。	「フランス語1」および「フランス語2」の単位取得が望ましい。		「フランス語2」修了程度	30名

2008・2009年度1年次入学者に適用
 <文・経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部>
 （2010・2011年度3年次編入学者に適用）

4. スペイン語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

（池袋キャンパス開講科目）

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	インテンシブコース科目群	レベル（学期初め）	定員
抽選登録	言語情報処理論（スペイン語）	2	1・2・3・4	インターネットを通して当該言語圏の情報処理能力および発信能力を習得するための基礎的な知識を学ぶ。	「スペイン語1」および「スペイン語2」の単位取得済が望ましい。	インテンシブコースコア科目群	「スペイン語2」修了程度	30名
	上級スペイン語コミュニケーション1	2	3・4	会話能力の発展を目指す。口頭表現や聴解の訓練と同時に、口頭コミュニケーションに必要な応用表現や語彙などの知識を深める。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級スペイン語コミュニケーション2	2		上級スペイン語コミュニケーション1とは異なる教材・テーマで、上級スペイン語コミュニケーション1と同様の学習を行う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級スペイン語ライティング1	2		主に作文力の発展を目指す。報告書を書いたり、自分の考えたことを文章にまとめて表現する応用力を養う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級スペイン語ライティング2	2		上級スペイン語ライティング1とは異なる教材・テーマで、上級スペイン語ライティング1と同様の学習を行う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級スペイン語リスニング・リーディング1	2		言語の受容能力の発展を目指す。リスニングの訓練と聞き取った内容を正確に理解し、文章を正確に読み取る応用力を養う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級スペイン語リスニング・リーディング2	2		上級スペイン語リスニング・リーディング1とは異なる教材・テーマで、上級スペイン語リスニング・リーディング1と同様の学習を行う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級スペイン語演習1	2		習得した言語の能力、知識を発展応用させ、時事、歴史、文化、文学など様々な分野におけるテーマ別学習を行う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級スペイン語演習2	2		上級スペイン語演習1とは異なる教材・テーマで、上級スペイン語演習1と同様の学習を行う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名

（池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目）

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎スペイン語入門	2 （選2回）	2・3・4	1年次春学期必修クラスに同じ。	必修科目がスペイン語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名
	基礎スペイン語初級	2 （選2回）		1年次秋学期必修クラスに同じ。	必修科目がスペイン語以外の者。「入門スペイン語」または「基礎スペイン語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名

※「入門・初級スペイン語」は2010年度以降廃止。

（池袋キャンパス・新座キャンパス共通）

人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	インテンシブコース科目群	レベル（学期初め）	定員
「その他」登録	スペイン語海外言語文化研修（中級）	2	1・2・3・4	スペインの大学の語学コースで、基礎的なスペイン語力を強化し、文化も学ぶ。	「スペイン語1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	「スペイン語1」修了程度	約20名
	スペイン語海外言語文化研修（上級）	2	3・4	スペインの大学の語学コースで、より高度なスペイン語力を養い、文化も学ぶ。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。	インテンシブコースコア科目群	インテンシブコース基礎科目群修了程度	約20名
注意 スペイン語海外言語文化研修の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。 説明会：池袋…2019年4月4日（木）11:15～12:15 A202教室（11号館2階） 出願：池袋・新座…2019年4月1日（月）～4月11日（木）（窓口開室時間内） 提出場所：教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階） 選考結果発表：2019年4月15日（月）10:00 全学共通カリキュラム掲示板								

（新座キャンパス開講科目）

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	インテンシブコース科目群	レベル（学期初め）	定員
抽選登録	言語情報処理論（スペイン語）	2	1・2・3・4	インターネットを通して当該言語圏の情報処理能力および発信能力を習得するための基礎的な知識を学ぶ。	「スペイン語1」および「スペイン語2」の単位取得済が望ましい。		「スペイン語2」修了程度	30名

2008・2009年度1年次入学者に適用
 <文・経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部>
 (2010・2011年度3年次編入学者に適用)

5. 中国語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年度	授業概要	履修資格	インテンシブコース科目群	レベル(学期初め)	定員
抽選登録	言語情報処理論(中国語)	2	1・2・3・4	インターネットを通して当該言語圏の情報処理能力および発信能力を習得するための基礎的な知識を学ぶ。	「中国語1」および「中国語2」の単位取得済が望ましい。	インテンシブコース科目群	「中国語2」修了程度	30名
	上級中国語コミュニケーション1	2	3・4	会話能力の発展を目指す。口頭コミュニケーションに必要な応用表現や語彙などの知識を深める。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級中国語コミュニケーション2	2		上級中国語コミュニケーション1とは異なる教材・テーマで、上級中国語コミュニケーション1と同様の学習を行う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級中国語ライティング1	2		主に作文力の発展を目指す。報告書を書いたり、自分の考えたことを文章にまとめて表現する応用力を養う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級中国語ライティング2	2		上級中国語ライティング1とは異なる教材・テーマで、上級中国語ライティング1と同様の学習を行う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級中国語リスニング・リーディング1	2		リスニングの訓練と聞き取った内容を正確に理解し、文章を正確に読み取る応用力を養う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級中国語リスニング・リーディング2	2		上級中国語リスニング・リーディング1とは異なる教材・テーマで、上級中国語リスニング・リーディング1と同様の学習を行う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級中国語演習1	2		習得した言語の能力、知識を発展応用させ、時事、歴史、文化、文学など様々な分野におけるテーマ別学習を行う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級中国語演習2	2		上級中国語演習1とは異なる教材・テーマで、上級中国語演習1と同様の学習を行う。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテンシブコース基礎科目群修了程度	30名

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年度	授業概要	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎中国語入門	2 (選2回)	2・3・4	1年次春学期必修クラスに同じ。	必修科目が中国語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名
	基礎中国語初級	2 (選2回)		1年次秋学期必修クラスに同じ。	必修科目が中国語以外の者。 「入門中国語」または「基礎中国語入門」の単位取得済。	必修科目に合併して行う	5名

※「入門・初級中国語」は2010年度以降廃止。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	配当年度	授業概要	履修資格	インテンシブコース科目群	レベル(学期初め)	定員
その他登録	中国語海外言語文化研修(中級)	2	1・2・3・4	中国語の発音矯正・初級文法の復習・中級相当の表現法と会話	「中国語1」の単位取得済が望ましい。	基礎科目群	「中国語1」修了程度	計50名程度
	中国語海外言語文化研修(上級)	2	3・4	中級文法の復習と上級相当の表現法と会話	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。	コア科目群	インテンシブコース基礎科目群修了程度	
	中国語海外言語文化研修春(中級)	2	1・2・3	中国語の発音矯正・初級文法の復習・中級相当の表現法と会話	「中国語1」の単位取得済が望ましい。	基礎科目群	「中国語1」修了程度	計50名程度
	中国語海外言語文化研修春(上級)	2	3	中級文法の復習と上級相当の表現法と会話	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。	コア科目群	インテンシブコース基礎科目群修了程度	

注意 中国語海外言語文化研修の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…2019年4月4日(木) 11:15～12:15 A203教室(11号館2階)
 出願：池袋・新座…2019年4月1日(月)～4月11日(木)(窓口開室時間内)
 提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階)
 選考結果発表：2019年4月15日(月) 10:00 全学共通カリキュラム掲示板

中国語海外言語文化研修春の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…2019年7月9日(火) 12:30～13:15 教室は掲示を確認すること
 新座…2019年7月10日(水) 12:30～13:15 教室は掲示を確認すること
 出願：池袋・新座…2019年7月9日(火)～7月12日(金)(窓口開室時間内)
 提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階)
 選考結果発表：2019年7月18日(木) 10:00 全学共通カリキュラム掲示板

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年度	授業概要	履修資格	インテンシブコース科目群	レベル(学期初め)	定員
抽選登録	言語情報処理論(中国語)	2	1・2・3・4	インターネットを通して当該言語圏の情報処理能力および発信能力を習得するための基礎的な知識を学ぶ。	「中国語1」および「中国語2」の単位取得済が望ましい。		「中国語2」修了程度	30名

2008・2009年度 1 年次入学者に適用
 <文・経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部>
 （2010・2011年度 3 年次編入学者に適用）

6. 朝鮮語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

（池袋キャンパス開講科目）

登録方法	科目名	単位数	配当年度	授業概要	履修資格	インテシブコース科目群	レベル（学期初め）	定員
抽選登録	言語情報処理論（朝鮮語）	2	1・2・3・4	インターネットを通して当該言語圏の情報処理能力および発信能力を習得するための基礎的な知識を学ぶ。	「朝鮮語 1」および「朝鮮語 2」の単位取得済が望ましい。	インテシブコースコア科目群	「朝鮮語 2」修了程度	30名
	上級朝鮮語コミュニケーション1	2	3・4	会話能力の発展を目指す。口頭表現や聴解の訓練と同時に、口頭コミュニケーションに必要な応用表現や語彙などの知識を深める。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級朝鮮語コミュニケーション2	2		上級朝鮮語コミュニケーション1とは異なる教材・テーマで、上級朝鮮語コミュニケーション1と同様の学習を行う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級朝鮮語ライティング1	2		主に作文力の発展を目指す。報告書を書いたり、自分の考えたことを文章にまとめて表現する応用力を養う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級朝鮮語ライティング2	2		上級朝鮮語ライティング1とは異なる教材・テーマで、上級朝鮮語ライティング1と同様の学習を行う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級朝鮮語リスニング・リーディング1	2		言語の受容能力の発展を目指す。リスニングの訓練と聞き取った内容を正確に理解し、文章を正確に読み取る応用力を養う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級朝鮮語リスニング・リーディング2	2		上級朝鮮語リスニング・リーディング1とは異なる教材・テーマで、上級朝鮮語リスニング・リーディング1と同様の学習を行う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級朝鮮語演習1	2		習得した言語の能力、知識を発展応用させ、時事、歴史、文化、文学など様々な分野におけるテーマ別学習を行う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名
	上級朝鮮語演習2	2		上級朝鮮語演習1とは異なる教材・テーマで、上級朝鮮語演習1と同様の学習を行う。	インテシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。		インテシブコース基礎科目群修了程度	30名

（池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目）

登録方法	科目名	単位数	配当年度	授業概要	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎朝鮮語入門	2 (選2回)	2・3・4	1年次春学期必修クラスに同じ。	必修科目が朝鮮語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名
	基礎朝鮮語初級	2 (選2回)		1年次秋学期必修クラスに同じ。	必修科目が朝鮮語以外の者。 「入門朝鮮語」または「基礎朝鮮語入門」の単位取得済。	必修科目に合併して行う	5名

※「入門・初級朝鮮語」は2010年度以降廃止。

（池袋キャンパス・新座キャンパス共通）

全てのクラスで人数制限を行う

登録方法	科目名	単位数	配当 年次	授業概要	履修資格	インテンシブ コース 科目群	レベル (学期初め)	定員
【その他】登録	朝鮮語海外言語 文化研修(中級)	2	1・2・ 3・4	朝鮮語の基礎的な文字や発音の学習をもとに、初歩的会話能力を身につける。	「朝鮮語1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群 インテンシブコース	「朝鮮語1」修了程度	計 30名 程度
	朝鮮語海外言語 文化研修(上級)	2	3・4	ひととおりの文法や単語の習得の上で、実践的会話能力を身につける。	インテンシブコース基礎科目群から2単位以上修得していることが望ましい。	コア科目群 インテンシブコース	インテンシブコース基礎科目群修了程度	
【注意】 朝鮮語海外言語文化研修の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んで上で、必ず参加すること（各回は同内容のため、いずれかの回に参加すること）。 説明会：池袋…2019年4月4日（木）11:15～12:15 A201教室（11号館2階） 新座…2019年4月3日（水）12:30～13:00 N212教室（2号館1階） 出願：池袋・新座…2019年4月1日（月）～4月11日（木）（窓口開室時間内） 提出場所：教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階） 選考結果発表：2019年4月15日（月）10:00 全学共通科目・カリキュラム掲示板								

（新座キャンパス開講科目）

登録方法	科目名	単位数	配当年度	授業概要	履修資格	インテシブコース科目群	レベル（学期初め）	定員
抽選登録	言語情報処理論（朝鮮語）	2	1・2・3・4	インターネットを通して当該言語圏の情報処理能力および発信能力を習得するための基礎的な知識を学ぶ。	「朝鮮語 1」および「朝鮮語 2」の単位取得済が望ましい。	インテシブコースコア科目群	「朝鮮語 2」修了程度	30名

2008・2009年度 1 年次入学者に適用
 <文・経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部>
 (2010・2011年度 3 年次編入入学者に適用)

7. ロシア語

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	レベル (学期初め)	定員
抽選登録	ロシア語セミナーA	1	1・2・3・4	「ロシア語4A1」に同じ	「ロシア語2」、「ロシア語基礎2」、「初級ロシア語」、「基礎ロシア語初級」のいずれかの単位修得済が望ましい。	「ロシア語2」、「初級ロシア語」、「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」修了程度	30名
	ロシア語セミナーB	1		「ロシア語4A2」に同じ	「ロシア語セミナーA」の単位修得済が望ましい。	「ロシア語2」、「初級ロシア語」、「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」修了程度	30名
	ロシア語セミナーC	1		「ロシア語3A1」に同じ	「ロシア語2」、「ロシア語基礎2」、「初級ロシア語」、「基礎ロシア語初級」のいずれかの単位修得済が望ましい。	「ロシア語2」、「初級ロシア語」、「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」修了程度	30名
	ロシア語セミナーD	1		「ロシア語3A2」に同じ	「ロシア語セミナーC」の単位修得済が望ましい。	「ロシア語2」、「初級ロシア語」、「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」修了程度	30名
	ロシア語セミナー1	1		中・上級	ロシア語科目を6単位以上(必修科目を含む)修得していることが望ましい。	「ロシア語2」、「初級ロシア語」、「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」修了および「ロシア語セミナーA～D」の単位を2単位以上修了程度	30名
	ロシア語セミナー2	1		中・上級	ロシア語科目を6単位以上(必修科目を含む)修得していることが望ましい。	「ロシア語2」、「初級ロシア語」、「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」修了および「ロシア語セミナーA～D」の単位を2単位以上修了程度	30名

【基礎からのロシア語～言語Bがロシア語以外の人のための科目～】

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	備考	定員
抽選登録	基礎ロシア語入門	2 (選2回)	2・3・4	1年次春学期必修クラスに同じ	必修科目がロシア語以外の者。	必修クラスに合併して行う。	8名
	基礎ロシア語初級	2 (選2回)		1年次秋学期必修クラスに同じ	必修科目がロシア語以外の者。 「入門ロシア語」または「基礎ロシア語入門」の単位修得済。	必修クラスに合併して行う。	8名

※「入門・初級ロシア語」は2010年度以降廃止。

※2011年度以降、「中級ロシア語1・2」は廃止となった。「基礎ロシア語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には、「ロシア語セミナー」の履修を推奨する。

8. ポルトガル語

(池袋キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	備考	定員
抽選登録	ポルトガル語1	1	2・3・4	入門	特になし	隔年開講	30名
	ポルトガル語2	1		初級	「ポルトガル語1」の単位修得済が望ましい。		30名
	ポルトガル語3	1		中級	「ポルトガル語2」の単位修得済が望ましい。	隔年開講	30名
	ポルトガル語4	1			「ポルトガル語3」の単位修得済が望ましい。		30名

2008・2009年度1年次入学者に適用
 <文・経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部>
 (2010・2011年度3年次編入学者に適用)

9. 日本語

(外国人留
生入試による
入学者対象)

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス開講科目)

登録 方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	レベル (学期初め)	定員
抽 選 登 録	日本の文化・社会A	1	1・2・3・4	社会問題、芸能文化、時事問題など、日本の文化・社会に関する様々なトピックをとりあげ、それについて理解を深める。	特になし	日本語必修科目 修了程度	20名
	日本の文化・社会B	1		社会問題、芸能文化、時事問題など、日本の文化・社会に関する様々なトピックをとりあげ、それについて理解を深める。	特になし	日本語必修科目 修了程度	20名
	日本の文化・社会C	1		日本の企業風土、日本的経営、日本型サービスなど日本で就職を希望する学生にとって有用なトピックをとりあげ、それらの知識を獲得すると同時に、高度な文型や語彙を増やす。	特になし	日本語必修科目 修了程度	20名
	日本語論文作成法	1		卒業論文や学術論文など、レポートよりも長く、学術的な論文の書き方について実質的に学ぶ。	特になし	日本語必修科目 修了程度	20名
	日本語の諸相A	1		流行語、擬音語、擬態語、インターネットの日本語など、日本語という言葉の様々な側面について理解を深める。	特になし	日本語必修科目 修了程度	20名
	日本語の諸相B	1		流行語、擬音語、擬態語、インターネットの日本語など、日本語という言葉の様々な側面について理解を深める。	特になし	日本語必修科目 修了程度	20名
	日本語論文読解	1		様々な分野の学術論文を読み、日本語の学術論文の構成をつかむとともに、論文で用いられる様々な表現を理解する。	特になし	日本語必修科目 修了程度	20名
	キャリア ジャパニーズA	1		エントリーシートの書き方(効果的な構成、適切な文体や語彙等)、面接で求められる日本語(適切な応対、マナー)など、実践的な日本語スキルの獲得を目指す。	2年次以上の履修が望ましい。	日本語必修科目 修了程度	15名
	キャリア ジャパニーズB	1		就職試験で出題される日本語関連項目(敬語や四字熟語、慣用表現等)について学ぶ。数多くの問題に触れることによって知識を増やす。	2年次以上の履修が望ましい。	日本語必修科目 修了程度	25名
	ビジネス日本語(文書)	1		ビジネスメール、報告書、依頼状など様々なビジネス文書の読み方、書き方について学ぶ。	特になし	日本語必修科目 修了程度	25名
	ビジネス日本語口頭A	1		日本企業で働く際に必要となる口頭日本語を身につける。具体的には、敬語や待遇表現などが正確に使えることを目指す。	特になし	日本語必修科目 修了程度	15名
	ビジネス日本語口頭B	1		敬語や待遇表現の知識を前提とし、話し合いや商談、苦情処理などより高度なビジネス日本語運用能力の獲得を目指す。	特になし	日本語必修科目 修了程度	15名

2008・2009年度1年次入学者に適用
 <文・経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部>
 (2010・2011年度3年次編入学者に適用)

(新座キャンパス開講科目)

登録方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	レベル (学期初め)	定員
抽選登録	ビジネス日本語(文書)	1	1・2・3・4	ビジネスメール、報告書、依頼状など様々なビジネス文書の読み方、書き方について学ぶ。	特になし	日本語必修科目 修了程度	25名
	日本語論文読解	1		様々な分野の学術論文を読み、日本語の学術論文の構成をつかむとともに、論文で用いられる様々な表現を理解する。	特になし	日本語必修科目 修了程度	20名
	キャリア ジャパニーズA	1		エントリーシートの書き方(効果的な構成、適切な文体や語彙等)、面接で求められる日本語(適切な応対、マナー)など、実践的な日本語スキルの獲得を目指す。	2年次以上の履修が望ましい。	日本語必修科目 修了程度	15名
	キャリア ジャパニーズB	1		就職試験で出題される日本語関連項目(敬語や四字熟語、慣用表現等)について学ぶ。数多くの問題に触れることによって知識を増やす。	2年次以上の履修が望ましい。	日本語必修科目 修了程度	25名
	日本語論文作成法	1		卒業論文や学術論文など、レポートよりも長く、学術的な論文の書き方について実質的に学ぶ。	特になし	日本語必修科目 修了程度	20名
	ビジネス日本語口頭A	1		日本企業で働く際に必要となる口頭日本語を身につける。具体的には、敬語や待遇表現などが正確に使えることを目指す。	特になし	日本語必修科目 修了程度	15名
	ビジネス日本語口頭B	1		敬語や待遇表現の知識を前提とし、話し合いや商談、苦情処理などより高度なビジネス日本語運用能力の獲得を目指す。	特になし	日本語必修科目 修了程度	15名

2008・2009年度1年次入学者に適用
 <文・経済・理・社会・法・経営・観光・コミュニティ福祉（スポーツウエルネス学科除く）・現代心理学部>
 (2010・2011年度3年次編入学者に適用)

10. 日本手話

※担当者、開講学期は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

(池袋キャンパス・新座キャンパス開講科目)

登録 方法	科目名	単位数	配当年次	授業概要	履修資格	レベル (学期初め)	定員
抽 選 登 録	日本手話1	1	1・2・3・ 4	日本手話の入門編の授業。 初めて手話にふれる学生 を想定し、初歩的な手話の 会話を学ぶとともに、手話 という言葉、ろう者の文化 について概要を学ぶ。	特になし	入門	25名
	日本手話2	1		日本手話の初級編の授業。 入門編を終えた学生を想 定し、初級の手話の会話を 学ぶとともに、手話とろう 者に関する社会的側面 についての理解を深める。	「日本手話1」の単位修得済が望 ましい。	初級	25名
	日本手話3	1		日本手話の中級編(1)の 授業。初級編を終えた学生 を想定し、中級の手話の会 話を学ぶとともに、手話と ろう者に関する多様な研 究の成果に触れる。	「日本手話2」の単位修得済が望 ましい。	中級	20名
	日本手話4	1		日本手話の中級編(2)の 授業。中級編(1)を終えた 学生を想定し、中級の手話 の会話を伸ばし、実践 的な通訳やプレゼンテーシ ョンのトレーニングを行う とともに、手話とろう者に関 する国際的な知見を広める。	「日本手話3」の単位修得済が望 ましい。		20名

4 2008～2018年度に開講されていた自由選択科目

以下は、2008～2018年度に開講されていた自由選択科目で2019年度は開講されていない科目である。

これらの科目についてそれぞれの科目の開講年度における「履修上の注意」により修得した単位は、所属学部の規定の範囲内で卒業要件として認められる。

言語	科目名	開講年度										
		2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
英語	時事英語リーディング2 A	●										
	時事英語リーディング2 B	●										
	時事英語リーディング2 C	●										
	英語でサイエンス A	●	●									
	英語でサイエンス B	●	●									
	福祉の英語	●	●									
	スポーツの英語	●	●									
	インターネットで学ぶ英語 A	●	●									
	インターネットで学ぶ英語 B	●	●									
ドイツ語	ドイツ語強化LTC	●	●	●								
	入門ドイツ語	●	●									
	初級ドイツ語	●	●									
	中級ドイツ語 1	●	●	●								
	中級ドイツ語 2	●	●	●								
	ドイツ語情報処理	●	●	●	●	●						
フランス語	フランス語強化3	●										
	フランス語強化4	●										
	入門フランス語	●	●									
	初級フランス語	●	●									
	中級フランス語 1	●	●	●								
	中級フランス語 2	●	●	●								
スペイン語	フランス語情報処理	●	●	●	●	●						
	スペイン語強化1	●										
	スペイン語強化2	●										
	入門スペイン語	●	●									
	初級スペイン語	●	●									
	中級スペイン語 1	●	●	●								
中国語	中級スペイン語 2	●	●	●								
	スペイン語情報処理	●	●	●	●	●						
	中国語セミナー3	●										
	中国語セミナー4	●										
	中国語強化1	●										
	中国語強化2	●										
	入門中国語	●	●									
	初級中国語	●	●									
	中国語海外語学研修（初級）	●	●									
	中国語海外語学研修（中級）	●	●									
朝鮮語	中級中国語 1	●	●	●								
	中級中国語 2	●	●	●								
	中国語情報処理	●	●	●	●	●						
	入門朝鮮語	●	●									
	初級朝鮮語	●	●									
	朝鮮語海外言語文化研修	●	●									
ロシア語	中級朝鮮語 1	●	●	●								
	中級朝鮮語 2	●	●	●								
	朝鮮語情報処理	●	●	●	●	●						
	入門ロシア語	●	●									
日本語	初級ロシア語	●	●									
	中級ロシア語 1	●	●	●								
	中級ロシア語 2	●	●	●								
	日本の文化・社会 1	●	●									
	日本の文化・社会 2	●	●									
	日本語の諸相	●	●									
	就職活動の日本語			●	●							
	就職試験の日本語			●	●							
	ビジネス日本語（口頭）			●								
	上級日本語	●	●									
	上級日本語 A				●							
	上級日本語 B				●							
	ビジネス日本語口頭 1				●	●	●	●	●			
	ビジネス日本語口頭 2				●	●	●	●	●			

個人情報 保護

プライバシーポリシー
立教大学における個人情報の取扱いについて

プライバシーポリシー

立教大学における個人情報の取扱について

最終更新日 2017年6月1日

〈個人情報に関する基本的な考え方〉

立教大学（以下「大学」という。）では、個人情報保護の重要性を認識し、その適切な管理を行うことが重要な社会的責務であると考えています。個人情報に関する法令等を遵守すると共に、「立教大学個人情報保護規程」に基づいた、以下のプライバシーポリシーに従って個人情報の保護に努めております。

1. 個人情報とは

現在大学に在籍している、及び過去において在籍した学生、大学院学生、受検生、保証人、教職員等に関する情報であって、個人が識別されるものをいいます。

2. 個人情報の収集について

個人情報は適正かつ公正な手段によって収集し、不正な手段によっては情報を収集しません。また、収集にあたっては、自明の場合を除き、その利用目的を明らかにします。

3. 個人情報の利用目的

大学の正課・正課外等教育研究活動及びそれに付随する必要なサービスの提供並びに校務のために利用します。より具体的な利用目的は、別表に定める他、情報収集の際に明示します。

4. 情報の提供について

大学では、以下の場合を除き、情報を外部に提供することはありません。

- (1) 大学の業務に必要な不可欠な場合
- (2) 情報主体が同意している場合
- (3) 法令による場合
- (4) 情報主体の身体・生命等を保護するため、緊急かつ止むを得ない場合
- (5) 情報の同一性確認を求める公的機関からの依頼がある場合
- (6) 学術研究に利用する場合

5. 情報の管理方法

立教大学では、個人情報を正確、最新のものにしよう適切な措置を講じています。また、個人情報の漏洩、紛失、誤用、改ざん、不正アクセス等を防止するための合理的な保護措置をとっています。

業務委託、事業継承及び共同利用にあたっては、機密保持条項を含む契約を締結し、委託先に対し、情報に関する厳重管理を求め、目的以外の利用を行わせないようにしています。

なお、上記の保護措置及び管理措置を実施するために、大学に「個人情報保護統括管理責任者」及び各部局・部署等に「個人情報管理責任者、個人情報取扱責任者」を定めています。

6. 情報の開示・訂正

個人情報の開示は、「立教大学個人情報保護規程、同施行細則」に基づいて行われます。個人情報の内容に誤りがあった場合には速やかに訂正いたします。

7. 不服の申し立て

大学の個人情報の取扱いについて不服がある場合は、「個人情報保護審査会」に申し立てることができます。個人情報保護審査会への申し立ては大学の主要窓口で受付いたします。

別表（「3. 個人情報の利用目的」関係）

利用区分	利用業務
教育研究	1 入学関係（出願・入学手続） 2 学籍関係（学生証交付、名簿作成等の学籍管理、休学・復学・退学等の諸手続き等） 3 授業関係（履修相談、履修登録・通知、授業・実習・試験運営、成績処理・通知*1・管理、学修効果確認、卒業判定、学位記授与等々） 4 各種証明書等の発行 5 図書館の利用及び各種図書館サービスの提供 6 教学に関わる調査・統計資料作成*2 7 学術研究に関わる調査*3・統計資料作成*2 8 実習関係（教育実習、介護等体験、博物館実習、図書館実習等） 9 教員免許状申請 10 大学内への掲示等による大学各部局からの連絡・問い合わせ 11 卒業後の学籍・成績関係情報の在籍記録保存、各種証明書等作成・発行

教育・学術交流・留学等支援	1 他大学・大学院との単位互換制度関係（国の内外を問わない） 2 学生からの申し込みを受けて行う留学のための各種アテンド 3 海外文化研修・海外語学研修、学部単位の留学制度を利用する学生の派遣及び受入の準備のための情報授受 4 学生および保証人に送付する各種関係書類の発送 5 学生および保証人に対し当該プログラム実施の為にを行う連絡・問合せ 6 学生が希望する、私費外国人留学生奨学金の選考結果を利用する学内外の奨学金選考及び推薦資料の作成等に関する事務
学生生活支援	1 学生生活全般の指導・助言 2 学生対象の各種福利厚生業務（奨学金・学生健康保険互助組合・留学生総合住宅補償・学生食堂・アルバイト紹介・部屋紹介・遺失物・臨時託児所等） 3 学生団体及び個人の課外活動支援（クラブ・サークル活動、キャンプ等） 4 学生生活支援（相談業務、オリエンテーション、課外教育プログラム、遺失物対応等） 5 学生生活に係る調査・統計資料作成*2 6 大学の教育活動への協力依頼（入試業務、ハンドブック作成等） 7 学生の保険加入及び異動管理*4
キャリア支援	1 進路・就職支援等の相談
情報・通信	1 V・Campus等各種情報サービスの提供 2 学内コンピュータ施設利用時の利用者認証及び利用者に応じたログオン環境の提供
財務	1 学費納付のための業務 2 経理処理上必要な手続き（内容確認及び証憑書類としての照合） 3 給与等の振込口座登録
人事・福利厚生	1 勤務員の人事管理 2 給与の支給等、税・社会保険納付、福利厚生 3 各種調査・統計資料作成*2 4 立教学院年金諸事務
保健・診療	1 診療所における診療関連業務 2 診療所における日本医師会が医療機関に定める個人情報の利用 3 診療所における学生健康保険互助組合加入者が補助を受ける場合の学生健康保険互助組合への請求 4 保健室における救急対応 5 保健室における健康診断を含む健康相談等の健康管理 6 保健室における利用者が立教学院診療所利用時に必要のサービスを受けるための連携業務 7 保健室における他部局からの健康診断受診状況照会への回答 8 保健室における他部局からの健康診断証明書発行可否照会への回答
広報・発信	1 卒業後の本学及び校友会に関する情報提供*5 2 保証人への季刊誌の送付 3 保証人への教育懇談会開催通知 4 寄付に関するお知らせの送付

*1 入学時に提出いただいた同意書に基づき、学生本人（大学院学生含む。以下同じ）の学修効果の確認、休学・復学・退学等の確認のため、大学に届け出ている保証人に、個人情報を提供します。ただし、満年齢が20歳に達した学生については、保証人への情報提供を行わない場合があります。情報の提供を希望しない学生は、教務関係窓口*にその旨申し出てください。

*2 統計資料の作成に際しては、個人情報が入り混じった形で数値化等の加工をした上で行います。

*3 学術上の調査・研究にかかわると判断できる場合で、当該情報が生存する個人の個人情報に関係しないと判断できるときは、教務部内規により故人の個人情報を開示することがあります。

*4 保険加入に際し、学外機関への個人情報の提供が必要な場合は、学生本人にその旨をお知らせし、同意を得て行います。

5 大学を通じた校友会関係情報の送付については、在学時は教務関係窓口、卒業後は校友会関係窓口*で変更することができます。

※各窓口の担当部署

教務関係窓口…教務事務センター、独立研究科事務室、法務研究科事務室
校友会関係窓口…渉外課

各種案内

- 1 教務部案内
- 2 パソコン教室利用案内
- 3 V-Campus案内
- 4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置
- 5 地震発生時の心得
- 6 台風の接近が予想される場合の措置
- 7 授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応
- 8 緊急連絡システムについて

1 教務部案内

1. 教務部事務

教務部は、以下の事項を取り扱う。

- (1) 学籍の管理
- (2) 入学・休学・退学・卒業に関する事項
- (3) 授業に関する事項
 - ① クラス編成
 - ② 時間割の作成
 - ③ 教室配当
 - ④ 履修科目の登録
- (4) 試験及び学業成績に関する事項
- (5) 所管事項に関する文書の受信・発信
 - ① 保証人・国籍の変更、氏名変更、住所変更届等の受理
 - ② 学生証、在学・卒業・修了・成績等各種証明書、学割等の発行
- (6) その他教務事務に関する一切の事項
 教務部では、業務を次のように分担している。
 - ① 教務事務センター（池袋キャンパス：タッカーホール1階、新座キャンパス：7号館1階）
 学部学生、大学院学生の履修・授業・成績・試験・休学・退学に関する事項、保証人・国籍の変更、氏名変更・住所変更届に関する事項、学生証、通学定期乗車券発行控に関する事項、在学・卒業・修了・成績等の各種証明書の発行
 - ② 学校・社会教育講座事務室（池袋キャンパス：2号館1階、新座キャンパス：7号館1階）
 学部学生、大学院学生の教職課程・学芸員課程・司書課程（司書教諭を含む）・社会教育主事課程関係の受講登録、履修・授業・試験・成績、各課程における実習・体験、各課程資格取得・申請に関する事項、各課程修了・単位修得等の各種証明書の発行
 - ③ 独立研究科事務室（池袋キャンパス：11号館4階）
 ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学学生）、経済学研究科（社会人コース）の大学院学生の履修・授業、試験・成績、休学・退学、保証人・国籍の変更、氏名変更届、住所変更届に関する事項
 - ④ 法務研究科事務室（池袋キャンパス：11号館4階）
 法務研究科の大学院学生の履修・授業、試験・成績に関する事項

証（学割証）、健康診断証明書の各証明書は、教務事務センター内の証明書発行機により即時発行。それ以外の証明書は翌日（翌日が窓口閉室日の場合は、翌日以降の窓口開室日）の12：00以降。

- 注1）調査書の作成には多少日数がかかる。出願先の所定用紙を持参のうえ、教務事務センター窓口へ申し出ること。
- 注2）健康診断証明書の発行について
1. 発行開始日：（4月入学）2019年5月10日（金）
 （9月入学）2019年10月15日（火）
 ※それ以前の発行はできない。
 2. 下記に該当する場合は発行はできない。
 - ・本学が実施した定期健康診断を受けていない。
 - ・定期健康診断時に未検の検査項目がある、また保健室から指示された再検査、診察などを受けていない。
- 注3）学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）は1年間に1人10枚まで、有効期間は発行日から3ヶ月である。
- 注4）博士課程後期課程の成績証明書、修了見込証明書が必要な場合は、教務事務センター窓口へ申し出ること。発行は翌日（翌日が窓口閉室日の場合は翌日以降の窓口開室日）の12：00以降。
 また、博士課程後期課程の英文成績証明書は原則作成していない。
 ※証明書発行機での交付には学生証が必要である。
 ※上記以外の証明書が必要な場合は、所属キャンパスの教務事務センター窓口へ申し出ること。

（注）学生氏名文字（漢字）について

学生証に記載されている学生氏名の文字（漢字）は、原則としてJIS規格の文字を使用し、在学中発行の諸証明書及び学位記、卒業後の諸証明書などの発行に用いる。JISに無い文字については、JIS準拠のものに改めるが、不都合がある場合は、所属キャンパスの教務事務センター窓口へ申し出ること。

2. 諸届・各種証明書の発行

- (1) 諸届
 諸届とも教務事務センター窓口にて所定の届出用紙がある。
 所属キャンパスの教務事務センターに提出すること。
 - ① 保証人変更届
 保証書を添え、保証人連署・捺印の上届出ること。
 - ② 国籍変更（帰化）届
 詳細は前記窓口でたずねること。
 - ③ 氏名変更届
 住民基本台帳記載事項の証明書若しくはそれに代わるものを添え、届出ること。
 - ④ 住所変更届
 本人または保証人の住所、電話番号、本人のメールアドレス、通学区間（最寄駅）を変更した場合に届出ること。
- (2) 各種証明書の発行

証明書の種類	和文料金	英文料金	発行にかかる日数
在学証明書	300円	400円	即時
卒業（見込）証明書			
修了（見込）証明書			
成績証明書			
調査書			注1
健康診断証明書		400円	注2
学割証 注3	無料		即時

在学、成績（注4）、卒業見込、修了見込（注4）、学校学生生徒旅客運賃割引

2 パソコン教室、貸出パソコン利用案内

＜パソコン教室の利用について＞

立教大学では池袋・新座キャンパスにそれぞれ、パソコン教室があります。

授業で使用されていない時間は、自由な自習利用が可能です。

開室時間などについては、以下のURLから確認することができます。

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/room>

	池袋キャンパス	新座キャンパス
場所	8号館3F 8301, 8302, 8303, 8304 4F 8402, 8403, 8404 5F 8501, 8502, 8503, 8504 8505, 8506	8号館2F N821, N822, N823, N824 3F N831, N832, N833, N834, N835, N836
開室時間	月～金曜日：8：35～21：00 土曜日：8：35～17：00 日曜・祝日、そのほか本学の定めた休日は閉室です。 長期休暇中など開室時間が上記と異なる場合、以下のURLでお知らせします。 https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/calendar	
利用環境	パソコン教室のパソコンを使うには、V-Campus IDとパスワードが必要です。 パソコン教室では、以下のようなことが行えます。 ・ホームページで情報を収集する ・レポートやプレゼンテーション資料を作成する ・授業支援システムを使って予習・復習・課題を提出する ・Webメールを使用する ・自分のホームページを作成する ・ファイルやホームページを印刷する ・作成したデータを保管する 設置台数 https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/SitePages/list.aspx ソフト OS（日・英） Windows 10 Windows 8.1 アプリケーションソフト Microsoft Office（Word, Excel, PowerPointなど）をはじめ、授業で使用するアプリケーションソフトがインストールされています。教室ごとに異なりますので、詳しくは下記のURLにてご確認ください。 https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/application	

＜貸出パソコンについて＞

立教大学では、教育・研究活動を支援するため、学生向けにノートパソコン等の貸し出しを行っています。

貸出期間は当日内です。貸出場所、貸出時間などについては、下記のURLから確認することができます。

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/SitePages/rental.aspx>

3 V-Campus案内

パソコンやインターネット、メールなどのITに関するサービスは「メディアセンター（池袋8号館4F、新座8号館2F）」で管理を行っています。
詳しい情報は以下のホームページでご覧になることができます。

「立教大学V-Campusポータルサイト SPIRIT (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/>)」

V-Campus IDとパスワードについて

メールや学内PCを利用する際には、ID（学生番号）とパスワードが必要です。
このIDを「V-Campus ID」と呼んでいます。

V-Campus IDで利用できるサービス

V-Campus IDは、授業やゼミのほか、各種の教務関連情報を確認するためにも利用します。

- ・パソコン、ネットワークの利用
 - 1) 学内パソコン（パソコン教室、ラーニングスペース）の利用
 - 2) 学内無線LANへの接続
- ・V-Campus
 - 1) SPIRIT（ポータルサイト）
 - 2) SPIRIT Gmail
 - 3) メールリングリストの作成
 - 4) Blackboard（授業支援システム）
 - 5) V-Campusアカウント設定
 - 6) V-Campusホームディレクトリ
 - 7) V-Campusホームページ（FTP接続）
 - 8) V-Campus Web設定
- ・英語教材
 - 1) Rikkyo English Online（REO）
 - 2) ALC NetAcademy
 - 3) 英語ディスカッション
- ・Eラーニング
 - 1) Blackboardセルフラーニング
- ・図書館関連
 - 1) MyLibrary
- ・教務関連
 - 1) 履修登録状況の確認
 - 2) 履修登録／成績参照システム
 - 3) 全学共通カリキュラム英語副専攻専用Web
 - 4) 休講情報（自宅からの閲覧時）
- ・学修・キャリア支援
 - 1) 立教時間
- ・その他
 - 1) 学内イントラネットへのアクセス
 - 2) Mobile V-Campusの利用登録
 - 3) SPIRIT Mobile

V-Campus IDとパスワードの発行

入学時に学生証と一緒に配付しています。それ以外の方も、パソコン教室のカウンターで学生証を提示することで即時発行を行なっています。

V-Campus IDはさまざまな場面で利用されるものですから、パスワードの扱いは十分に注意してください。詳しくは立教大学 V-Campusポータルサイト SPIRIT をご覧ください。

<このほかのパスワード>

上記のほか、f-Campus科目登録を利用する際には、別のパスワードが必要となります。

f-Campus科目登録  <http://www.f-campus.org/>

4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置

大学は、大規模な地震の発生が予想され、大規模地震対策特別措置法に基づき地震防災対策強化地域判定会の招集が確認された場合には、授業を休講とし、次の措置をとります。

1. 在宅および通学途中の者は、登校を中止してください。
2. 在学中の者は、大学からの連絡及び指示に従ってください。
3. 警戒宣言解除後の授業の再開については、以下のとおりとします。
 - (1) 警戒宣言が午前5時までに解除された場合は、平常どおり授業を行います。
 - (2) 警戒宣言が午前9時までに解除された場合は、午前中の授業を休講と

し、午後からの授業を行います。

- (3) 警戒宣言が午前9時までに解除されない場合は、当日の授業を全日休講とします。なお、全日休講の場合は、大学の諸業務（窓口業務を含む）を行いません。

注：地震防災対策強化地域判定会

大規模地震対策特別措置法第3条1項に規定する地震防災対策強化地域に係る大規模な地震の発生のおそれに関する判定を行うために、気象庁長官の要請によって招集される判定会をいう。

5 地震発生時の心得

建物は大きな地震にも耐えられる構造となっています。震災が発生した場合は次の事項に注意し、安全確認したうえで冷静に避難してください。

1. 地震が起きたら、すぐに外へ飛び出すことは危険です。慌てず指示があるまで教室内で待機するとともに、頭上からの落下物等に対して、頭を守る等の対応をして下さい。
 - ・机の下などに身を伏せ、しばらく様子を見て下さい。
 - ・固定してない机の下に身を隠す場合は、机の足をしっかり握ってください。
 - ・頭上からの落下物（蛍光灯・窓ガラスなど）に注意し、上着その他のもので頭をおおってください。
2. 火災により被害は倍増します。初期消火にできるだけ協力してください。

3. 避難の際は、ブロック塀の倒壊や商店の看板落下などに特に注意してください。

4. 本学院の小・中・高校生も同時に避難することになりますので、避難・救出に協力し、安全地帯を早く確認してください。

5. 交通機関の不通により、帰宅できないときは、本学の避難場所に於て、状況の判明するまで待機してください。

6. 本学の避難場所は建物内および構内空地（瓦やガラスなどの落下物に注意）です。

7. 学内の非常放送により連絡することもありますので注意してください。

8. 教職員や消防士などの指示に従ってください。

6 台風の接近が予想される場合の措置

台風の接近等により、授業を平常どおり行うことができないと判断された場合は、休講などの特別措置をとります。特別措置の内容については、掲示、ホームページ等または電話で確認してください。

立教大学ホームページ

<http://www.rikkyo.ac.jp/>

立教大学 Twitter

<https://www.twitter.com/rikkyouniv>

立教大学公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/RikkyoUniversity>

* 試験期間についても前記と同様の措置をとることがあります。

* 大学の窓口業務、諸施設の利用については、ホームページおよび掲示でお知らせします。

7 授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応

授業中のキャンパスが警戒対象となった場合、身の安全確保を第一に行動してください。なお、大学からは避難行動等の混乱による事故防止を主目的として、直ちに一斉放送を行います。

なお、放送時間は、池袋キャンパス・新座キャンパス共に、①授業期間中の月～土及び祝日授業日は8：30～22：00、②休日及び休業期間中は8：30～19：00とします。

《参考》

内閣官房国民保護ポータルサイト <http://www.kokuminhogo.go.jp/>

8 緊急連絡システムについて

1. 緊急連絡システム

(※本システムは本学学生および専任教職員を対象としています。)

緊急連絡システムとは、大規模地震が発生した際に、大学から自動的にみなさんの携帯電話等のメールアドレス宛てにメールを送信し、みなさんの安否を確認するシステムです。送信する宛先は、入学時または履修登録時に届け出ていただいたアドレスですが、在学中に変更した場合は、必ず教務関係窓口（教務事務センター〈池袋〉、教務事務センター〈新座〉、独立研究科事務室、セカンドステージ大学事務室）に届け出てください（教職員は人事部人事課に届け出てください）。

なお、この緊急連絡システムが正常に機能するかを確認するために、年1～2回のテストを実施します。

また、この緊急連絡システムを利用して、緊急時の全学休講など重要なお知らせをすることもあります。

2. 連絡方法

大規模地震が発生したら、次のいずれかの方法で安否の状況を大学に報告してください（下図参照）。

携帯電話等が使用可能な場合

みなさんの携帯電話等に送られてきた大学からのメールに返信してください。

携帯電話等が使用できない場合

●キャンパス内または周辺にいる場合……

防災のしおりの巻末にある「安否確認カード」を池袋キャンパス警備室、新座キャンパス門衛所に設置された「安否確認投入箱」に投函してください。

●キャンパス外にいる場合……

下記の「大規模災害時の大学内主要連絡先」に電話連絡してください（郵送も可）。

池袋キャンパス 東京都豊島区西池袋3-34-1

総務部総務課……………03-3985-2253

学生部学生生活課……………03-3985-2437

警備室（24時間）……………03-3985-2288

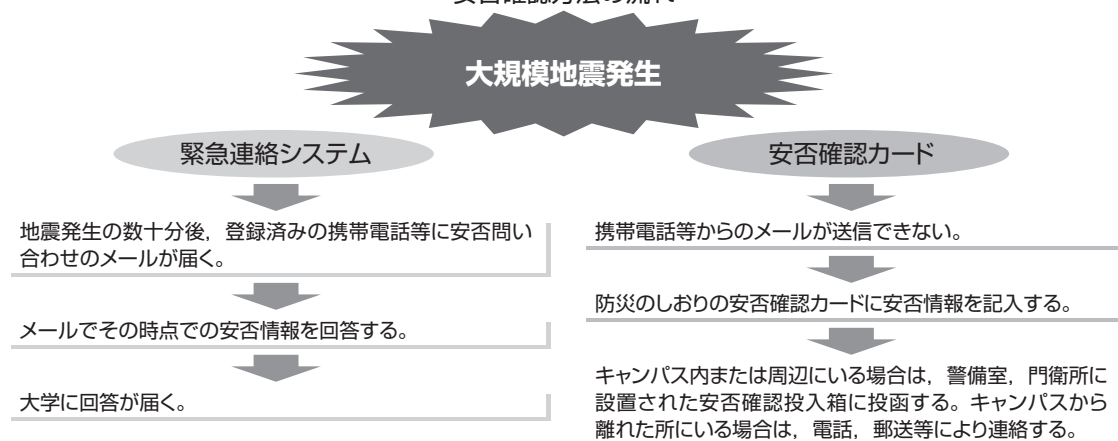
新座キャンパス 埼玉県新座市北野1-2-26

総務部（新座）……………048-471-6674

学生部学生生活課……………048-471-6765

新座キャンパス門衛所（24時間）……………048-471-6600

安否確認方法の流れ



【災害時伝言板サービス】

携帯電話各社では「災害時伝言板サービス」の利用ができます。災害発生時に家族との連絡がとれるように準備しておくことをお勧めします。

※利用についての詳細は各社のホームページをご覧ください。

※毎月1日や防災週間等に体験版の利用ができます。

●NTT docomo

<https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/>

●au

<https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengen/>

●SoftBank

<http://www.softbank.jp/mobile/service/dengen/>

●Y!mobile

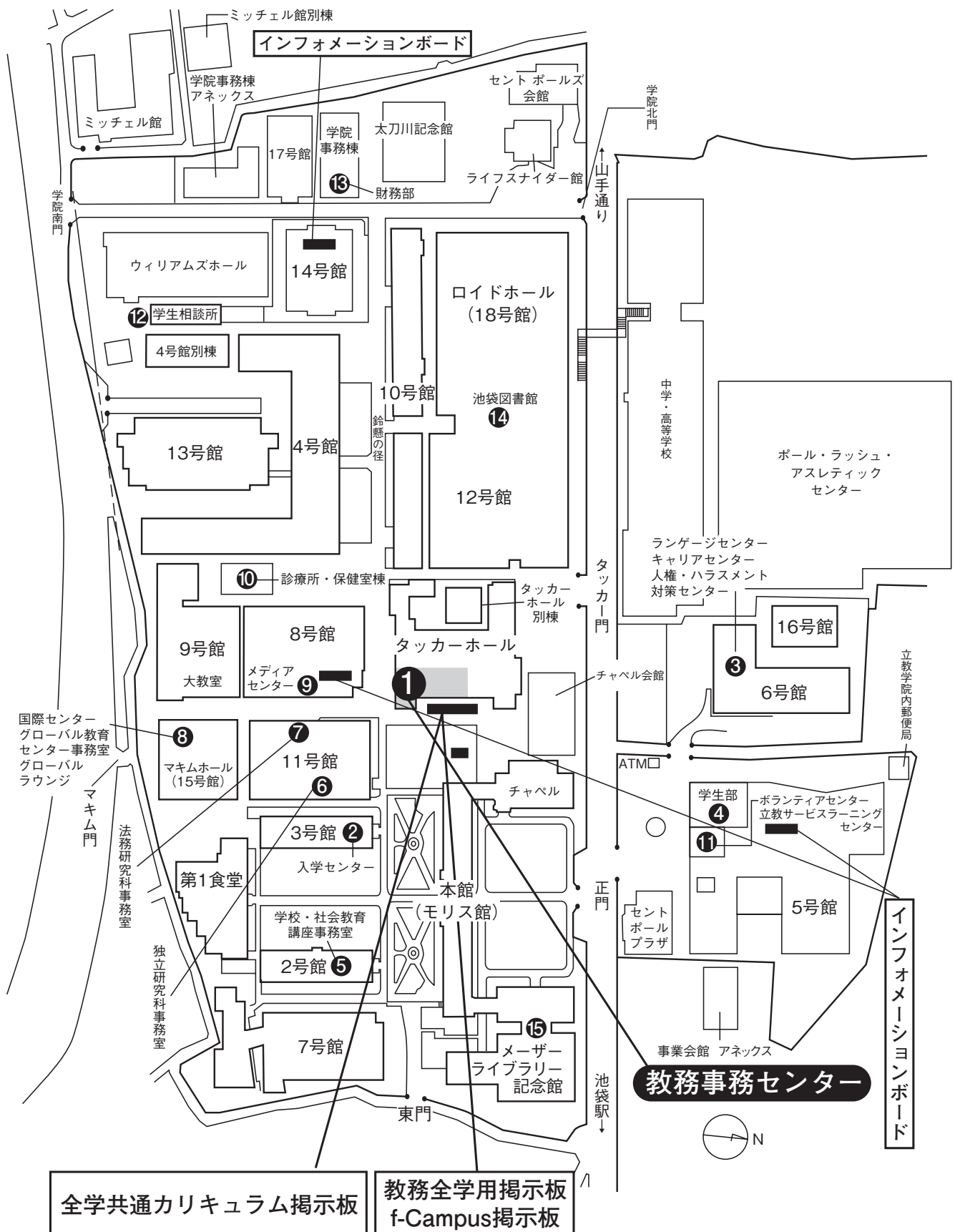
<http://www.ymobile.jp/service/dengen/>

案内図

●構内案内図・教室案内図（池袋キャンパス）

●構内案内図・教室案内図（新座キャンパス）

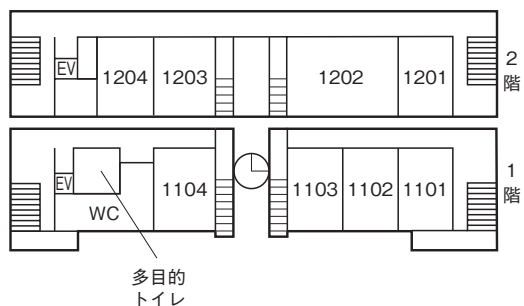
池袋キャンパス構内案内図



案内図 (池袋)

池袋キャンパス教室案内図

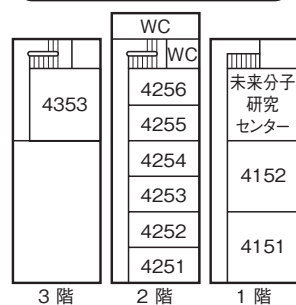
本館



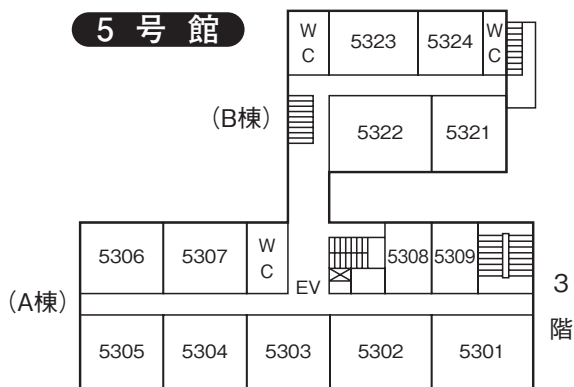
4号館



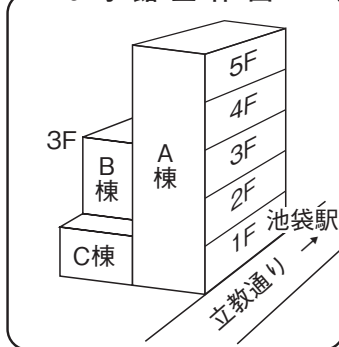
4号館別棟



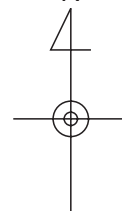
5号館



5号館立体図



N



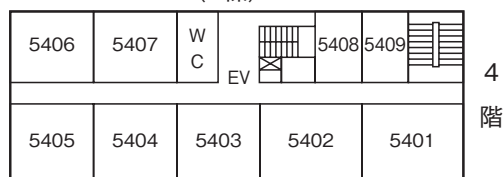
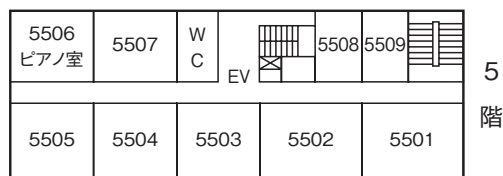
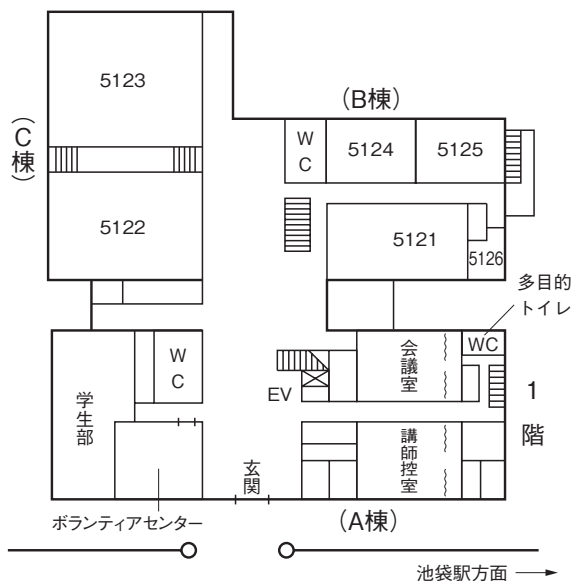
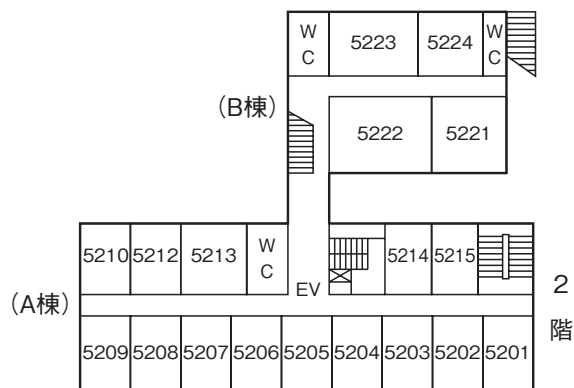
教室番号の見方



号館を示す。
ただし 1…本館
X…10号館
A…11号館
D…14号館
M…マキムホール (15号館)
S…事業会館 アネックス
P…ボール・ラッシュ・アスレティックセンター
(例……5323→5号館3階B棟)

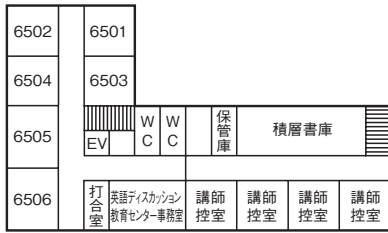
階を示す。

その階の東南隅の教室を01として右廻りの順に番号を与える。
5号館 B棟 C棟について20番台で表示する。

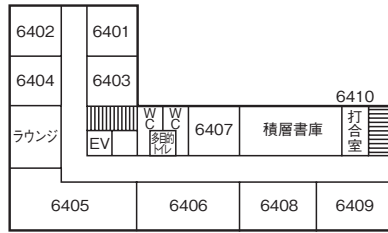


6 号 館

5 階



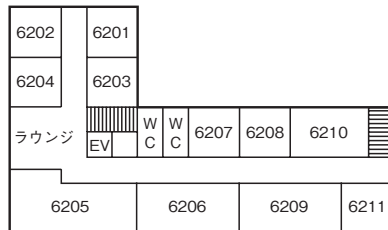
4 階



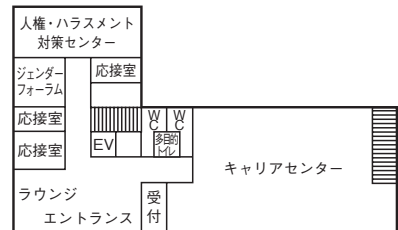
3 階



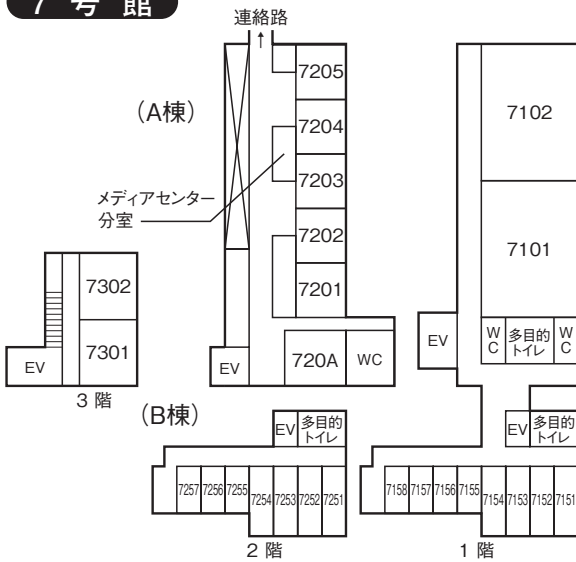
2 階



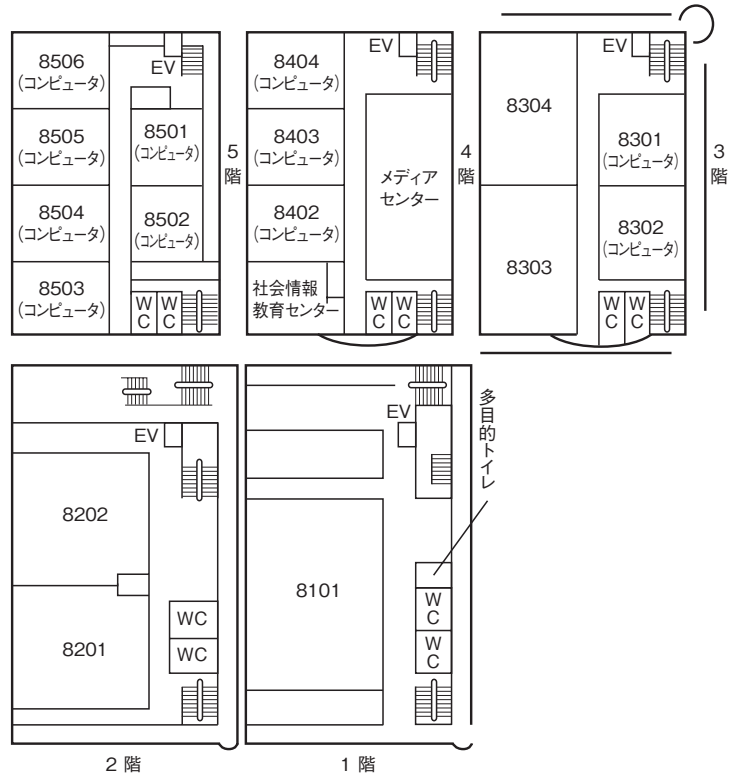
1 階

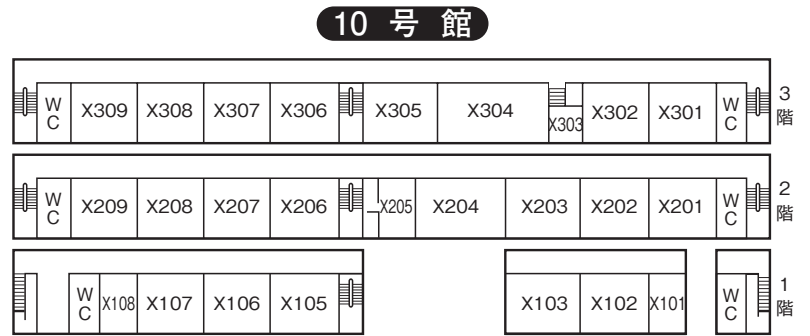
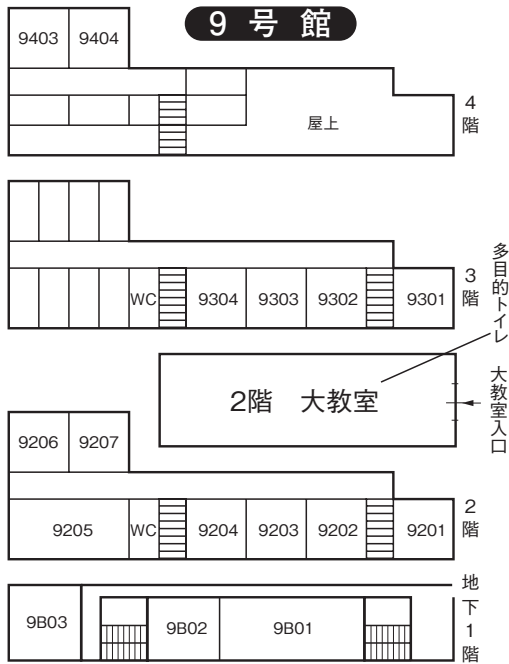


7 号 館

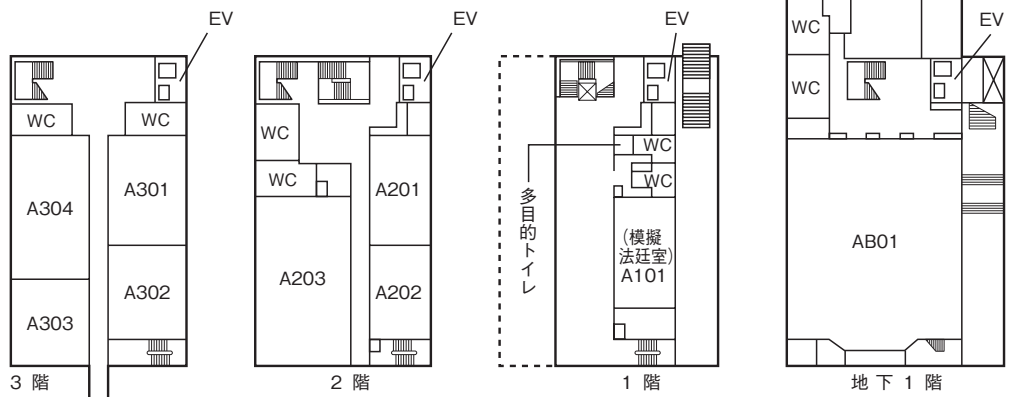


8 号 館

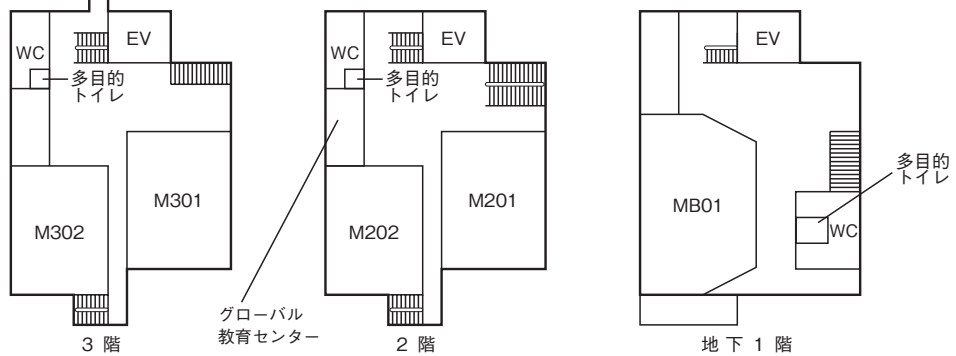




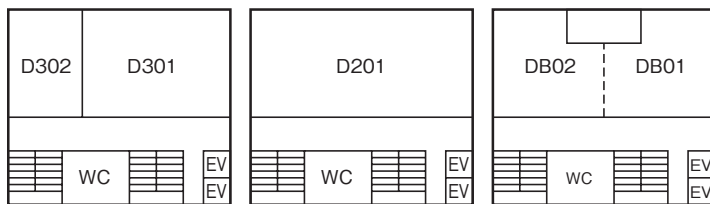
11号館



マキムホール (15号館)



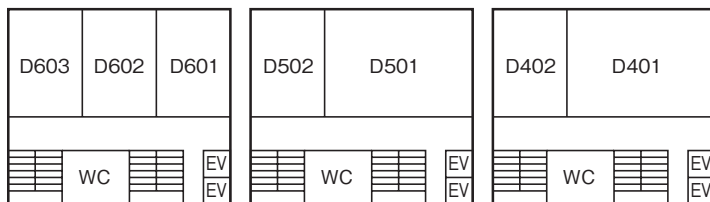
14 号 館



3 階

2 階

地下 1 階

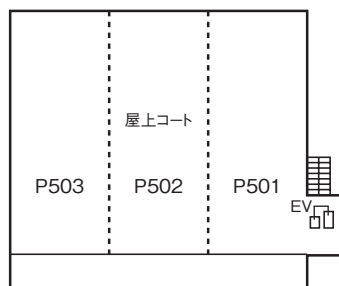


6 階

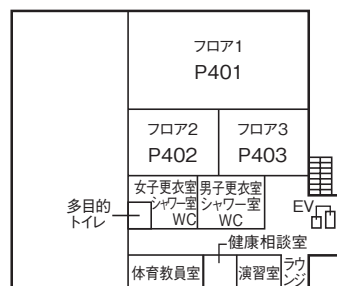
5 階

4 階

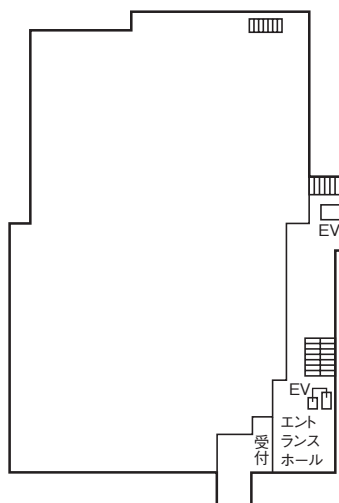
ポール・ラッシュ・アスレティックセンター



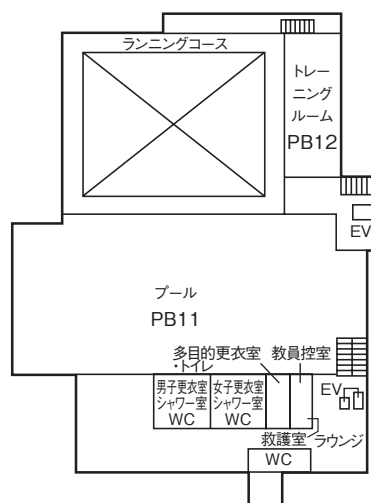
5 階



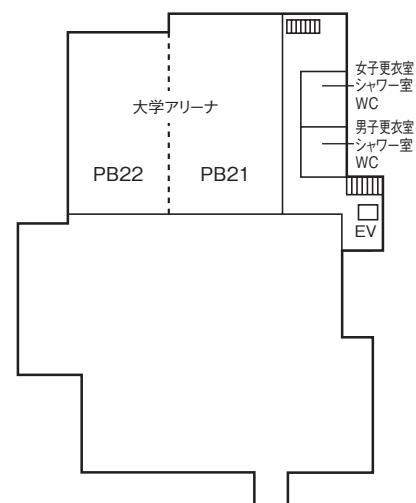
4 階



1 階

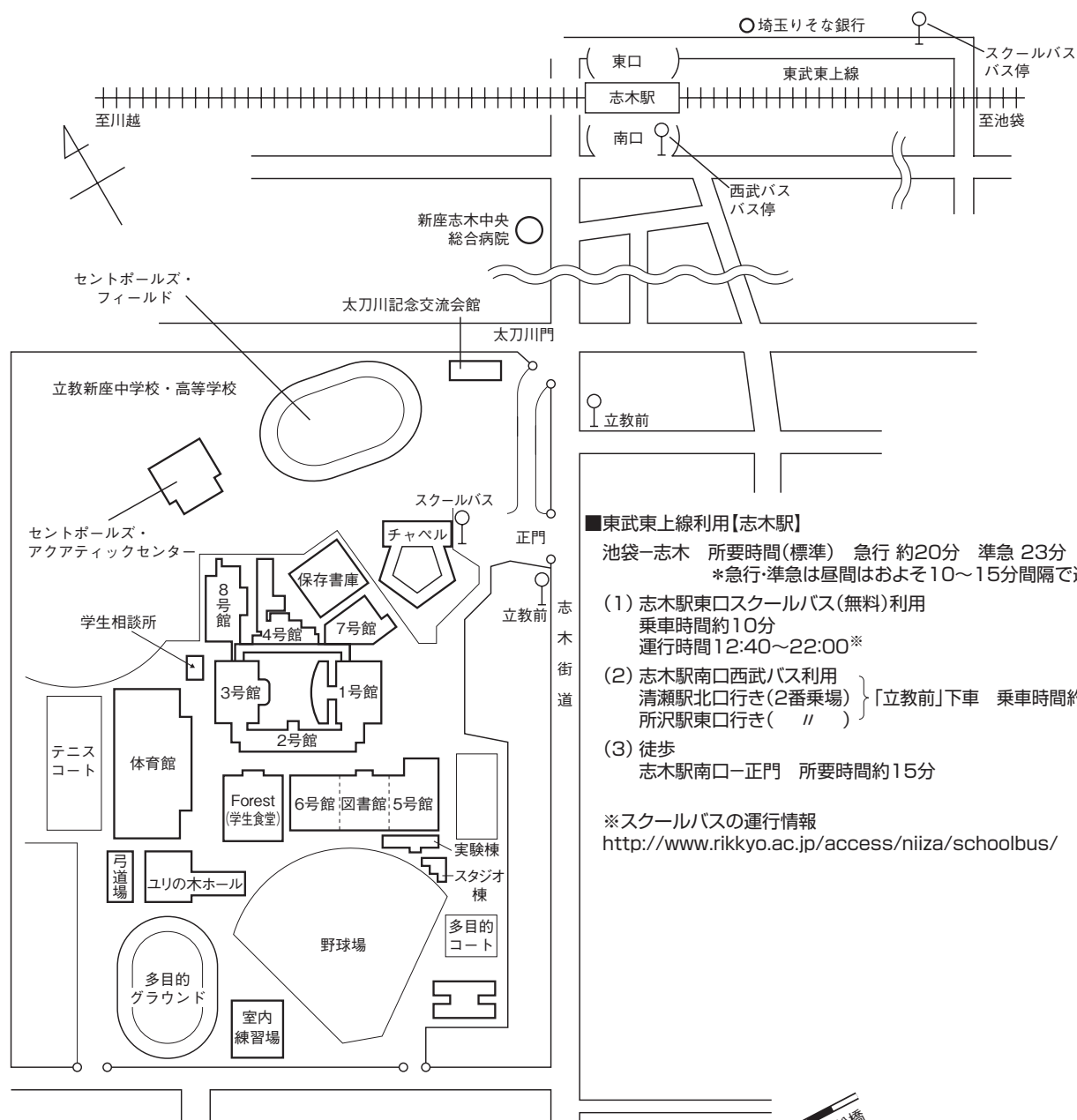


地下 1 階



地下 2 階

新座キャンパス構内案内図・交通案内図



■東武東上線利用【志木駅】

池袋ー志木 所要時間(標準) 急行 約20分 準急 23分
*急行・準急は昼間はおよそ10～15分間隔で運転

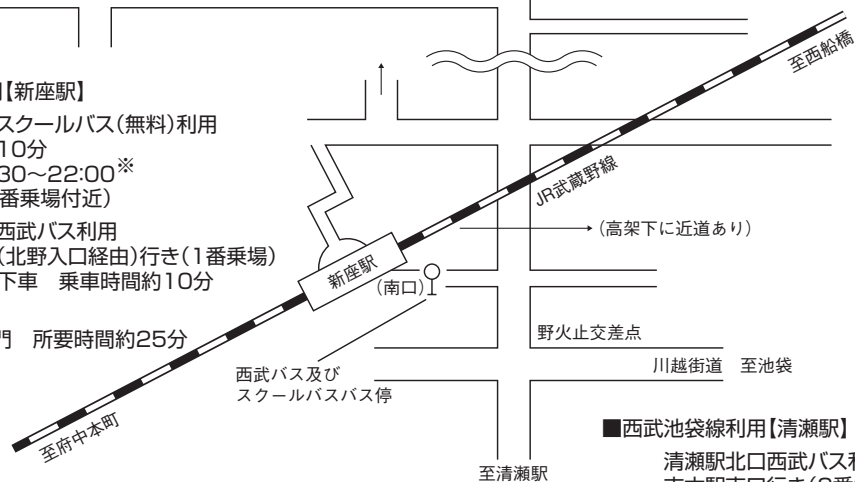
- (1) 志木駅東口スクールバス(無料)利用
乗車時間約10分
運行時間12:40～22:00※
- (2) 志木駅南口西武バス利用
清瀬駅北口行き(2番乗場) 「立教前」下車 乗車時間約10分
所沢駅東口行き(//)
- (3) 徒歩
志木駅南口ー正門 所要時間約15分

※スクールバスの運行情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/access/niiza/schoolbus/>

■JR武蔵野線利用【新座駅】

- (1) 新座駅南口スクールバス(無料)利用
乗車時間約10分
運行時間7:30～22:00※
(西武バス3番乗場付近)
- (2) 新座駅南口西武バス利用
志木駅南口(北野入口経由)行き(1番乗場)
「立教前」下車 乗車時間約10分
- (3) 徒歩
新座駅ー正門 所要時間約25分

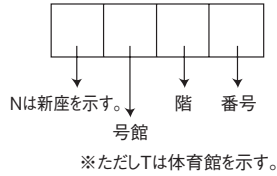


■西武池袋線利用【清瀬駅】

清瀬駅北口西武バス利用
志木駅南口行き(2番乗場)
「立教前」下車 乗車時間約30分

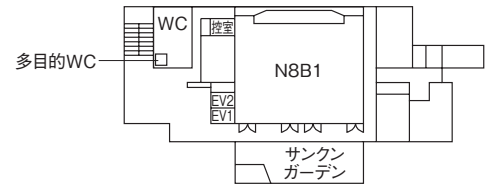
新座キャンパス教室案内図

教室番号の見方



地下1階

8号館

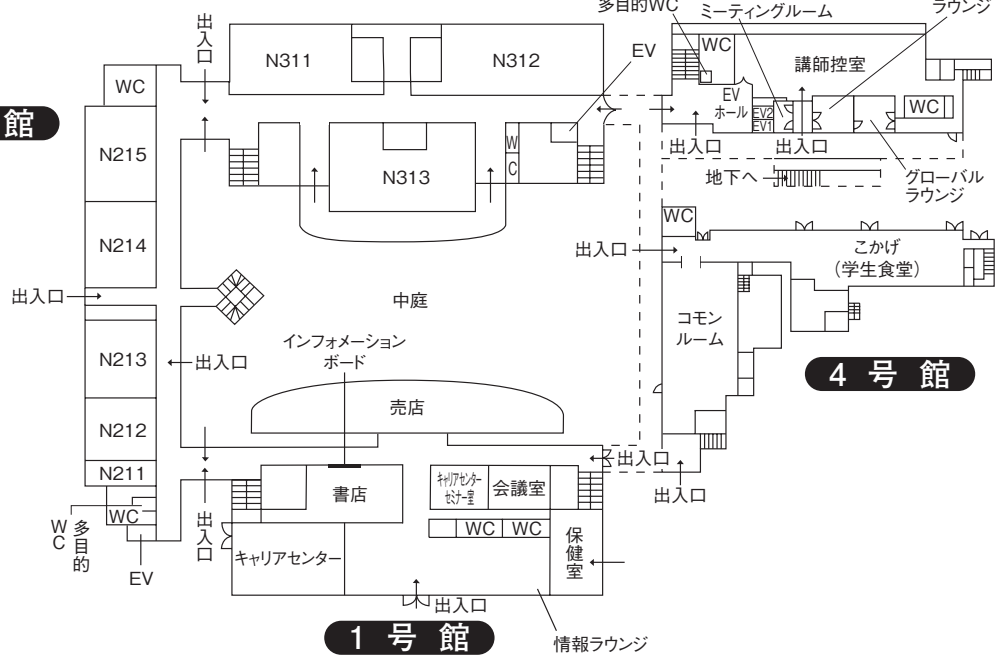


1階

2号館

3号館

8号館



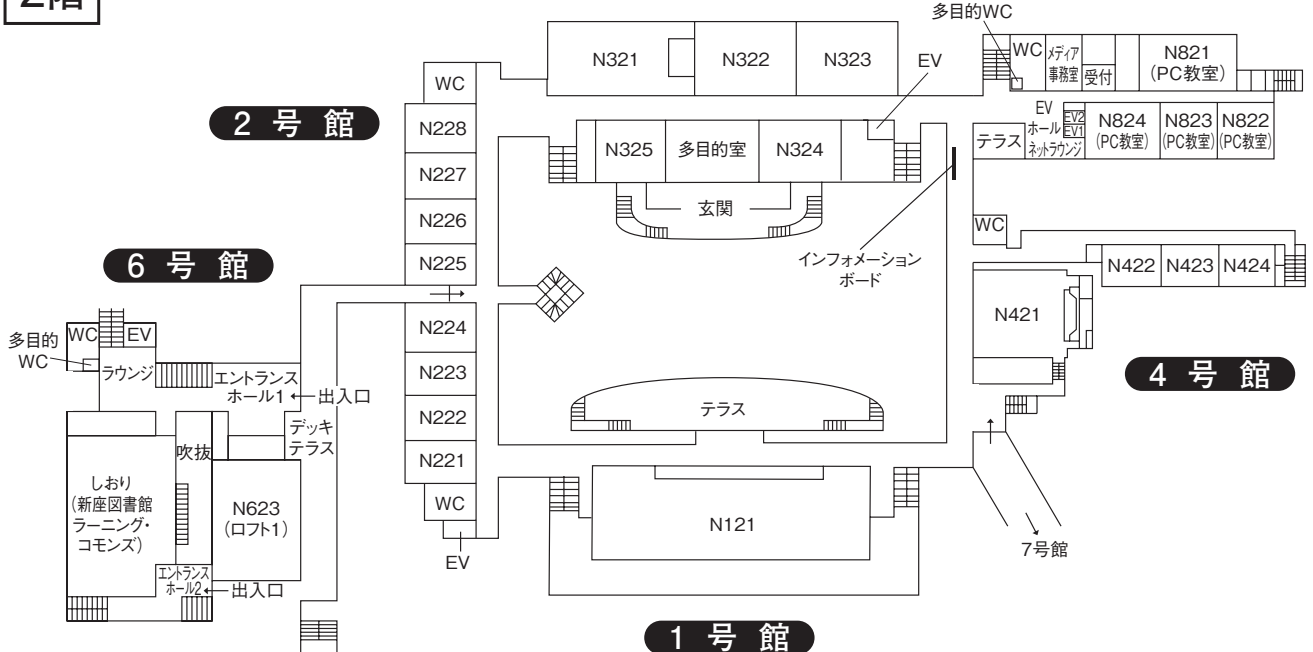
1号館

2階

2号館

3号館

8号館



1号館

4号館

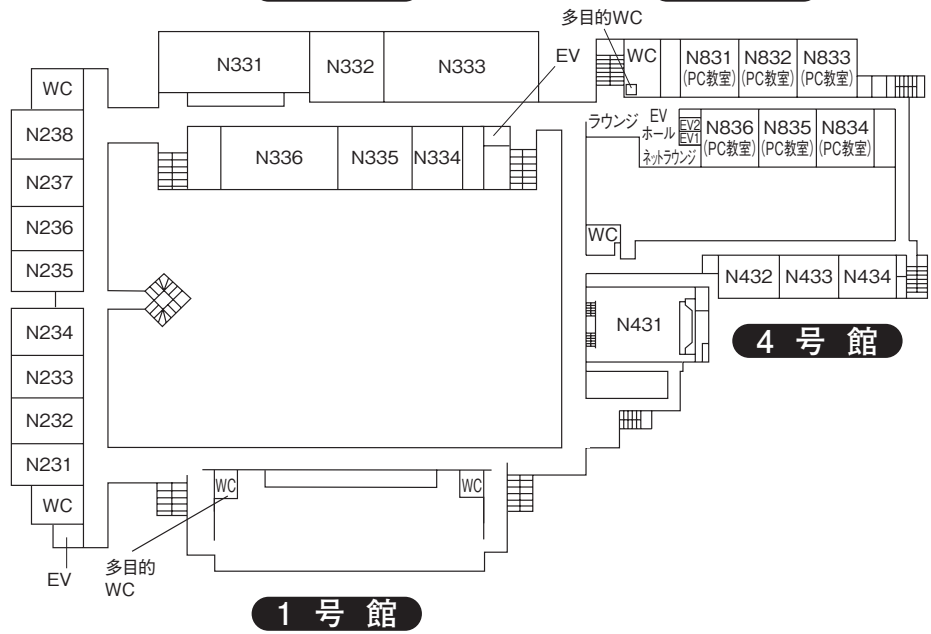
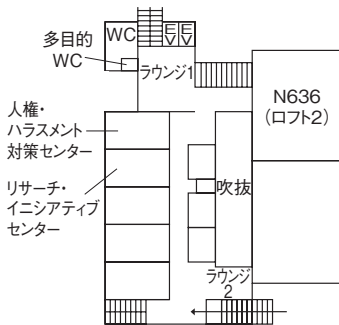
3階

3号館

8号館

2号館

6号館

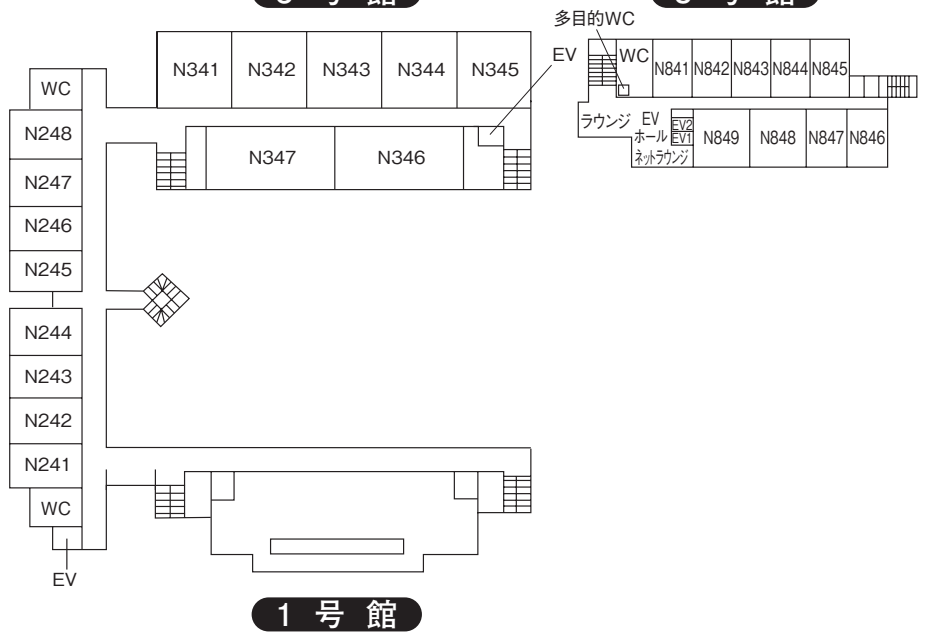


4階

3号館

8号館

2号館



5階

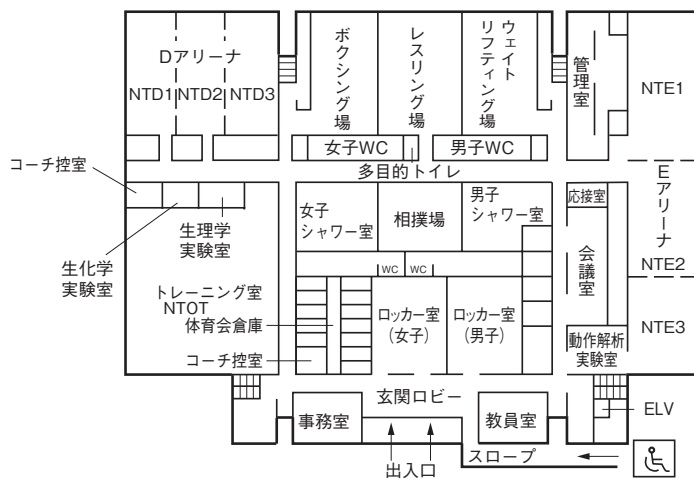
8号館



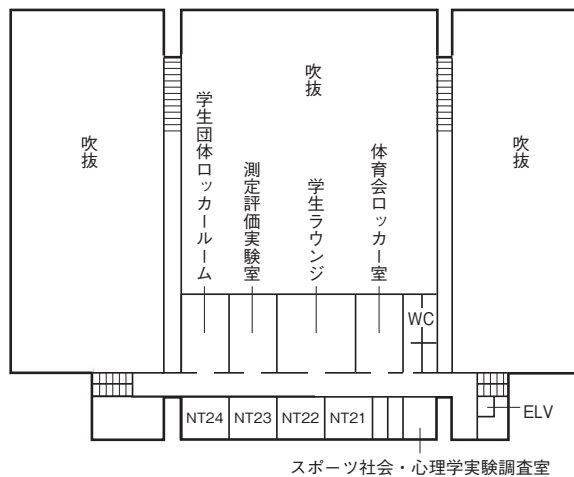
案内図 (新座)

新座キャンパス体育館

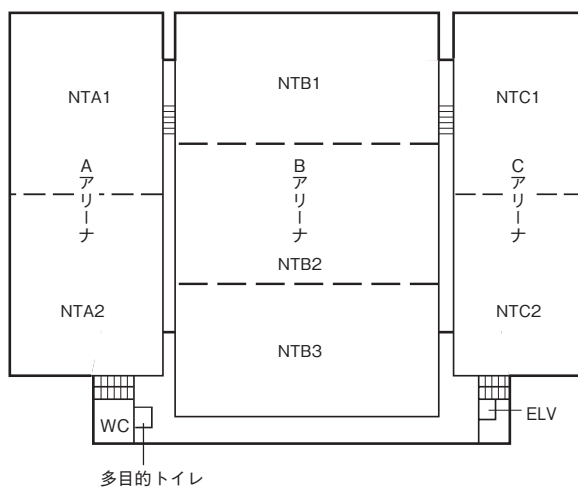
体育館 1 階



体育館 2 階



体育館 3 階



※その他の新座キャンパス屋外施設

- ・テニスコート (NZT1)
- ・多目的グラウンド (NZA1)
- ・セントポールズ・アクアティックセンター (NPL1)

こんなときは 黒丸の数字は⑧池袋キャンパス構内案内図上の位置を示す	
学籍事項（住所・電話番号・保証人・氏名等）に変更があった	教務事務センター（タッカーホール1階）①
奨学金を受けたい	学生部学生厚生課（5号館1階）④ 国際センター（マキムホール1階）⑧
落とし物をした	メーザーライブラリー記念館（新館1階）⑮
学内で盗難にあった	学生部学生生活課（5号館1階）④
進路・就職・インターンシップについて相談したい	キャリアセンター（6号館1階）③
転部・転科について知りたい 立教大学大学院への進学について知りたい	入学センター（3号館1階）②
学内でからだの具合が悪くなった	保健室・診療所⑩
大学での活動中にけがをした（学生健保・学研災の手続き等）	学生部学生厚生課（5号館1階）④
パソコンやメールを使いたい	メディアセンター（8号館4階）⑨
学校・社会教育の資格を取得するには	学校・社会教育講座事務室（2号館1階）⑤
こまったとき、悩んだときは	学生相談所⑫
ハラスメントについて悩んだときは	人権・ハラスメント対策センター（6号館1階）③
学費について知りたい	財務部経理課（立教学院事務棟1階）⑬
留学制度について知りたい	国際センター（マキムホール1階）⑧
図書館を利用したい * シラバスに記載の参考書等は、原則として図書館で利用できる。	池袋図書館（12号館・ロイドホール）⑭

こんなときは 黒丸の数字は⑥構内案内図（新座キャンパス）上の位置を示す	
学籍事項（住所・電話番号・保証人・氏名等）に変更があった	教務事務センター（新座7号館1階）①
奨学金を受けたい	学生部・国際センター（新座7号館2階）①
落とし物をした・学内で盗難にあった	学生部（新座7号館2階）①
進路・就職・インターンシップについて相談したい	キャリアセンター（新座1号館1階）②
転部・転科について知りたい 立教大学大学院への進学について知りたい	入学センター （池袋キャンパス：3号館1階）
学内でからだの具合が悪くなった	保健室（新座1号館1階）②
大学での活動中にけがをした（学生健保・学研災の手続き等）	学生部（新座7号館2階）①
パソコンやメールを使いたい	メディアセンター（新座8号館2階）③
学校・社会教育の資格を取得するには	学校・社会教育講座事務室（新座7号館1階）①
こまったとき、悩んだときは	学生相談所④
ハラスメントについて悩んだときは	人権・ハラスメント対策センター（新座6号館3階）⑤
学費について知りたい	学生部（新座7号館2階）①
留学制度について知りたい	国際センター（新座7号館2階）①
図書館を利用したい *シラバスに記載の参考書等は、原則として図書館で利用できる。	新座図書館⑥

2019年4月

立 教 大 学
全学共通カリキュラム運営センター

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
立教大学池袋キャンパス教務事務センター
☎03-3985-2220



学生番号

氏 名

履修要項は再交付しないので保管に注意すること